

令和5年度
文部科学省委託調査

**大学院における教育改革の
実態把握・分析等に関する調査研究
調査報告書**

令和6年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

本報告書は、文部科学省の先導的大学
改革推進委託事業委託費による委託業務と
して、株式会社リベルタス・コンサルティングが実施した令和5年度大学院における
教育改革の実態把握・分析等に関する調査
研究の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載等には
文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

第 1 章 調査概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査方法	2
第 2 章 大学院教育改革に関する取組状況	4
2-1 体系的な大学院教育の取組	4
2-2 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組	21
2-3 研究倫理教育の実施と博士論文の指導に係る取組	27
2-4 博士論文の審査に係る取組	30
2-5 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築等	33
2-6 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進	45
2-7 大学院としての組織的な学生に対する就職支援	54
2-8 大学院各課程へのリクルート活動	58
2-9 入試の状況	62
2-10 リカレント教育	66
2-11 博士論文研究基礎力審査の導入状況	74
2-12 博士学位（課程博士）授与	79
2-13 博士学位（論文博士）授与	81
2-14 学位に関する情報公表の状況	83
2-15 学位の取消規定	86
2-16 大学院独自の経済的支援	87
2-17 ファイナンシャル・プランの提供	93
第 3 章 大学院教育の基本状況	94
3-1 入学者数	94
3-2 研究指導委託	102
3-3 博士課程における標準修業年限以内の学位授与状況	104
3-4 博士課程（後期）修了後の進路	106
3-5 早期修了制度の導入状況	108
3-6 在学期間の短縮制度の導入状況	111
3-7 TA・RA雇用の実績	114

参考資料	118
参考資料 1：令和 4 年度大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究 （大学院活動状況調査）回答の手引き	119
参考資料 2：調査票	132

第1章 調査概要

本調査研究は、文部科学省高等教育局高等教育企画課からの委託を受けて実施したものである。調査概要を以下に示す。

1-1 調査目的

我が国の大学院教育は、昭和 62 年に設置された旧大学審議会による大学院制度の弾力化、学位制度の見直し、大学院の評価、大学院の量的整備等、大学院の抱える様々な課題に対する累次の答申を踏まえ、その質的・量的整備等が進められてきた。一方で、人材養成の目的に沿った教育の組織的展開が弱く、急速な量的拡大に伴う諸課題に対応しきれていないなど、国際的にも信頼される魅力ある大学院教育が展開されているとは言い難いといった指摘がなされてきた。また、平成 31 年 1 月には、中央教育審議会大学分科会において「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～(審議まとめ)」が取りまとめられ、2040 年の社会の需要に応じていくため、社会のニーズへのより一層の対応をはじめとした大学院教育の体質改善に取り組むことが必要であると提言された。

こうした動向を踏まえ、各大学においては、学位プログラムとしての大学院教育を確立し、大学院教育の実質化をさらに進めること等を目的とした、教育改革の取組が積極的に行われているところである。

文部科学省では、その状況を把握するため、我が国の大学院を置く全ての大学に対し、教育内容等の改革状況に関する調査を定期的に行い、その調査結果を公表してきている。この調査結果については、グローバル化や知識基盤社会の進展に伴い国内外の社会の様々な分野で活躍できる高度な人材が求められている現下の状況に鑑みると、単に大学における教育内容の改善等の実施状況を文部科学省として把握するのみならず、わかりやすい形で調査結果を公表し、大学院教育改革についての国民の理解を得ること及び調査結果の分析を通じ、大学に対して国が行うべき支援や取組についての有益な知見を得ること等に活用するとともに、各大学に対しフィードバックを行い、各大学における大学院教育改革の一層の推進に資することが重要と考えられる。

以上のことを踏まえ、大学院教育改革の実態の把握及び分析等に関する調査研究を行った。

1-2 調査方法

国内の大学院を置く全ての大学に対し、令和4年度の各大学における大学院教育改革の取組状況について、アンケート調査を行った。

1-2-1 調査対象

大学院を置く全ての大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学の計661大学）を対象とし、専攻・課程単位で状況を把握した。

回収率は97.4%（644大学が回答）。

図表 1-2-1 アンケート調査の回答状況

（大学数）	対象数	回答数	回収率
国立大学	86	86	100.0%
公立大学	88	83	94.3%
私立大学	487	475	97.5%
計	661	644	97.4%

回答のあった各専攻の内訳を以下に示す。

図表 1-2-2 分野別・課程別の専攻数

(専攻数)	修士、 博士前期	5 年一貫	博士後期	医学、歯学、 薬学、獣医学 の博士	専門職	計
人文科学	576	3	400	0	4	983
社会科学	613	1	409	0	85	1,108
理学	205	12	175	0	0	392
工学	666	5	518	0	4	1,193
農学	148	3	122	14	0	287
保健	398	5	210	247	6	866
商船	0	0	0	0	0	0
家政	82	0	27	0	0	109
教育	132	0	59	0	54	245
美術	131	0	39	0	0	170
その他	297	13	250	2	11	573
計	3,248	42	2,209	263	164	5,926

※「修士、博士前期」は修士課程及び博士前期課程、「5 年一貫」は一貫制博士課程、「博士後期」は博士後期課程、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」は医学、歯学、薬学及び獣医学の 4 年一貫制博士課程、「専門職」は専門職学位課程（学校教育法第 99 条第 2 項の専門職大学院の課程）をそれぞれ示す。

1-2-2 調査方法

e メールによる調査票の発送及び回答票回収

1-2-3 調査時期

令和 5 年 11 月 13 日～令和 6 年 1 月 15 日

第2章 大学院教育改革に関する取組状況

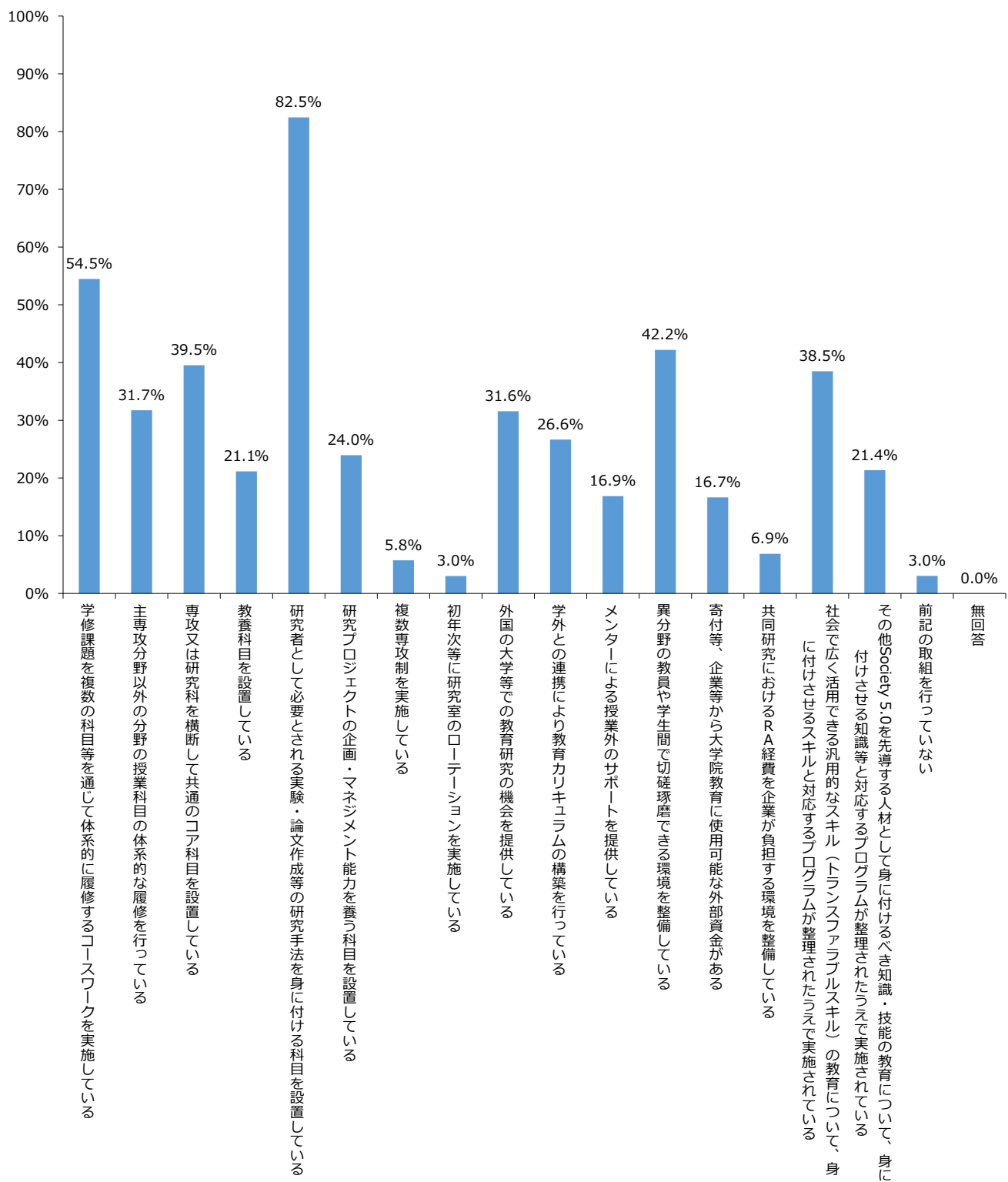
大学院教育改革に関する取組状況について以下のとおり調査結果を示す。

2-1 体系的な大学院教育の取組

中央教育審議会大学分科会等での審議等を踏まえた、体系的な大学院教育の取組内容について聞いた。

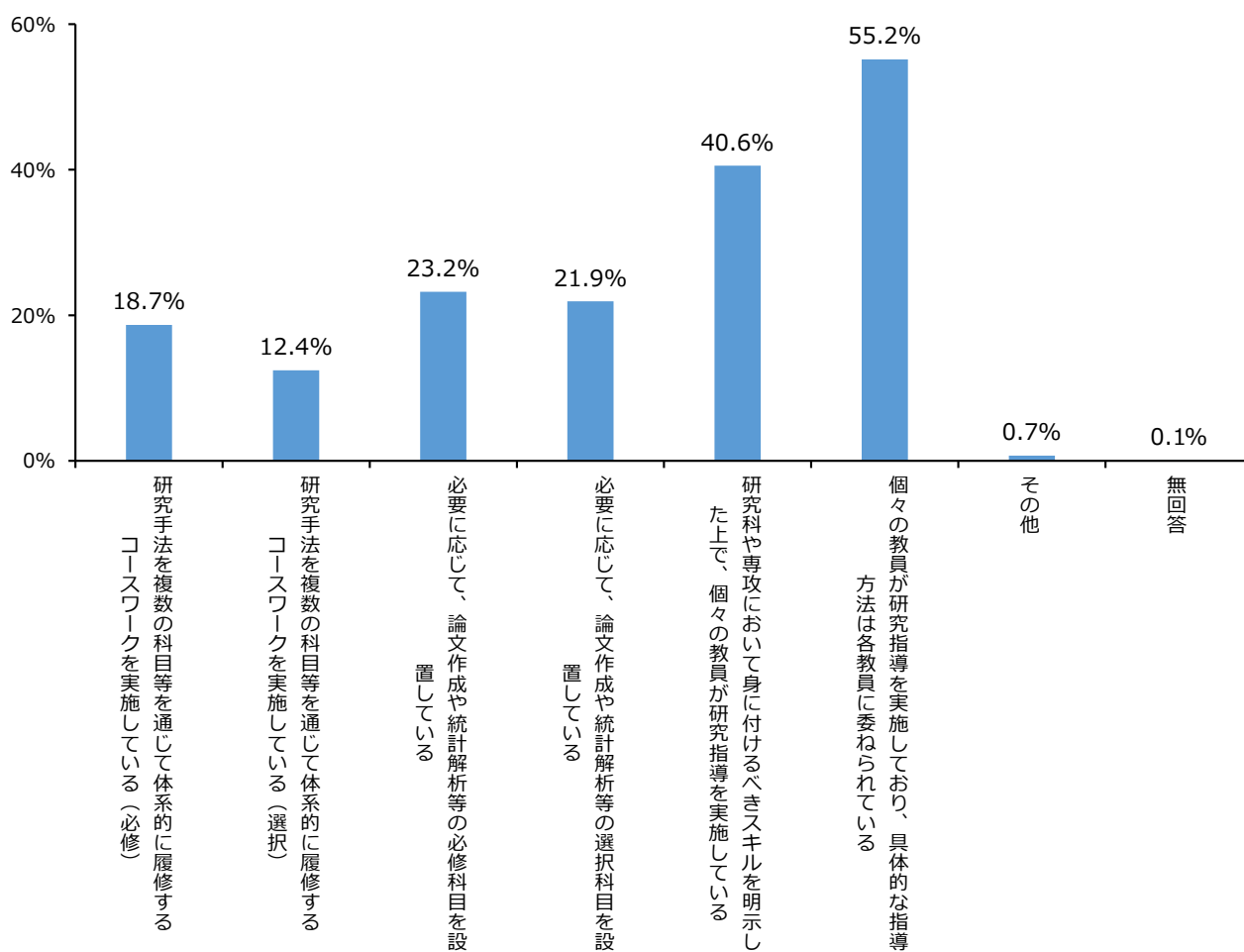
「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」の割合が 82.5%、「学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している」の割合が 54.5%となっている。

図表 2-1-1 体系的な大学院教育の取組 (n=5, 926)



「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」の具体的な取組について聞いた。その結果、「個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「研究科や専攻において身に付けるべきスキルを明示した上で、個々の教員が研究指導を実施している」が 40.6%となっている。

図表 2-1-2 体系的な大学院教育の取組
「研究者として必要とされる実験・論文作成等の
研究手法を身に付ける科目を設置している」
(具体的な取組) (n=5, 926)

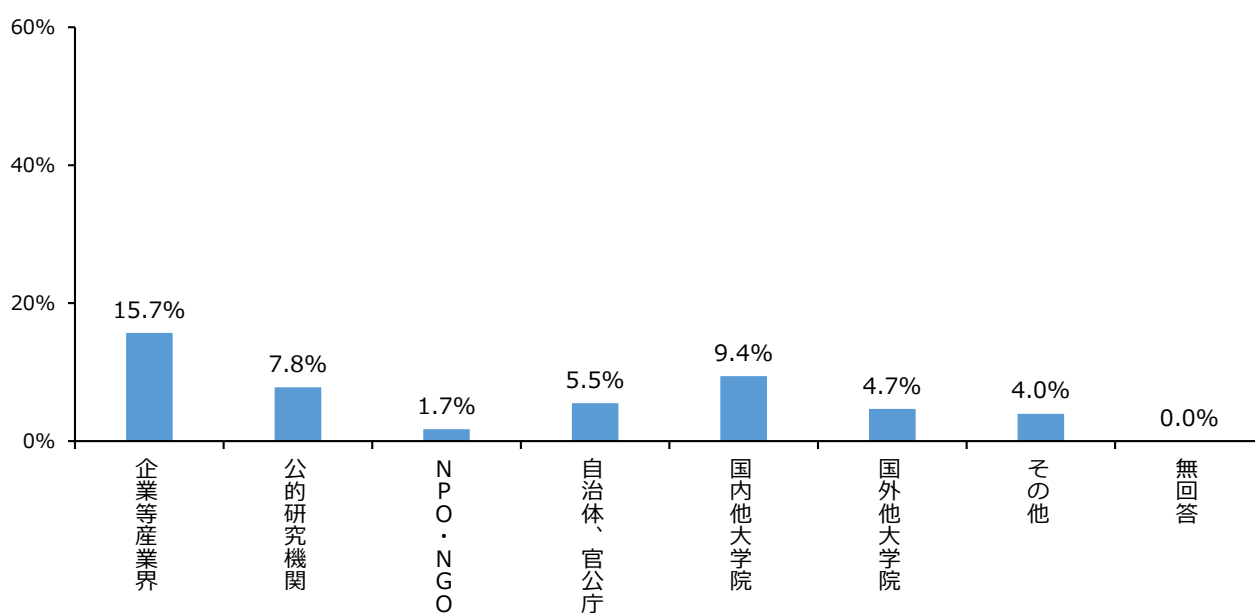


「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」の連携先について聞いた。その結果、学外の連携先は、「企業等産業界」の割合が 15.7%と最も高く、次いで「国内他大学院」、「公的研究機関」となっている。

図表 2-1-3 体系的な大学院教育の取組

「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」

(学外の連携先) (n=5,926)



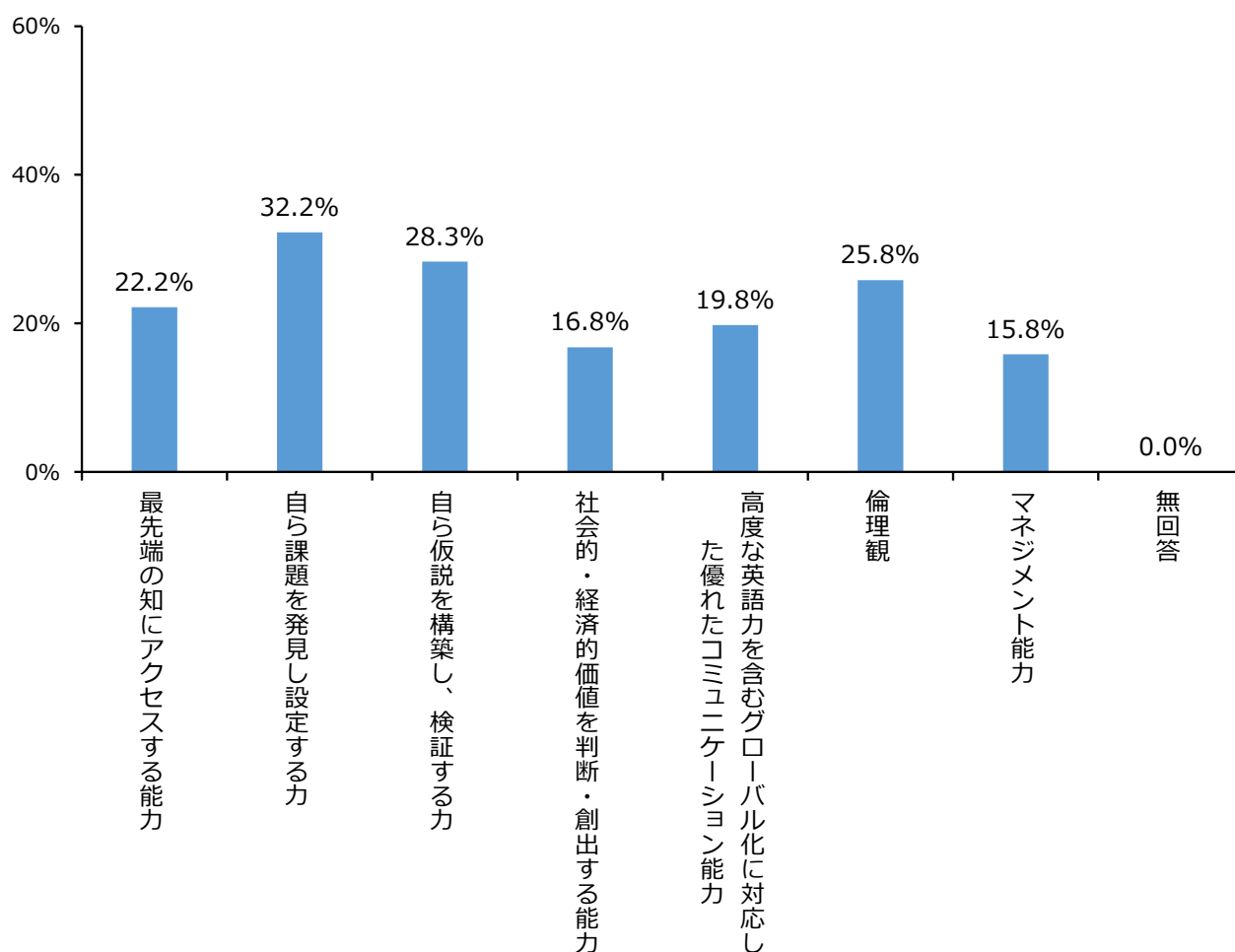
「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」について、どのようなスキルを身に付けさせるかを聞いた。

「自ら課題を発見し設定する力」が 32.2%と最も高く、「自ら仮説を構築し、検証する力」、「倫理観」、「最先端の知にアクセスする能力」と続く。

図表 2-1-4 体系的な大学院教育の取組

「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」

（スキルの内容）（n=5,926）

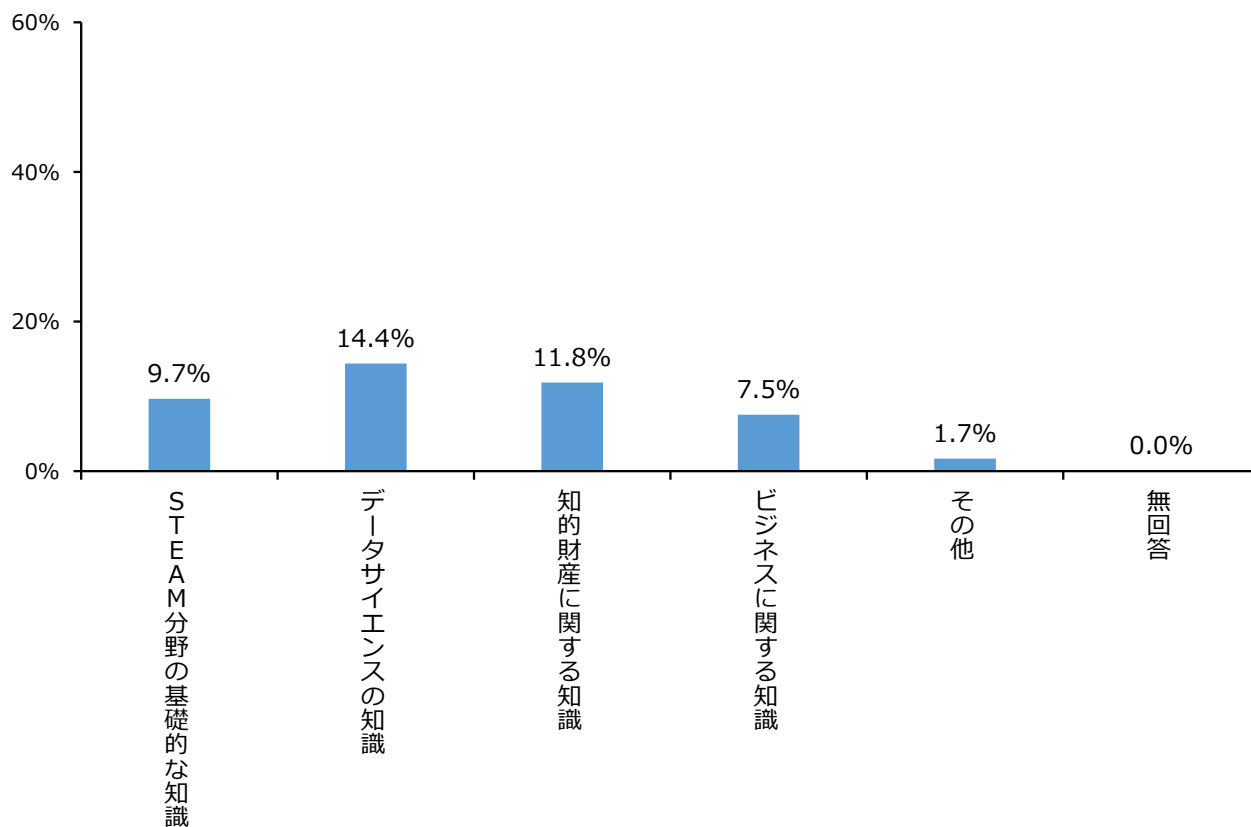


「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」について、どのような知識を身に付けさせるかを聞いた。

「データサイエンスの知識」が 14.4%と最も高く、「知的財産に関する知識」、「STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) 分野の基礎的な知識」、「ビジネスに関する知識」と続く。

図表 2-1-5 体系的な大学院教育の取組

「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」(知識の内容) (n=5,926)

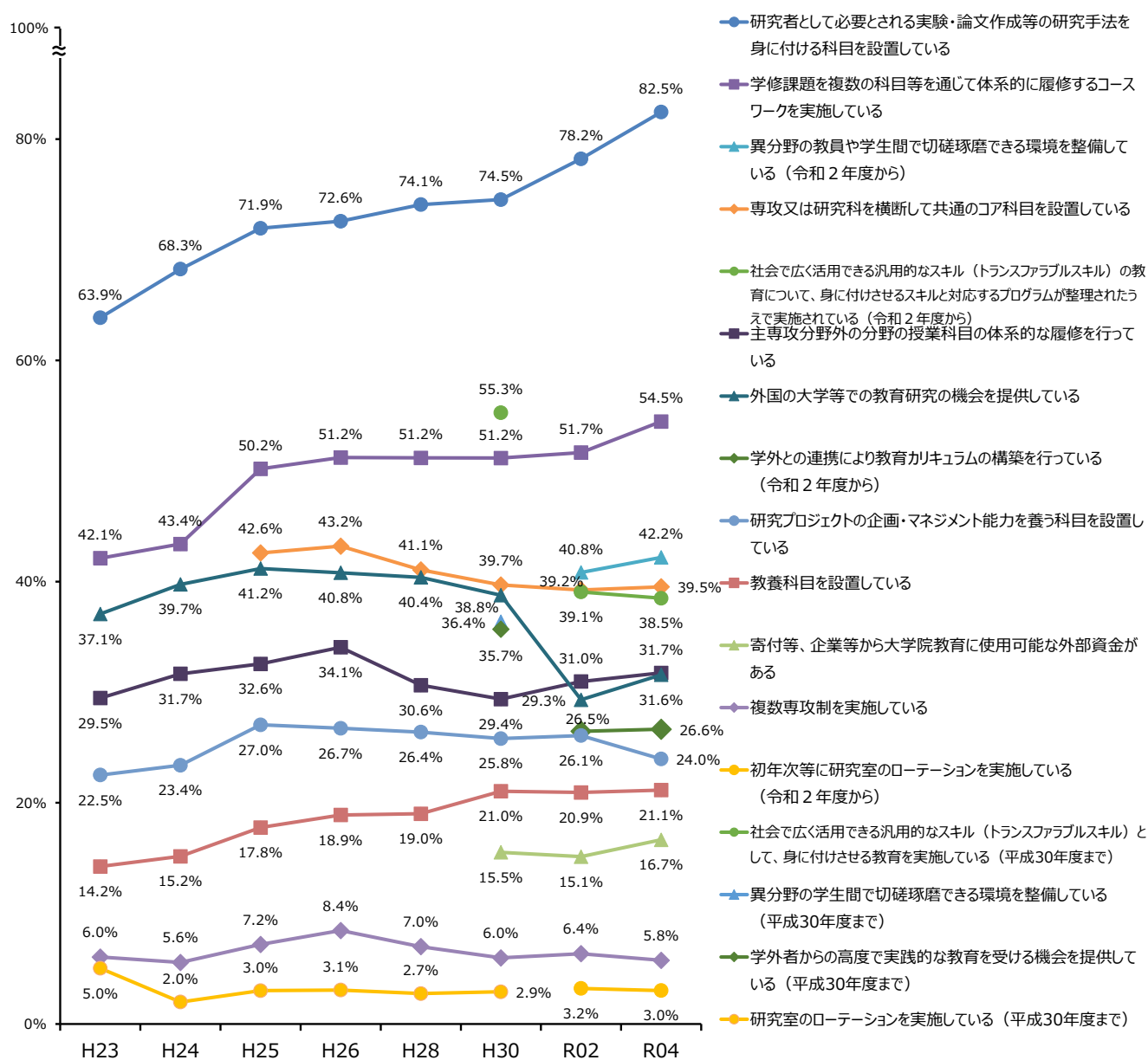


2-1-1 時系列推移

体系的な大学院教育の取組について、時系列の推移を以下に示す。

「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」、
「学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している」、「教養科目
を設置している」が年々増加している。

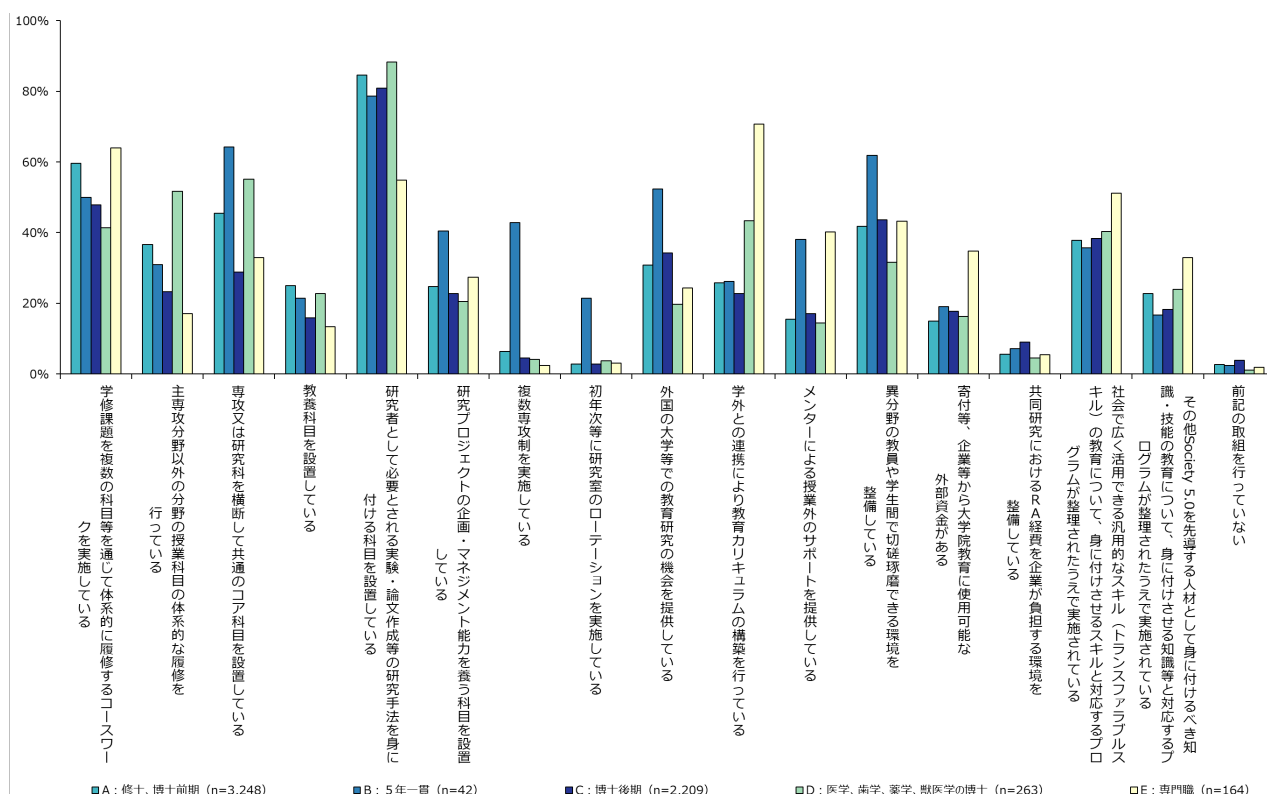
図表 2-1-6 体系的な大学院教育の取組の時系列推移



2-1-2 課程別

課程別に見ると、「5年一貫」では、「研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している」、「複数専攻制を実施している」、「初年次等に研究室のローテーションを実施している」、「外国の大学等での教育研究の機会を提供している」、「異分野の教員や学生間で切磋琢磨できる環境を整備している」の割合が他の課程と比較して高い。「専門職」では、「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」の割合が高い。

図表 2-1-7 課程別 体系的な大学院教育の取組



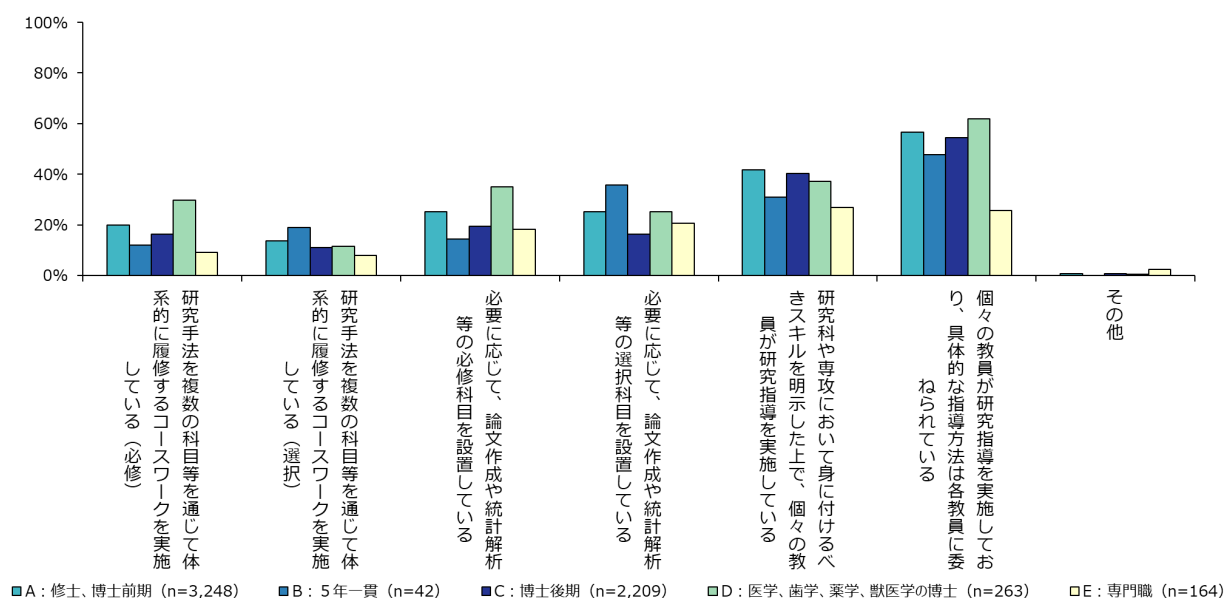
	学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している	主専攻分野以外の分野の授業科目の体系的な履修を行っている	専攻又は研究科を横断して共通のコア科目を設置している	教養科目を設置している	研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している	研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している	複数専攻制を実施している	初年次等に研究室のローテーションを実施している	外国の大学等での教育研究の機会を提供している	学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている	メンターによる授業外のサポートを提供している	異分野の教員や学生間で切磋琢磨できる環境を整備している	寄付等、企業等から大学院教育に使用可能な外部資金がある	共同研究におけるR&D経費を企業が負担する環境を整備している	社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている	その他Society 5.0を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育に付随するプログラムが整理されたうえで実施されている	前記の取組を行っていない
A: 修士・博士前期 (n=3,248)	59.6%	36.6%	45.5%	25.0%	84.5%	24.7%	6.4%	2.8%	30.8%	25.7%	15.5%	41.7%	15.0%	5.6%	37.8%	22.7%	2.7%
B: 5年一貫 (n=42)	50.0%	31.0%	64.3%	21.4%	78.6%	40.5%	42.9%	21.4%	52.4%	26.2%	38.1%	61.9%	19.0%	7.1%	35.7%	16.7%	2.4%
C: 博士後期 (n=2,209)	47.9%	23.3%	28.9%	15.9%	80.8%	22.7%	4.6%	2.9%	34.3%	22.7%	17.1%	43.7%	17.7%	9.1%	38.4%	18.3%	3.8%
D: 医学・歯学・薬学・獣医学の博士 (n=263)	41.4%	51.7%	55.1%	22.8%	88.2%	20.5%	4.2%	3.8%	19.8%	43.3%	14.4%	31.6%	16.3%	4.6%	40.3%	24.0%	1.1%
E: 専門職 (n=164)	64.0%	17.1%	32.9%	13.4%	54.9%	27.4%	2.4%	3.0%	24.4%	70.7%	40.2%	43.3%	34.8%	5.5%	51.2%	32.9%	1.8%

「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」の具体的な取組については、「専門職」を除く各課程で「個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている」の割合が高い。

「5年一貫」においては「必要に応じて、論文作成や統計解析等の選択科目を設置している」、
「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」においては「研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している（必修）」、「必要に応じて、論文作成や統計解析等の必修科目を設置している」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-1-8 課程別 体系的な大学院教育の取組

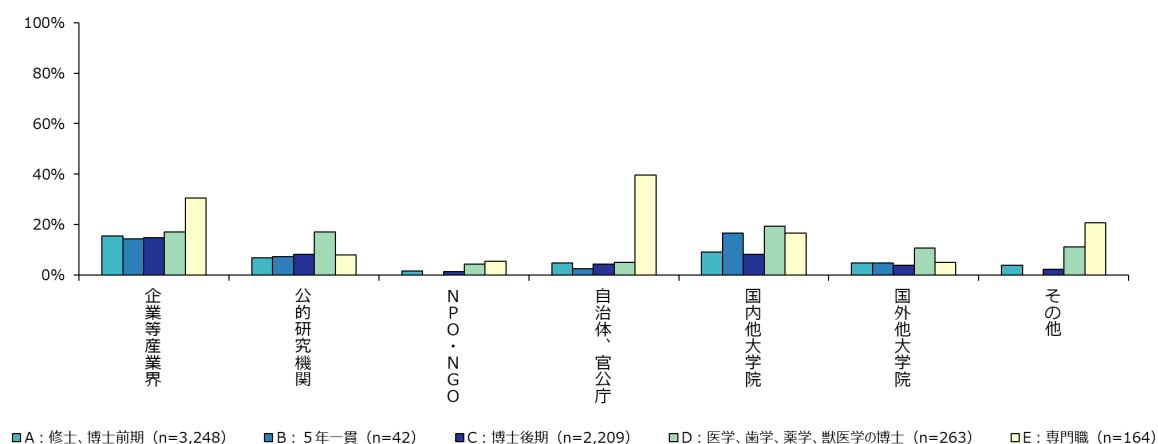
「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」
(具体的な取組)



	研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している（必修）	研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している（選択）	必要に応じて、論文作成や統計解析等の必修科目を設置している	必要に応じて、論文作成や統計解析等の選択科目を設置している	研究科や専攻において身に付けるべきスキルを明示した上で、個々の教員が研究指導を実施している	個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている	その他
A：修士、博士前期（n=3,248）	20.0%	13.6%	25.2%	25.3%	41.8%	56.6%	0.7%
B：5年一貫（n=42）	11.9%	19.0%	14.3%	35.7%	31.0%	47.6%	0.0%
C：博士後期（n=2,209）	16.3%	11.0%	19.4%	16.4%	40.4%	54.5%	0.7%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	29.7%	11.4%	35.0%	25.1%	37.3%	62.0%	0.4%
E：専門職（n=164）	9.1%	7.9%	18.3%	20.7%	26.8%	25.6%	2.4%

「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」の連携先について、「修士、博士前期」「博士後期」では「企業等産業界」、「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」では「国内他大学院」、「専門職」においては「自治体・官公庁」の割合が最も高い。

図表 2-1-9 課程別 体系的な大学院教育の取組
「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」
(学外の連携先)

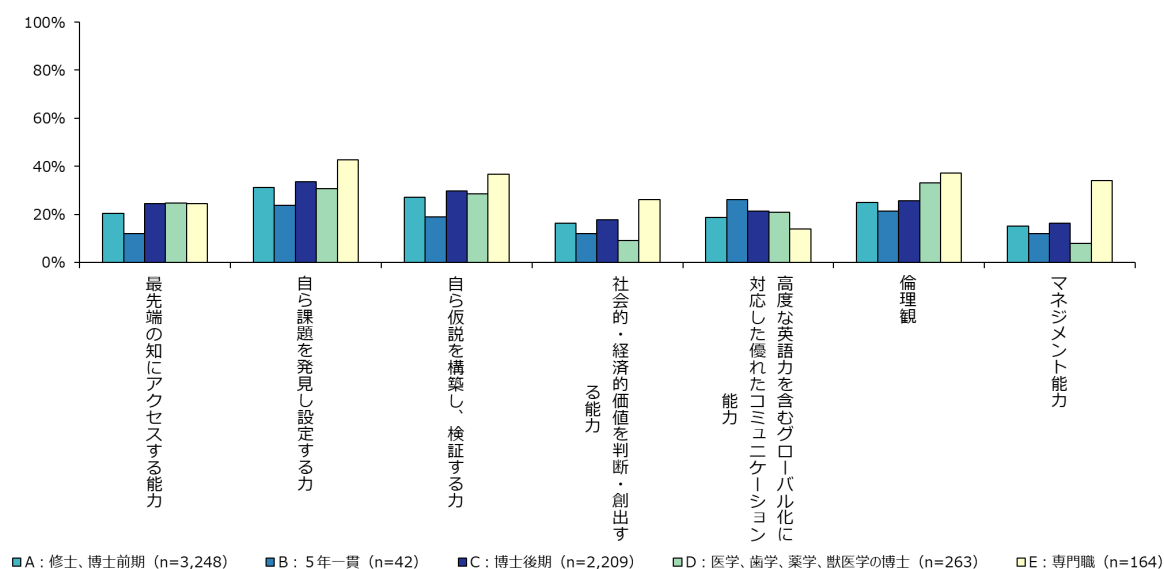


	企業等産業界	公的研究機関	NPO・NGO	自治体、官公庁	国内他大学院	国外他大学院	その他
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	15.4%	6.8%	1.6%	4.7%	9.0%	4.8%	3.8%
B: 5年一貫 (n=42)	14.3%	7.1%	0.0%	2.4%	16.7%	4.8%	0.0%
C: 博士後期 (n=2,209)	14.8%	8.1%	1.4%	4.2%	8.2%	3.8%	2.2%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	17.1%	17.1%	4.2%	4.9%	19.4%	10.6%	11.0%
E: 専門職 (n=164)	30.5%	7.9%	5.5%	39.6%	16.5%	4.9%	20.7%

「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」に関する具体的なスキルの内容については、全ての課程において「自ら課題を発見し設定する力」「倫理観」の割合が20%以上となっている。「専門職」では、「マネジメント能力」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-1-10 課程別 体系的な大学院教育の取組

「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」
(スキルの内容)

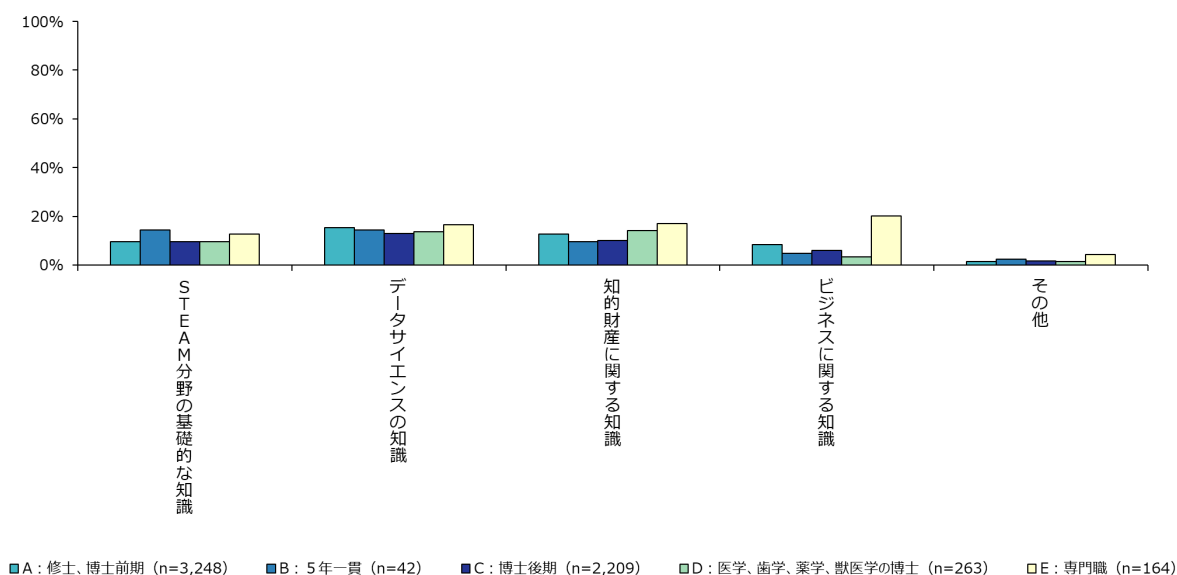


	最先端の知にアクセスする能力	自ら課題を発見し設定する力	自ら仮説を構築し、検証する力	社会的・経済的価値を判断・創出する能力	高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力	倫理観	マネジメント能力
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	20.5%	31.1%	27.0%	16.3%	18.8%	24.8%	15.2%
B: 5年一貫 (n=42)	11.9%	23.8%	19.0%	11.9%	26.2%	21.4%	11.9%
C: 博士後期 (n=2,209)	24.4%	33.5%	29.7%	17.8%	21.5%	25.6%	16.4%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	24.7%	30.8%	28.5%	9.1%	20.9%	33.1%	8.0%
E: 専門職 (n=164)	24.4%	42.7%	36.6%	26.2%	14.0%	37.2%	34.1%

「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」に関する具体的な知識の内容については、「専門職」において「ビジネスに関する知識」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-1-11 課程別 体系的な大学院教育の取組

「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」(知識の内容)

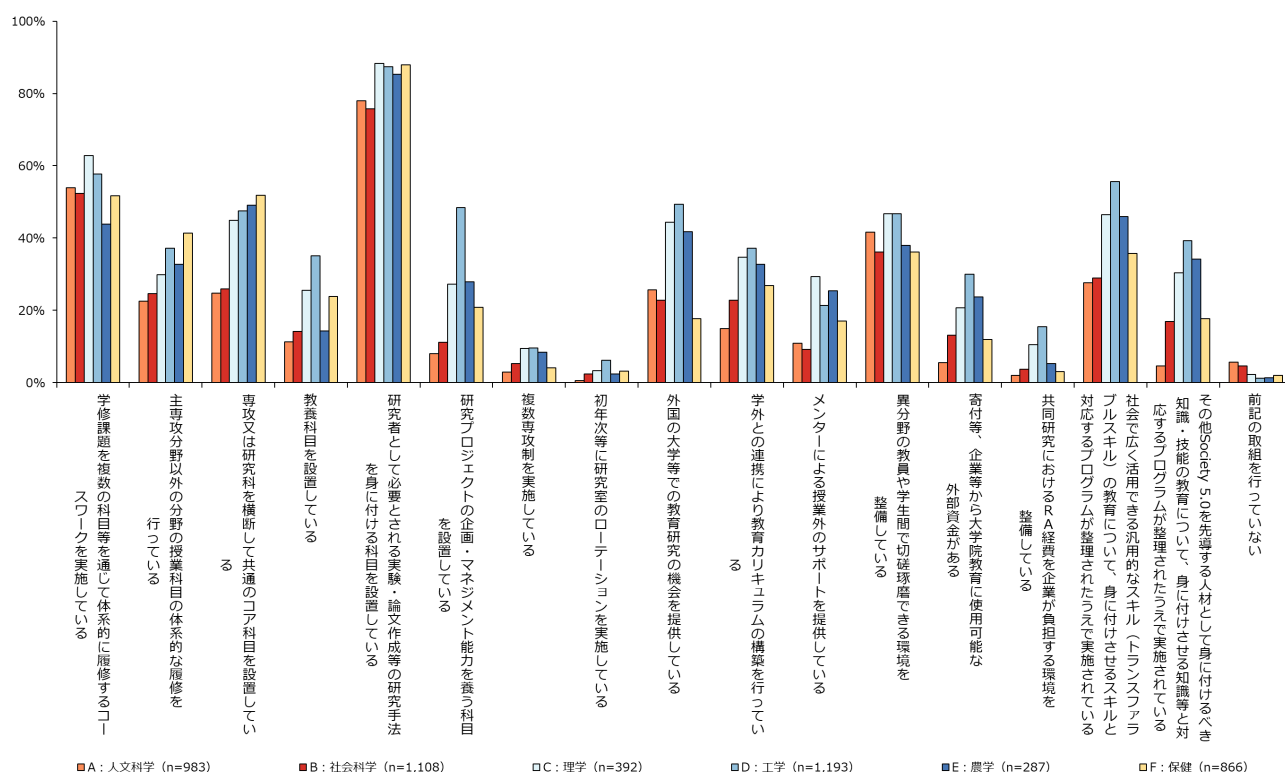


	STEAM分野の基礎的な知識	データサイエンスの知識	知的財産に関する知識	ビジネスに関する知識	その他
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	9.5%	15.4%	12.7%	8.3%	1.5%
B: 5年一貫 (n=42)	14.3%	14.3%	9.5%	4.8%	2.4%
C: 博士後期 (n=2,209)	9.5%	12.9%	10.0%	6.0%	1.7%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	9.5%	13.7%	14.1%	3.4%	1.5%
E: 専門職 (n=164)	12.8%	16.5%	17.1%	20.1%	4.3%

2-1-3 分野別

分野別に体系的な大学院教育の取組を見ると、「工学」において、「研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している」の割合が他分野と比較して高い。「人文科学」「社会科学」では、取組を実施している割合が他分野と比較して低い傾向にある。

図表 2-1-12 分野別 体系的な大学院教育の取組

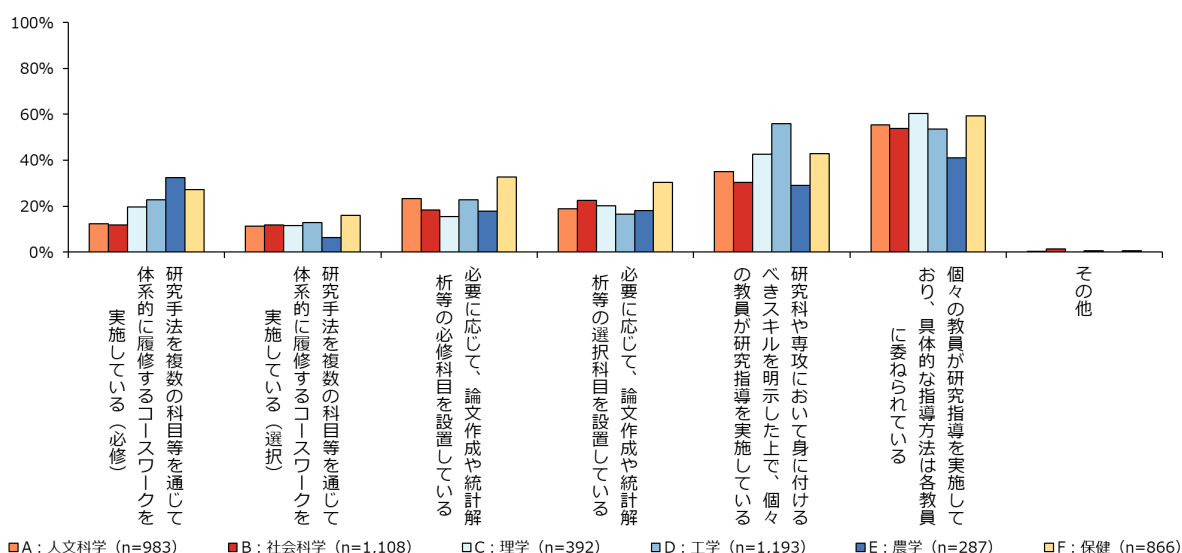


	学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している	主専攻分野以外の分野の授業科目の体系的な履修を行っている	専攻又は研究科を横断して共通のコア科目を設置している	教養科目を設置している	研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している	研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している	複数専攻制を実施している	初年次等に研究室のローテーションを実施している	外国の大学等での教育研究の機会を提供している	学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている	メンターによる授業外のサポートを提供している	異分野の教員や学生間で切磋琢磨できる環境を整備している	寄付等、企業等から大学院教育に使用可能な外部資金がある	共同研究におけるR A経費を企業が負担する環境を整備している	社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている	その他のSociety 5.0を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている	前記の取組を行っていない
A：人文科学（n=983）	53.9%	22.6%	24.7%	11.3%	77.9%	8.0%	3.0%	0.5%	25.6%	15.0%	10.9%	41.6%	5.5%	1.9%	27.7%	4.6%	5.7%
B：社会科学（n=1,108）	52.3%	24.6%	25.9%	14.2%	75.7%	11.2%	5.3%	2.4%	22.7%	22.8%	9.2%	36.2%	13.2%	3.7%	28.9%	17.0%	4.6%
C：理学（n=392）	62.8%	29.8%	44.9%	25.5%	88.3%	27.3%	9.4%	3.3%	44.4%	34.7%	29.3%	46.7%	20.7%	10.5%	46.4%	30.4%	2.3%
D：工学（n=1,193）	57.8%	37.1%	47.5%	35.1%	87.4%	48.4%	9.6%	6.1%	49.3%	37.2%	21.3%	46.7%	29.9%	15.5%	55.7%	39.2%	1.2%
E：農学（n=287）	43.9%	32.8%	49.1%	14.3%	85.4%	27.9%	8.4%	2.4%	41.8%	32.8%	25.4%	38.0%	23.7%	5.2%	46.0%	34.1%	1.4%
F：保健（n=866）	51.7%	41.3%	51.8%	23.8%	87.9%	20.8%	4.0%	3.2%	17.7%	26.8%	17.1%	36.1%	11.9%	3.0%	35.8%	17.7%	2.0%

「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」の具体的な取組については、「工学」以外の分野において、「個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている」の割合が最も高い。「工学」では、「研究科や専攻において身に付けるべきスキルを明示した上で、個々の教員が研究指導を実施している」の割合が最も高い。

図表 2-1-13 分野別 体系的な大学院教育の取組

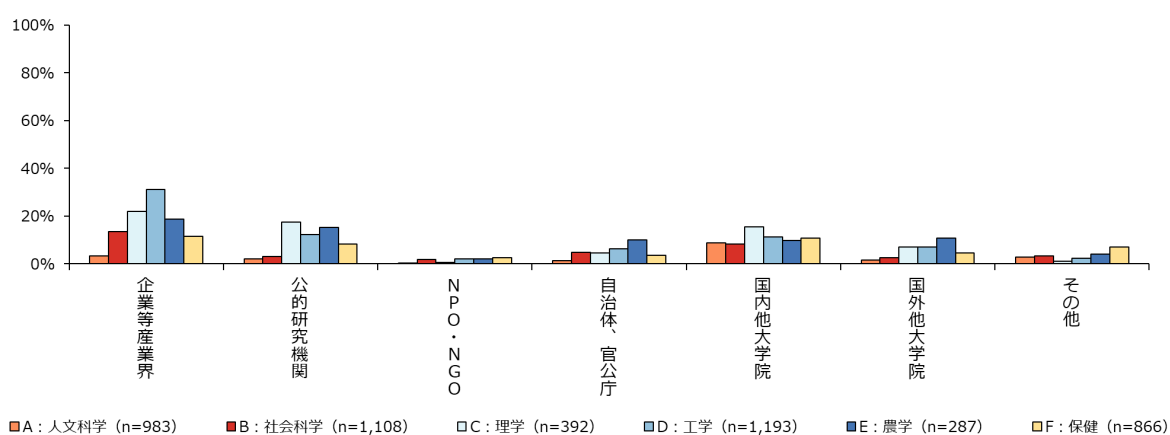
「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」
(具体的な取組)



	研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している（必修）	研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している（選択）	必要に応じて、論文作成や統計解析等の必修科目を設置している	必要に応じて、論文作成や統計解析等の選択科目を設置している	研究科や専攻において身に付けるべきスキルを明示した上で、個々の教員が研究指導を実施している	個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている	その他
A：人文科学（n=983）	12.2%	11.2%	23.3%	18.8%	35.0%	55.4%	0.4%
B：社会科学（n=1,108）	11.8%	11.8%	18.3%	22.6%	30.4%	53.8%	1.4%
C：理学（n=392）	19.6%	11.5%	15.6%	20.2%	42.6%	60.5%	0.0%
D：工学（n=1,193）	22.7%	12.8%	22.8%	16.4%	56.0%	53.6%	0.6%
E：農学（n=287）	32.4%	6.3%	17.8%	18.1%	28.9%	41.1%	0.0%
F：保健（n=866）	27.3%	16.1%	32.6%	30.3%	43.0%	59.2%	0.6%

「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」の連携先については、「人文科学」以外の分野では、「企業等産業界」の割合が最も高い。「人文科学」では「国内他大学院」の割合が最も高い。

図表 2-1-14 分野別 体系的な大学院教育の取組
「学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている」
(学外の連携先)

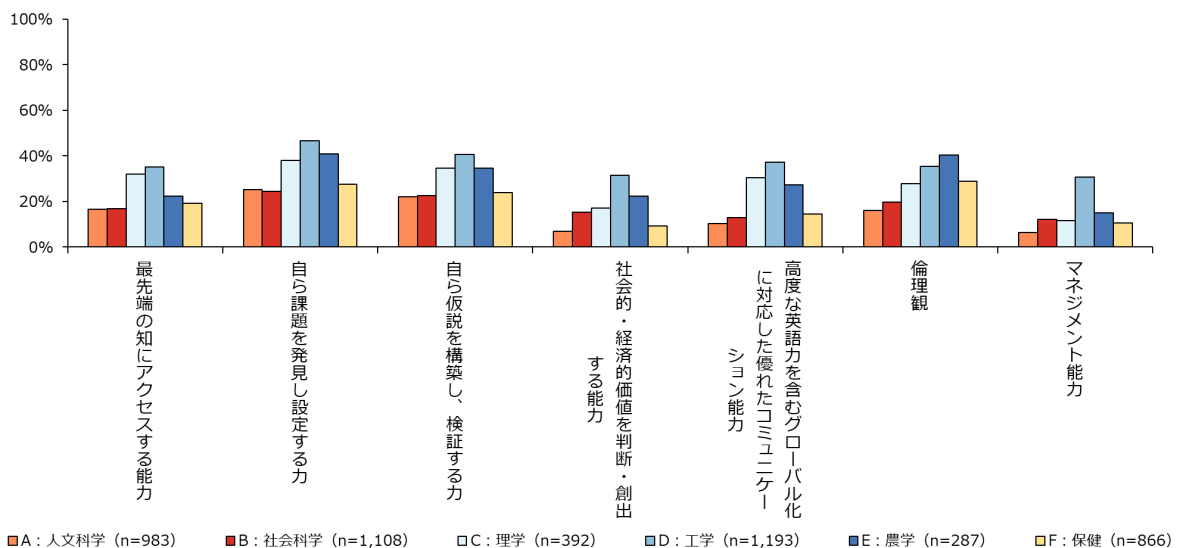


	企業等産業界	公的研究機関	N P O・N G O	自治体、官公庁	国内他大学院	国外他大学院	その他
A：人文科学（n=983）	3.3%	2.1%	0.3%	1.4%	8.9%	1.5%	3.0%
B：社会科学（n=1,108）	13.6%	3.0%	1.9%	4.9%	8.4%	2.6%	3.3%
C：理学（n=392）	21.9%	17.6%	0.5%	4.6%	15.6%	7.1%	1.0%
D：工学（n=1,193）	31.0%	12.3%	2.1%	6.4%	11.1%	7.0%	2.4%
E：農学（n=287）	18.8%	15.3%	2.1%	10.1%	9.8%	10.8%	4.2%
F：保健（n=866）	11.5%	8.3%	2.5%	3.5%	10.9%	4.6%	6.9%

「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」に関する具体的なスキルの内容については、「工学」において、「マネジメント能力」の割合が他分野と比較して高い。「人文科学」「社会科学」「保健」では、取組を実施している割合が他分野と比較して低い傾向にある。

図表 2-1-15 分野別 体系的な大学院教育の取組

「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」
(スキルの内容)

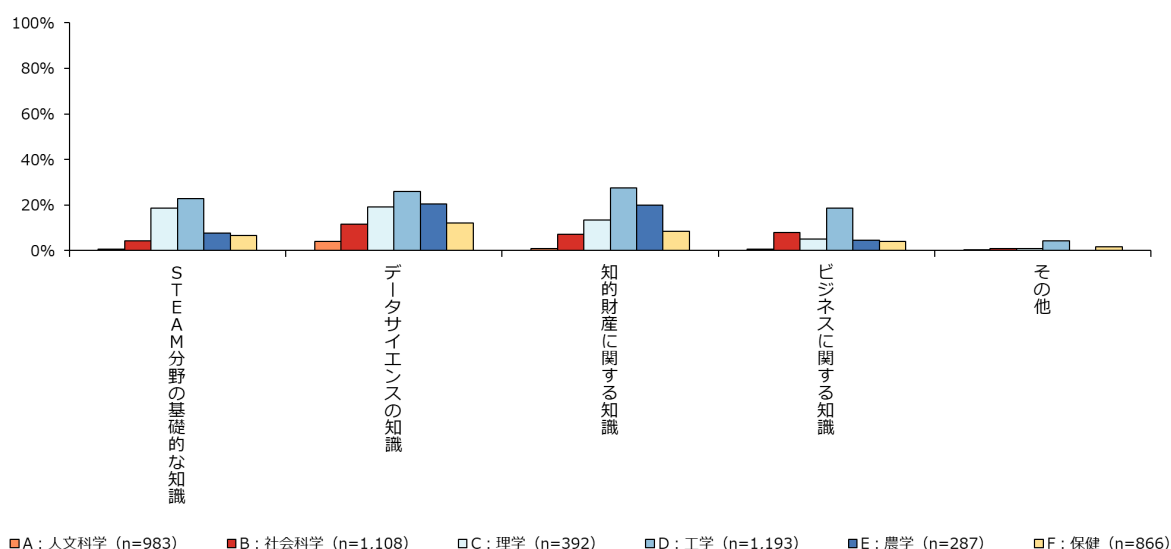


	最先端の知にアクセスする能力	自ら課題を発見し設定する力	自ら仮説を構築し、検証する力	社会的・経済的価値を判断・創出する能力	高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力	倫理観	マネジメント能力
A：人文科学（n=983）	16.5%	25.3%	22.1%	6.9%	10.3%	16.0%	6.4%
B：社会科学（n=1,108）	16.8%	24.4%	22.5%	15.3%	12.9%	19.8%	12.3%
C：理学（n=392）	31.9%	38.0%	34.7%	17.1%	30.4%	27.8%	11.7%
D：工学（n=1,193）	35.0%	46.5%	40.7%	31.4%	37.2%	35.5%	30.6%
E：農学（n=287）	22.3%	40.8%	34.5%	22.3%	27.2%	40.4%	15.0%
F：保健（n=866）	19.2%	27.5%	23.9%	9.2%	14.5%	28.9%	10.5%

「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」に関する具体的な知識の内容については、「工学」において、全ての項目の実施割合が高い。

図表 2-1-16 分野別 体系的な大学院教育の取組

「その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている」(知識の内容)



	STEAM分野の基礎的な知識	データサイエンスの知識	知的財産に関する知識	ビジネスに関する知識	その他
A : 人文科学 (n=983)	0.7%	4.0%	0.8%	0.6%	0.3%
B : 社会科学 (n=1,108)	4.2%	11.5%	7.2%	8.0%	0.8%
C : 理学 (n=392)	18.6%	19.1%	13.5%	5.1%	0.8%
D : 工学 (n=1,193)	22.8%	25.9%	27.5%	18.7%	4.4%
E : 農学 (n=287)	7.7%	20.6%	19.9%	4.5%	0.0%
F : 保健 (n=866)	6.6%	12.0%	8.3%	3.9%	1.6%

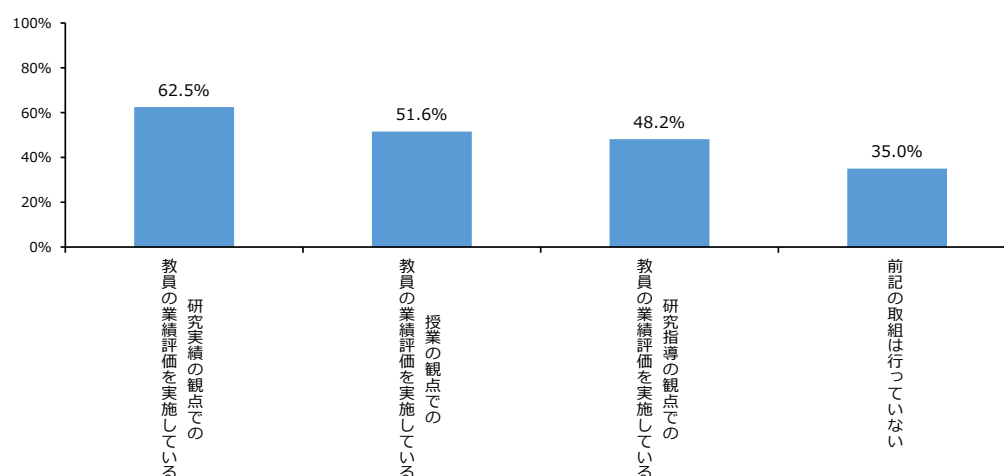
2-2 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組として、教員の評価について聞いた。

「教員の業績評価」については、「研究実績の観点での教員の業績評価を実施している」の割合が62.5%と最も高く、「授業の観点での教員の業績評価を実施している」「研究指導の観点での教員の業績評価を実施している」の順となっている。

図表 2-2-1 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

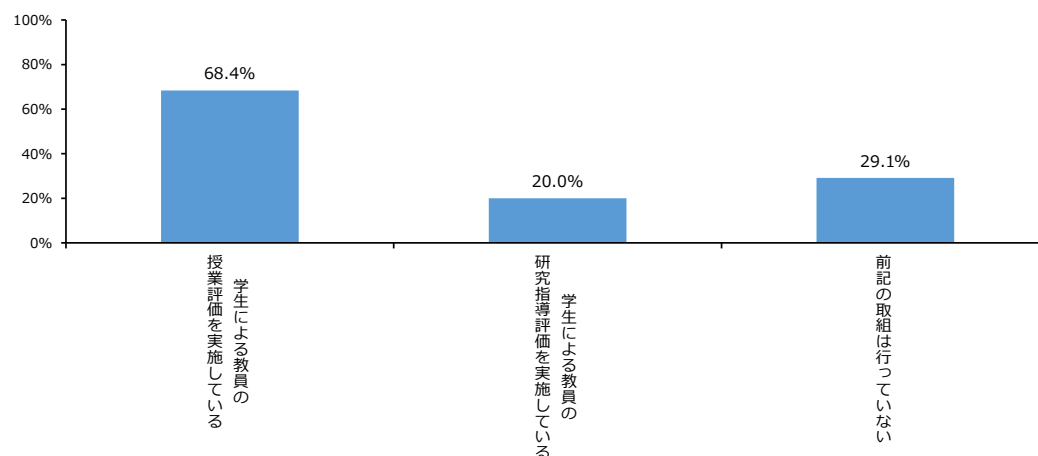
「教員の業績評価」(n=5,926)



「学生による教員の評価」を実施しているか聞いたところ、「学生による教員の授業評価を実施している」が68.4%、「学生による教員の研究指導評価を実施している」が20.0%であった。

図表 2-2-2 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

「学生による教員の評価」(n=5,926)

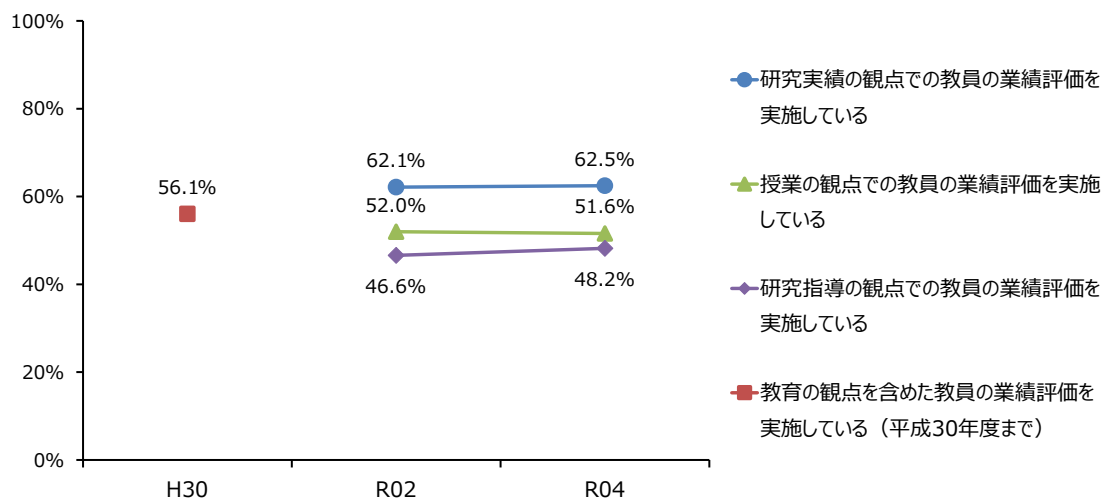


2-2-1 時系列推移

時系列推移を見たところ、「教員の業績評価」については、前回調査と大きな変化はなかった。

図表 2-2-3 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組の時系列推移

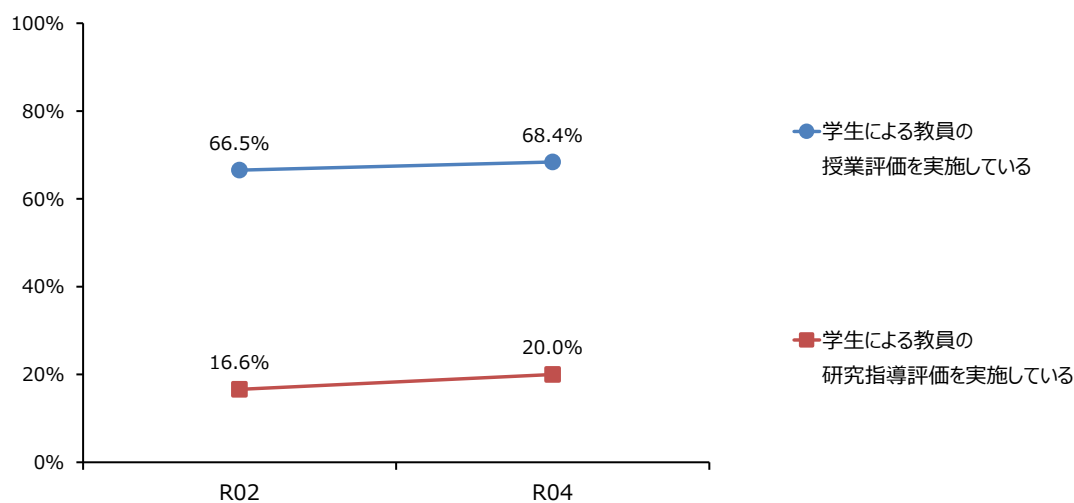
「教員の業績評価」



「学生による教員の評価」については、前回調査と比べて「学生による教員の研究指導評価を実施している」が3.4%増加した。

図表 2-2-4 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組の時系列推移

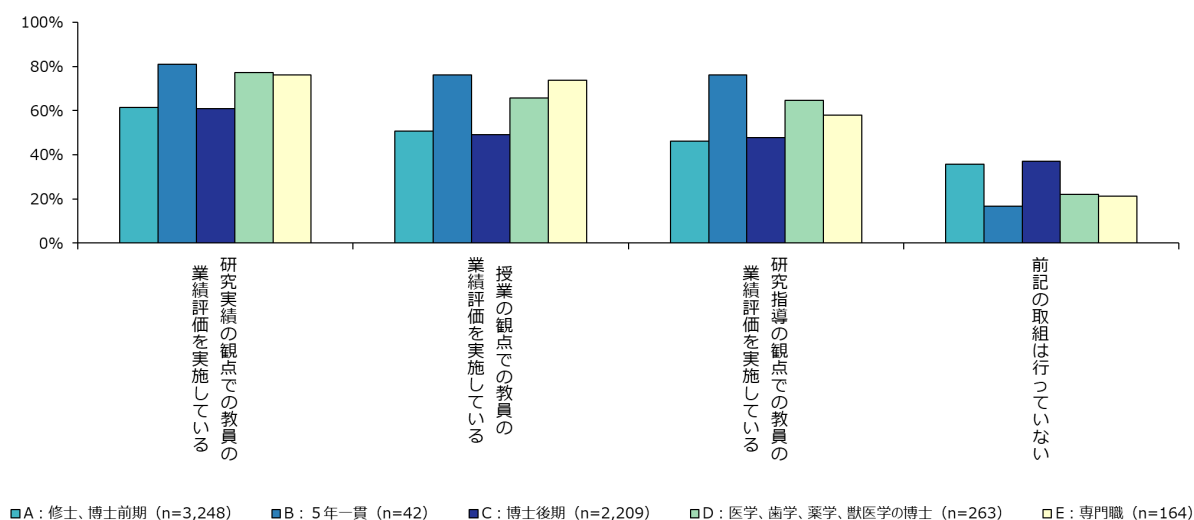
「学生による教員の評価」



2-2-2 課程別

教員の業績評価を課程別に見ると、「修士、博士前期」「博士後期」において、各取組の実施割合が他の課程と比較してやや低い。

図表 2-2-5 課程別 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組
「教員の業績評価」

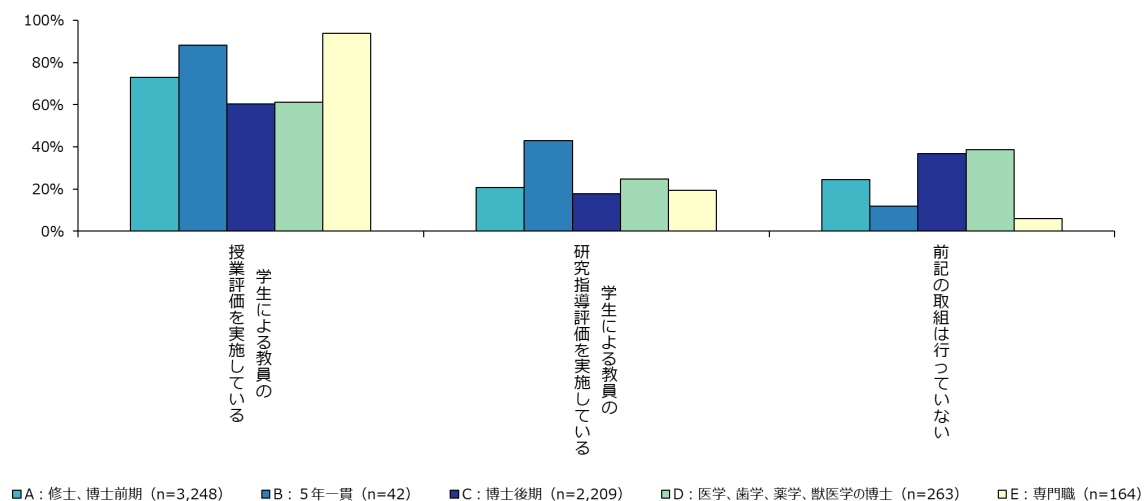


	研究実績の観点での教員の業績評価を実施している	授業の観点での教員の業績評価を実施している	研究指導の観点での教員の業績評価を実施している	前記の取組は行っていない
A：修士、博士前期（n=3,248）	61.4%	50.7%	46.2%	35.7%
B：5年一貫（n=42）	81.0%	76.2%	76.2%	16.7%
C：博士後期（n=2,209）	61.0%	49.0%	47.8%	37.0%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	77.2%	65.8%	64.6%	22.1%
E：専門職（n=164）	76.2%	73.8%	57.9%	21.3%

学生による教員の評価を課程別に見ると、「5年一貫」では、「学生による教員の研究指導評価を実施している」の割合が他の課程よりも高い。

図表 2-2-6 課程別 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

「学生による教員の評価」



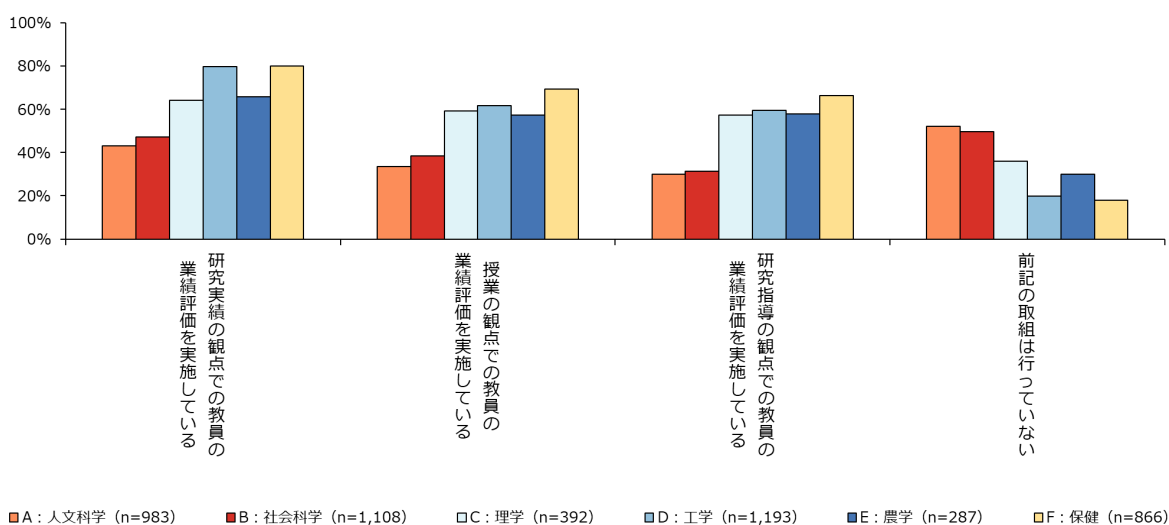
	学生による教員の授業評価を実施している	学生による教員の研究指導評価を実施している	前記の取組は行っていない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	72.9%	20.8%	24.6%
B : 5年一貫 (n=42)	88.1%	42.9%	11.9%
C : 博士後期 (n=2,209)	60.3%	17.9%	36.7%
D : 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	61.2%	24.7%	38.8%
E : 専門職 (n=164)	93.9%	19.5%	6.1%

2-2-3 分野別

教員の業績評価を分野別で見ると、「理学」「工学」「農学」「保健」において、「研究実績の観点での教員の業績評価を実施している」の割合が最も高い。「人文科学」「社会科学」においては、約5割が教員の業績評価に関する取組を行っていない。

図表 2-2-7 分野別 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

「教員の業績評価」

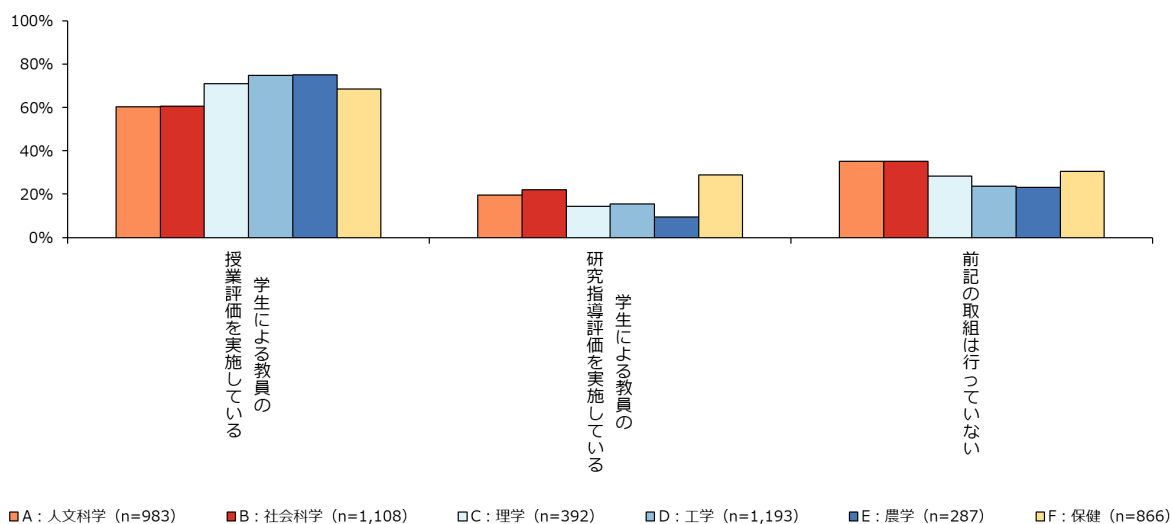


	研究実績の観点での教員の業績評価を実施している	授業の観点での教員の業績評価を実施している	研究指導の観点での教員の業績評価を実施している	前記の取組は行っていない
A：人文科学（n=983）	42.9%	33.5%	29.9%	52.1%
B：社会科学（n=1,108）	47.3%	38.4%	31.3%	49.5%
C：理学（n=392）	64.0%	59.2%	57.1%	36.0%
D：工学（n=1,193）	79.8%	61.6%	59.4%	19.8%
E：農学（n=287）	65.9%	57.1%	57.8%	30.0%
F：保健（n=866）	80.0%	69.3%	66.4%	17.9%

学生による教員の評価を分野別に見ると「保健」において、「学生による教員の研究指導評価を実施している」が他分野と比較して高くなっている。

図表 2-2-8 分野別 組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組

「学生による教員の評価」



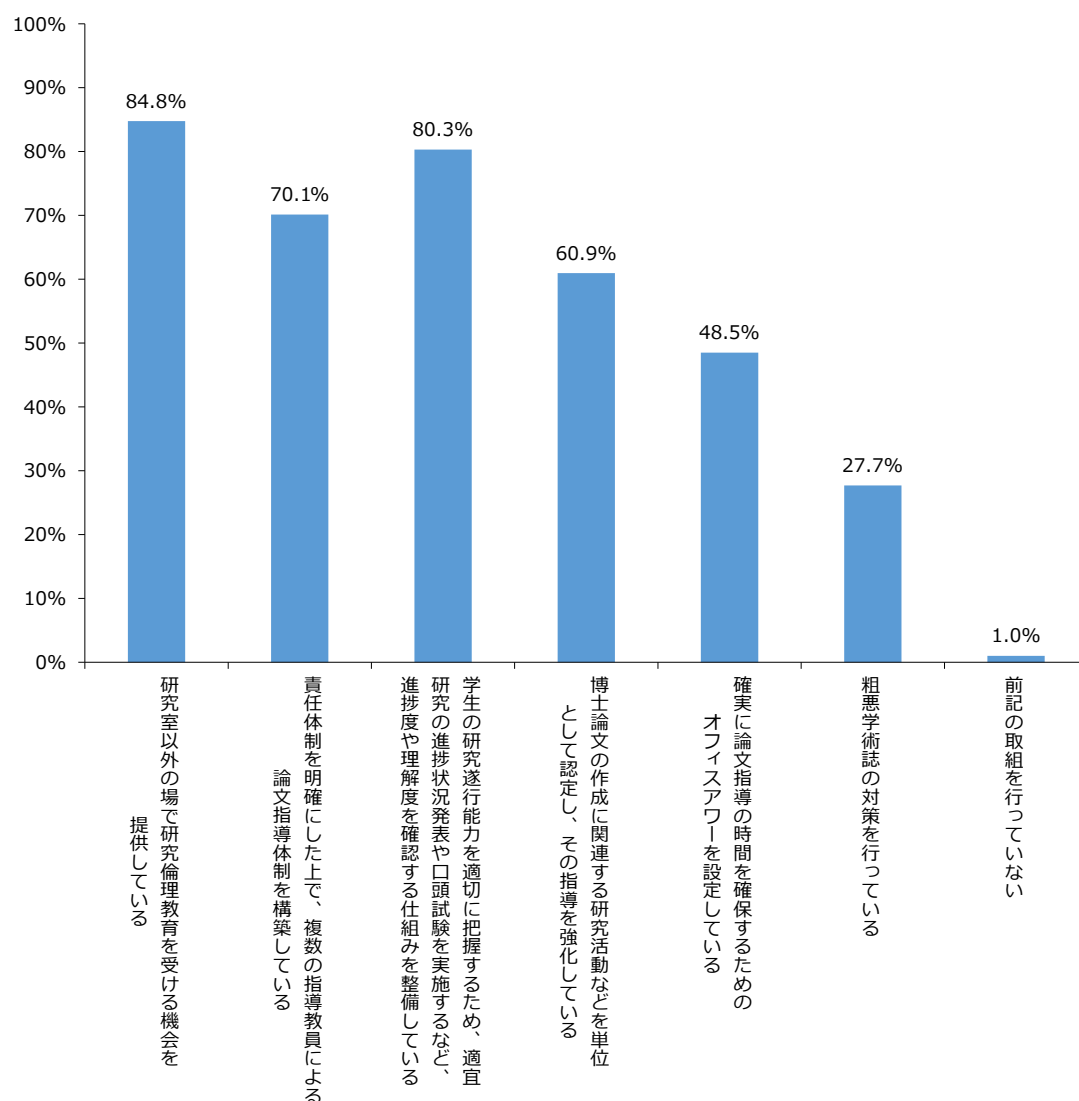
	学生による教員の授業評価を実施している	学生による教員の研究指導評価を実施している	前記の取組は行っていない
A：人文科学（n=983）	60.2%	19.5%	35.1%
B：社会科学（n=1,108）	60.5%	21.9%	35.1%
C：理学（n=392）	70.9%	14.3%	28.3%
D：工学（n=1,193）	74.9%	15.4%	23.6%
E：農学（n=287）	74.9%	9.4%	23.0%
F：保健（n=866）	68.4%	29.0%	30.4%

2-3 研究倫理教育の実施と博士論文の指導に係る取組

博士課程における研究倫理教育、博士論文の指導に係る取組内容について聞いた。

「研究室以外場で研究倫理教育を受ける機会を提供している」「学生の研究遂行能力を適切に把握するため、適宜研究の進捗状況発表や口頭試験を実施するなど、進捗度や理解度を確認する仕組みを整備している」「責任体制を明確にした上で、複数の指導教員による論文指導体制を構築している」「博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している」の実施割合が6割を超えている。

図表 2-3-1 研究倫理教育、論文指導に係る取組 (n=2,514)

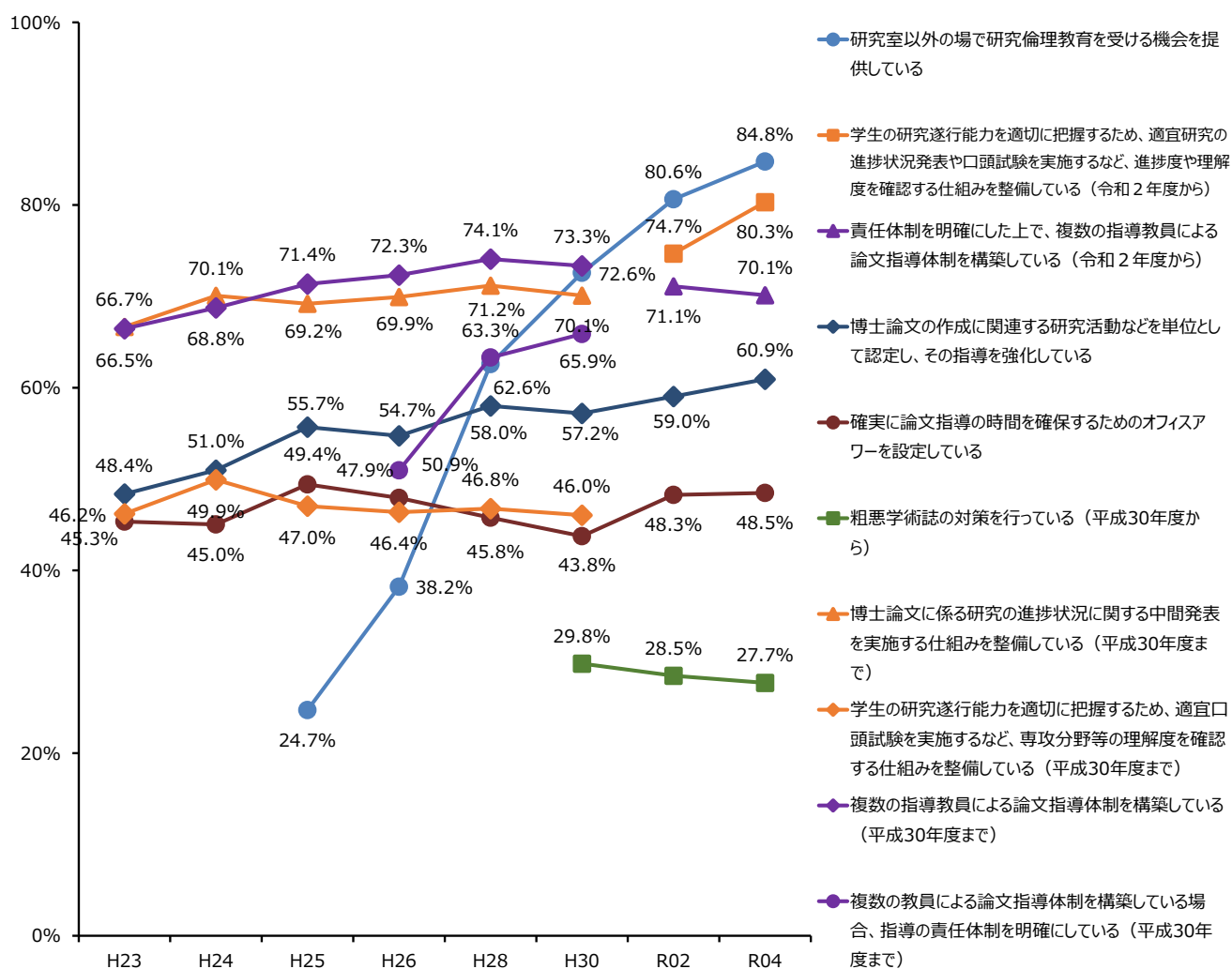


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

2-3-1 時系列推移

研究倫理教育、指導体制に係る取組の時系列推移を見ると、前回調査に比べて、「学生の研究遂行能力を適切に把握するため、適宜研究の進捗状況発表や口頭試験を実施するなど、進捗度や理解度を確認する仕組みを整備している」が5.6%、「研究室以外で研究倫理教育を受ける機会を提供している」が4.2%増加している。

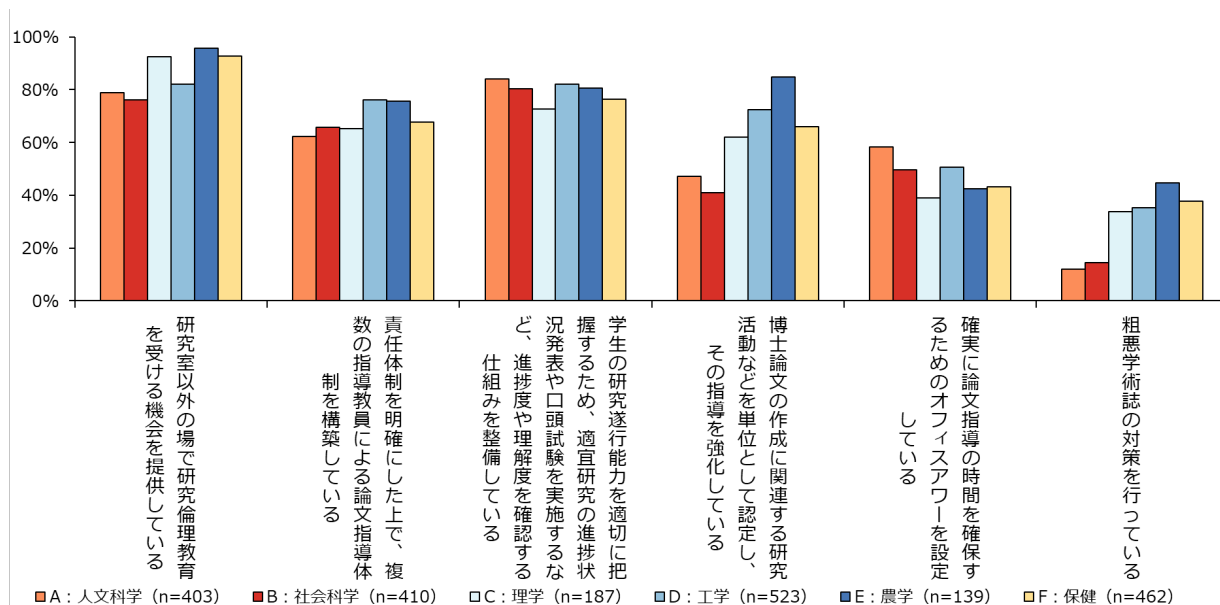
図表 2-3-2 研究倫理教育、論文指導に係る取組の時系列推移



2-3-2 分野別

分野別に見ると、「人文科学」「社会科学」において、「博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している」、「粗悪学術誌の対策を行っている」の割合が他分野と比較して低い。

図表 2-3-3 分野別 研究倫理教育、論文指導に係る取組



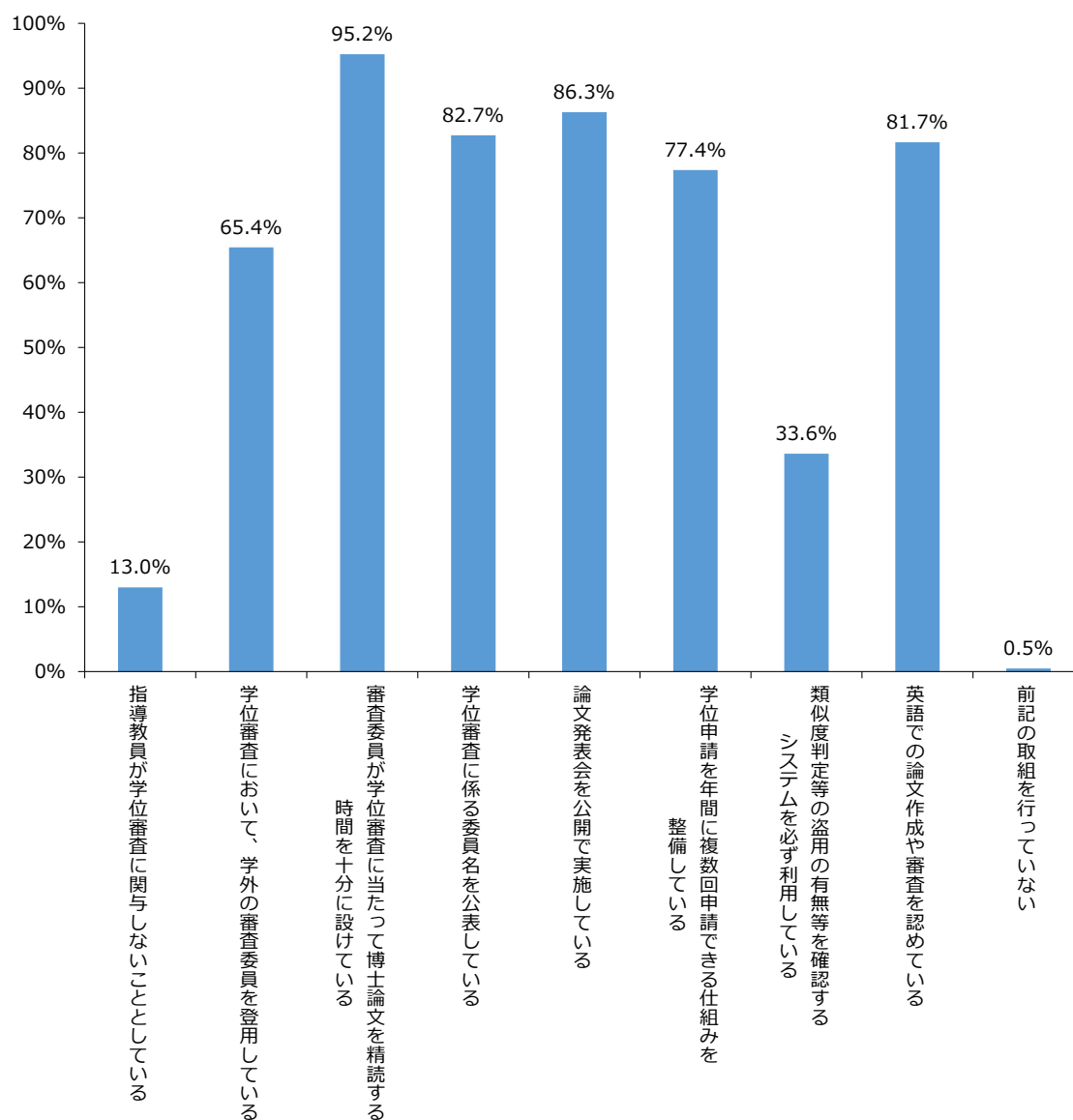
	研究室以外の場で研究倫理教育を受ける機会を提供している	責任体制を明確にした上で、複数の指導教員による論文指導体制を構築している	学生の研究遂行能力を適切に把握するため、適宜研究の進捗状況発表や口頭試験を実施するなど、進捗度や理解度を確認する仕組みを整備している	博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している	確実に論文指導の時間を確保するためのオフィスアワーを設定している	粗悪学術誌の対策を行っている
A : 人文科学 (n=403)	78.9%	62.3%	84.1%	47.1%	58.3%	11.9%
B : 社会科学 (n=410)	76.1%	65.9%	80.2%	41.0%	49.5%	14.4%
C : 理学 (n=187)	92.5%	65.2%	72.7%	62.0%	39.0%	33.7%
D : 工学 (n=523)	82.0%	76.1%	82.0%	72.5%	50.7%	35.2%
E : 農学 (n=139)	95.7%	75.5%	80.6%	84.9%	42.4%	44.6%
F : 保健 (n=462)	92.9%	67.7%	76.4%	66.0%	43.3%	37.7%

2-4 博士論文の審査に係る取組

博士課程における博士論文の審査に係る取組内容について聞いた。

「審査委員が学位審査に当たって博士論文を精読する時間を十分に設けている」の割合が95.2%と最も高い。一方、「類似度判定等の盗用の有無等を確認するシステムを必ず利用している」「指導教員が学位審査に関与しないこととしている」の割合は低い。

図表 2-4-1 博士論文の審査体制に係る取組 (n=2,514)

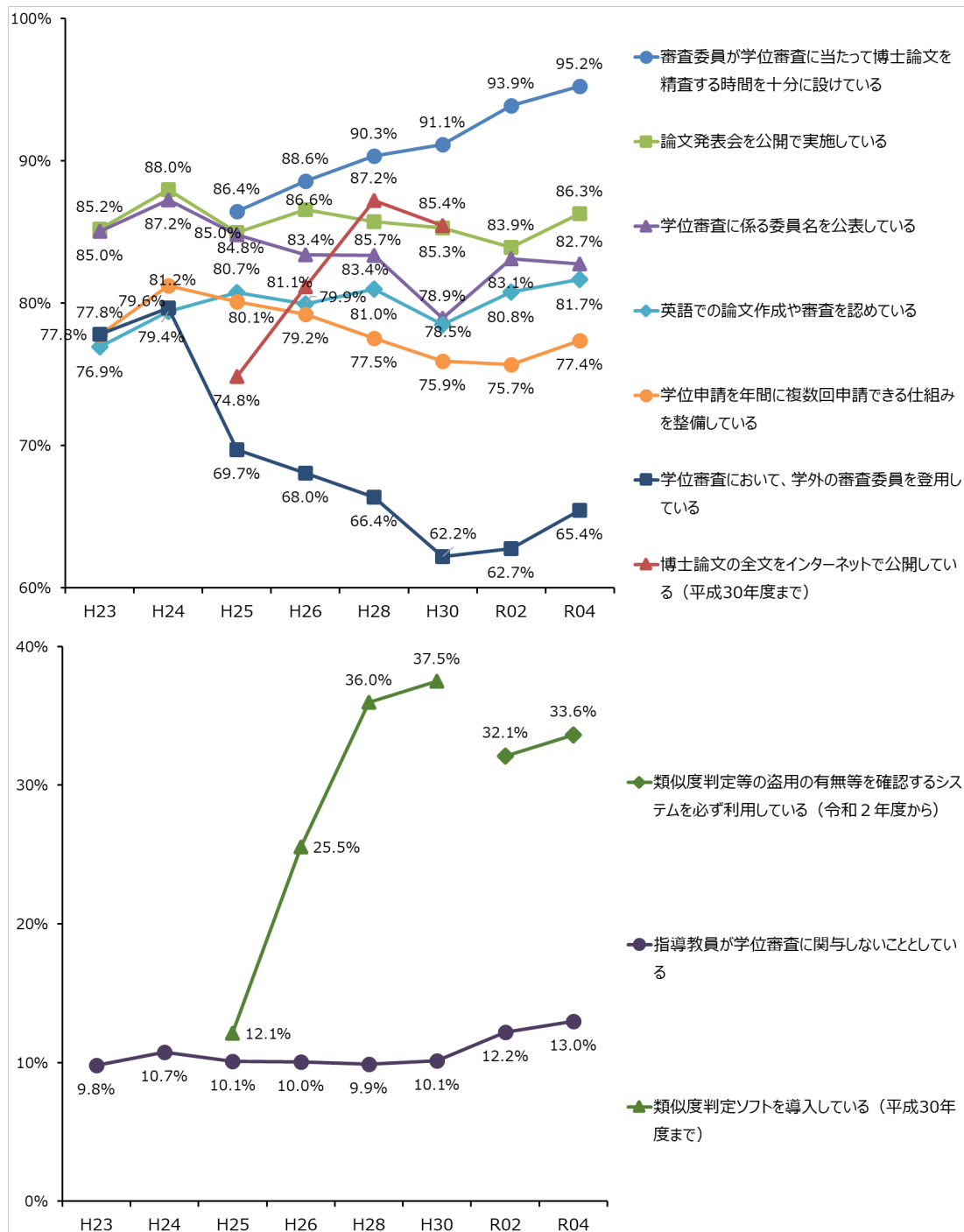


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

2-4-1 時系列推移

時系列推移を見ると、「審査委員が学位審査に当たって博士論文を精査する時間を十分に設けている」の割合は、年々増加している。

図表 2-4-2 博士論文の審査に係る取組の時系列推移

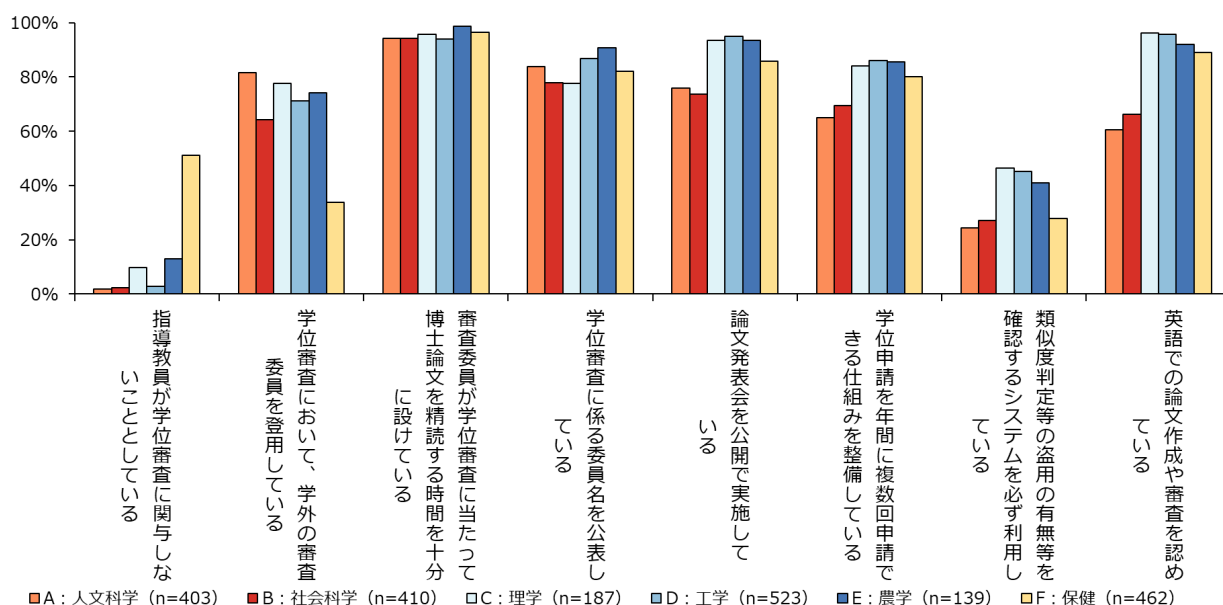


2-4-2 分野別

分野別に見ると、「保健」において、「指導教員が学位審査に関与しないこととしている」の割合が51.1%と他分野と比較して高い。

「人文科学」「社会科学」においては、「論文発表会を公開で実施している」「学位申請を年間に複数回申請できる仕組みを整備している」「英語での論文作成や審査を認めている」の割合が他分野と比較して低い。

図表 2-4-3 分野別 博士論文の審査に係る取組



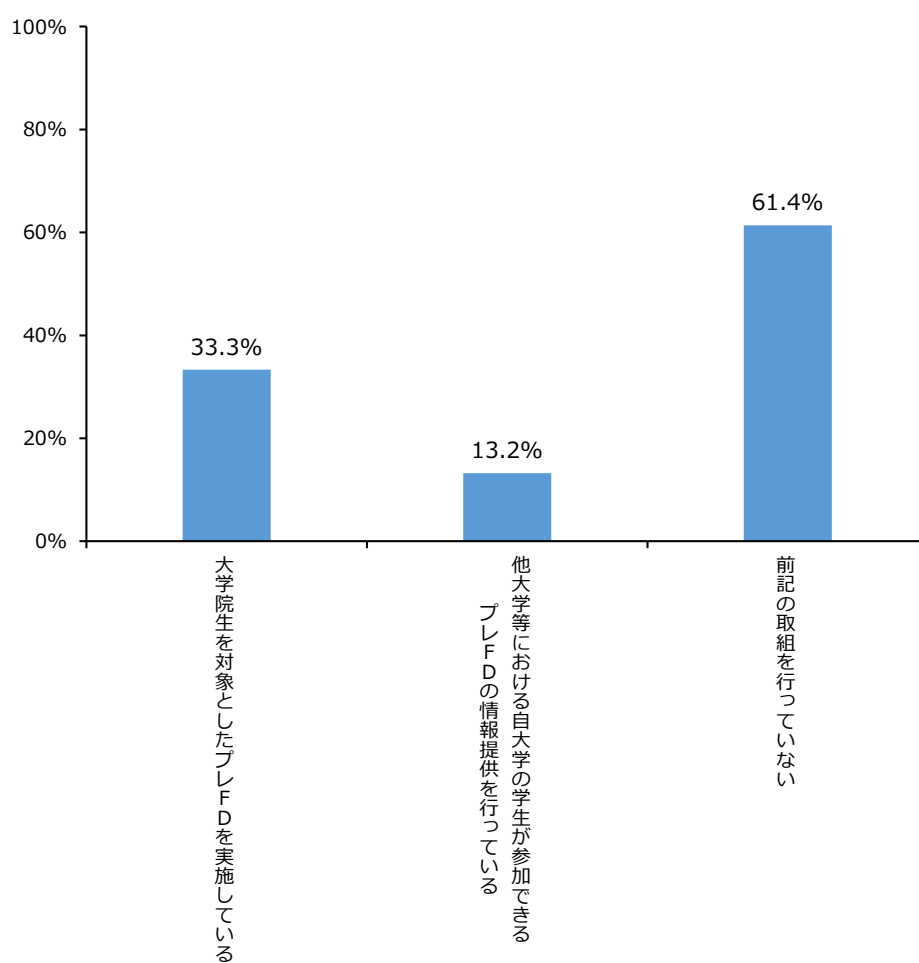
	指導教員が学位審査に関与しないこととしている	学位審査において、学外の審査委員を登用している	審査委員が学位審査に当たって博士論文を精読する時間を十分に設けている	学位審査に係る委員名を公表している	論文発表会を公開で実施している	学位申請を年間に複数回申請できる仕組みを整備している	類似度判定等の盗用の有無等を確認するシステムを必ず利用している	英語での論文作成や審査を認めている
A: 人文科学 (n=403)	1.7%	81.6%	94.3%	83.9%	75.9%	65.0%	24.3%	60.5%
B: 社会科学 (n=410)	2.2%	64.1%	94.1%	77.8%	73.7%	69.5%	27.1%	66.3%
C: 理学 (n=187)	9.6%	77.5%	95.7%	77.5%	93.6%	84.0%	46.5%	96.3%
D: 工学 (n=523)	2.7%	71.1%	94.1%	86.8%	95.0%	86.0%	45.1%	95.8%
E: 農学 (n=139)	12.9%	74.1%	98.6%	90.6%	93.5%	85.6%	41.0%	92.1%
F: 保健 (n=462)	51.1%	33.8%	96.5%	82.0%	85.7%	80.1%	27.7%	89.0%

2-5 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築等

将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成（プレFD）に係る取組について聞いた。

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」が33.3%、「他大学等における自大学の学生が参加できるプレFDの情報提供を行っている」が13.2%となっている。

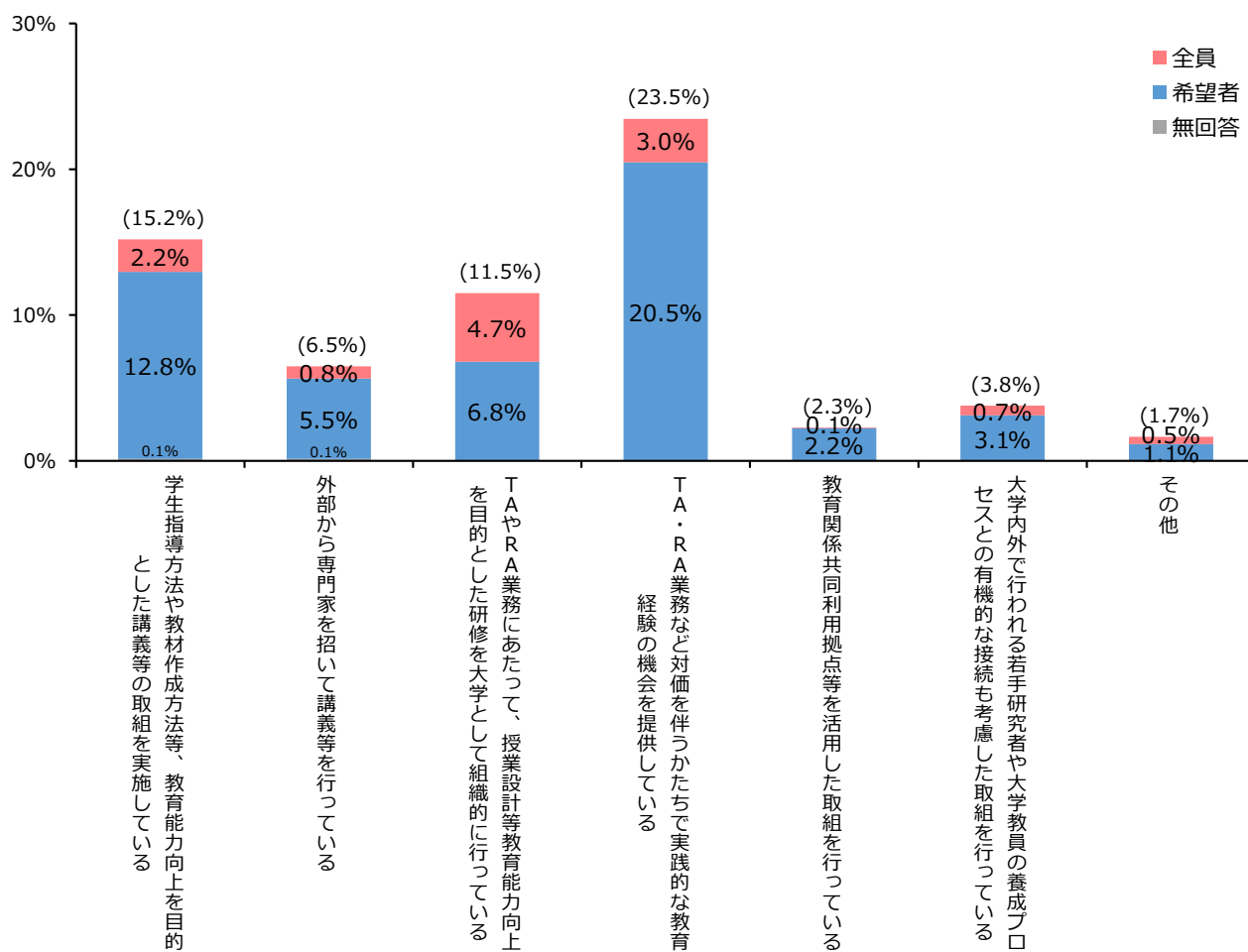
図表 2-5-1 将来大学教員となる者を対象とした
教育能力養成システムの構築等に係る取組（n=5,926）



「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の具体的な取組とその対象者、実施形態について聞いた。

取組内容では、「TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している」「学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している」の割合が高い。対象者は、いずれの取組も「希望者」の割合が高い。

図表 2-5-2 教育能力養成システムの構築等に係る取組
「大学院生を対象としたプレFDを実施している」
(具体的な取組・対象者) (n=5,926)

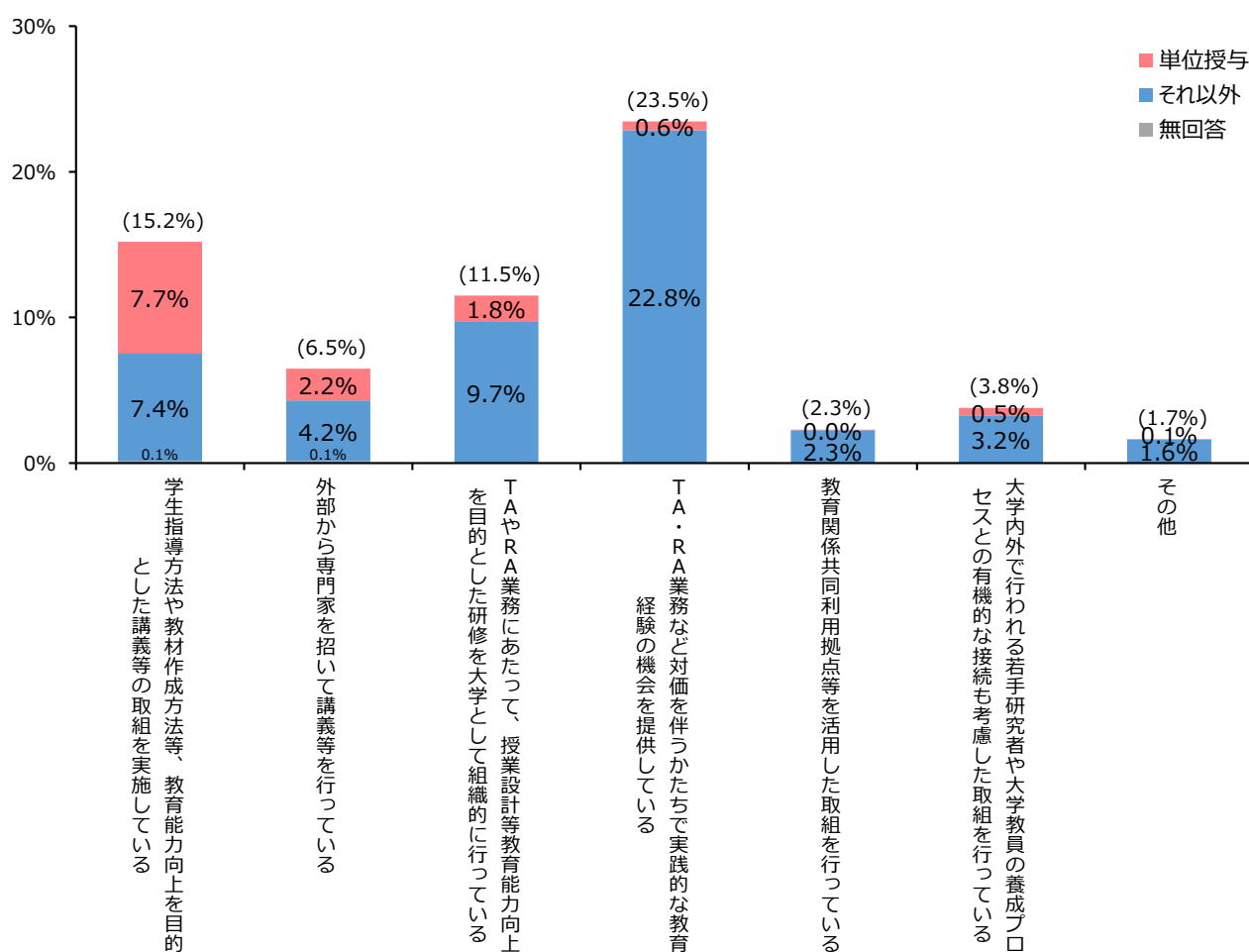


実施形態については、「学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している」において「単位授与」の割合が高い。

図表 2-5-3 教育能力養成システムの構築等に係る取組

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」

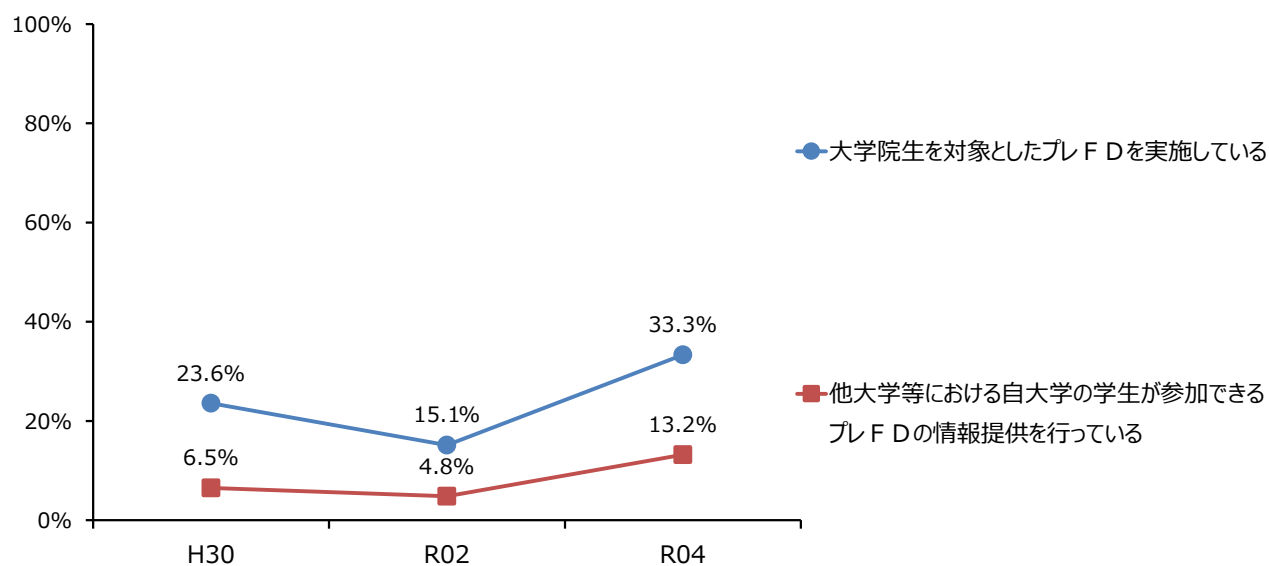
(具体的な取組・実施形態) (n=5,926)



2-5-1 時系列推移

時系列推移を見ると、前回調査に比べて「大学院生を対象としたプレFDを実施している」が18.2%、「他大学等における自大学の学生が参加できるプレFDの情報提供を行っている」が8.4%増加している。

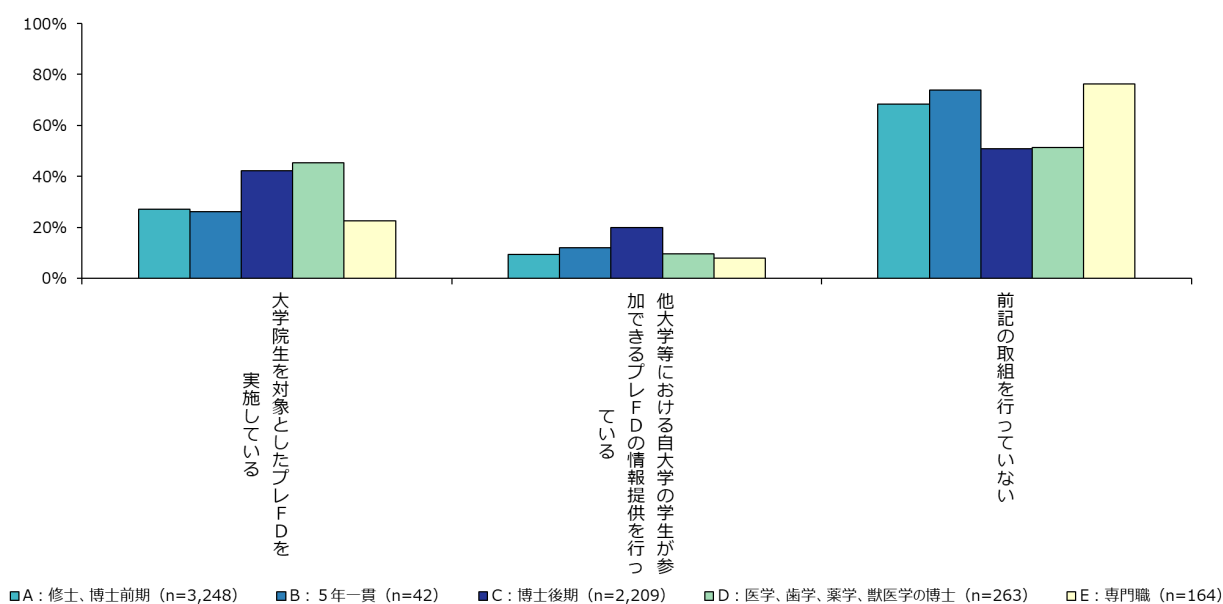
図表 2-5-4 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成
システムの構築等に係る取組の時系列推移



2-5-2 課程別

課程別に見ると、「博士後期」、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-5-5 課程別 将来大学教員となる者を対象とした
教育能力養成システムの構築等に係る取組

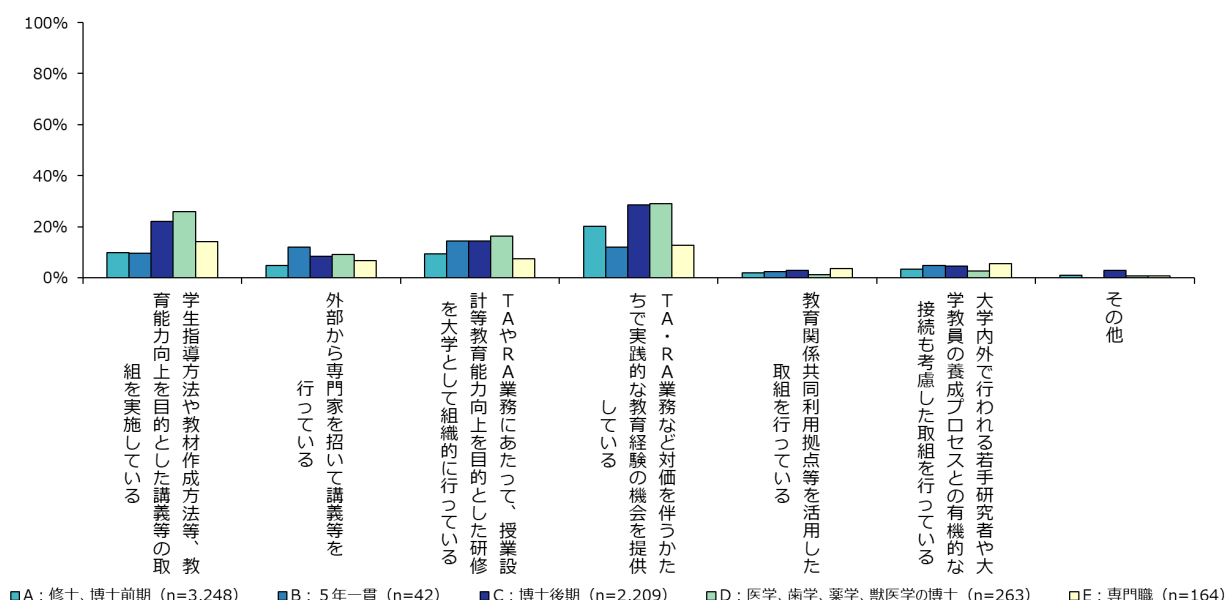


	大学院生を対象 としたプレFDを 実施している	他大学等における 自大学の学生が 参加できるプレF Dの情報提供を 行っている	前記の取組を行っ ていない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	27.1%	9.3%	68.4%
B : 5年一貫 (n=42)	26.2%	11.9%	73.8%
C : 博士後期 (n=2,209)	42.1%	19.8%	50.9%
D : 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	45.2%	9.5%	51.3%
E : 専門職 (n=164)	22.6%	7.9%	76.2%

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の具体的な取組を課程別に見ると、「博士後期」、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、「TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している」「学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-5-6 課程別 教育能力養成システムの構築等に係る取組

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」
(具体的な取組)



	学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している	外部から専門家を招いて講義等を行っている	TAやRA業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的にを行っている	TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している	教育関係共同利用拠点等を活用した取組を行っている	大学内外で行われる若手研究者や大学教員の養成プロセスとの有機的な接続も考慮した取組を行っている	その他
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	9.8%	4.9%	9.3%	20.2%	2.0%	3.2%	0.9%
B: 5年一貫 (n=42)	9.5%	11.9%	14.3%	11.9%	2.4%	4.8%	0.0%
C: 博士後期 (n=2,209)	22.0%	8.4%	14.5%	28.7%	2.8%	4.6%	3.0%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	25.9%	9.1%	16.3%	28.9%	1.1%	2.7%	0.8%
E: 専門職 (n=164)	14.0%	6.7%	7.3%	12.8%	3.7%	5.5%	0.6%

図表 2-5-7 課程別 教育能力養成システムの構築等に係る取組

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」

(具体的な取組・対象者／実施形態)

学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	1.4%	8.5%	5.9%	3.9%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	9.5%	2.4%	7.1%
C：博士後期（n=2,209）	2.4%	19.2%	9.5%	12.2%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	10.3%	15.6%	13.7%	12.2%
E：専門職（n=164）	4.9%	9.1%	9.8%	4.3%

外部から専門家を招いて講義等を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	0.9%	4.0%	1.8%	3.1%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	11.9%	2.4%	9.5%
C：博士後期（n=2,209）	0.6%	7.4%	2.3%	5.7%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	1.9%	7.2%	4.6%	4.6%
E：専門職（n=164）	1.8%	4.9%	4.3%	2.4%

TAやRA業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的に行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	4.2%	5.0%	0.9%	8.4%
B：5年一貫（n=42）	7.1%	7.1%	0.0%	14.3%
C：博士後期（n=2,209）	5.4%	9.1%	3.1%	11.4%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	4.9%	11.4%	2.3%	14.1%
E：専門職（n=164）	4.3%	3.0%	1.2%	6.1%

TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	2.5%	17.7%	0.5%	19.7%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	11.9%	0.0%	11.9%
C：博士後期（n=2,209）	3.7%	24.9%	0.7%	28.0%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	3.8%	25.1%	1.9%	27.0%
E：専門職（n=164）	1.8%	11.0%	0.0%	12.8%

教育関係共同利用拠点等を活用した取組を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	0.0%	1.9%	0.0%	2.0%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%
C：博士後期（n=2,209）	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	0.0%	1.1%	0.0%	1.1%
E：専門職（n=164）	0.6%	3.0%	1.2%	2.4%

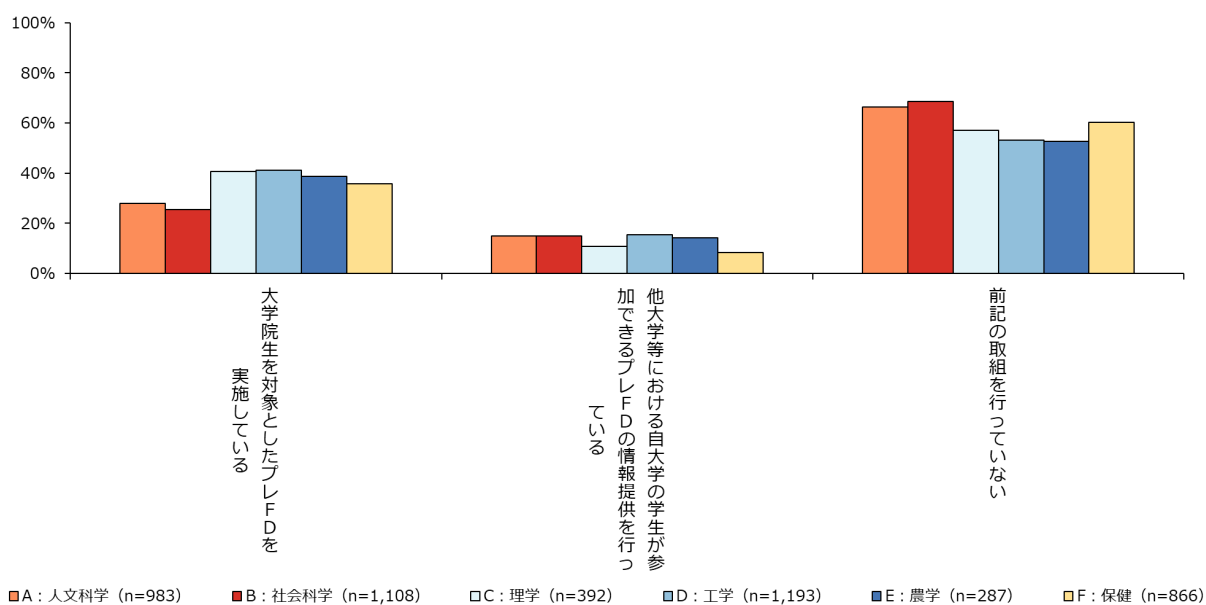
大学内外で行われる若手研究者や大学教員の養成プロセスとの有機的な接続も考慮した取組を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	0.6%	2.6%	0.5%	2.8%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	4.8%	2.4%	2.4%
C：博士後期（n=2,209）	0.6%	3.9%	0.5%	4.1%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	1.1%	1.5%	1.5%	1.1%
E：専門職（n=164）	1.2%	4.3%	1.2%	4.3%

その他	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：修士、博士前期（n=3,248）	0.2%	0.6%	0.0%	0.9%
B：5年一貫（n=42）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
C：博士後期（n=2,209）	1.0%	2.0%	0.1%	2.9%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士（n=263）	0.4%	0.4%	0.0%	0.8%
E：専門職（n=164）	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%

2-5-3 分野別

分野別では、「人文科学」「社会科学」において、「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の割合が他分野と比較して低い。

図表 2-5-8 分野別 将来大学教員となる者を対象とした
教育能力養成システムの構築等に係る取組

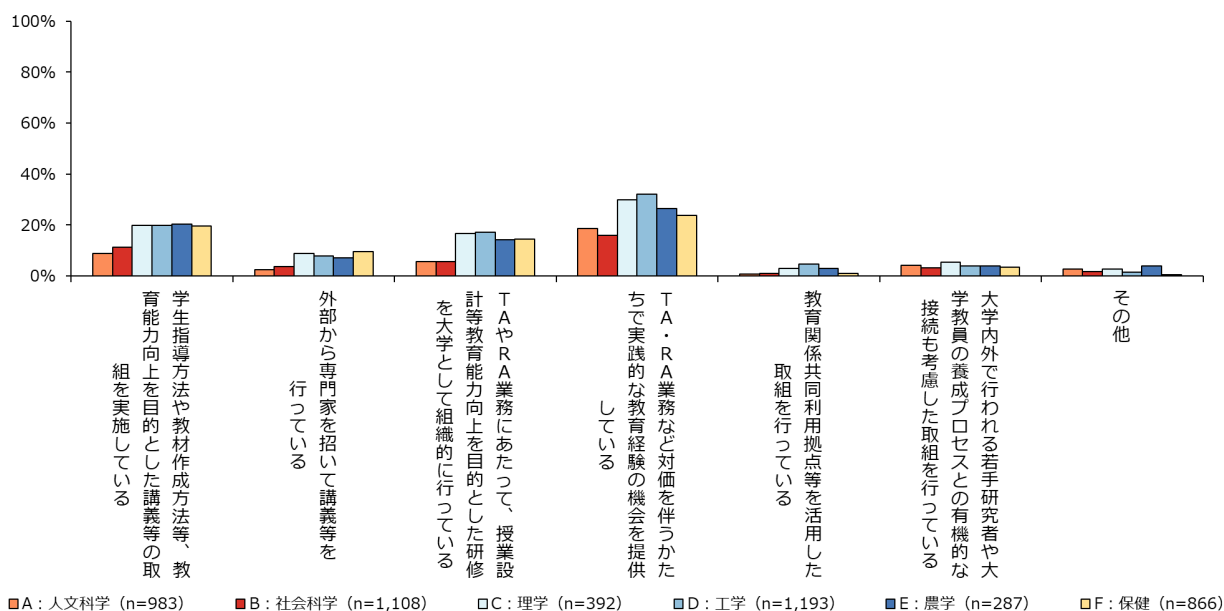


	大学院生を対象 としたプレFDを 実施している	他大学等における 自大学の学生が 参加できるプレFDの 情報提供を行 っている	前記の取組を行っ ていない
A：人文科学（n=983）	28.0%	14.9%	66.4%
B：社会科学（n=1,108）	25.5%	14.9%	68.6%
C：理学（n=392）	40.6%	10.7%	57.1%
D：工学（n=1,193）	41.0%	15.4%	53.2%
E：農学（n=287）	38.7%	14.3%	52.6%
F：保健（n=866）	35.8%	8.2%	60.3%

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の具体的な取組について分野別に見ると、「人文科学」「社会科学」で「学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している」「TA・RA業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的に行っている」「TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している」の割合が他分野と比較して低い。

図表 2-5-9 分野別 教育能力養成システムの構築等に係る取組

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」
(具体的な取組)



	学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している	外部から専門家を招いて講義等を行っている	TAやRA業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的に行っている	TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している	教育関係共同利用拠点等を活用した取組を行っている	大学内外で行われる若手研究者や大学教員の養成プロセスとの有機的な接続も考慮した取組を行っている	その他
A: 人文科学 (n=983)	8.7%	2.3%	5.7%	18.5%	0.6%	4.1%	2.7%
B: 社会科学 (n=1,108)	11.2%	3.5%	5.7%	15.9%	0.9%	3.2%	1.6%
C: 理学 (n=392)	19.9%	8.7%	16.6%	29.8%	2.8%	5.4%	2.6%
D: 工学 (n=1,193)	19.7%	7.9%	17.1%	32.1%	4.6%	3.8%	1.3%
E: 農学 (n=287)	20.2%	7.0%	14.3%	26.5%	2.8%	3.8%	3.8%
F: 保健 (n=866)	19.5%	9.6%	14.3%	23.7%	1.0%	3.5%	0.5%

図表 2-5-10 分野別 教育能力養成システムの構築等に係る取組

「大学院生を対象としたプレFDを実施している」

(具体的な取組・対象者／実施形態)

学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	0.6%	8.1%	3.7%	5.1%
B：社会科学（n=1,108）	2.3%	8.9%	4.4%	6.8%
C：理学（n=392）	1.5%	18.1%	11.5%	8.2%
D：工学（n=1,193）	0.8%	18.4%	9.7%	9.4%
E：農学（n=287）	1.7%	18.5%	15.0%	5.2%
F：保健（n=866）	6.7%	12.8%	9.4%	10.2%

外部から専門家を招いて講義等を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	0.2%	2.1%	0.7%	1.6%
B：社会科学（n=1,108）	0.3%	3.2%	0.7%	2.8%
C：理学（n=392）	0.5%	7.9%	2.8%	5.6%
D：工学（n=1,193）	0.1%	7.2%	2.6%	4.7%
E：農学（n=287）	0.7%	6.3%	3.5%	3.5%
F：保健（n=866）	1.8%	7.7%	3.1%	6.5%

TAやRA業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的にを行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	2.5%	3.2%	0.5%	5.2%
B：社会科学（n=1,108）	2.6%	3.1%	0.5%	5.2%
C：理学（n=392）	8.7%	7.9%	3.1%	13.5%
D：工学（n=1,193）	3.7%	13.4%	4.1%	13.0%
E：農学（n=287）	7.0%	7.3%	1.4%	12.9%
F：保健（n=866）	5.9%	8.4%	1.6%	12.7%

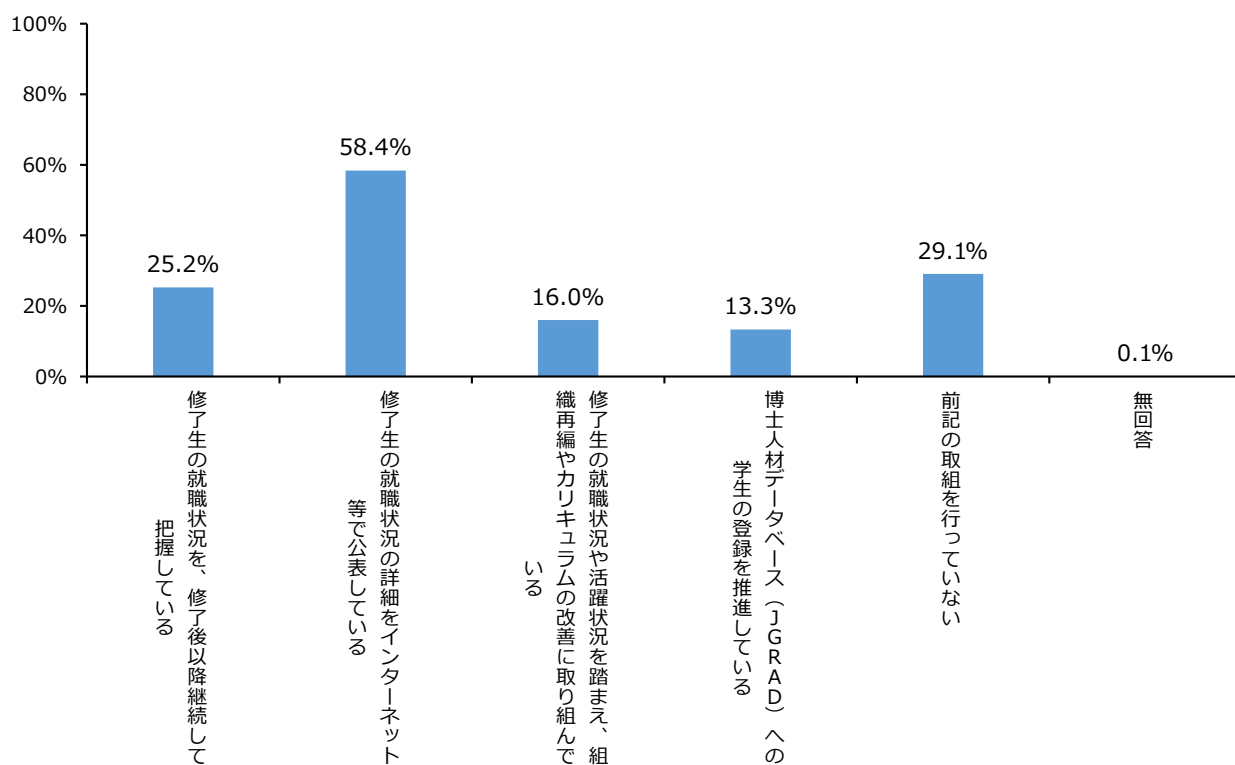
TA・RA業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	2.0%	16.5%	0.0%	18.5%
B：社会科学（n=1,108）	2.2%	13.7%	0.0%	15.9%
C：理学（n=392）	6.1%	23.7%	0.0%	29.8%
D：工学（n=1,193）	3.7%	28.4%	2.5%	29.6%
E：農学（n=287）	3.1%	23.3%	0.0%	26.5%
F：保健（n=866）	3.7%	20.0%	0.6%	23.1%
教育関係共同利用拠点等を活用した取組を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%
B：社会科学（n=1,108）	0.2%	0.7%	0.0%	0.9%
C：理学（n=392）	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%
D：工学（n=1,193）	0.0%	4.6%	0.0%	4.6%
E：農学（n=287）	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%
F：保健（n=866）	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%
大学内外で行われる若手研究者や大学教員の養成プロセスとの有機的な接続も考慮した取組を行っている	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	0.3%	3.8%	0.1%	4.0%
B：社会科学（n=1,108）	0.3%	2.9%	0.3%	2.9%
C：理学（n=392）	1.8%	3.6%	2.3%	3.1%
D：工学（n=1,193）	0.6%	3.2%	0.5%	3.3%
E：農学（n=287）	0.7%	3.1%	1.0%	2.8%
F：保健（n=866）	1.3%	2.2%	0.8%	2.7%
その他	対象者		実施形態	
	全員	希望者	単位授与	それ以外
A：人文科学（n=983）	0.9%	1.8%	0.0%	2.7%
B：社会科学（n=1,108）	0.3%	1.4%	0.1%	1.5%
C：理学（n=392）	1.8%	0.8%	0.0%	2.6%
D：工学（n=1,193）	0.2%	1.2%	0.0%	1.3%
E：農学（n=287）	0.0%	3.8%	0.0%	3.8%
F：保健（n=866）	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%

2-6 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進

大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進に係る取組状況について聞いた。

「修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している」の実施割合が 58.4%と最も高い。

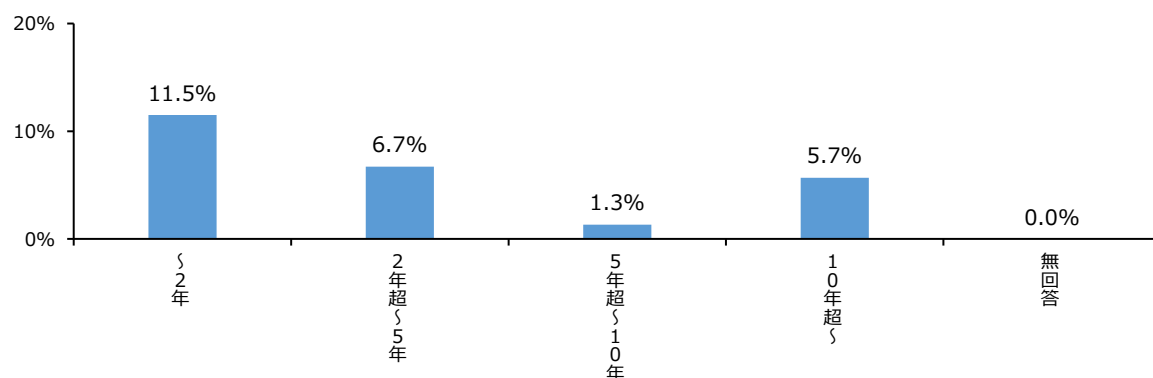
図表 2-6-1 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進に係る取組 (n=5, 926)



「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、何年継続して把握しているか」について聞いた。

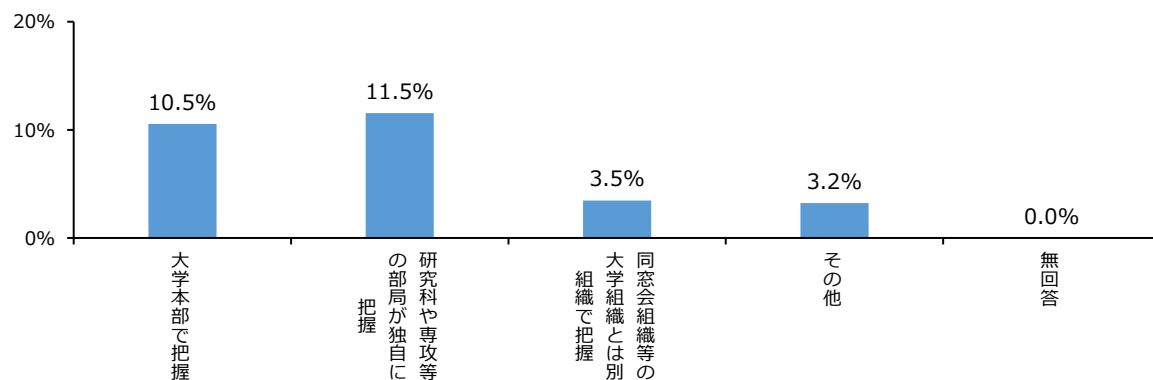
修了後、「～2年」が最も多く 11.5%、次いで「2年超～5年」が 6.7%、「10年超～」が 5.7%となっている。

図表 2-6-2 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進に係る取組
「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
何年継続して把握しているか」(n=5,926)



「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、どのように把握しているか」については、「研究科や専攻等の部局が独自に把握」が 11.5%、「大学本部で把握」が 10.5%となっている。

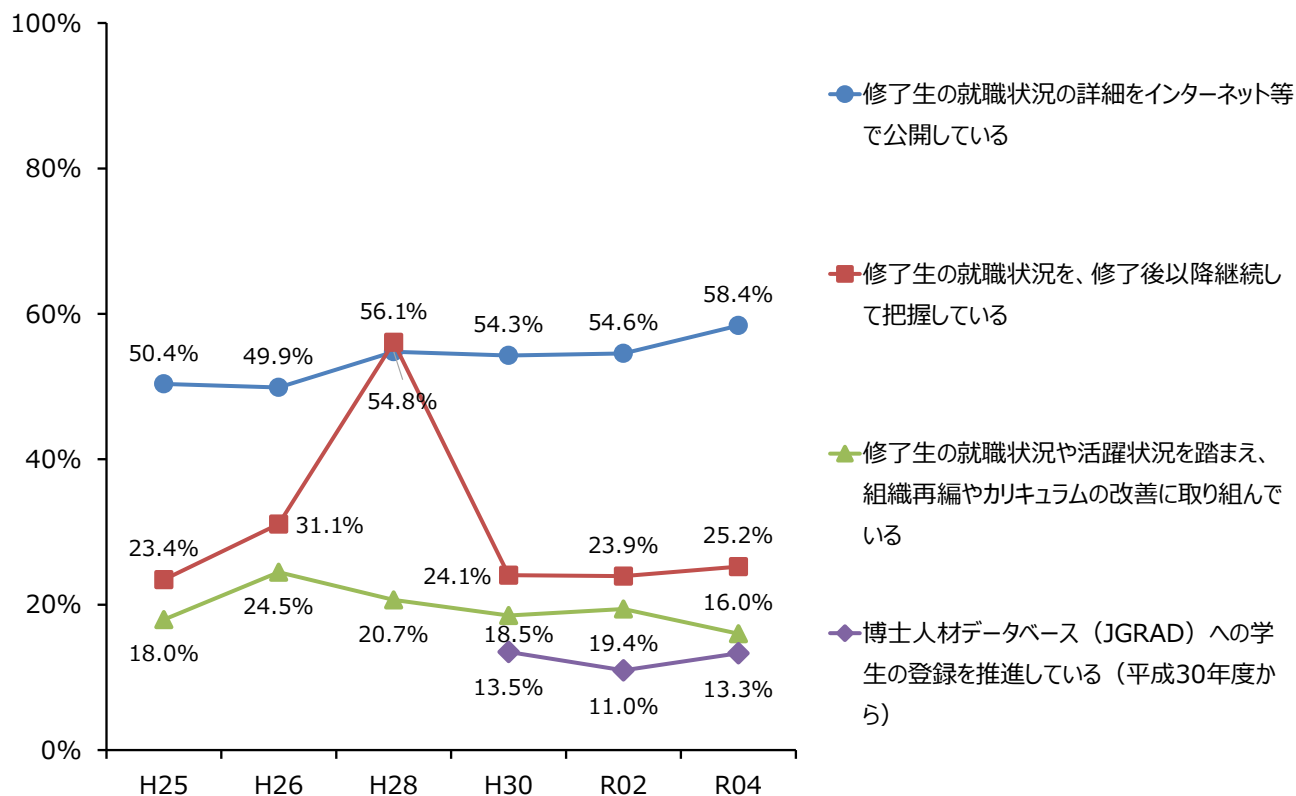
図表 2-6-3 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進に係る取組
「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
どのように把握しているか」(n=5,926)



2-6-1 時系列推移

大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組状況の時系列推移を見ると、「修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している」が増加している。

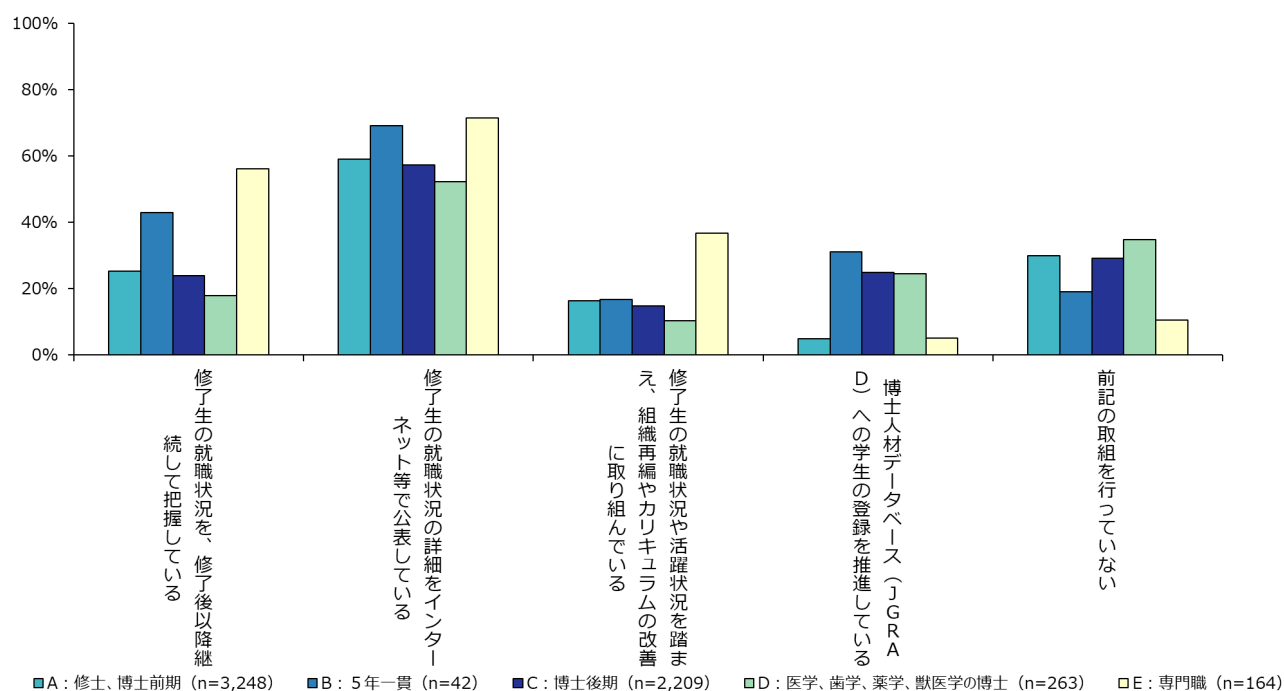
図表 2-6-4 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組の時系列推移



2-6-2 課程別

課程別に見ると、「5年一貫」「専門職」において、「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している」の割合が他の課程と比較して高い。「専門職」では、「修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる」の割合が高い。

図表 2-6-5 課程別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

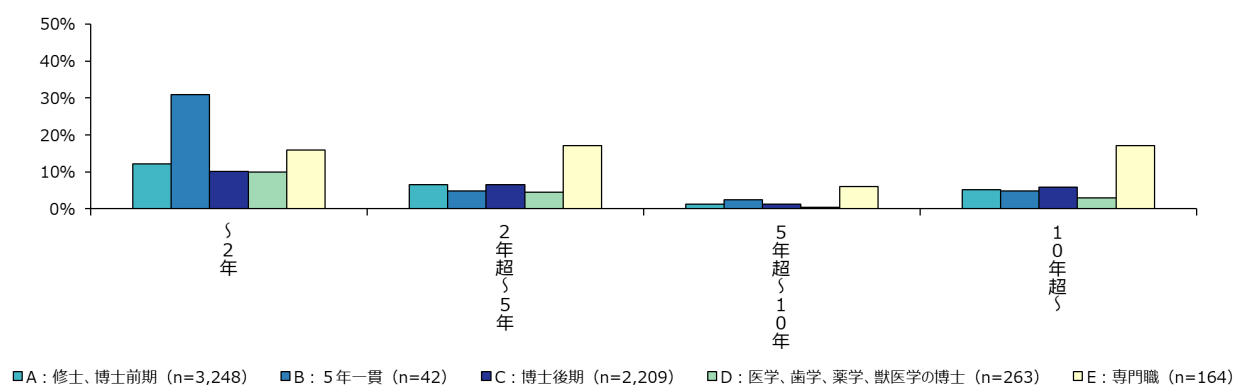


	修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している	修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している	修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる	博士人材データベース(JGRA)への学生の登録を推進している
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	25.1%	58.9%	16.3%	4.8%
B: 5年一貫 (n=42)	42.9%	69.0%	16.7%	31.0%
C: 博士後期 (n=2,209)	23.7%	57.2%	14.8%	24.8%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	17.9%	52.1%	10.3%	24.3%
E: 専門職 (n=164)	56.1%	71.3%	36.6%	4.9%

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、何年継続して把握しているか」を課程別に見ると、「専門職」を除いて「～2年」の回答が最も多い。「専門職」においては、「2年超～5年」「10年超～」がそれぞれ17.1%である。

図表 2-6-6 課程別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
何年継続して把握しているか」

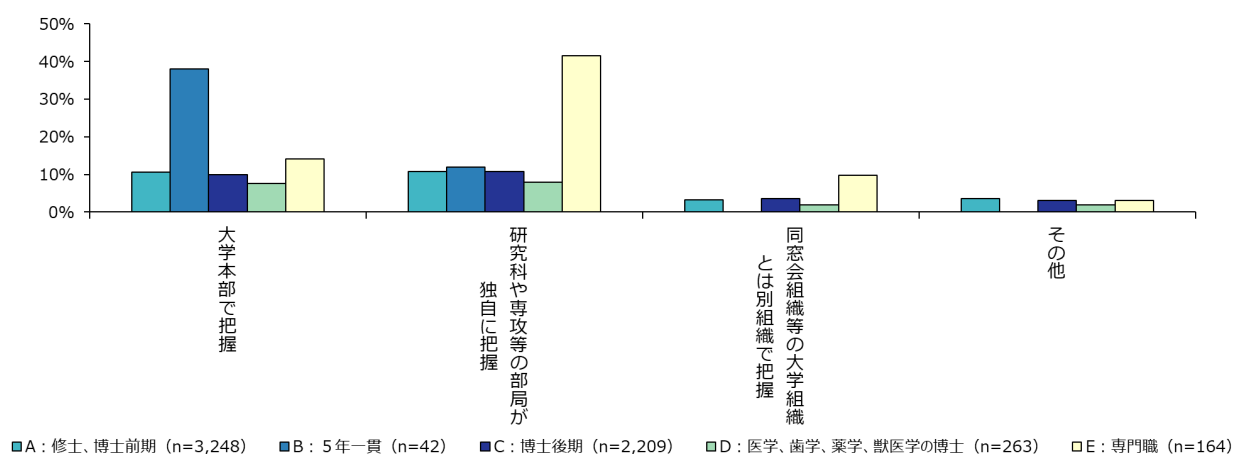


	～2年	2年超～5年	5年超～10年	10年超～
A：修士、博士前期 (n=3,248)	12.1%	6.5%	1.2%	5.2%
B：5年一貫 (n=42)	31.0%	4.8%	2.4%	4.8%
C：博士後期 (n=2,209)	10.1%	6.5%	1.3%	5.8%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	9.9%	4.6%	0.4%	3.0%
E：専門職 (n=164)	15.9%	17.1%	6.1%	17.1%

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、どのように把握しているか」について、課程別に見ると、「5年一貫」は「大学本部で把握」、「専門職」は「研究科や専攻等の部局が独自に把握」の割合が高い。

図表 2-6-7 課程別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
どのように把握しているか」

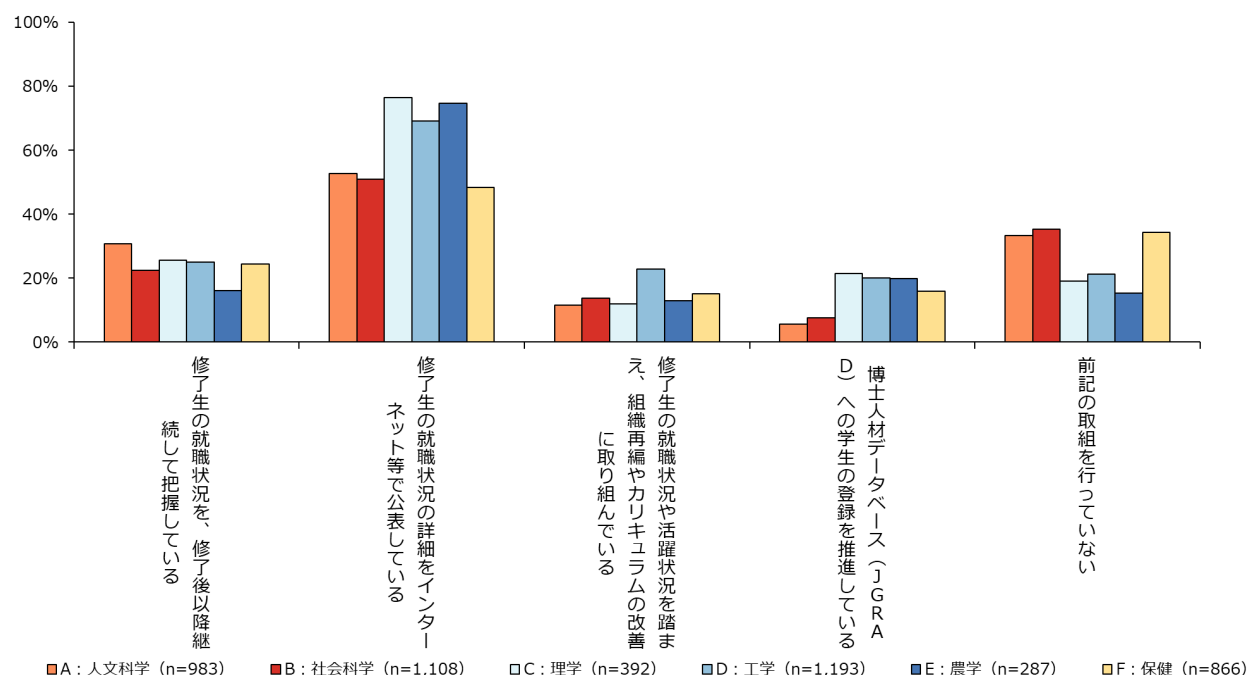


	大学本部で把握	研究科や専攻等の部局が独自に把握	同窓会組織等の大学組織とは別組織で把握	その他
A：修士、博士前期 (n=3,248)	10.7%	10.8%	3.3%	3.5%
B：5年一貫 (n=42)	38.1%	11.9%	0.0%	0.0%
C：博士後期 (n=2,209)	10.0%	10.8%	3.5%	3.0%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	7.6%	8.0%	1.9%	1.9%
E：専門職 (n=164)	14.0%	41.5%	9.8%	3.0%

2-6-3 分野別

分野別に見ると、「理学」「工学」「農学」において、「修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している」の割合が他分野と比較して高い。「人文科学」「社会科学」「保健」は、「前記の取組を行っていない」の割合が他分野と比較して高い。

図表 2-6-8 分野別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

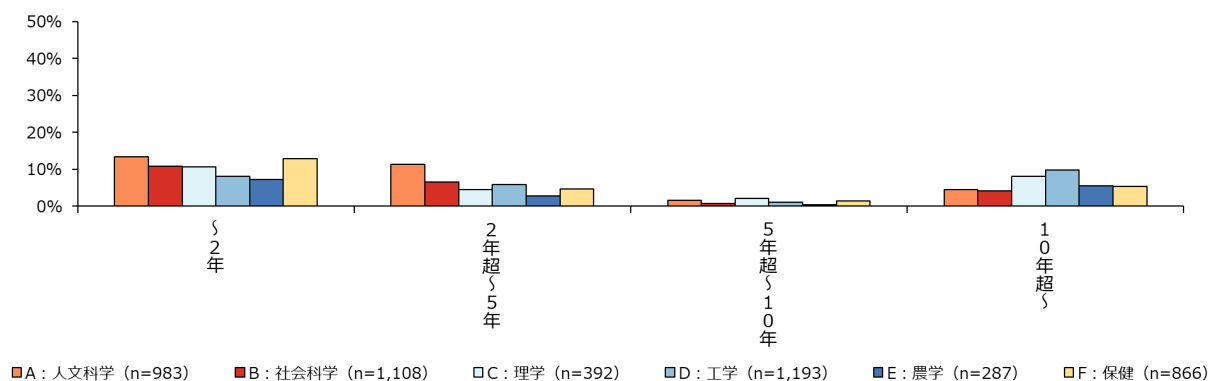


	修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している	修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している	修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる	博士人材データベース(JGRA)への学生の登録を推進している
A: 人文科学 (n=983)	30.8%	52.6%	11.6%	5.6%
B: 社会科学 (n=1,108)	22.4%	50.9%	13.7%	7.6%
C: 理学 (n=392)	25.5%	76.5%	12.0%	21.4%
D: 工学 (n=1,193)	25.0%	69.2%	22.9%	20.1%
E: 農学 (n=287)	16.0%	74.6%	12.9%	19.9%
F: 保健 (n=866)	24.4%	48.3%	15.1%	15.8%

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、何年継続して把握しているか」について分野別に見ると、「理学」の8.2%、「工学」の9.9%が「10年超～」と回答した。

図表 2-6-9 分野別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
何年継続して把握しているか」

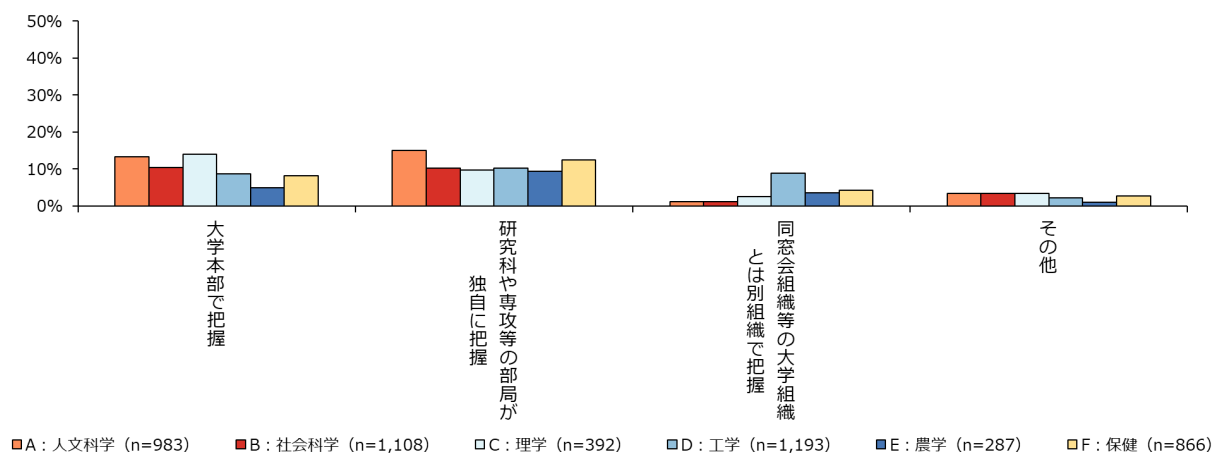


	～2年	2年超～5年	5年超～10年	10年超～
A：人文科学（n=983）	13.3%	11.4%	1.6%	4.5%
B：社会科学（n=1,108）	10.9%	6.6%	0.7%	4.2%
C：理学（n=392）	10.7%	4.6%	2.0%	8.2%
D：工学（n=1,193）	8.0%	6.0%	1.1%	9.9%
E：農学（n=287）	7.3%	2.8%	0.3%	5.6%
F：保健（n=866）	12.8%	4.7%	1.5%	5.3%

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、どのように把握しているか」について分野別に見ると、「工学」では、「同窓会組織等の大学組織とは別組織で把握」が8.8%と他分野と比較して高い。

図表 2-6-10 分野別 キャリアパスの確保と可視化の推進状況の把握に係る取組

「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している場合、
どのように把握しているか」



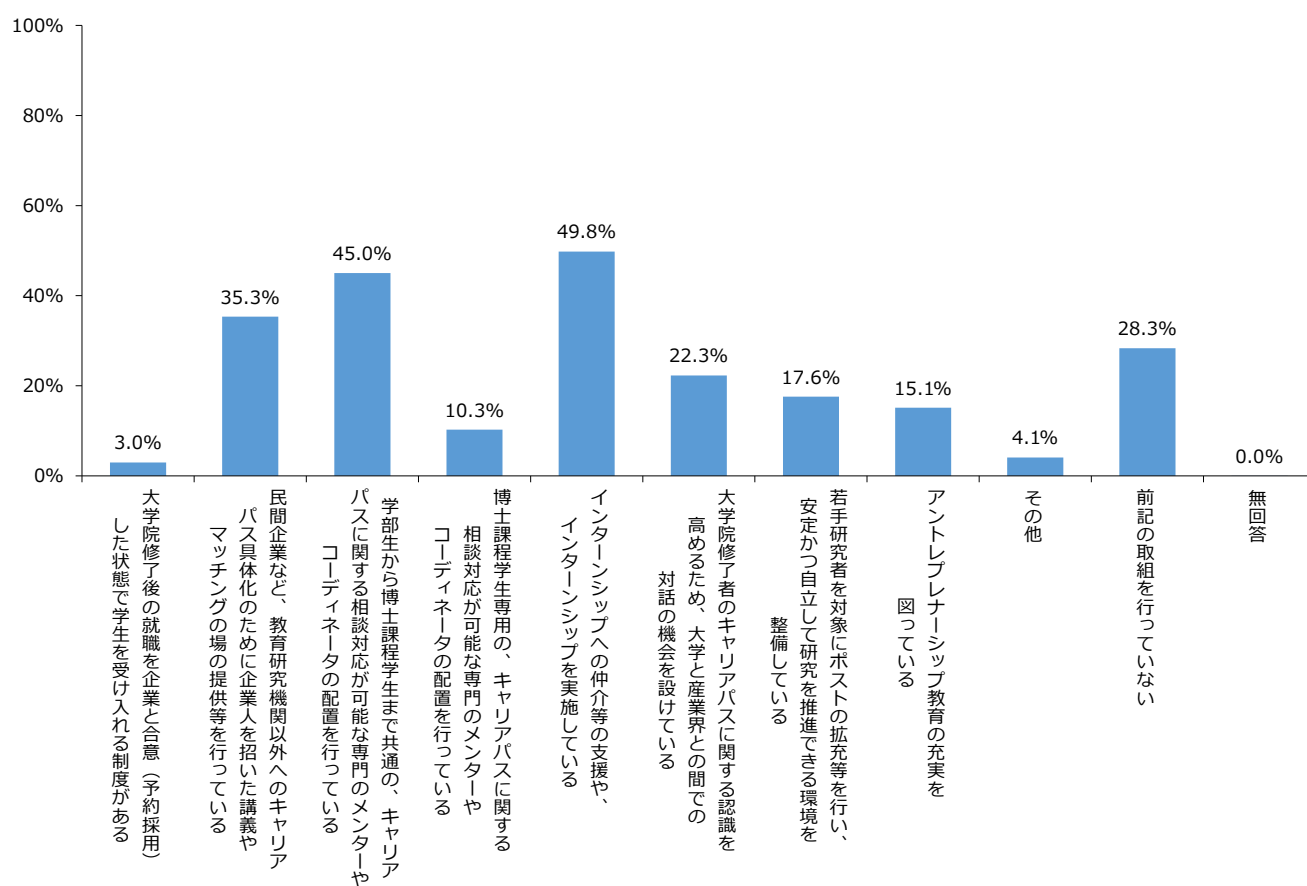
	大学本部で把握	研究科や専攻等の部局が独自に把握	同窓会組織等の大学組織とは別組織で把握	その他
A : 人文科学 (n=983)	13.3%	15.0%	1.2%	3.4%
B : 社会科学 (n=1,108)	10.5%	10.2%	1.2%	3.3%
C : 理学 (n=392)	14.0%	9.7%	2.6%	3.3%
D : 工学 (n=1,193)	8.7%	10.1%	8.8%	2.3%
E : 農学 (n=287)	4.9%	9.4%	3.5%	1.0%
F : 保健 (n=866)	8.2%	12.5%	4.2%	2.7%

2-7 大学院としての組織的な学生に対する就職支援

大学院としての組織的な学生に対する就職支援に係る取組内容について聞いた。

「インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している」「学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている」の実施割合が4割を超えている。

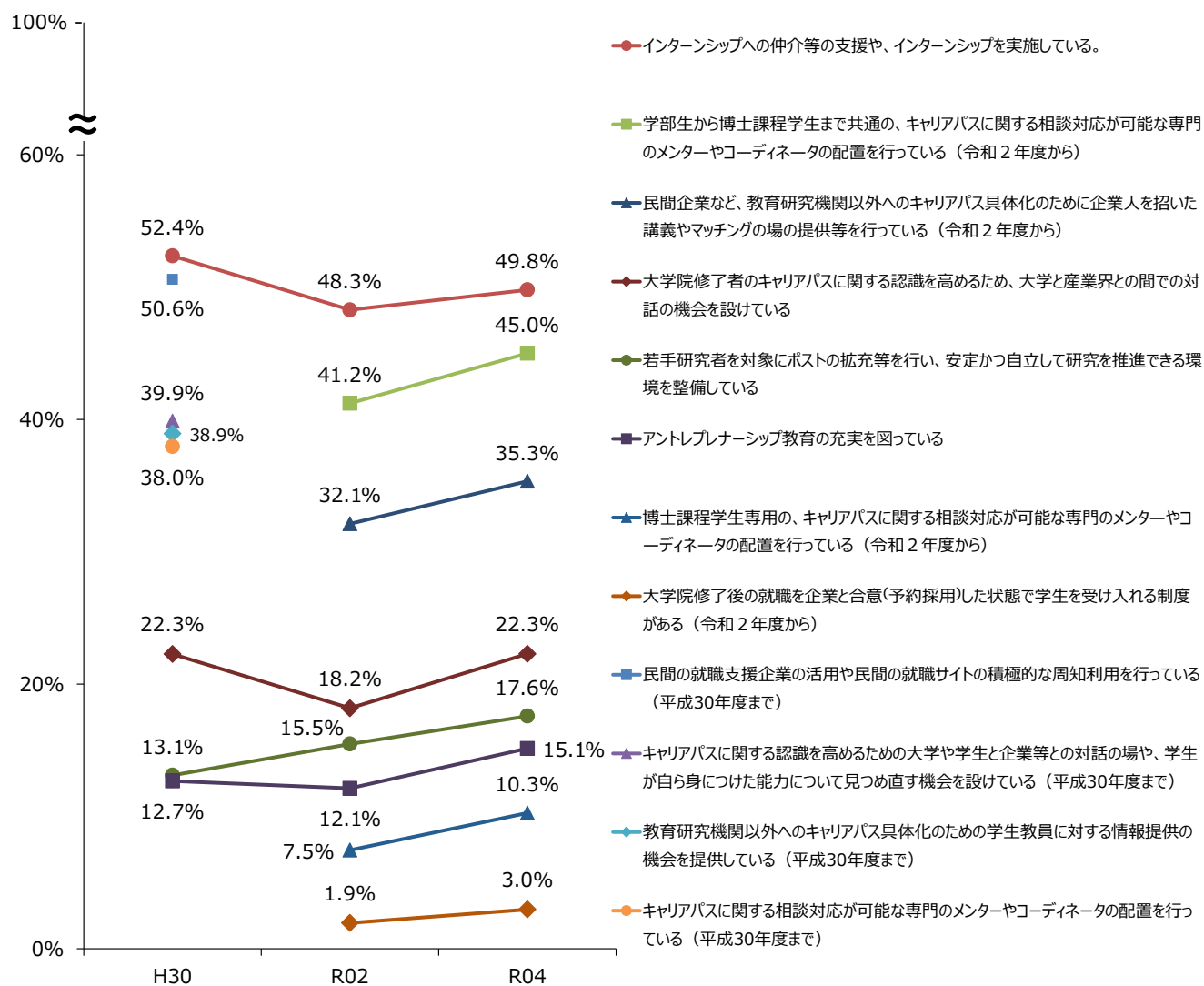
図表 2-7-1 大学院としての組織的な学生に対する就職支援に係る取組 (n=5, 926)



2-7-1 時系列推移

時系列推移を見ると、前回調査に比べて各項目とも増加傾向となっている。

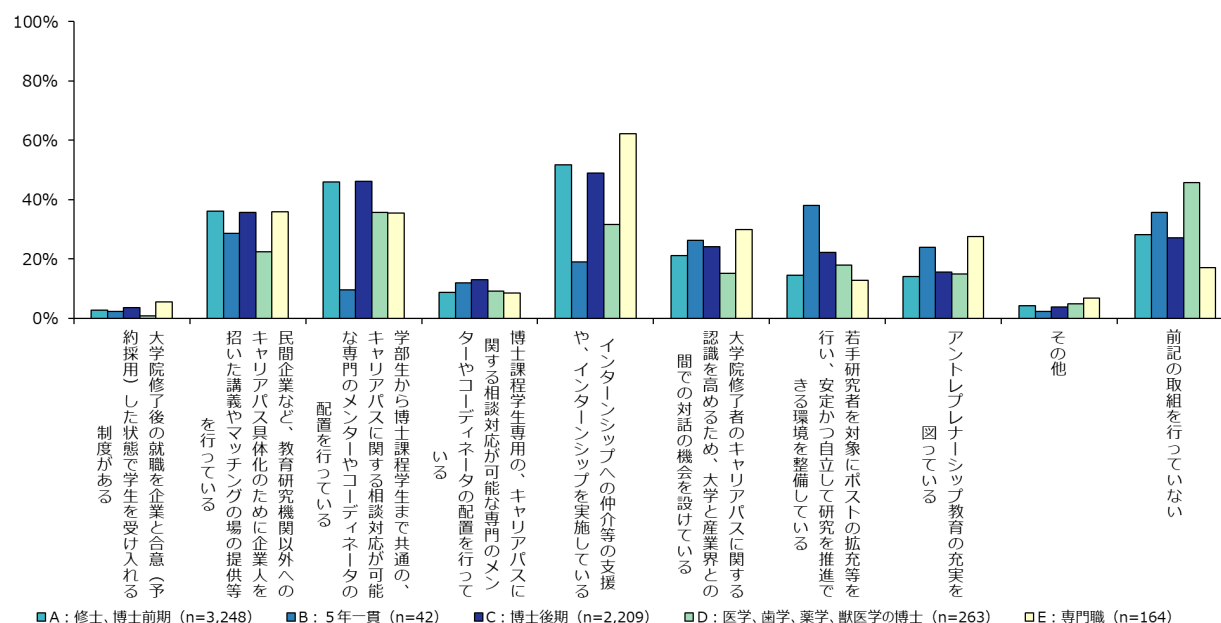
図表 2-7-2 大学院としての組織的な学生に対する就職支援に係る取組の時系列推移



2-7-2 課程別

課程別では、「修士、博士前期」「博士後期」「専門職」において、「インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している」「民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業人を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている」の割合が他の課程と比較して高い。「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」においては、取組の実施割合が全体的に低い傾向である。

図表 2-7-3 課程別 大学院としての組織的な学生に対する就職支援に係る取組



	大学院修了後の就職を企業と合意（予約採用）した状態で学生を受け入れる制度がある	民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業人を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている	学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	博士課程学生専用の、キャリアパスに関する相談対応可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している	大学院修了者のキャリアパスに関する認識を高めるため、大学と産業界との対話の機会を設けている	若手研究者を対象にポストの拡充等を行い、安定かつ自立して研究を推進できる環境を整備している	アントレプレナーシップ教育の充実を図っている	その他	前記の取組を行っていない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	2.7%	36.1%	46.0%	8.6%	51.7%	21.2%	14.4%	14.2%	4.1%	28.2%
B : 5年一貫 (n=42)	2.4%	28.6%	9.5%	11.9%	19.0%	26.2%	38.1%	23.8%	2.4%	35.7%
C : 博士後期 (n=2,209)	3.5%	35.8%	46.1%	12.9%	48.8%	24.1%	22.2%	15.5%	3.7%	27.1%
D : 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	0.8%	22.4%	35.7%	9.1%	31.6%	15.2%	17.9%	14.8%	4.9%	45.6%
E : 専門職 (n=164)	5.5%	36.0%	35.4%	8.5%	62.2%	29.9%	12.8%	27.4%	6.7%	17.1%

分野別に見ると、全体的に「理学」「工学」「農学」で取組の実施割合が高い。「人文科学」「社会科学」「保健」では「前記の取組を行っていない」と回答した割合が他分野と比較して高い。

Figure 1 is a bar chart titled '前記の取組を行っていない' (No measures taken). The Y-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 100%. The X-axis lists various measures. The legend indicates the following faculties and their sample sizes: A: 人文科学 (n=983), B: 社会科学 (n=1,108), C: 理学 (n=392), D: 工学 (n=1,193), E: 農学 (n=287), F: 保健 (n=866).

取組 (Measure)	A: 人文科学 (n=983)	B: 社会科学 (n=1,108)	C: 理学 (n=392)	D: 工学 (n=1,193)	E: 農学 (n=287)	F: 保健 (n=866)
約採用した状態で学生を受け入れる制度がある	2%	2%	2%	2%	2%	2%
大学院修了後の就職を企業と合意(予約採用)している	25%	30%	25%	25%	25%	25%
民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業人を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている	45%	38%	52%	52%	52%	35%
学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	5%	5%	15%	20%	15%	5%
博士課程学生専用の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	38%	42%	62%	75%	65%	28%
インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している	12%	15%	35%	38%	35%	15%
大学院修了者のキャリアパスに関する認識を高めるため、大学と産業界との間での対話の機会を設けている	12%	15%	35%	38%	35%	15%
若手研究者を対象にホストの拡充等を行い、安定かつ自立して研究を推進できる環境を整備している	32%	30%	32%	22%	22%	12%
アントレプレナーシップ教育の充実を図っている	5%	10%	25%	28%	18%	12%
その他	5%	5%	5%	5%	5%	5%
前記の取組を行っていない	35%	35%	20%	12%	12%	45%

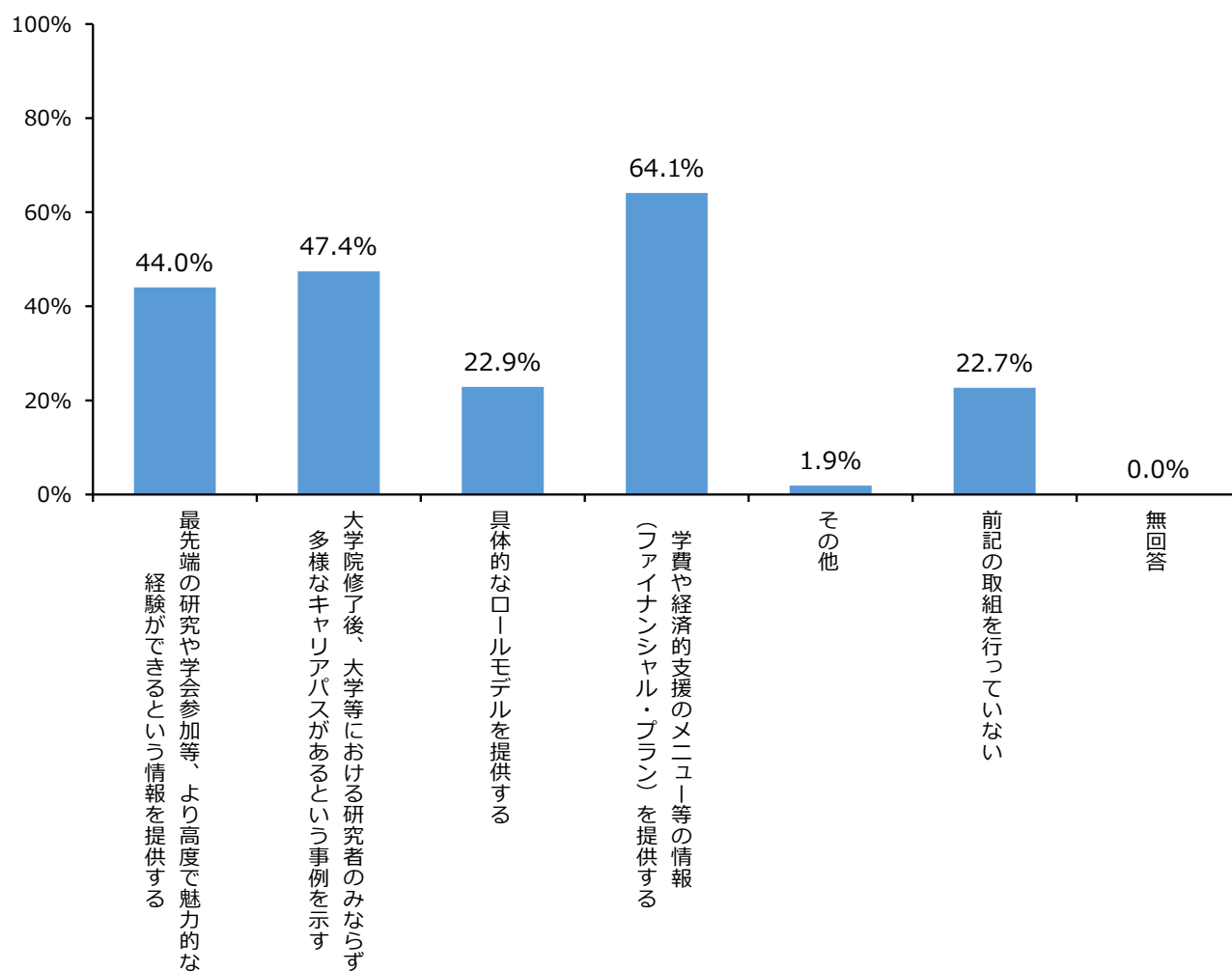
	大学院修了後の就職を企業と合意（予約採用）した状態で学生を受け入れる制度がある	民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている	学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	博士課程学生専用の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している	大学院修了者のキャリアパスに関する認識を高めるため、大学と産業界との間で対話の機会を設けている	若手研究者を対象にポストの拡充等を行い、安定かつ自立して研究を推進できる環境を整備している	アントレプレナーシップ教育の充実を図っている	その他	前記の取組を行っていない
A：人文科学（n=983）	2.2%	25.5%	43.9%	6.2%	38.8%	12.2%	10.7%	4.6%	6.1%	33.1%
B：社会科学（n=1,108）	2.7%	29.5%	37.1%	5.8%	41.8%	14.6%	8.3%	10.2%	4.6%	35.5%
C：理学（n=392）	3.1%	44.6%	51.5%	15.1%	62.5%	35.5%	33.2%	24.7%	2.6%	19.1%
D：工学（n=1,193）	5.7%	55.1%	52.7%	19.4%	74.1%	39.1%	30.3%	29.0%	1.0%	13.2%
E：農学（n=287）	0.7%	49.1%	67.9%	13.9%	64.8%	33.8%	21.6%	18.1%	3.5%	10.8%
F：保健（n=866）	1.0%	20.1%	33.5%	5.7%	27.9%	15.2%	13.6%	11.7%	4.3%	46.8%

2-8 大学院各課程へのリクルート活動

大学院としての組織的な大学院各課程へのリクルート活動に係る取組内容について聞いた。

「学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する」の割合が64.1%と最も高く、次いで「大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す」「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する」となっている。

図表 2-8-1 大学院各課程へのリクルート活動に係る取組（n=5,762）

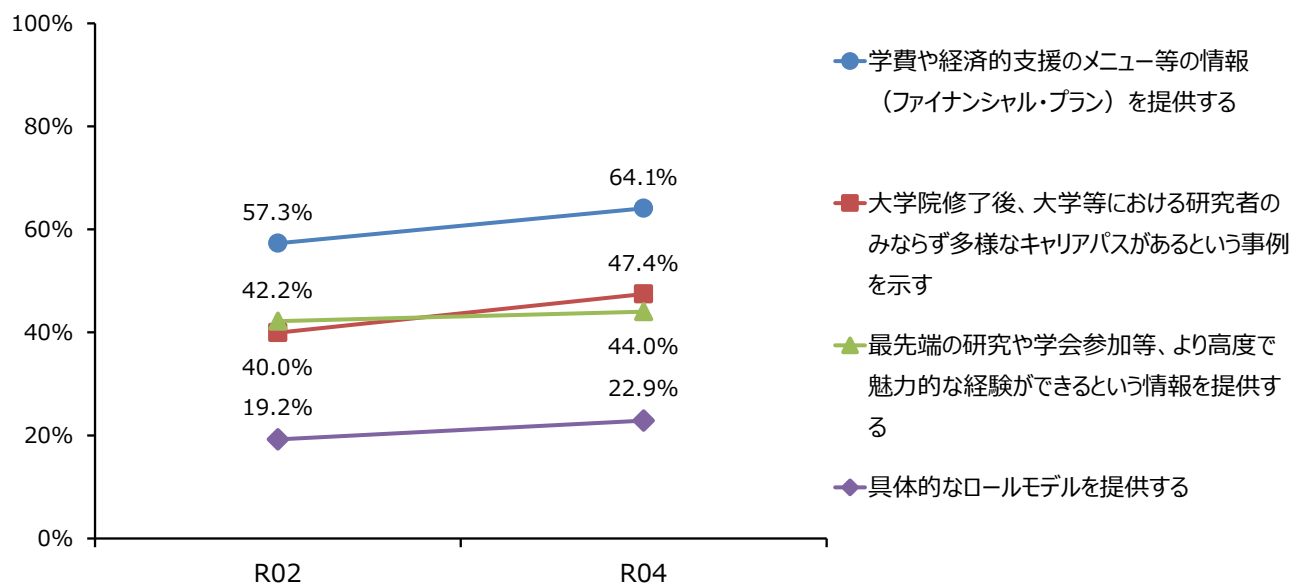


※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象。

2-8-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

図表 2-8-2 大学院各課程へのリクルート活動に係る取組の時系列推移

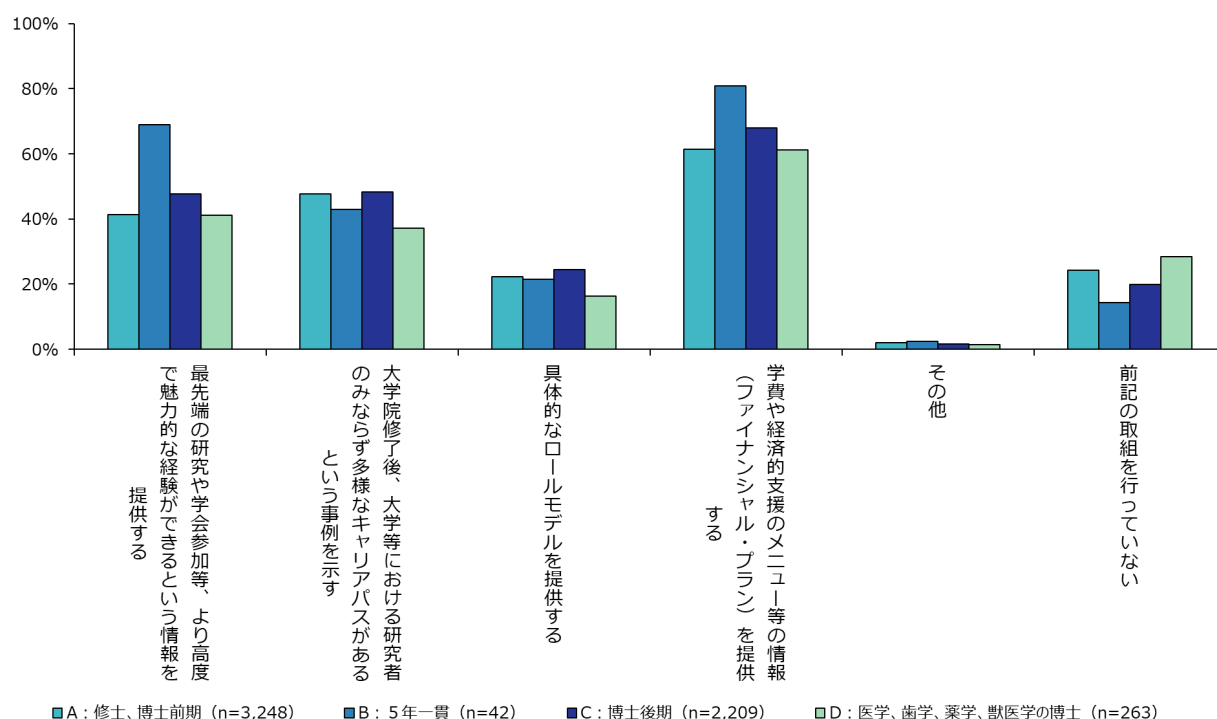


※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象。

2-8-2 課程別

課程別に見ると、「5年一貫」において、「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができる」という情報を提供する」「学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する」が他の課程と比較してやや高い。

図表 2-8-3 課程別 大学院各課程へのリクルート活動に係る取組

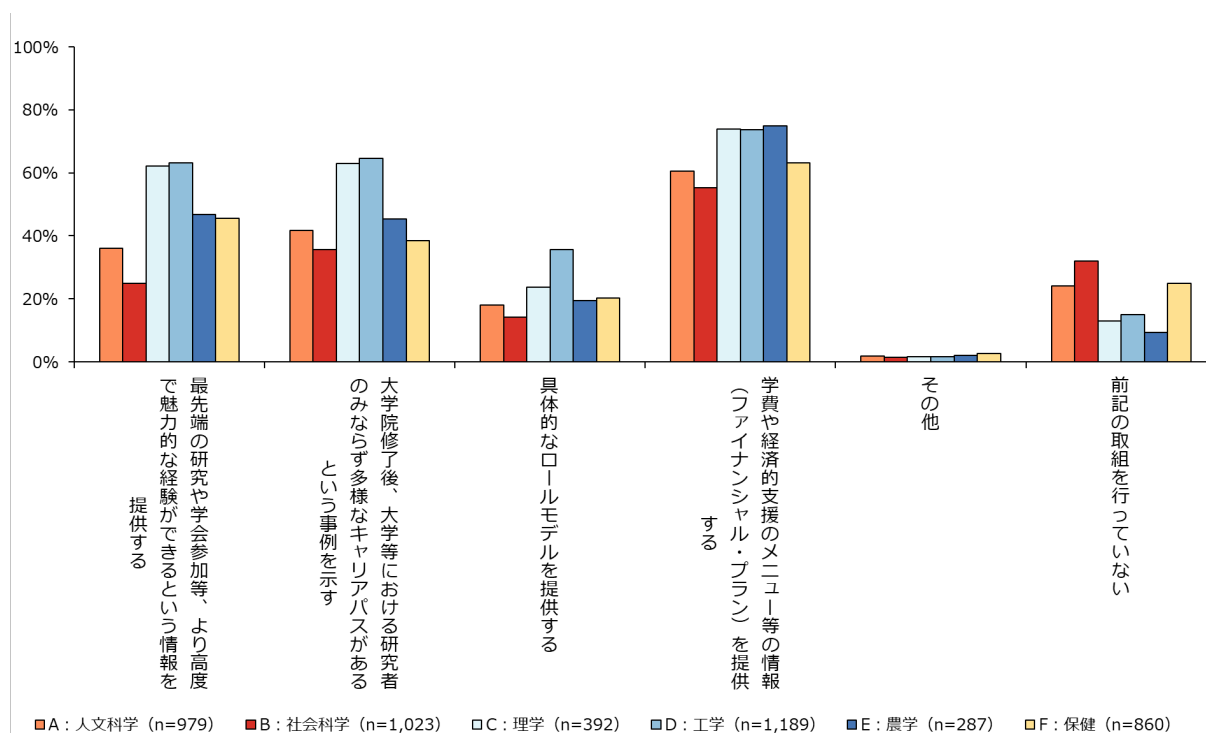


	最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する	大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す	具体的なロールモデルを提供する	学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する	その他	前記の取組を行っていない
A：修士、博士前期 (n=3,248)	41.4%	47.7%	22.4%	61.5%	2.1%	24.3%
B：5年一貫 (n=42)	69.0%	42.9%	21.4%	81.0%	2.4%	14.3%
C：博士後期 (n=2,209)	47.8%	48.3%	24.4%	68.0%	1.6%	19.8%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	41.1%	37.3%	16.3%	61.2%	1.5%	28.5%

2-8-3 分野別

分野別に見ると、「理学」「工学」において、「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができる」という情報を提供する」「大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがある」という事例を示す」が他分野と比較してやや高い。「人文科学」「社会科学」「保健」は「前記の取組を行っていない」と回答した割合がやや高い。

図表 2-8-4 分野別 大学院各課程へのリクルート活動に係る取組



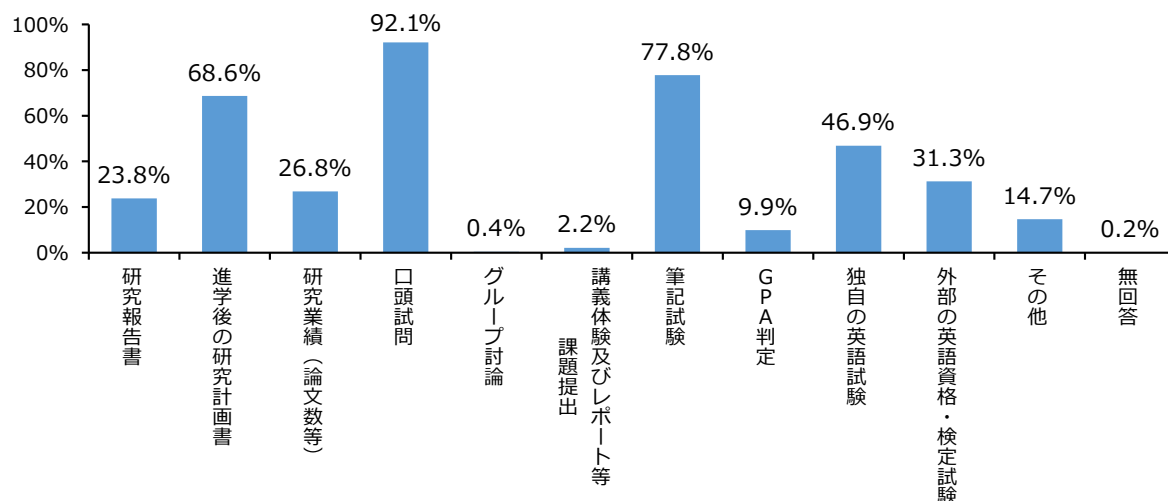
	最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する	大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す	具体的なロールモデルを提供する	学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する	その他	前記の取組を行っていない
A : 人文科学 (n=979)	36.0%	41.7%	18.0%	60.6%	1.7%	24.0%
B : 社会科学 (n=1,023)	24.9%	35.6%	14.2%	55.2%	1.4%	32.1%
C : 理学 (n=392)	62.2%	63.0%	23.7%	74.0%	1.5%	13.0%
D : 工学 (n=1,189)	63.1%	64.7%	35.7%	73.7%	1.6%	15.1%
E : 農学 (n=287)	46.7%	45.3%	19.5%	74.9%	2.1%	9.4%
F : 保健 (n=860)	45.5%	38.5%	20.2%	63.3%	2.6%	24.9%

2-9 入試の状況

各課程への入学試験の項目について聞いた。

入試項目は、「口頭試問」「筆記試験」「進学後の研究計画書」の割合が高い。

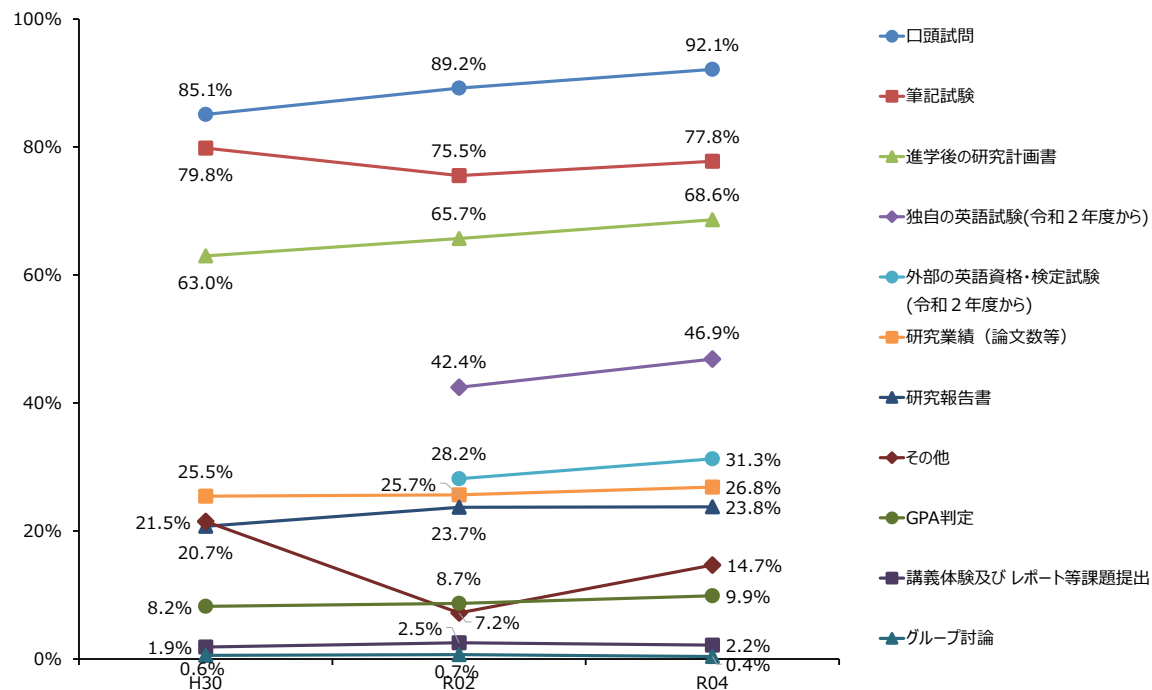
図表 2-9-1 各課程への入学試験の項目 (n=5, 926)



2-9-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

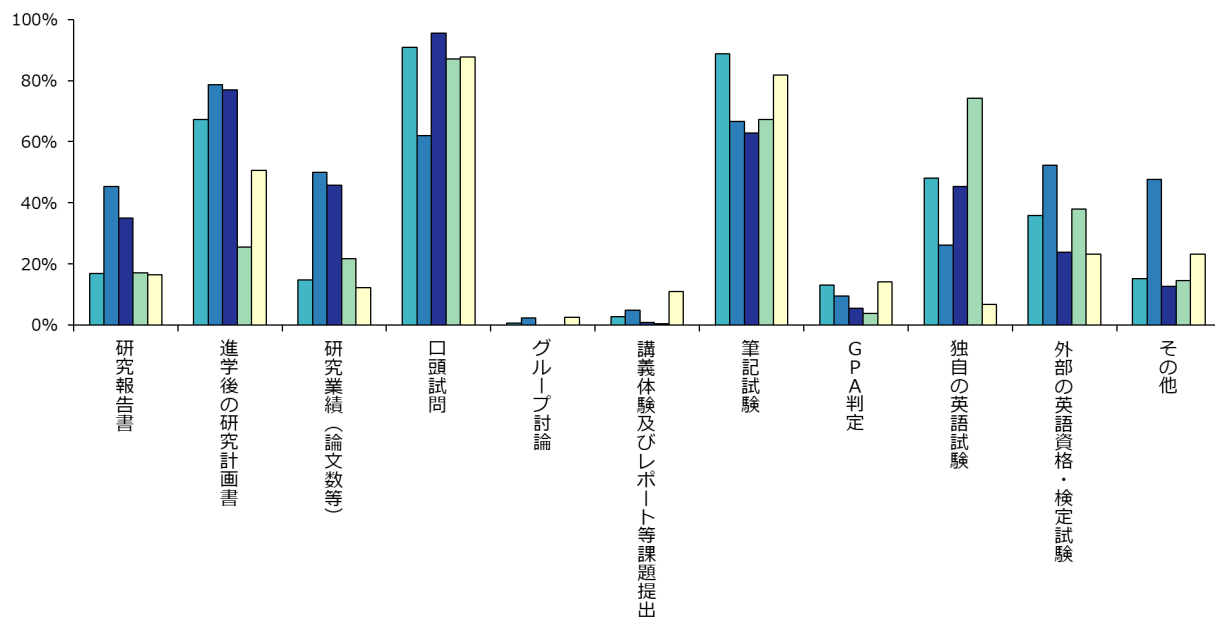
図表 2-9-2 各課程への入学試験の項目の時系列推移



2-9-2 課程別

課程別に見ると、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、他の課程と比較して「進学後の研究計画書」の割合が低く、「独自の英語試験」の割合が高い。

図表 2-9-3 課程別 各課程への入学試験の項目



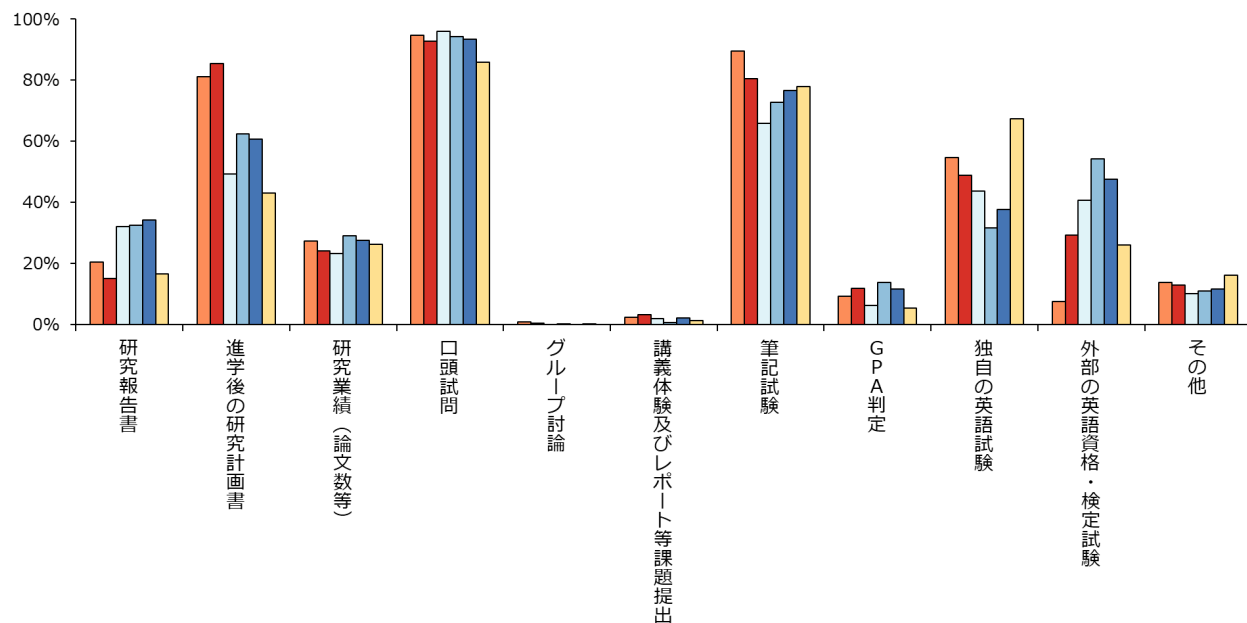
■ A: 修士、博士前期 (n=3,248) ■ B: 5年一貫 (n=42) ■ C: 博士後期 (n=2,209) ■ D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263) ■ E: 専門職 (n=164)

	研究報告書	進学後の研究計画書	研究業績(論文数等)	口頭試問	グループ討論	講義体験及びレポート等課題提出	筆記試験	GPA判定	独自の英語試験	外部の英語資格・検定試験	その他
A: 修士、博士前期 (n=3,248)	16.8%	67.3%	14.8%	90.9%	0.6%	2.7%	88.8%	13.1%	48.0%	35.9%	15.3%
B: 5年一貫 (n=42)	45.2%	78.6%	50.0%	61.9%	2.4%	4.8%	66.7%	9.5%	26.2%	52.4%	47.6%
C: 博士後期 (n=2,209)	35.0%	76.9%	45.8%	95.5%	0.0%	0.9%	62.7%	5.5%	45.3%	23.9%	12.6%
D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	17.1%	25.5%	21.7%	87.1%	0.0%	0.4%	67.3%	3.8%	74.1%	38.0%	14.4%
E: 専門職 (n=164)	16.5%	50.6%	12.2%	87.8%	2.4%	11.0%	81.7%	14.0%	6.7%	23.2%	23.2%

2-9-3 分野別

分野別に見ると、「人文科学」「社会科学」においては、「進学後の研究計画書」が他分野と比較して高い。

図表 2-9-4 分野別 各課程への入学試験の項目



■ A: 人文科学 (n=983) ■ B: 社会科学 (n=1,108) □ C: 理学 (n=392) ■ D: 工学 (n=1,193) ■ E: 農学 (n=287) ■ F: 保健 (n=866)

	研究報告書	進学後の研究計画書	研究業績 (論文数等)	口頭試問	グループ討論	講義体験及びレポート等課題提出	筆記試験	G P A判定	独自の英語試験	外部の英語資格・検定試験	その他
A: 人文科学 (n=983)	20.3%	81.0%	27.3%	94.6%	0.7%	2.3%	89.5%	9.2%	54.5%	7.4%	13.6%
B: 社会科学 (n=1,108)	14.9%	85.5%	24.1%	92.7%	0.3%	3.2%	80.4%	11.8%	48.7%	29.2%	12.9%
C: 理学 (n=392)	31.9%	49.2%	23.2%	95.9%	0.0%	1.8%	65.8%	6.1%	43.6%	40.6%	9.9%
D: 工学 (n=1,193)	32.5%	62.4%	28.9%	94.3%	0.1%	0.5%	72.7%	13.7%	31.6%	54.1%	11.0%
E: 農学 (n=287)	34.1%	60.6%	27.5%	93.4%	0.0%	2.1%	76.7%	11.5%	37.6%	47.4%	11.5%
F: 保健 (n=866)	16.4%	43.0%	26.1%	85.9%	0.2%	1.2%	77.9%	5.2%	67.2%	26.0%	16.1%

2-9-4 分野別（修士、博士前期と博士後期の比較）

入学試験の項目について、分野ごとに「修士、博士前期」と「博士後期」を比較すると、「研究報告書」は「理学」「工学」「農学」「保健」で、「進学後の研究計画書」は「理学」「工学」「保健」で、「研究業績（論文数等）」は全分野で、「博士後期」での実施割合が高い。一方、「筆記試験」は「理学」「工学」「農学」で、「外部の英語資格・検定試験」は「理学」「工学」で、「修士、博士前期」での実施割合が高い。

図表 2-9-5 分野別（修士、博士前期と博士後期の比較）

各課程への入学試験の項目

		研究報告書	進学後の研究計画書	研究業績 (論文数等)	口頭試問	グループ討論	講義体験及びレポート等 課題提出	筆記試験	G P A 判定	独自の英語 試験	外部の英語 資格・検定試験	その他	無回答
人文科学	修士、博士前期 (n=576)	19.4%	83.2%	16.7%	94.6%	1.0%	3.0%	93.8%	12.3%	56.6%	9.2%	12.7%	0.0%
	博士後期 (n=400)	21.8%	79.0%	43.0%	95.0%	0.0%	1.3%	83.8%	4.5%	52.0%	4.5%	14.8%	0.3%
社会科学	修士、博士前期 (n=613)	11.6%	87.8%	12.7%	92.5%	0.5%	3.3%	87.1%	14.4%	49.3%	31.8%	11.7%	0.0%
	博士後期 (n=409)	22.0%	91.2%	46.0%	95.4%	0.0%	1.0%	70.7%	6.1%	57.0%	24.7%	11.7%	0.2%
理学	修士、博士前期 (n=205)	16.6%	35.1%	9.8%	97.1%	0.0%	3.4%	93.2%	11.2%	50.7%	55.6%	7.3%	0.0%
	博士後期 (n=175)	45.7%	62.3%	34.3%	98.9%	0.0%	0.0%	33.1%	0.6%	36.0%	21.7%	7.4%	0.0%
工学	修士、博士前期 (n=666)	21.2%	53.6%	15.5%	93.1%	0.2%	0.8%	88.1%	19.2%	32.3%	69.5%	12.2%	0.0%
	博士後期 (n=518)	47.1%	73.7%	45.9%	95.8%	0.0%	0.0%	53.1%	6.8%	31.1%	34.0%	9.3%	0.6%
農学	修士、博士前期 (n=148)	22.3%	58.1%	11.5%	91.9%	0.0%	2.0%	93.9%	13.5%	42.6%	52.0%	12.8%	0.0%
	博士後期 (n=122)	45.9%	59.8%	43.4%	97.5%	0.0%	1.6%	54.1%	9.8%	30.3%	37.7%	9.0%	0.0%
保健	修士、博士前期 (n=398)	9.5%	44.5%	18.1%	82.7%	0.5%	1.5%	88.7%	6.8%	62.6%	20.1%	16.8%	0.0%
	博士後期 (n=210)	31.0%	64.8%	47.1%	91.4%	0.0%	1.4%	71.4%	3.8%	68.1%	24.3%	15.7%	0.0%

※「修士、博士前期」と「博士後期」の差が 20 ポイント以上大きいものに黄色の着色。

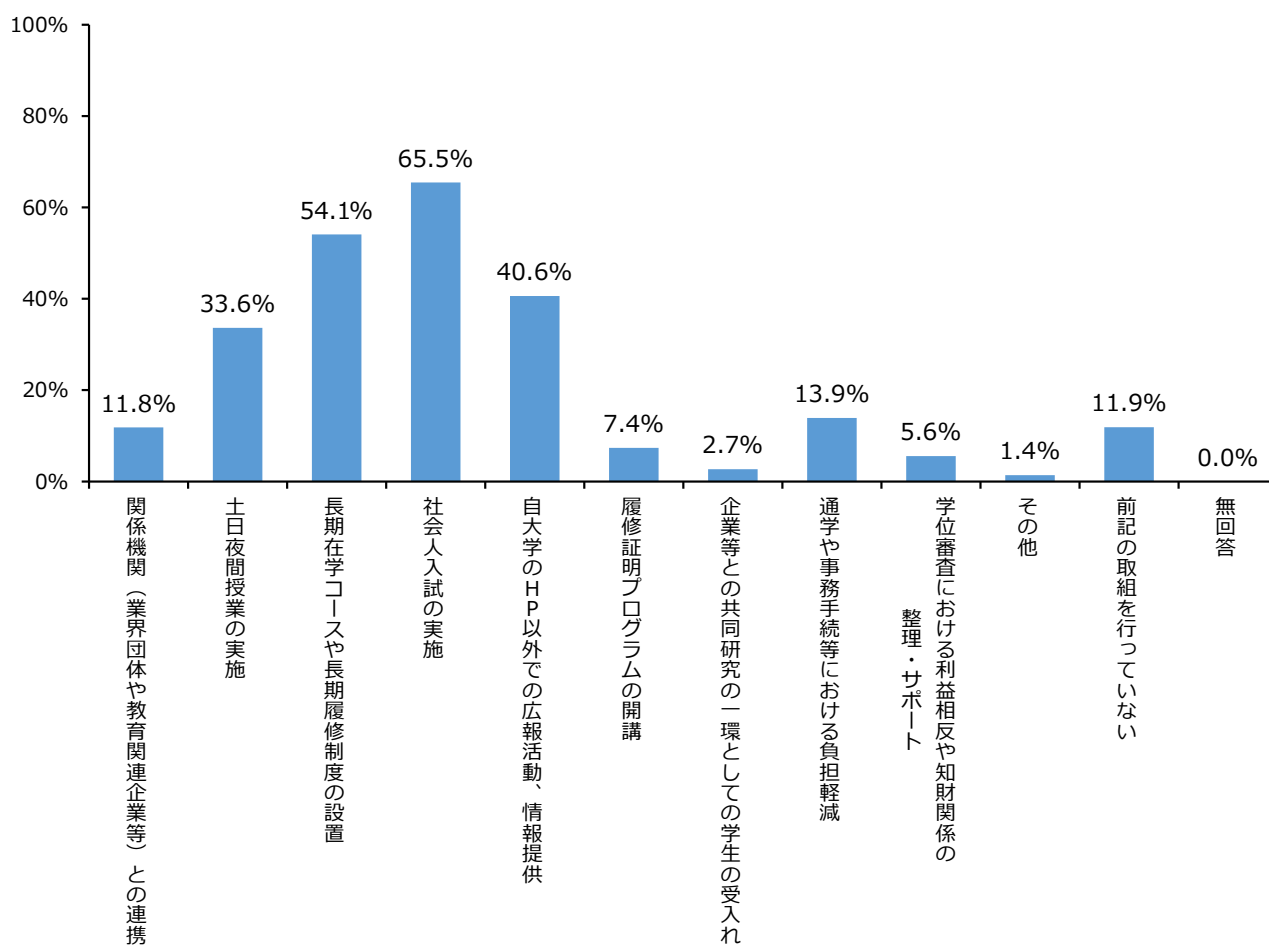
※「5 年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」の課程は含まない。

2-10 リカレント教育

社会人学生の受入に係る取組内容について聞いた。

「社会人入試の実施」が 65.5%と最も高く、「長期在学コースや長期履修制度の設置」「自大学のHP以外での広報活動、情報提供」「土日夜間授業の実施」と続く。

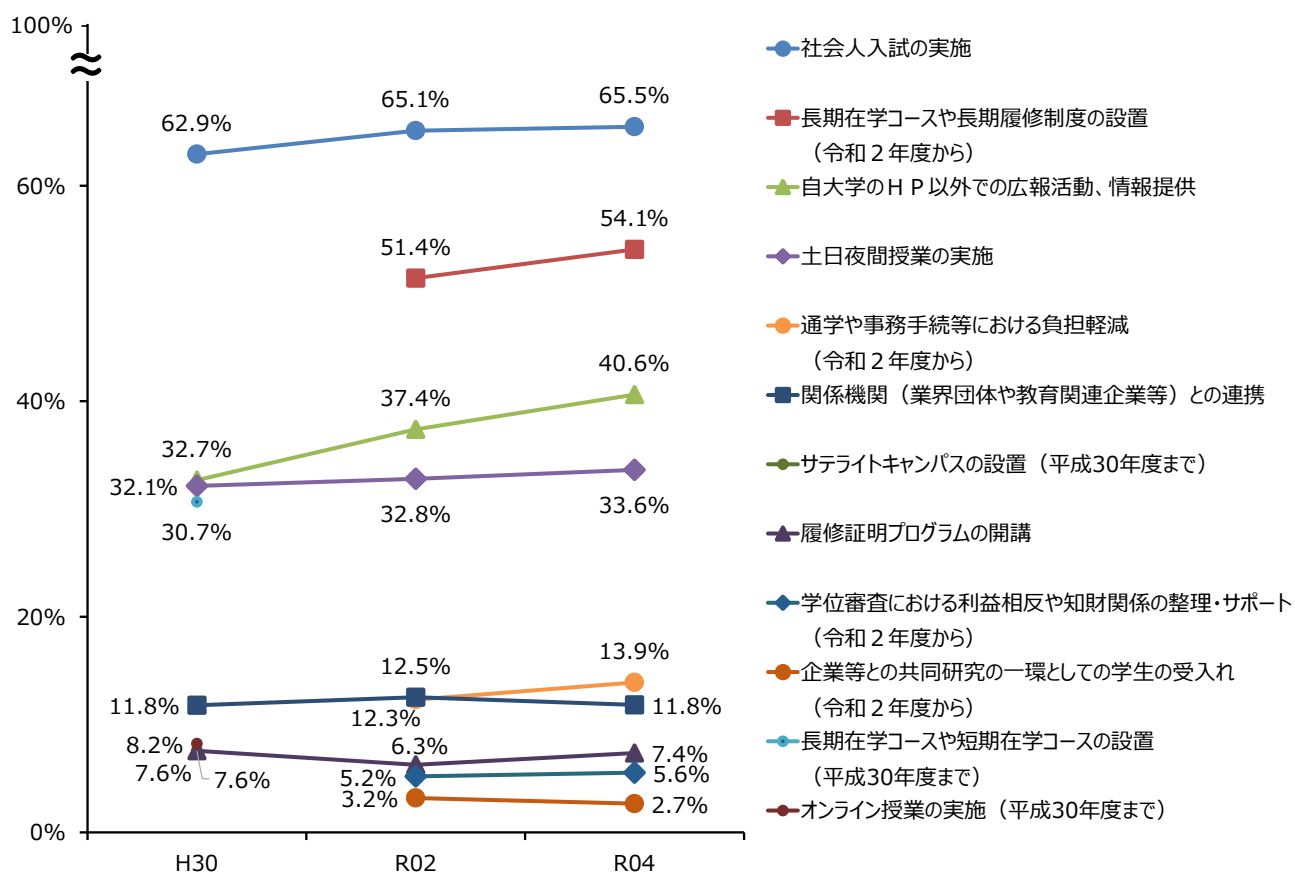
図表 2-10-1 社会人学生受入に係る取組 (n=5,926)



2-10-1 時系列推移

時系列推移を見ると、前回調査と比べて「自大学のHP以外での広報活動、情報提供」の実施割合が3.2%、「長期在学コースや長期履修制度の設置」の実施割合が2.7%増加している。

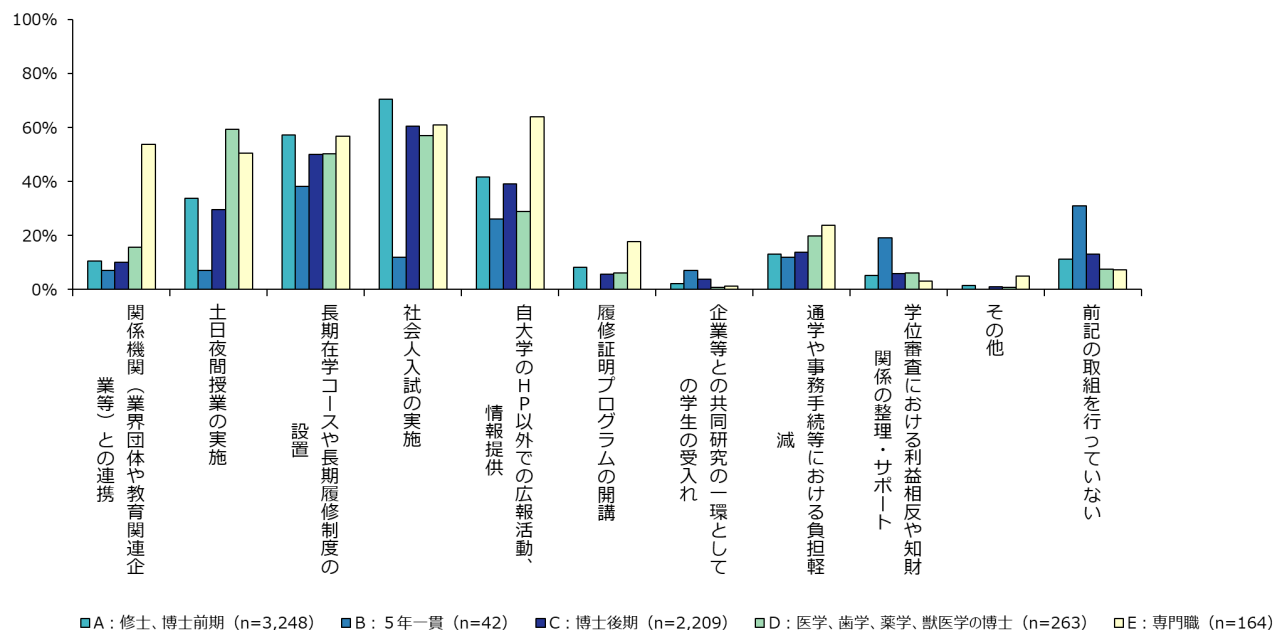
図表 2-10-2 社会人学生受入れに係る取組の時系列推移



2-10-2 課程別

課程別に見ると、「専門職」において、「関係機関（業界団体や教育関連企業等）との連携」「自大学のHP以外での広報活動、情報提供」の実施割合が他の課程と比較して高い。

図表 2-10-3 課程別 社会人学生受入れに係る取組

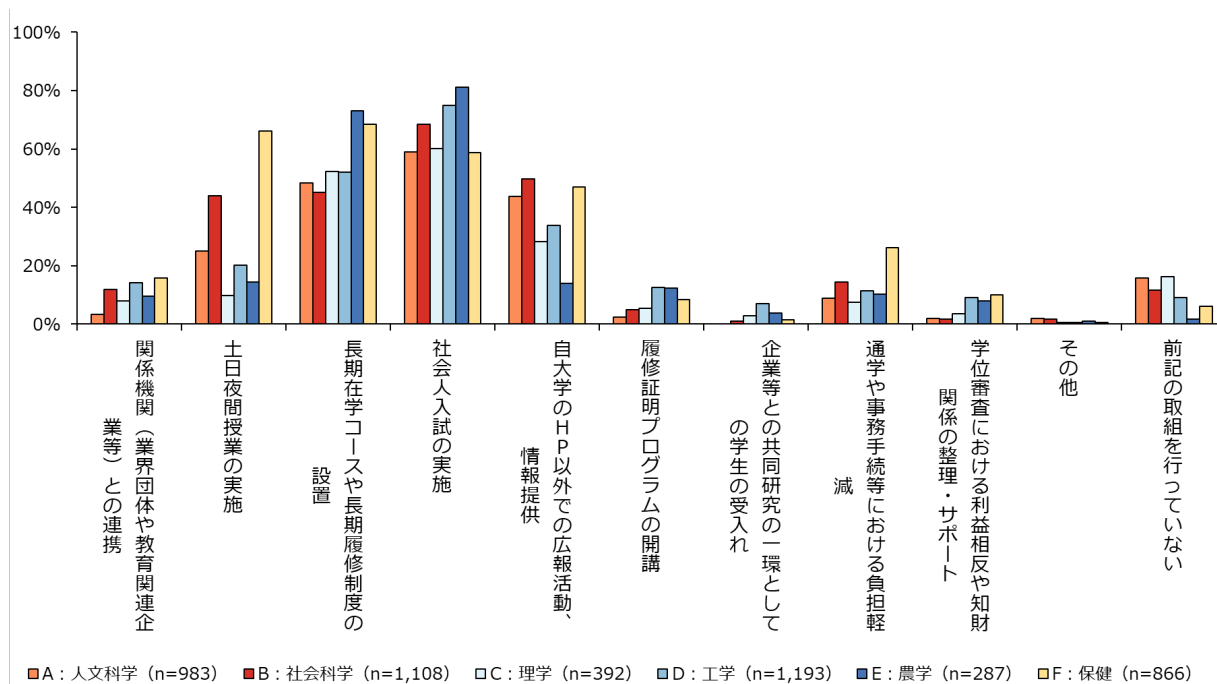


	関係機関（業界団体や教育関連企業等）との連携	土日夜間授業の実施	長期在学コースや長期履修制度の設置	社会人入試の実施	自大学のHP以外での広報活動、情報提供	履修証明プログラムの開講	企業等との共同研究の一環としての学生の受入れ	通学や事務手続等における負担軽減	学位審査における利益相反や知財関係の整理・サポート	その他	前記の取組を行っていない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	10.7%	33.8%	57.3%	70.5%	41.7%	8.2%	2.1%	13.1%	5.2%	1.5%	11.3%
B : 5年一貫 (n=42)	7.1%	7.1%	38.1%	11.9%	26.2%	0.0%	7.1%	11.9%	19.0%	0.0%	31.0%
C : 博士後期 (n=2,209)	10.1%	29.6%	50.0%	60.5%	39.0%	5.7%	3.7%	13.7%	6.0%	1.0%	13.2%
D : 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	15.6%	59.3%	50.2%	57.0%	28.9%	6.1%	0.8%	19.8%	6.1%	0.8%	7.6%
E : 専門職 (n=164)	53.7%	50.6%	56.7%	61.0%	64.0%	17.7%	1.2%	23.8%	3.0%	4.9%	7.3%

2-10-3 分野別

分野別に見ると、「保健」「社会科学」において、「土日夜間授業の実施」の割合が他分野と比較して高い。

図表 2-10-4 分野別 社会人学生受入れに係る取組



	関係機関（業界団体や教育関連企業等）との連携	土日夜間授業の実施	長期在学コースや長期履修制度の設置	社会人入試の実施	自大学のH/P以外での広報活動、情報提供	履修証明プログラムの開講	企業等との共同研究の一環としての学生の受入れ	通学や事務手続等における負担軽減	学位審査における利益相反や知財関係の整理・サポート	その他	前記の取組を行っていない
A：人文科学（n=983）	3.3%	24.9%	48.3%	59.0%	43.6%	2.4%	0.0%	8.9%	1.8%	1.9%	15.8%
B：社会科学（n=1,108）	11.9%	43.9%	45.1%	68.4%	49.8%	4.8%	1.0%	14.4%	1.6%	1.6%	11.6%
C：理学（n=392）	7.9%	9.7%	52.3%	60.2%	28.3%	5.4%	2.8%	7.4%	3.6%	0.5%	16.3%
D：工学（n=1,193）	14.2%	20.2%	52.1%	75.0%	33.7%	12.6%	6.9%	11.3%	9.1%	0.6%	9.0%
E：農学（n=287）	9.4%	14.3%	73.2%	81.2%	13.9%	12.2%	3.8%	10.1%	8.0%	1.0%	1.7%
F：保健（n=866）	15.8%	66.2%	68.5%	58.7%	46.9%	8.4%	1.4%	26.1%	9.9%	0.6%	6.1%

2-10-4 分野別（修士、博士前期と博士後期の比較）

社会人学生の受入に係る取組について、分野ごとに「修士、博士前期」と「博士後期」を比較すると、「長期在学コースや長期履修制度の設置」「社会人入試の実施」は、「人文科学」「社会科学」において「修士、博士前期」での割合が高い。

図表 2-10-5 分野別（修士、博士前期と博士後期の比較）

社会人学生受入に係る取組

		関係機関 (業界団体 や教育関連 企業等)との 連携	土日夜間授 業の実施	長期在学コ ースや長期履 修制度の設置	社会人入試 の実施	自大学のH P以外での 広報活動、 情報提供	履修証明プ ログラムの開講	企業等との共 同研究の一 環としての学 生の受入れ	通学や事務 手続等におけ る負担軽減	学位審査にお ける利益相反 や知財関係 の整理・サ ポート	その他	前記の取組を 行っていない
人文科学	修士、博士前期 (n=576)	3.6%	26.7%	55.6%	73.8%	44.3%	3.1%	0.0%	8.5%	1.6%	2.3%	11.1%
	博士後期 (n=400)	2.5%	22.5%	37.8%	38.0%	42.8%	1.5%	0.0%	9.0%	2.0%	1.3%	22.0%
社会科学	修士、博士前期 (n=613)	11.7%	47.1%	53.3%	80.4%	49.8%	4.1%	1.1%	14.4%	1.8%	1.6%	8.8%
	博士後期 (n=409)	6.8%	37.4%	33.5%	53.3%	47.9%	2.2%	0.7%	12.5%	1.2%	1.0%	16.1%
理学	修士、博士前期 (n=205)	6.3%	8.3%	51.7%	57.1%	26.3%	5.9%	1.0%	7.3%	2.9%	0.5%	17.6%
	博士後期 (n=175)	10.3%	12.0%	52.0%	68.0%	29.7%	5.1%	4.6%	6.9%	2.9%	0.6%	14.9%
工学	修士、博士前期 (n=666)	12.9%	20.7%	49.8%	73.0%	34.8%	14.3%	5.4%	10.5%	8.6%	0.5%	9.5%
	博士後期 (n=518)	15.3%	19.3%	55.0%	78.0%	32.0%	10.2%	8.7%	12.0%	9.8%	0.8%	8.3%
農学	修士、博士前期 (n=148)	10.8%	13.5%	72.3%	84.5%	14.9%	15.5%	3.4%	4.7%	6.8%	0.7%	2.0%
	博士後期 (n=122)	9.0%	13.9%	74.6%	82.0%	13.1%	9.8%	4.9%	17.2%	8.2%	0.8%	1.6%
保健	修士、博士前期 (n=398)	16.1%	70.1%	79.4%	61.1%	55.3%	10.6%	1.3%	29.1%	10.8%	0.8%	5.0%
	博士後期 (n=210)	14.8%	66.7%	71.9%	58.1%	51.9%	6.2%	2.4%	27.6%	11.9%	0.5%	5.2%

※「修士、博士前期」と「博士後期」の差が15ポイント以上大きいものに黄色の着色。

※「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」の課程は含まない。

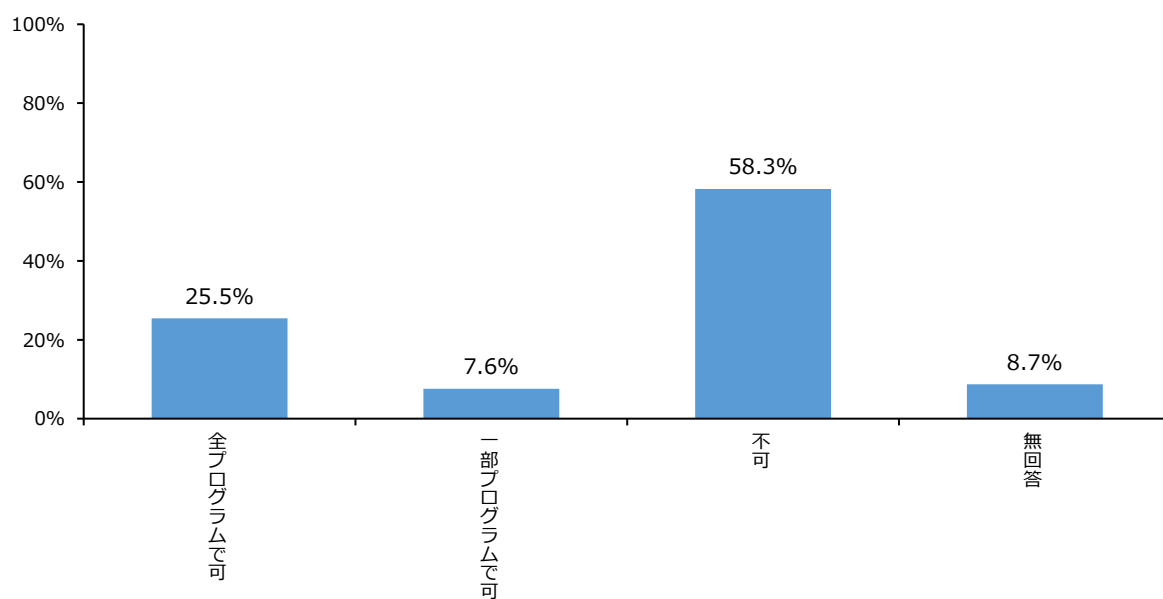
2-10-5 履修証明プログラムにおける単位授与

令和4年3月の大学院設置基準等の改正により、大学院（専門職大学院を含む）が実施する履修証明プログラムについて、当該大学院が大学院教育に相当する水準を有すると認める場合、当該履修証明プログラム全体に対する単位授与が可能となった（大学院設置基準第15条、専門職大学院設置基準第13条の2、第21条の2、第27条の2）。

「履修証明プログラムを開講している」を選択した専攻（n=436）に対して、単位授与を可能にしているか聞いたところ、「不可」が最も多く 58.3%、次いで「全プログラムで可」が 25.5%、「一部プログラムで可」が 7.6%となっている。

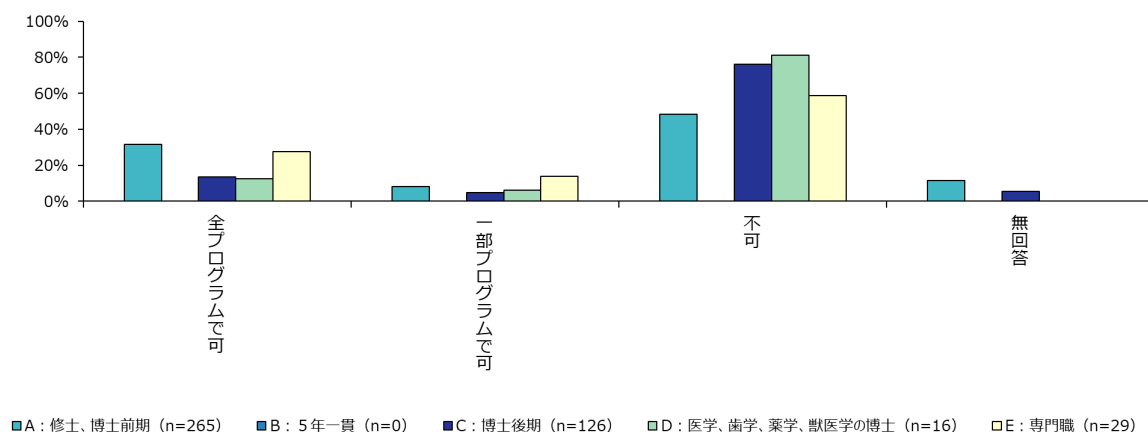
図表 2-10-6 社会人学生受入に係る取組

「履修証明プログラムを開講している場合、単位授与を可能にしているか」（n=436）



課程別では、「修士、博士前期」「専門職」において、「全プログラムで可」の割合が他の課程と比較して高い。

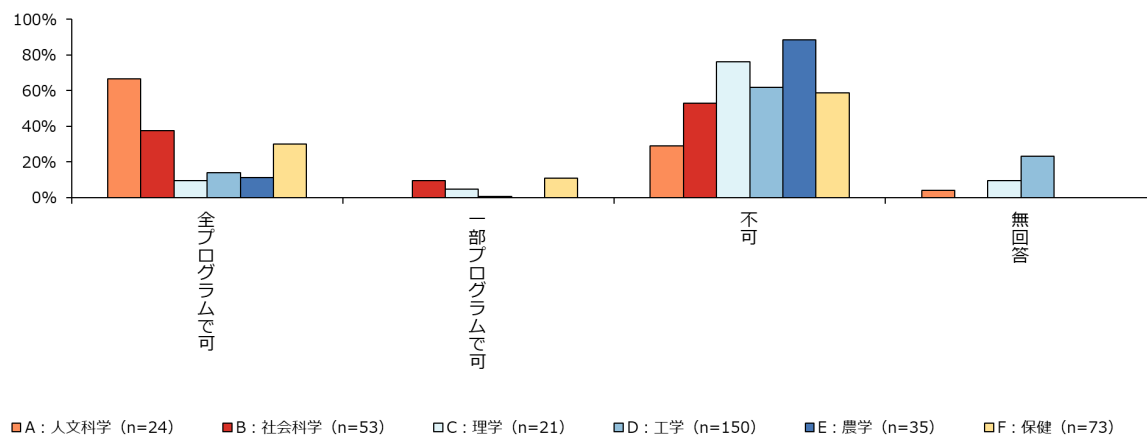
図表 2-10-7 課程別 社会人学生受入れに係る取組
「履修証明プログラムを開講している場合、単位授与を可能にしているか」



	全プログラムで可	一部プログラムで可	不可	無回答
A：修士、博士前期 (n=265)	31.7%	8.3%	48.3%	11.7%
B：5年一貫 (n=0)	-	-	-	-
C：博士後期 (n=126)	13.5%	4.8%	76.2%	5.6%
D：医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=16)	12.5%	6.3%	81.3%	0.0%
E：専門職 (n=29)	27.6%	13.8%	58.6%	0.0%

分野別では、「人文科学」において「全プログラムで可」の割合が他分野と比較して高い。

図表 2-10-8 分野別 社会人学生受入れに係る取組
「履修証明プログラムの開講している場合、単位授与を可能にしているか」



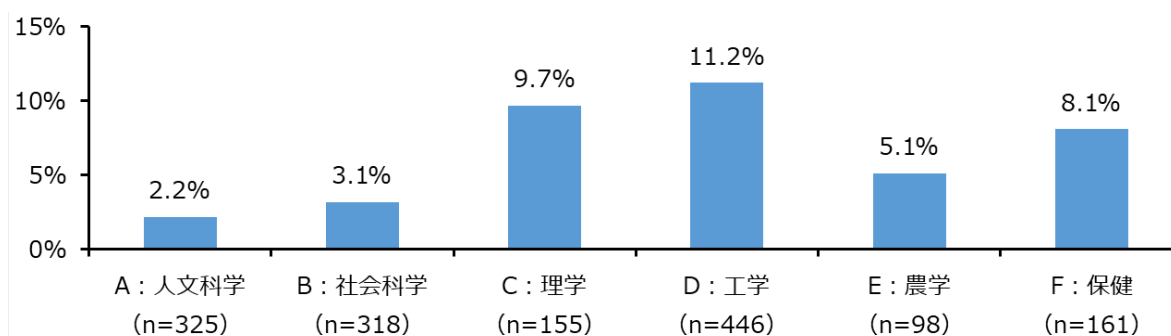
	全プログラムで可	一部プログラムで可	不可	無回答
A : 人文科学 (n=24)	66.7%	0.0%	29.2%	4.2%
B : 社会科学 (n=53)	37.7%	9.4%	52.8%	0.0%
C : 理学 (n=21)	9.5%	4.8%	76.2%	9.5%
D : 工学 (n=150)	14.0%	0.7%	62.0%	23.3%
E : 農学 (n=35)	11.4%	0.0%	88.6%	0.0%
F : 保健 (n=73)	30.1%	11.0%	58.9%	0.0%

2-11 博士論文研究基礎力審査の導入状況

平成 24 年 3 月の大学院設置基準等の改正により、博士課程の前期・後期を通じ一貫した人材養成目的を持つプログラムにおいて、前期の課程を修了し修士号を授与する条件として、大学の判断により、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代えて、「博士論文研究基礎力審査」を取り入れることができることとなった（大学院設置基準第 16 条の 2）。

博士論文研究基礎力審査の導入状況について聞いたところ、「工学」で 11.2%、「理学」で 9.7%、「保健」で 8.1%となっている。

図表 2-11-1 博士論文研究基礎力審査の導入率（n=1,789）



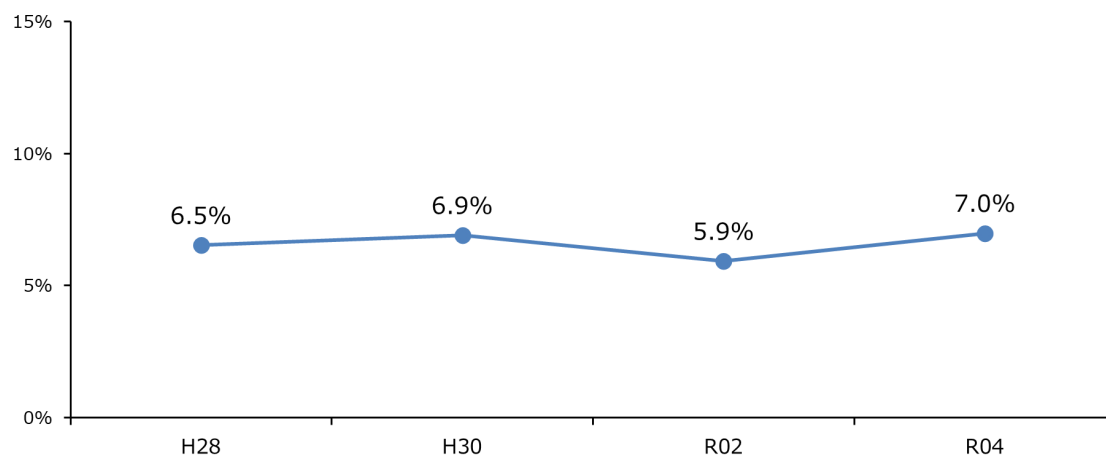
※博士前期課程と 5 年一貫制博士課程のみを対象（修士課程は対象外）

※大学院設置基準第 16 条の 2 に該当するものを対象

2-11-1 時系列推移

博士論文研究基礎力審査の導入率の時系列推移を以下に示す。

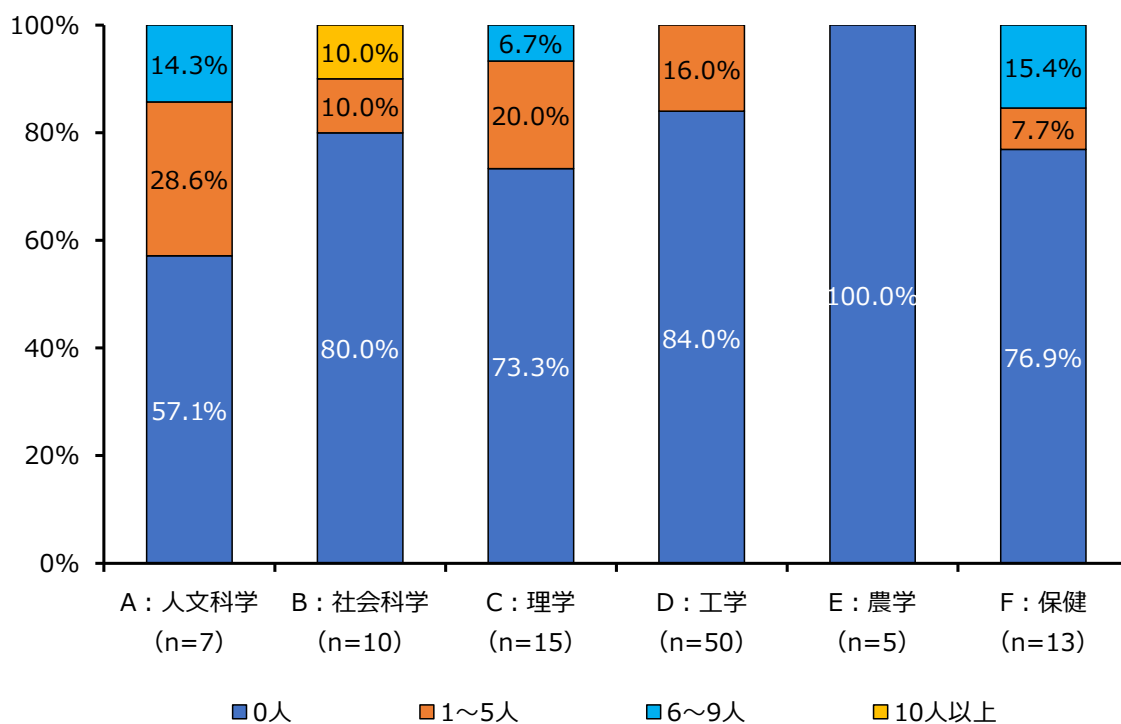
図表 2-11-2 博士論文研究基礎力審査の導入率の時系列推移



2-11-2 博士論文研究基礎力審査による修士号の授与状況

「博士論文研究基礎力審査を導入した」と回答した専攻に、審査による修士号の授与状況を聞いた。授与人数の分布を以下に示す。

図表 2-11-3 博士論文研究基礎力審査を導入している専攻における審査による修士号の授与状況



博士論文研究基礎力審査によって修士号を授与した専攻に対して、審査により修士号を授与した人数のうち博士後期課程に進学しなかった人数について聞いた。

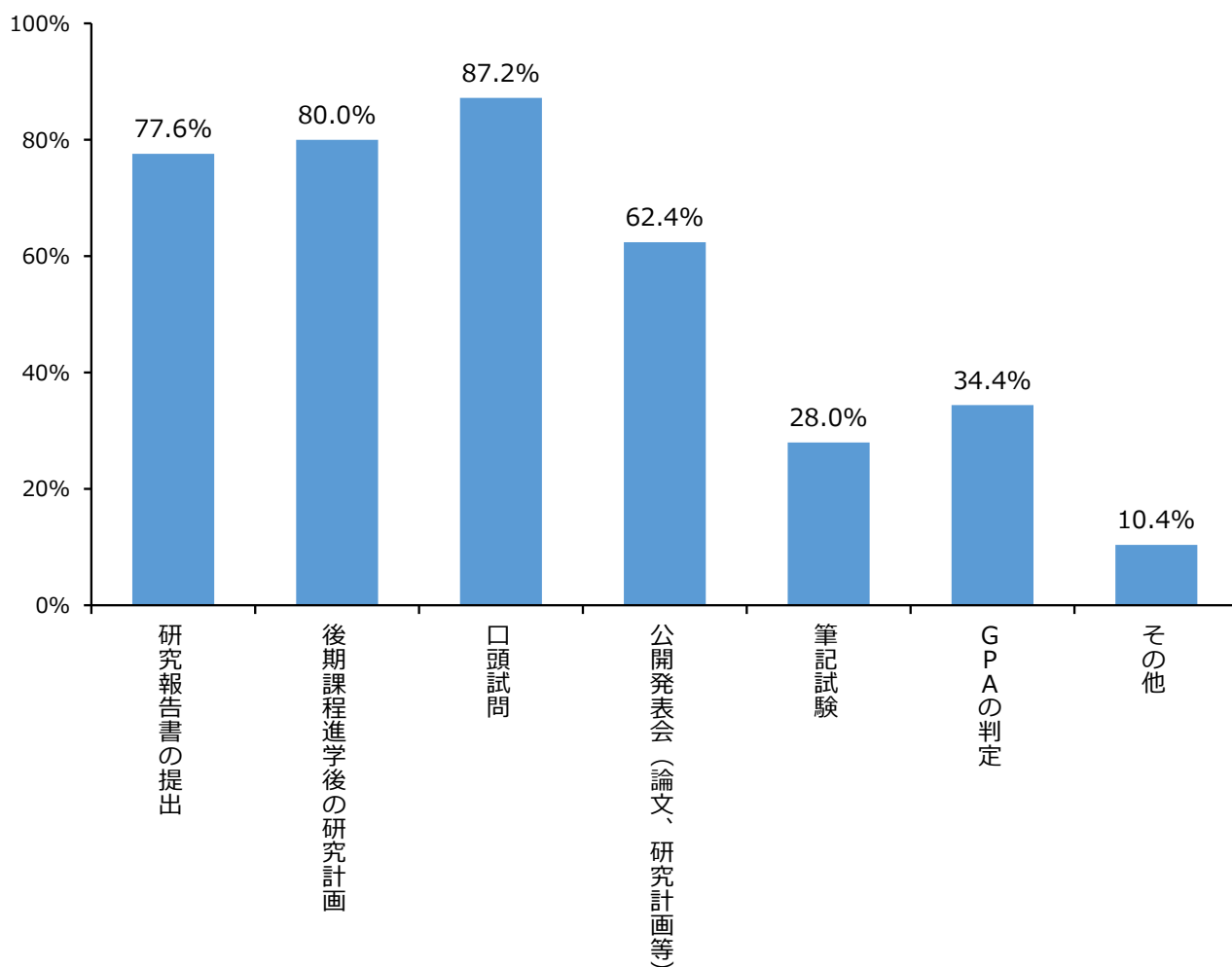
図表 2-11-4 審査により修士号を授与した人数のうち博士後期課程に進学しなかった人数

専攻数	A : 人文科学 (n=3)	B : 社会科学 (n=2)	C : 理学 (n=4)	D : 工学 (n=8)	E : 農学 (n=0)	F : 保健 (n=3)
0人	1	1	3	8	-	2
1~5人	1	-	1	-	-	1
6~9人	1	-	-	-	-	-
10人以上	-	1	-	-	-	-

2-11-3 博士論文研究基礎力審査の審査内容

「博士論文研究基礎力審査を導入した」と回答した専攻における博士論文研究基礎力審査の審査内容としては、「口頭試問」「後期課程進学後の研究計画」「研究報告書の提出」の割合が7割を超えている。

図表 2-11-5 博士論文研究基礎力審査の審査内容 (n=125)

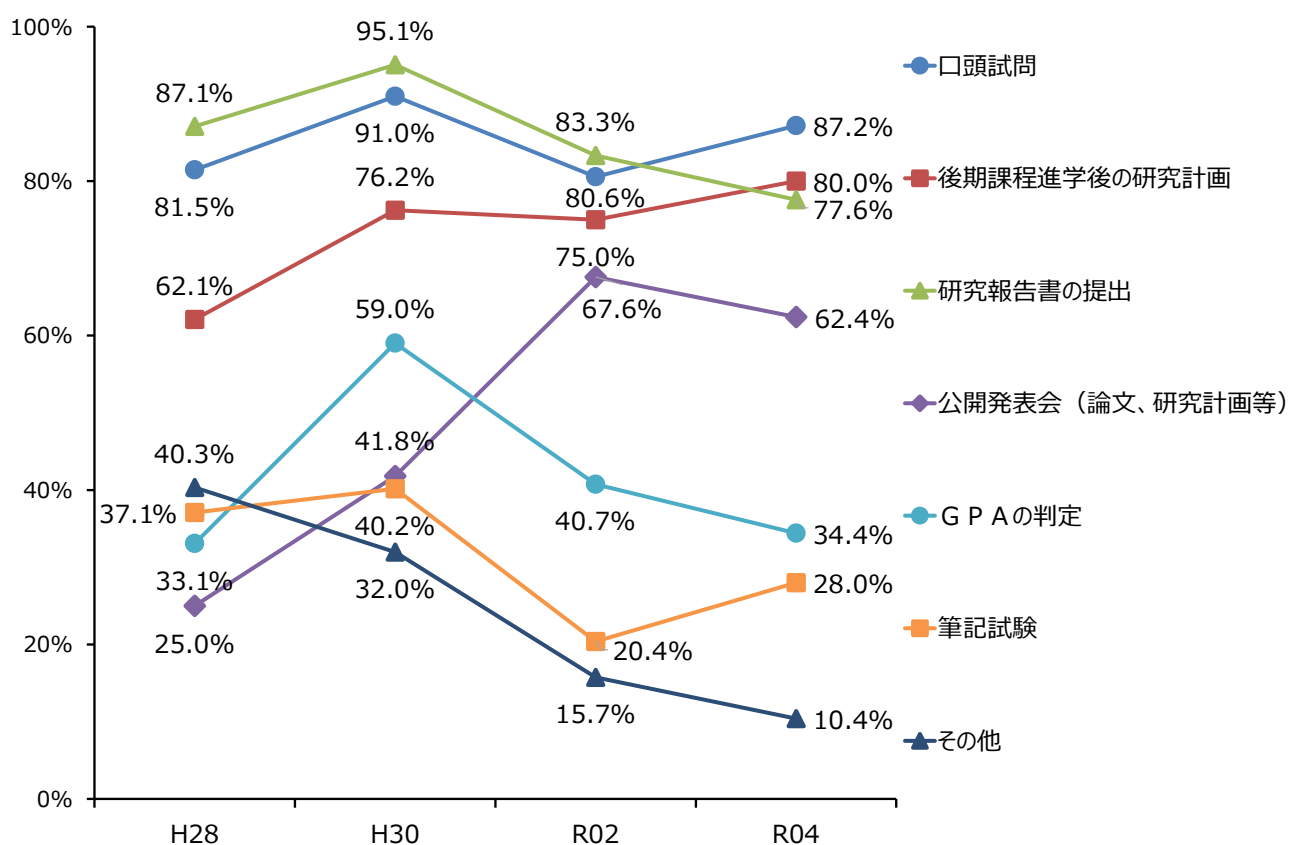


※GPA…Grade Point Average の略。客観的な成績評価を行う方法として大学に導入されているもの。

2-11-4 時系列推移

時系列推移を見ると、前回調査時と比較して「口頭試問」「後期課程進学後の研究計画」「筆記試験」の割合が増加している。

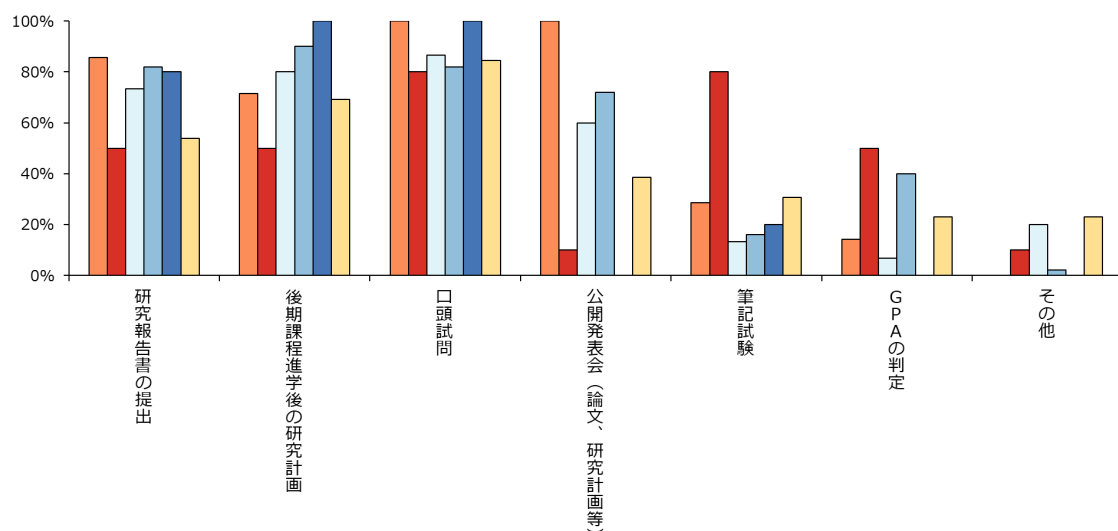
図表 2-11-6 博士論文研究基礎力審査の審査内容の時系列推移



2-11-5 分野別

分野別の状況を以下に示す。

図表 2-11-7 分野別 博士論文研究基礎力審査の審査内容



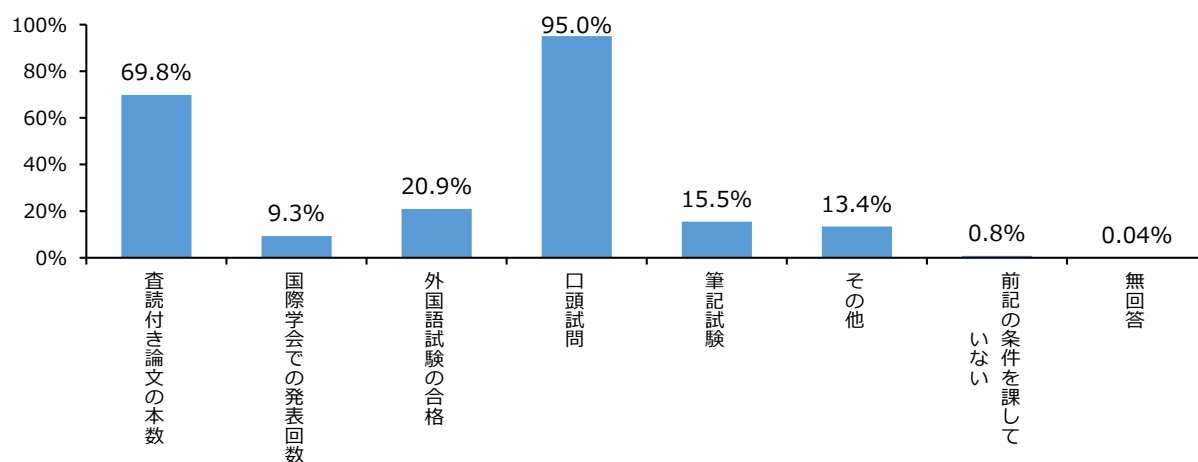
■ A : 人文科学 (n=7) ■ B : 社会科学 (n=10) □ C : 理学 (n=15) ■ D : 工学 (n=50) ■ E : 農学 (n=5) ■ F : 保健 (n=13)

	研究報告書の提出	後期課程進学後の研究計画	口頭試問	公开发表会(論文、研究計画等)	筆記試験	G P A の判定	その他
A : 人文科学 (n=7)	85.7%	71.4%	100.0%	100.0%	28.6%	14.3%	0.0%
B : 社会科学 (n=10)	50.0%	50.0%	80.0%	10.0%	80.0%	50.0%	10.0%
C : 理学 (n=15)	73.3%	80.0%	86.7%	60.0%	13.3%	6.7%	20.0%
D : 工学 (n=50)	82.0%	90.0%	82.0%	72.0%	16.0%	40.0%	2.0%
E : 農学 (n=5)	80.0%	100.0%	100.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
F : 保健 (n=13)	53.8%	69.2%	84.6%	38.5%	30.8%	23.1%	23.1%

2-12 博士学位（課程博士）授与

学校教育法第 104 条第 3 項に基づく博士学位（課程博士）授与に当たっての条件について聞いたところ、「口頭試問」「査読付き論文の本数」の割合が高い。

図表 2-12-1 博士学位（課程博士）授与に当たっての条件（n=2,514）

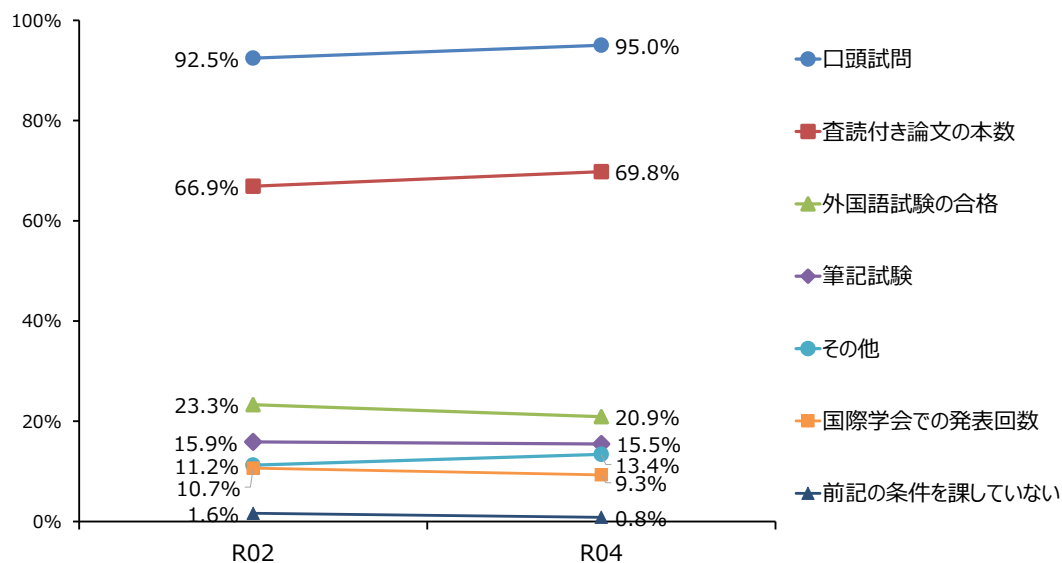


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

2-12-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

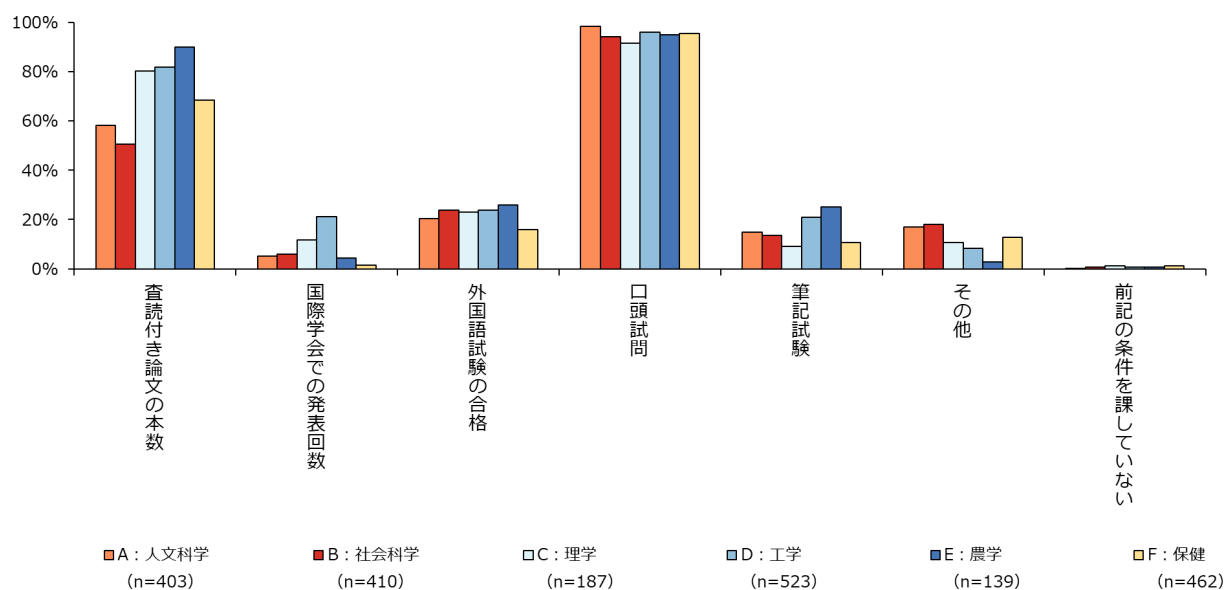
図表 2-12-2 博士学位（課程博士）授与に当たっての条件の時系列推移



2-12-2 分野別

分野別で見ると、「人文科学」「社会科学」において、「査読付き論文の本数」の割合が他分野と比較して低い。

図表 2-12-3 分野別 博士学位（課程博士）授与に当たっての条件

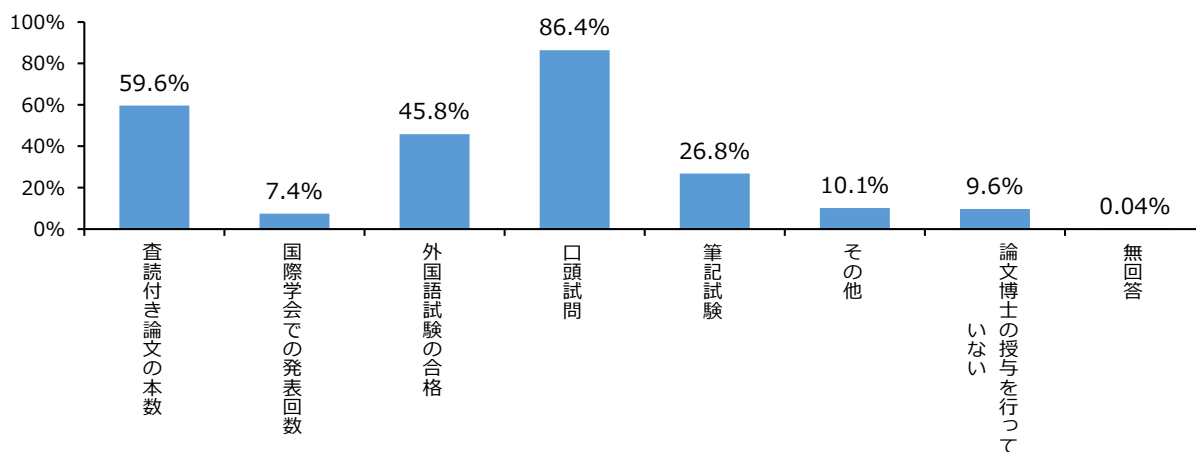


	査読付き論文の本数	国際学会での発表回数	外国語試験の合格	口頭試問	筆記試験	その他	前記の条件を課していない
A: 人文科学 (n=403)	58.1%	5.2%	20.3%	98.3%	14.9%	16.9%	0.2%
B: 社会科学 (n=410)	50.5%	5.9%	23.7%	94.1%	13.4%	18.0%	0.7%
C: 理学 (n=187)	80.2%	11.8%	23.0%	91.4%	9.1%	10.7%	1.1%
D: 工学 (n=523)	81.6%	21.0%	23.7%	96.0%	20.8%	8.2%	0.8%
E: 農学 (n=139)	89.9%	4.3%	25.9%	95.0%	25.2%	2.9%	0.7%
F: 保健 (n=462)	68.4%	1.5%	16.0%	95.5%	10.6%	12.8%	1.3%

2-13 博士学位（論文博士）授与

学校教育法第 104 条第 4 項に基づく博士学位（論文博士）授与に当たっての条件について聞いたところ、「口頭試問」の割合が最も高く、「査読付き論文の本数」「外国語試験の合格」が続く。

図表 2-13-1 博士学位（論文博士）授与に当たっての条件（n=2,514）

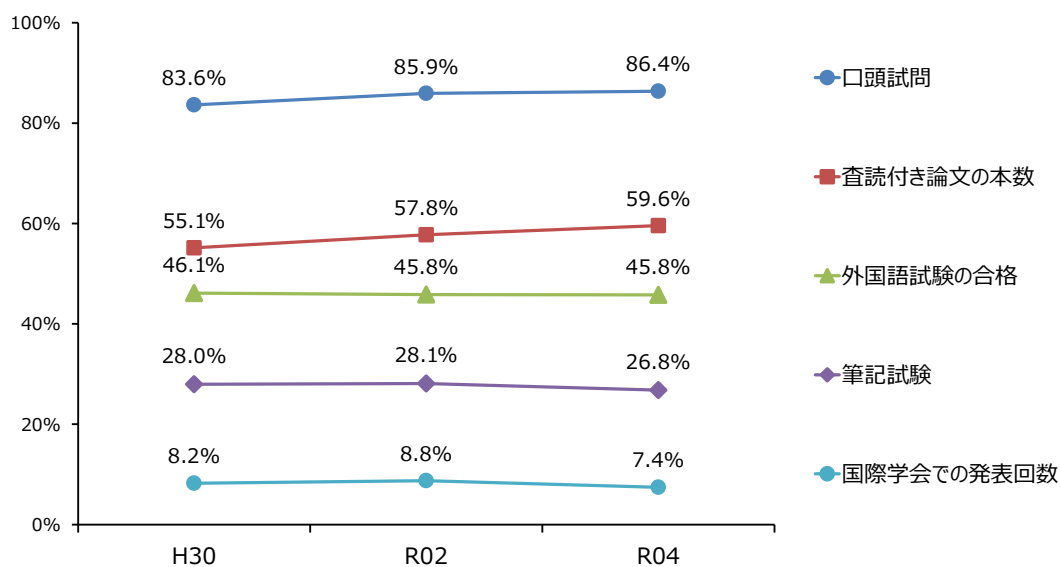


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

2-13-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

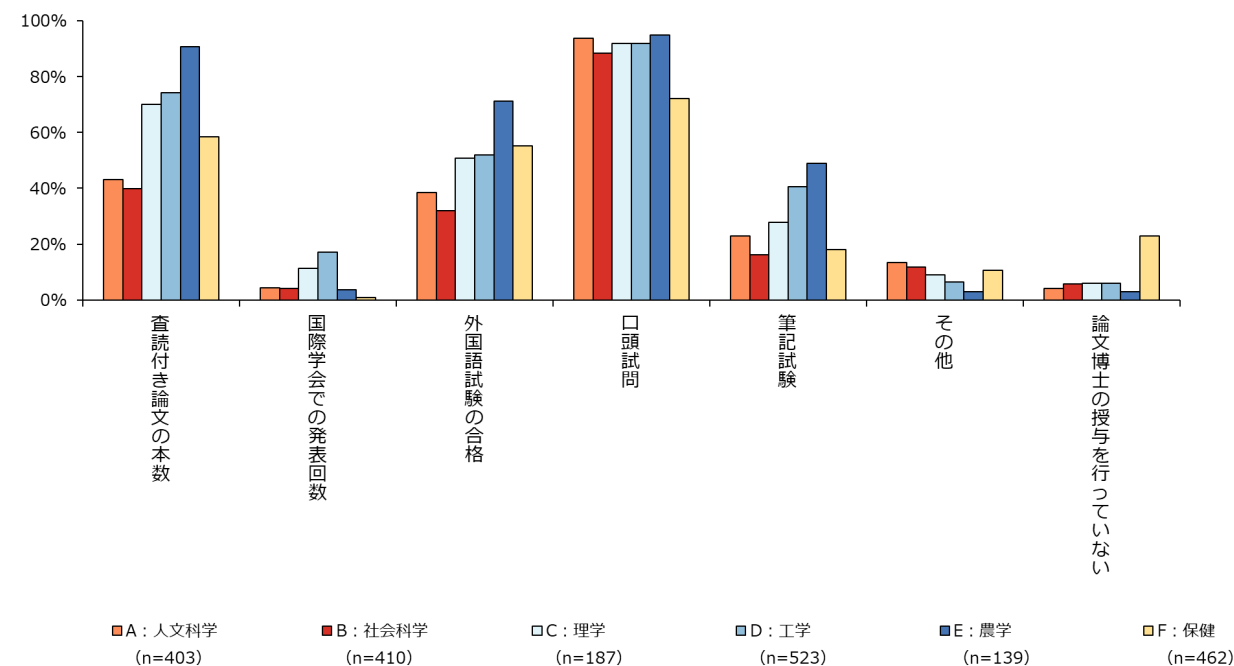
図表 2-13-2 博士学位（論文博士）授与に当たっての条件の時系列推移



2-13-2 分野別

分野別で見ると、「査読付き論文の本数」「外国語試験の合格」の割合が「農学」で相対的に高く、「人文科学」「社会科学」で低い。

図表 2-13-3 分野別 博士学位（論文博士）授与に当たっての条件

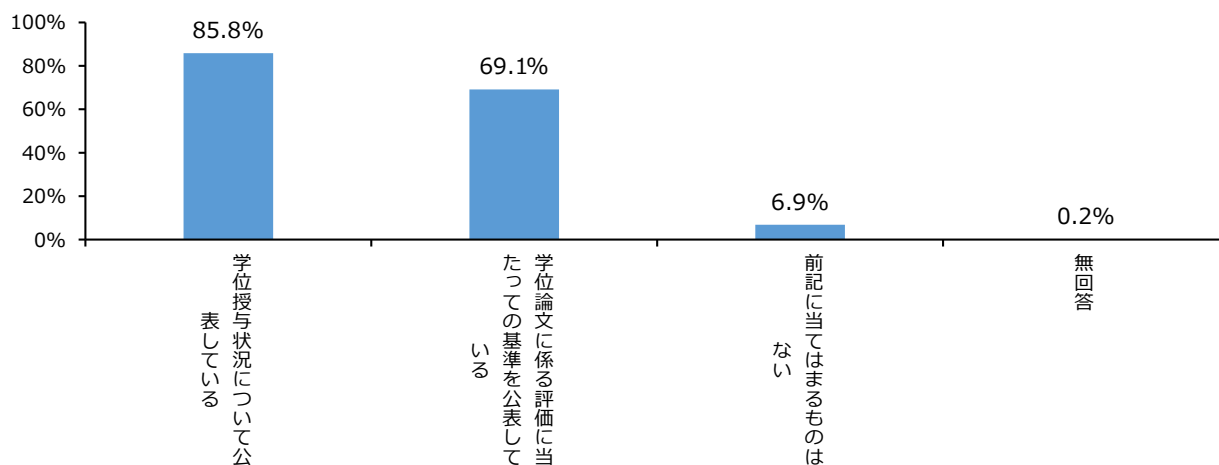


	査読付き論文の本数	国際学会での発表回数	外国語試験の合格	口頭試問	筆記試験	その他	論文博士の授与を行っていない
A: 人文科学 (n=403)	43.2%	4.5%	38.5%	93.8%	22.8%	13.4%	4.2%
B: 社会科学 (n=410)	39.8%	4.1%	32.0%	88.3%	16.1%	11.7%	5.9%
C: 理学 (n=187)	70.1%	11.2%	50.8%	92.0%	27.8%	9.1%	5.9%
D: 工学 (n=523)	74.2%	17.0%	52.0%	91.8%	40.5%	6.5%	5.9%
E: 農学 (n=139)	90.6%	3.6%	71.2%	95.0%	48.9%	2.9%	2.9%
F: 保健 (n=462)	58.4%	0.9%	55.2%	72.1%	18.0%	10.6%	22.9%

2-14 学位に関する情報公表の状況

学位に関する情報公表の状況について聞いたところ、「学位授与状況について公表している」が85.8%、「学位論文に係る評価に当たっての基準を公表している」が69.1%となっている。

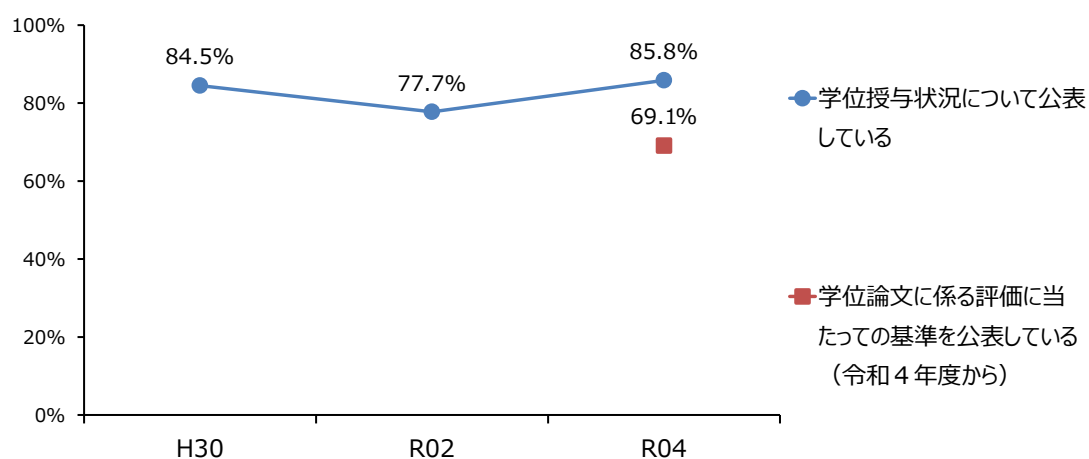
図表 2-14-1 学位に関する情報公表の状況 (n=5,926)



2-14-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

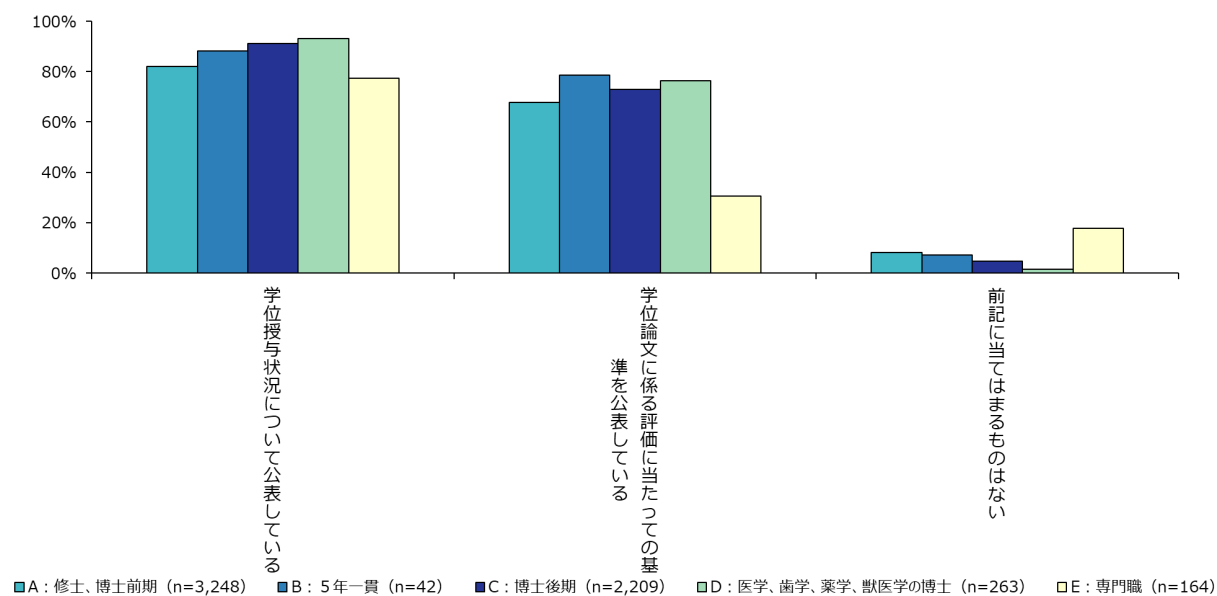
図表 2-14-2 学位に関する情報公表の状況の時系列推移



2-14-2 課程別

課程別の状況を以下に示す。

図表 2-14-3 課程別 学位に関する情報公表の状況

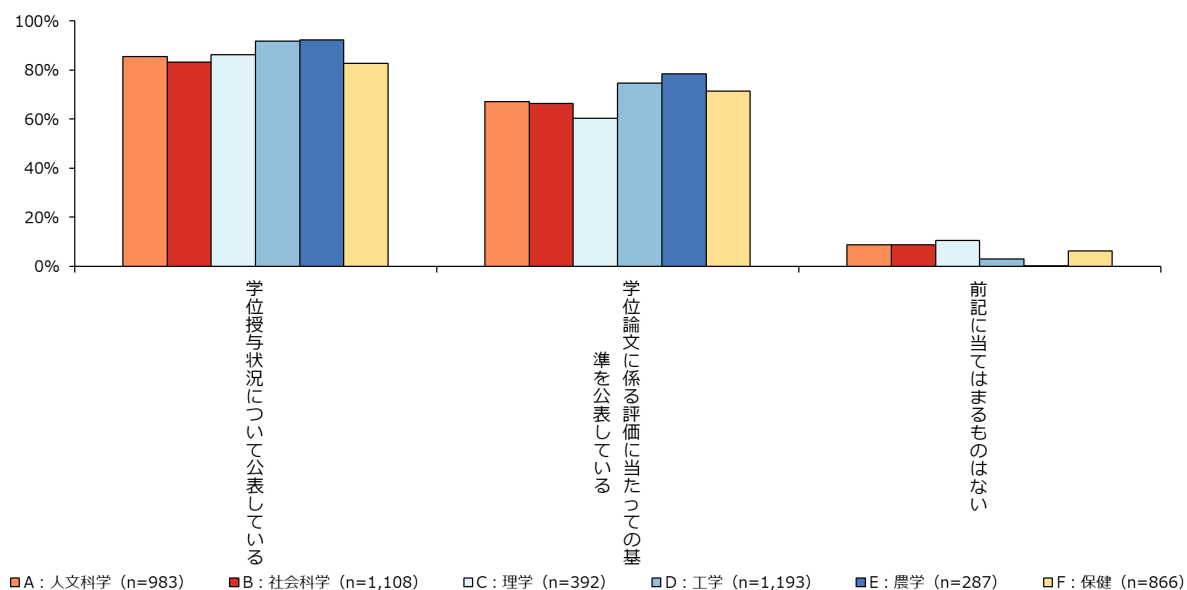


	学位授与状況について公表している	学位論文に係る評価に当たっての基準を公表している	前記に当てはまるものはない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	82.1%	67.8%	8.2%
B : 5年一貫 (n=42)	88.1%	78.6%	7.1%
C : 博士後期 (n=2,209)	91.0%	72.8%	4.7%
D : 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263)	93.2%	76.4%	1.5%
E : 専門職 (n=164)	77.4%	30.5%	17.7%

2-14-3 分野別

分野別の状況を以下に示す。

図表 2-14-4 分野別 学位に関する情報公表の状況



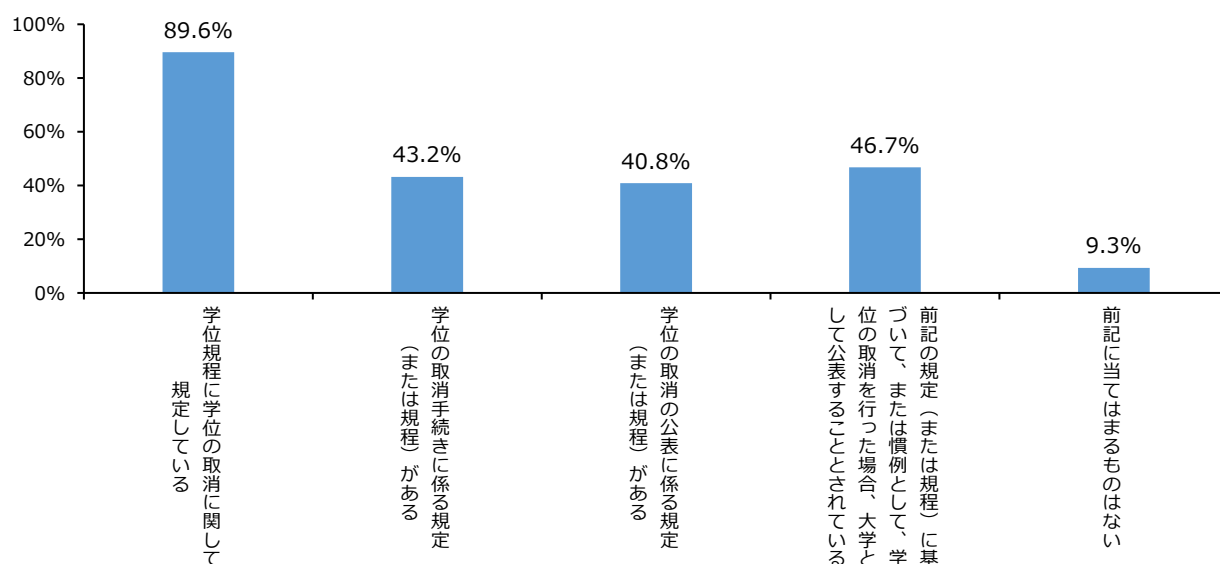
	学位授与状況について公表している	学位論文に係る評価に当たっての基準を公表している	前記に当てはまるものはない
A : 人文科学 (n=983)	85.6%	67.0%	8.7%
B : 社会科学 (n=1,108)	83.2%	66.4%	8.8%
C : 理学 (n=392)	86.2%	60.5%	10.5%
D : 工学 (n=1,193)	91.9%	74.7%	3.1%
E : 農学 (n=287)	92.3%	78.4%	0.3%
F : 保健 (n=866)	82.7%	71.4%	6.4%

2-15 学位の取消規定

大学院における学位取消規定について、大学院全体の状況を聞いた。

「学位規程に学位の取消に関して規定している」が 89.6%となっている。

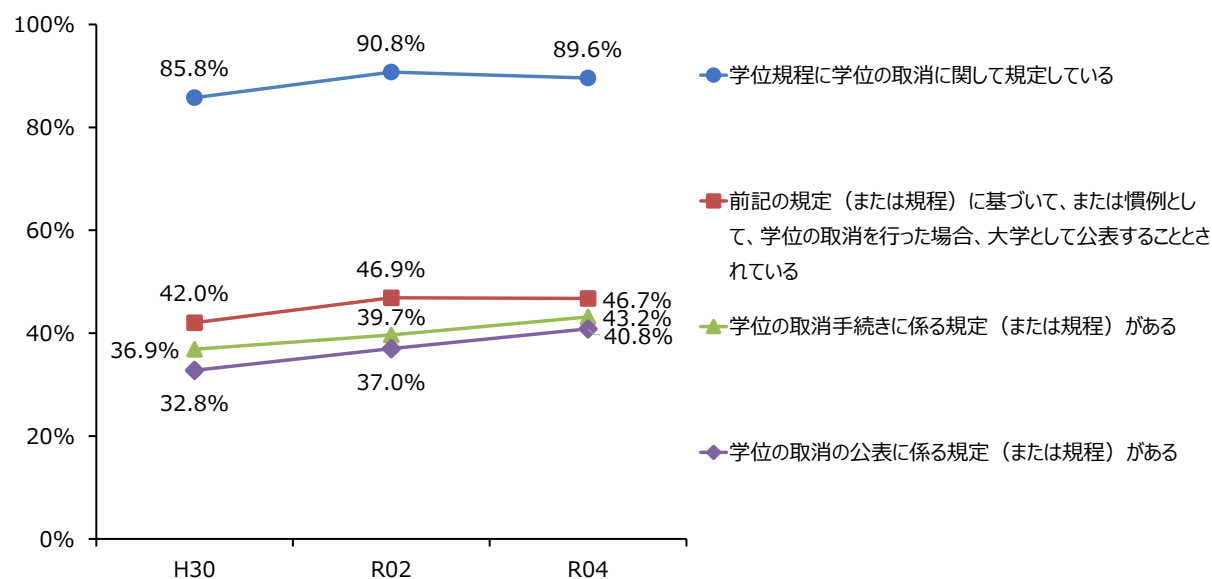
図表 2-15-1 学位の取消規定 (n=644)



2-15-1 時系列推移

時系列推移を以下に示す。

図表 2-15-2 学位の取消規定の時系列推移



2-16 大学院独自の経済的支援

大学院における独自の経済的支援の取組について、大学院全体の状況を聞いた。複数の制度がある場合は、制度ごとに回答を求めた。

2-16-1 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）

大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）があると回答した大学は 322 校、制度数（n）は 581 制度。581 制度の総受給金額は約 169 億円、総受給者数は 70,316 人、1 人当たりの平均受給金額は 24 万円である。

図表 2-16-1 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）（n=581）

授業料減免	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	16,908,077 千円	70,316 人	240 千円
修士・博士課程（前期）	9,501,126 千円	41,650 人	228 千円
博士課程（後期）	6,600,457 千円	25,949 人	254 千円
専門職	806,494 千円	2,717 人	297 千円

※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

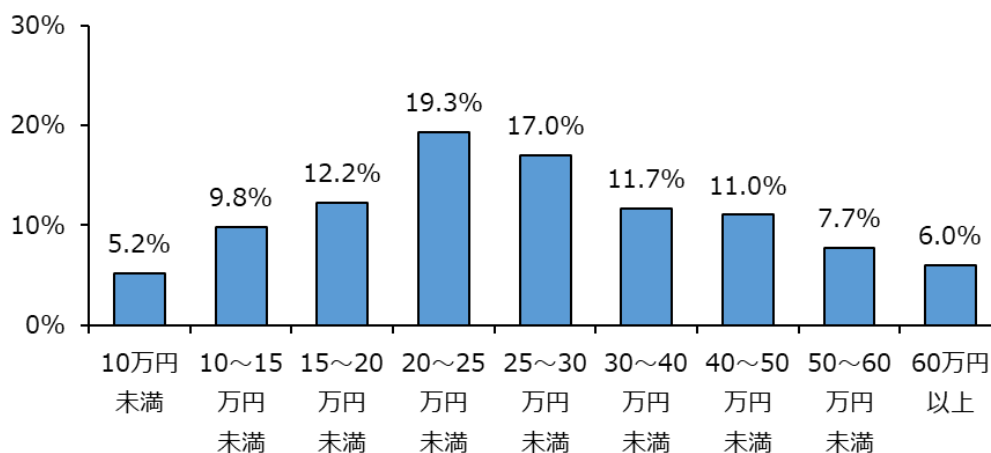
※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5 年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-2 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）

制度ごとの平均受給金額の分布（n=581）



※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

設置者別では、授業料減免があると回答した大学は国立が 81 校（207 制度）、公立が 55 校（80 制度）、私立が 186 校（294 制度）。授業料減免の 1 人当たりの平均受給金額は、国立が約 24 万円、公立が約 14 万円、私立が約 34 万円となっている。

図表 2-16-3 設置者別 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）

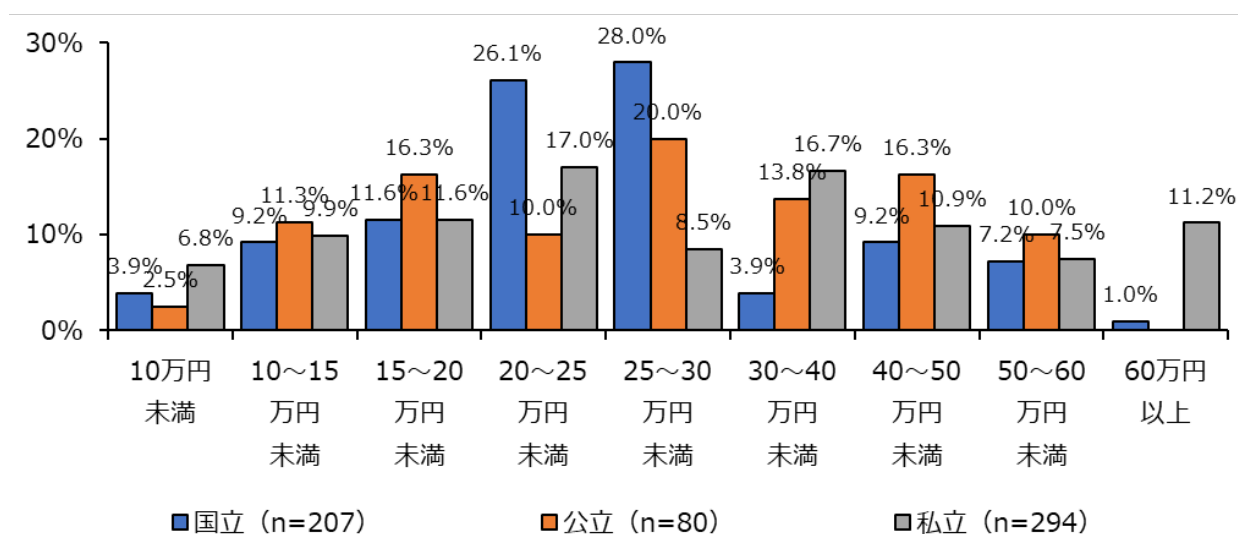
授業料減免	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
国立（n=207）	13,955,472 千円	58,876 人	237 千円
公立（n=80）	676,709 千円	4,727 人	143 千円
私立（n=294）	2,275,896 千円	6,713 人	339 千円

※ n は制度数（大学が複数の制度を回答したことがあるため、回答した大学数と一致しない）

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-4 設置者別 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）

制度ごとの平均受給金額の分布（n=581）



※ n は制度数（大学が複数の制度を回答したことがあるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

2-16-2 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）

大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）があるのは347校、制度数（n）は1,077制度。1,077制度の総受給金額は約79億円、総受給者数は24,309人、1人当たりの平均受給金額は約32万円である。

図表 2-16-5 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）（n=1,077）

奨学金	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	7,882,136 千円	24,309 人	324 千円
修士・博士課程（前期）	4,058,200 千円	14,158 人	287 千円
博士課程（後期）	2,721,128 千円	8,355 人	326 千円
専門職	1,102,808 千円	1,796 人	614 千円

※nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

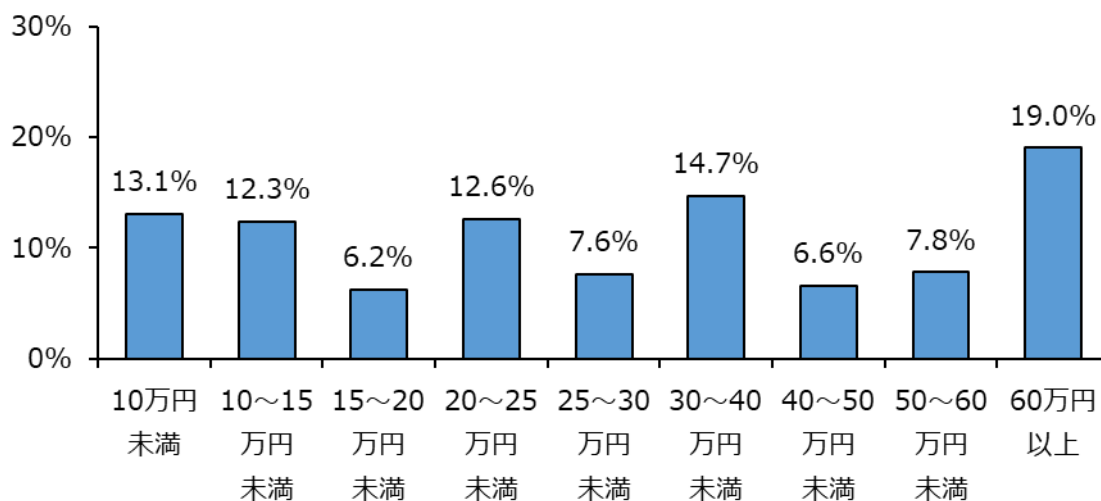
※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-6 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）

制度ごとの平均受給金額の分布（n=1,077）



※nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

設置者別では、奨学金があると回答した大学は国立が 65 校（289 制度）、公立が 26 校（53 制度）、私立が 256 校（735 制度）。奨学金の 1 人当たりの平均受給金額は、国立が約 38 万円、公立は約 12 万円、私立が約 34 万円となっている。

図表 2-16-7 設置者別 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）

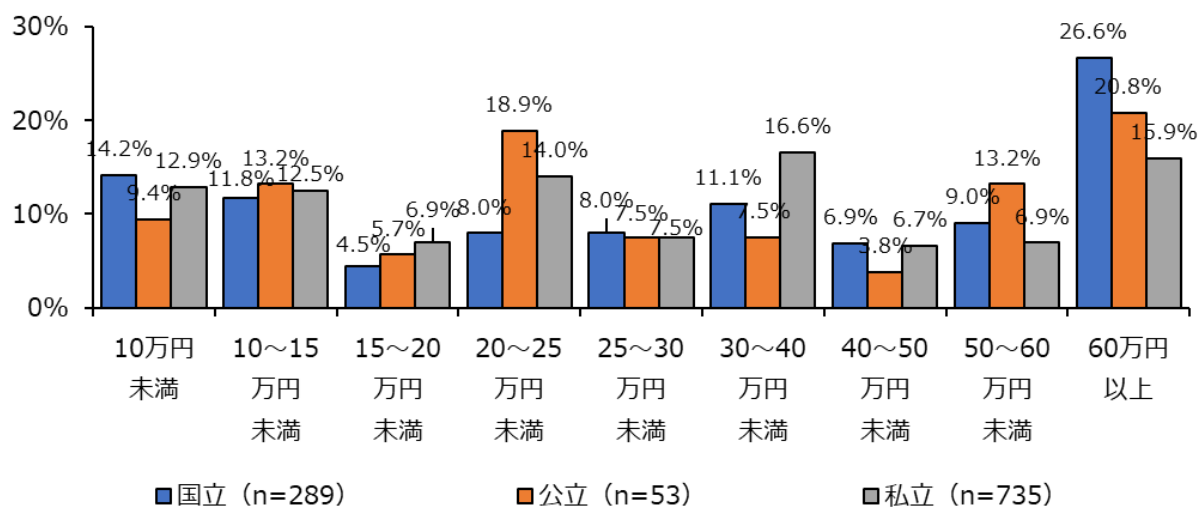
奨学金	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
国立（n=289）	1,860,534 千円	4,939 人	377 千円
公立（n=53）	268,663 千円	2,334 人	115 千円
私立（n=735）	5,752,939 千円	17,036 人	338 千円

※ n は制度数（大学が複数の制度を回答したことがあるため、回答した大学数と一致しない）

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-8 設置者別 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）

制度ごとの平均受給金額の分布（n=1,077）



※ n は制度数（大学が複数の制度を回答したことがあるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

2-16-3 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度

大学院独自の大学院生向けの研究助成制度があるのは 187 校。制度数（n）は 333 制度である。333 制度の総受給金額は約 29 億円、総受給者数は 10,721 グループ、1 グループ当たりの平均受給金額は 27 万円である。

図表 2-16-9 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度（n=333）

研究助成制度	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	2,890,206 千円	10,721 グループ	270 千円
修士・博士課程（前期）	409,168 千円	6,528 グループ	63 千円
博士課程（後期）	2,473,305 千円	4,101 グループ	603 千円
専門職	7,733 千円	92 グループ	84 千円

※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

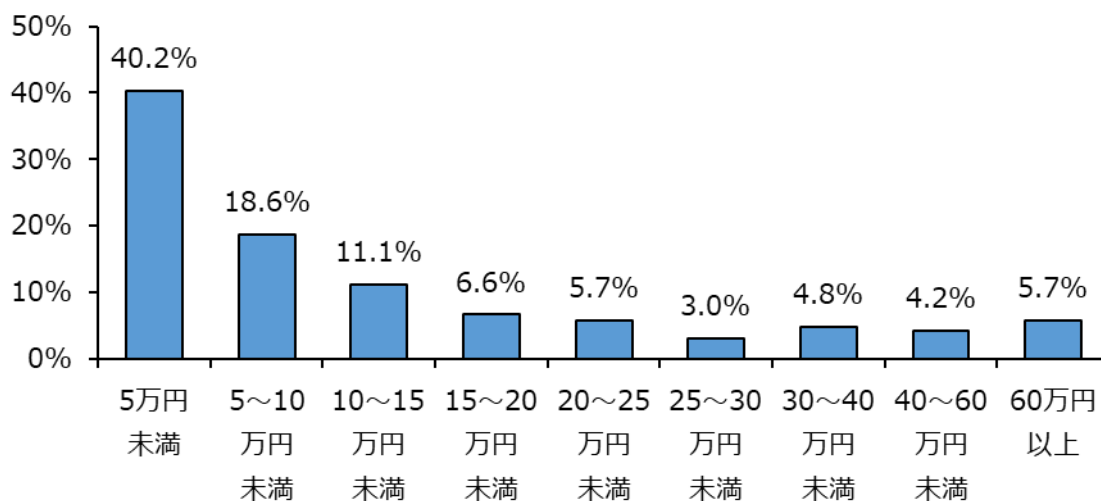
※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5 年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-10 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度

制度ごとの平均受給金額の分布（n=333）



※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

設置者別では、研究助成制度があると回答した大学は国立が 39 校（93 制度）、公立が 13 校（15 制度）、私立が 135 校（225 制度）。研究助成制度の 1 グループ当たりの平均受給金額は、国立が約 103 万円、公立が約 18 万円、私立が約 9 万円となっている。

図表 2-16-11 設置者別 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度

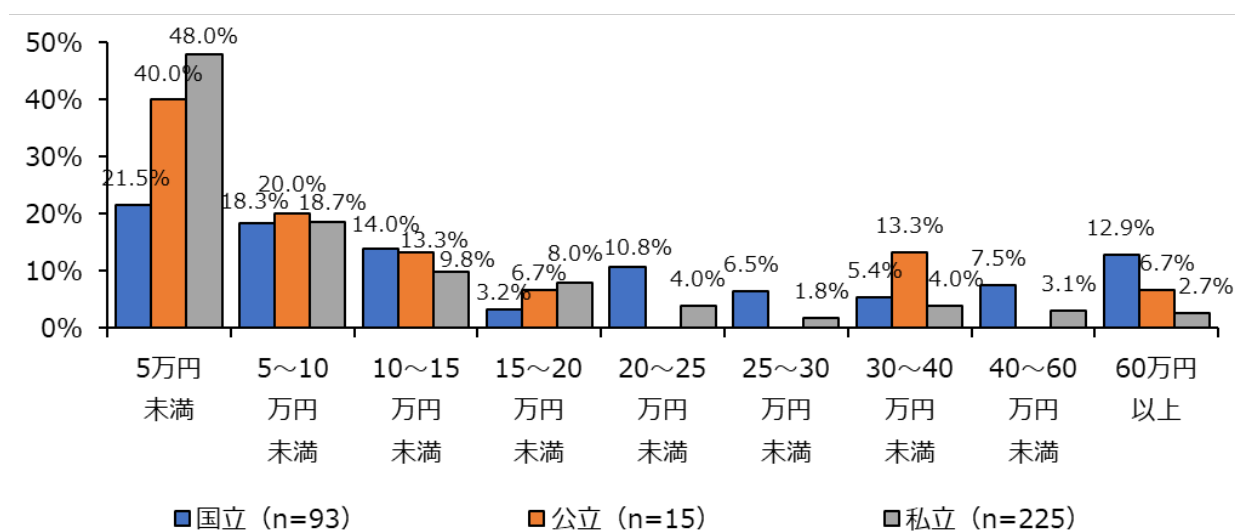
研究助成制度	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
国立（n=93）	2,067,967 千円	2,014 グループ	1,027 千円
公立（n=15）	53,992 千円	306 グループ	176 千円
私立（n=225）	768,247 千円	8,401 グループ	91 千円

※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

制度ごとの平均受給金額の分布を以下に示す。

図表 2-16-12 設置者別 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度

制度ごとの平均受給金額の分布（n=333）



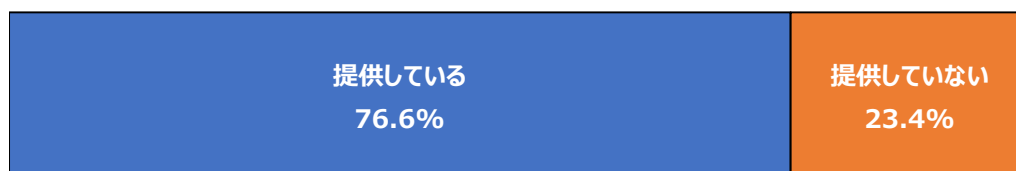
※ n は制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

2-17 ファイナンシャル・プランの提供

在学生に対して学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供しているかどうかを聞いたところ、76.6%が「提供している」と回答した。

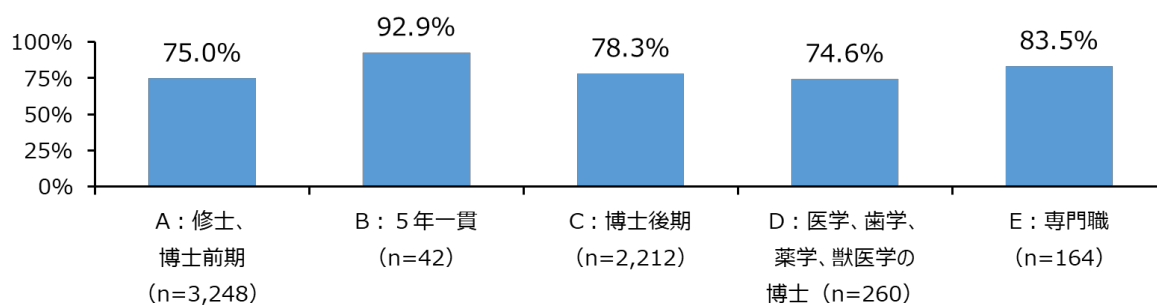
図表 2-17-1 ファイナンシャル・プランの提供 (n=5, 926)



2-17-1 課程別

課程別の提供状況を以下に示す。

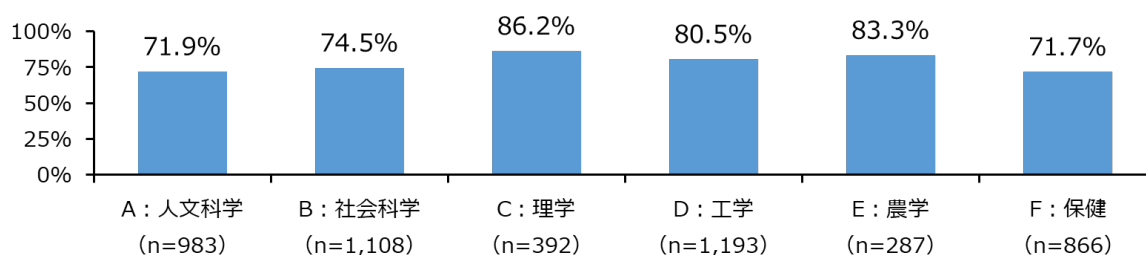
図表 2-17-2 課程別 ファイナンシャル・プランの提供状況



2-17-2 分野別

分野別の提供状況を以下に示す。

図表 2-17-3 分野別 ファイナンシャル・プランの提供状況



第3章 大学院教育の基本状況

大学院教育に関わる基本状況を以下に示す。

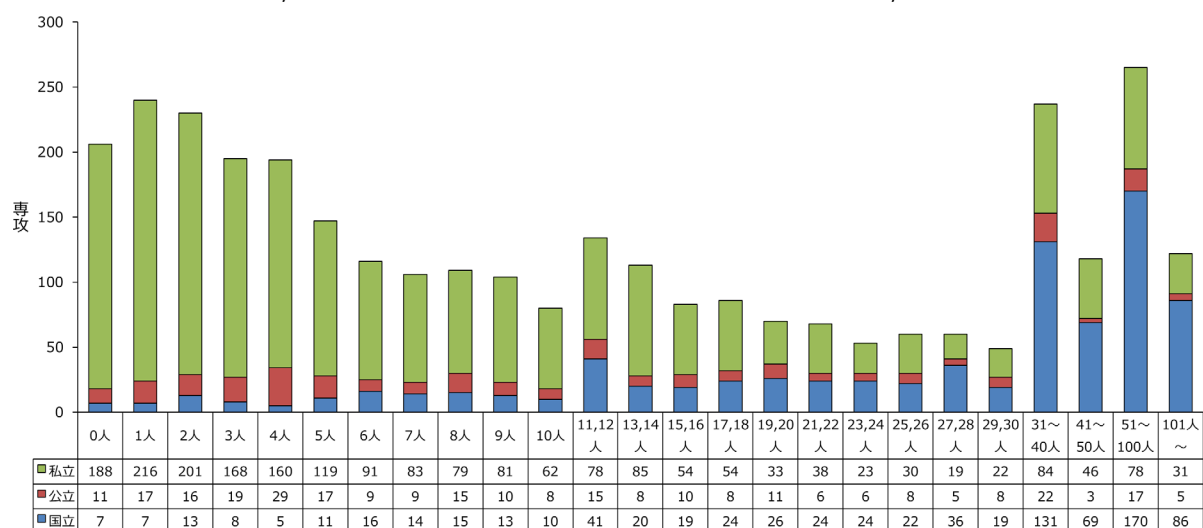
3-1 入学者数

3-1-1 修士課程

修士課程における専攻別入学者数の分布を見た。調査に回答した総計 3,245 専攻のうち、私立は入学者数 10 人以下の専攻の割合が 2,123 専攻中 1,448 専攻で 68.2%となっている。国立大学では、入学者数 30 名超の専攻の割合が 830 専攻中 456 専攻で 54.9%となっている。

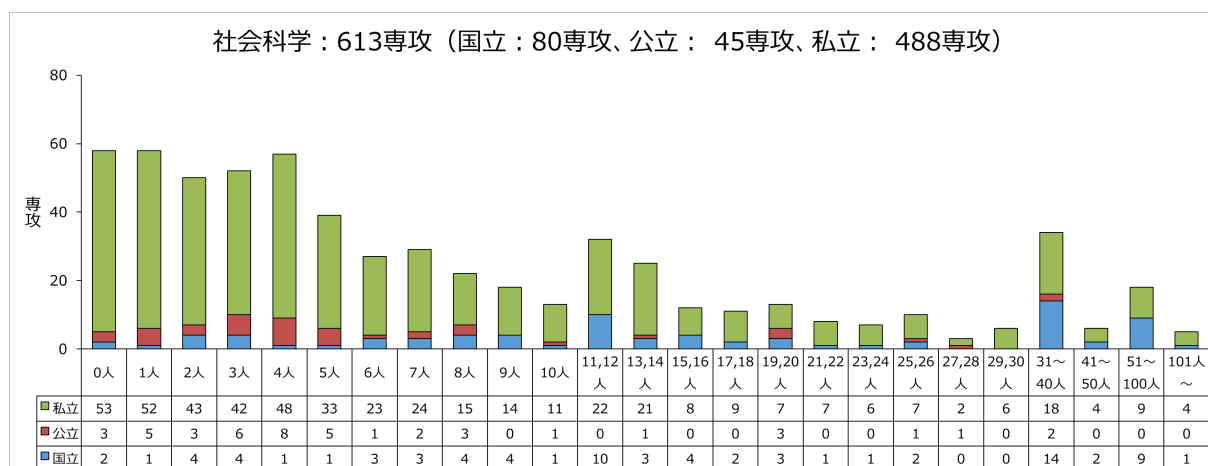
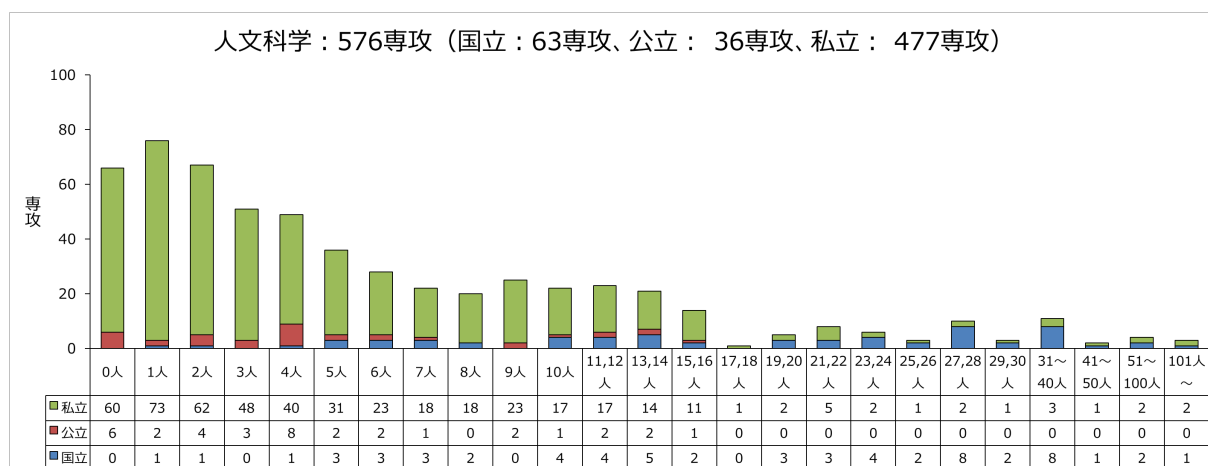
図表 3-1-1 修士課程における専攻別入学者数の分布（令和4年度）

全体：3,245専攻（国立：830専攻、公立：292専攻、私立：2,123専攻）

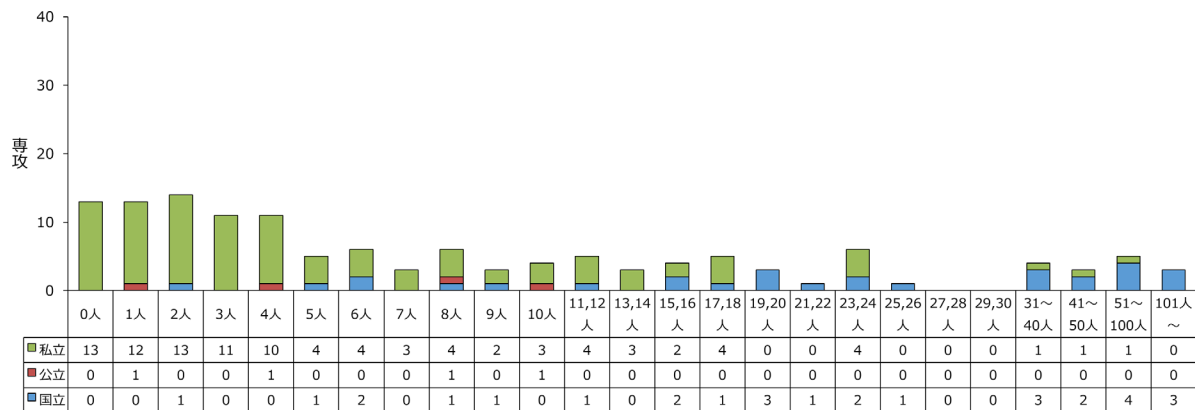


分野別の入学者数は下記の通り。その他の分野（296 専攻）は含まない。

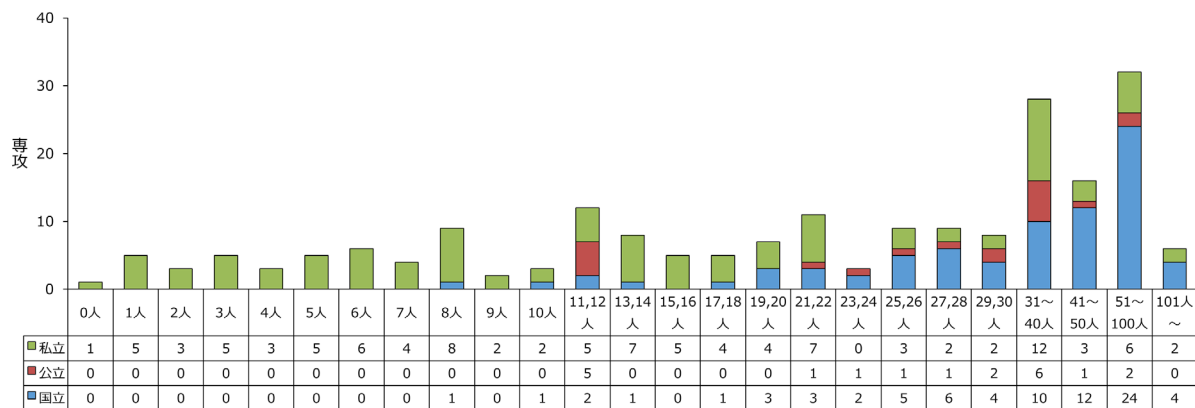
図表 3-1-2 分野別 修士課程における専攻別入学者数の分布（令和4年度）



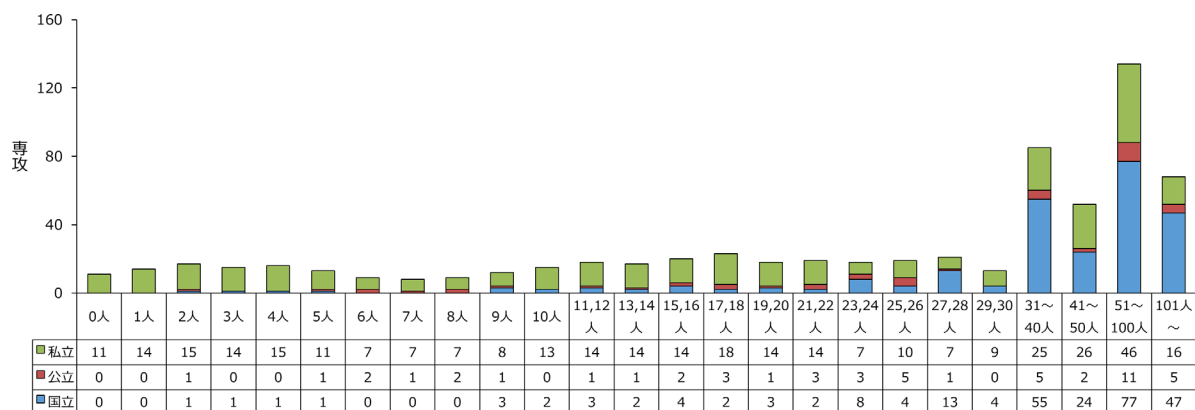
教育：132専攻（国立：29専攻、公立：4専攻、私立：99専攻）



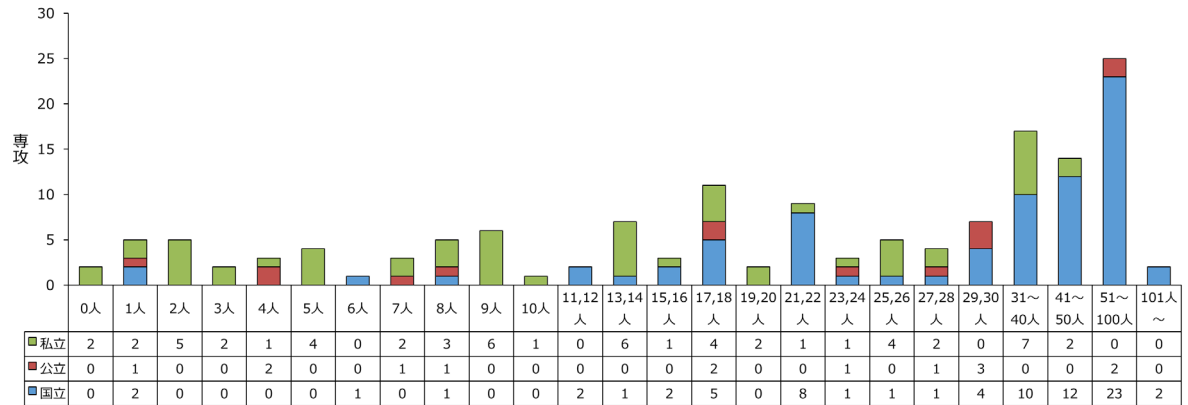
理学：205専攻（国立：79専攻、公立：20専攻、私立：106専攻）



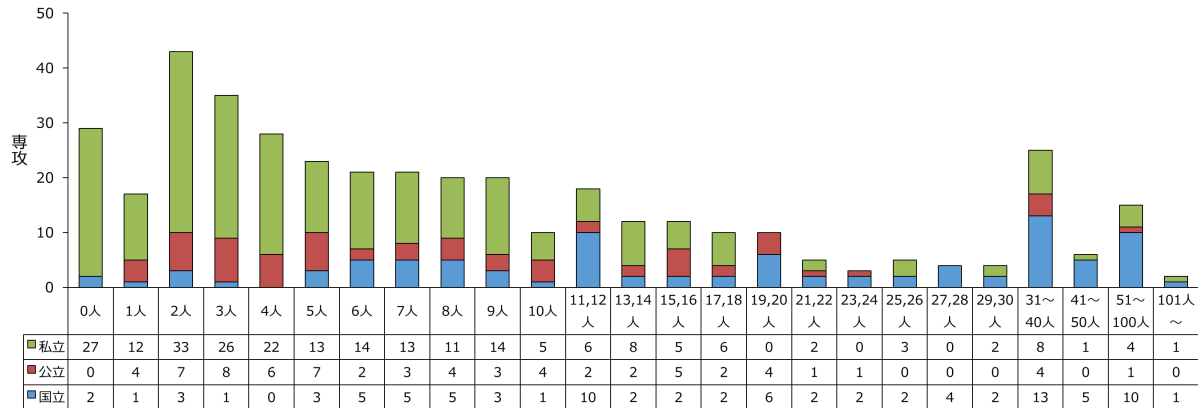
工学：664専攻（国立：257専攻、公立：51専攻、私立：356専攻）



農学：148専攻（国立：76専攻、公立：14専攻、私立：58専攻）



保健：398専攻（国立：92専攻、公立：70専攻、私立：236専攻）

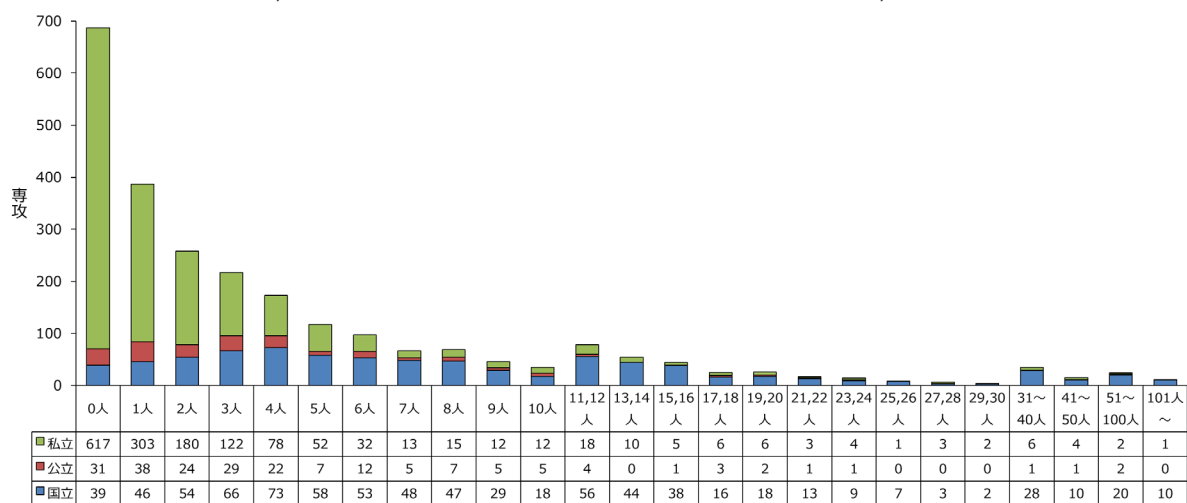


3-1-2 博士課程

博士課程における専攻別入学者数の分布を見た。調査に回答した総計 2,513 専攻のうち、私立は博士課程入学者数 0 人の割合が最も多く、1,507 専攻中 617 専攻（40.9％）が 0 人と回答している。

図表 3-1-3 博士課程における専攻別入学者数の分布（令和 4 年度）

全体：2,513専攻（国立：805専攻、公立：201専攻、私立：1,507専攻）

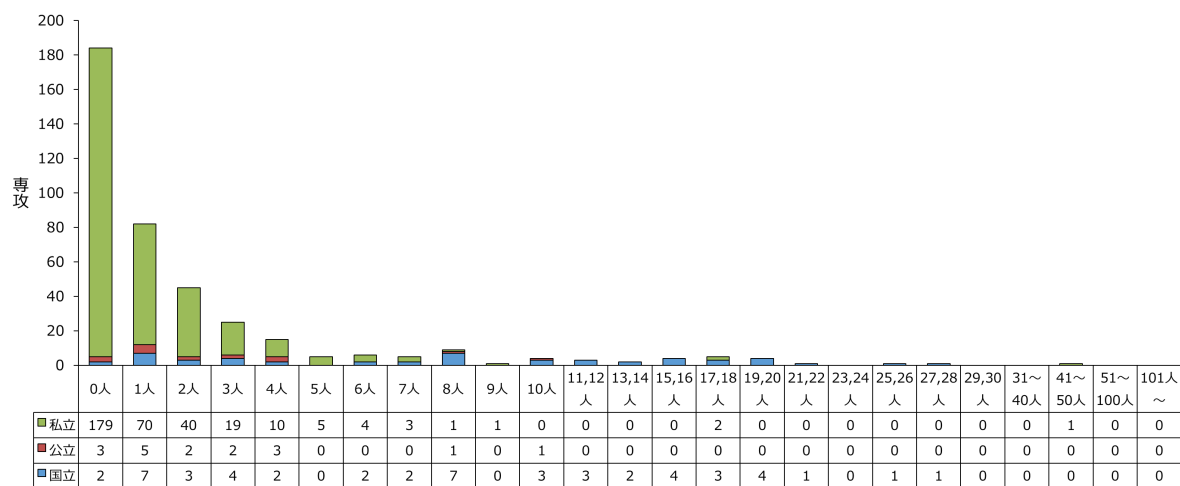


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程を対象

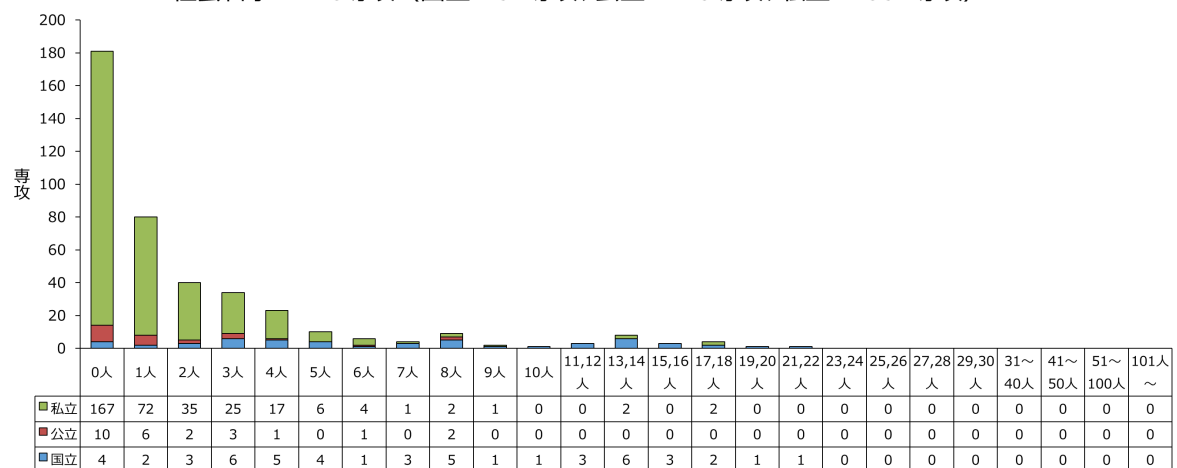
分野別の入学者数は下記の通り。その他の分野（264 専攻）は含まない。

図表 3-1-4 分野別 博士課程における専攻別入学者数の分布（令和4年度）

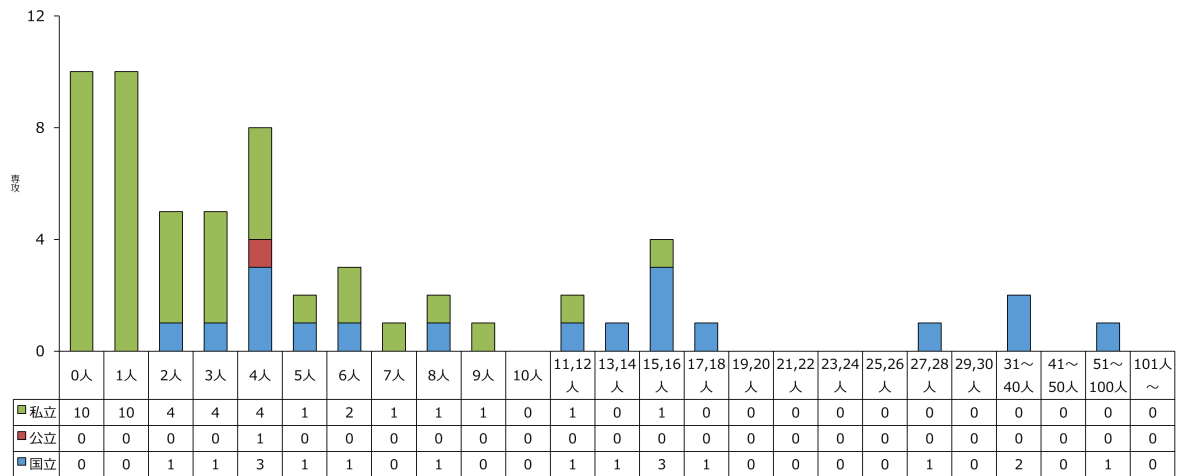
人文科学：403専攻（国立：51専攻、公立：17専攻、私立：335専攻）



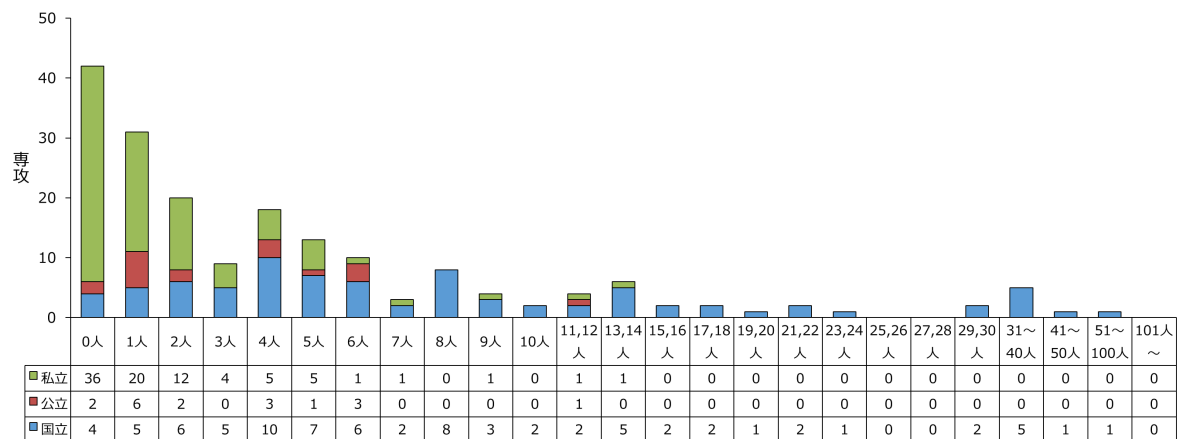
社会科学：410専攻（国立：51専攻、公立：25専攻、私立：334専攻）



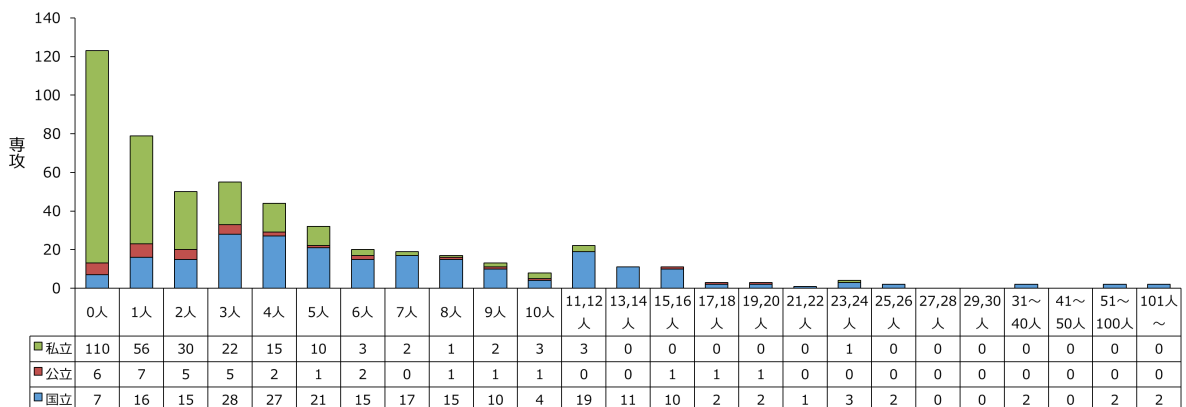
教育：59専攻（国立：18専攻、公立：1専攻、私立：40専攻）



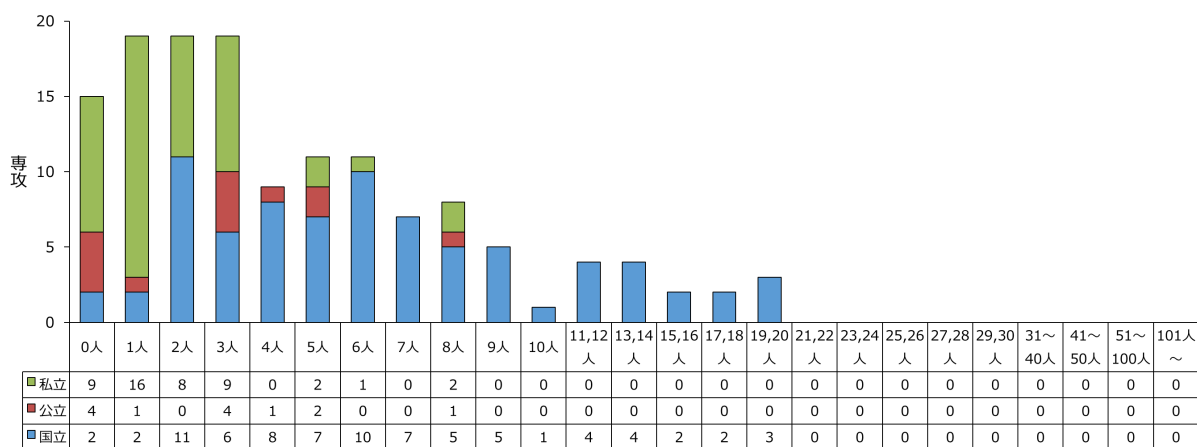
理学：187専攻（国立：82専攻、公立：18専攻、私立：87専攻）



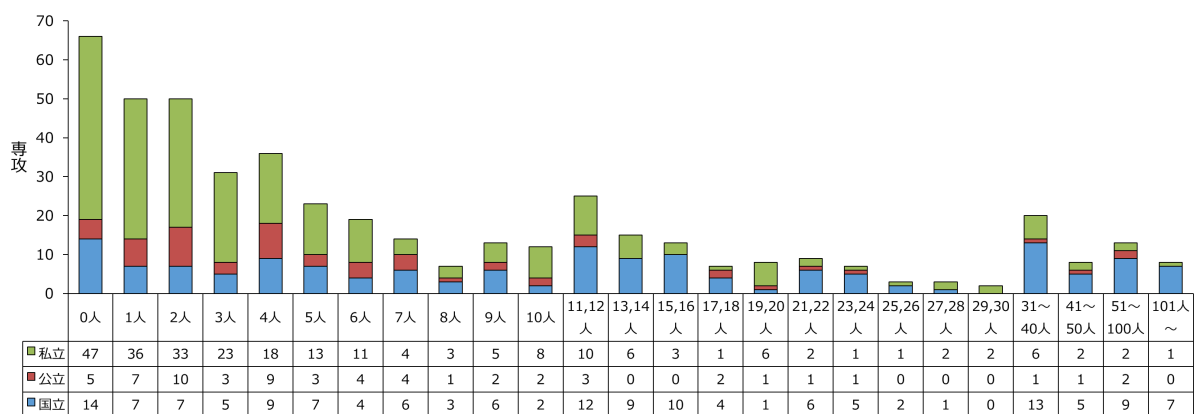
工学：523専攻（国立：231専攻、公立：34専攻、私立：258専攻）



農学：139専攻（国立：79専攻、公立：13専攻、私立：47専攻）



保健：462専攻（国立：154専攻、公立：62専攻、私立：246専攻）



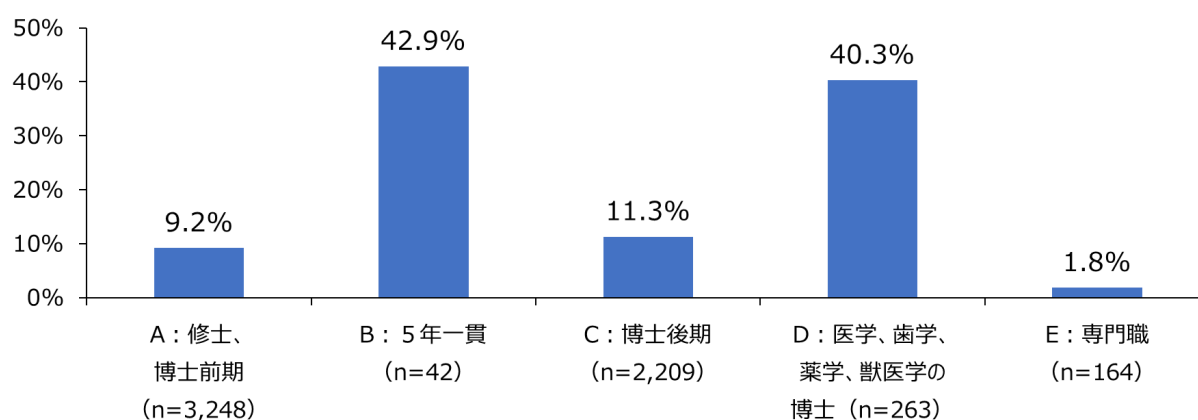
3-2 研究指導委託

研究指導委託の実施状況を聞いた。研究指導委託は、大学院設置基準第13条第2項に基づき、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認める制度である。

3-2-1 課程別

課程別では、「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、研究指導委託の実施割合が4割を超えている。

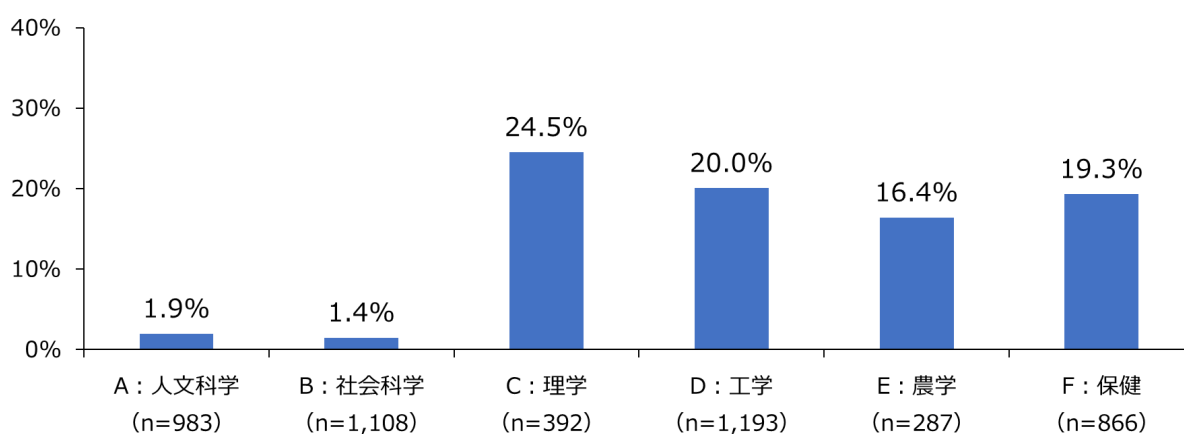
図表 3-2-1 課程別 研究指導委託の実施状況



3-2-2 分野別

分野別の状況を以下に示す。

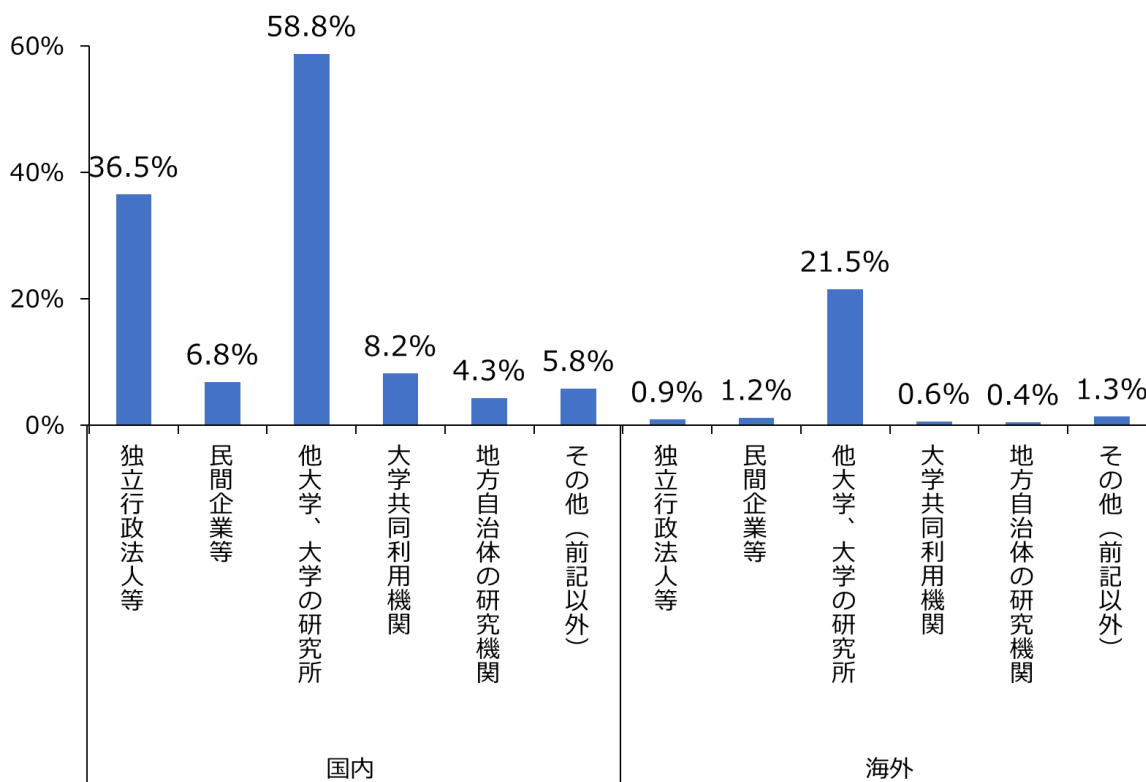
図表 3-2-2 分野別 研究指導委託の実施状況



3-2-3 派遣先

研究指導委託の派遣先を聞いたところ、国内では「他大学、大学の研究所」「独立行政法人等」の割合が高く、海外では「他大学、大学の研究所」の割合が高い。

図表 3-2-3 研究指導委託の派遣先 (n=674)



3-3 博士課程における標準修業年限以内の学位授与状況

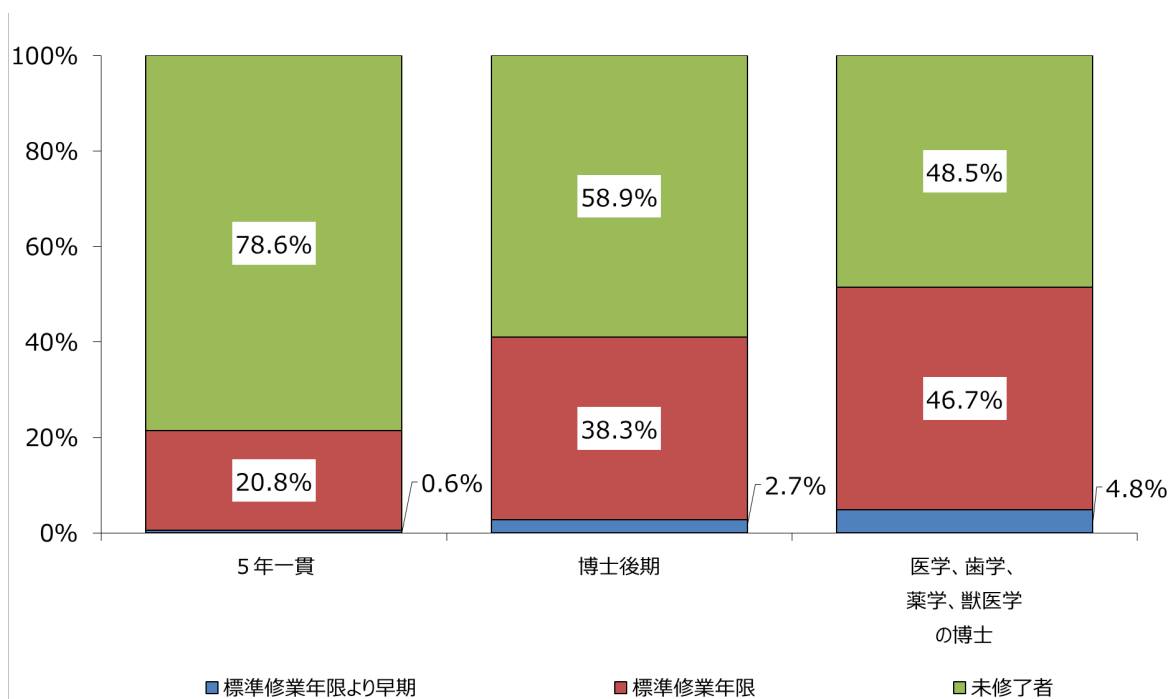
令和4年度に標準修業年限を迎えた学生について、入学時の人数のうち、標準修業年限以内に学位を授与された者及び標準修業年限より早期に学位を授与された者の割合を見る。

3-3-1 課程別

課程別に見ると、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において標準修業年限以内に学位を授与された者の割合が51.5%となっている。

図表 3-3-1 課程別 令和4年度が標準修業年限である者のうち、

標準修業年限以内に学位を授与された者の割合



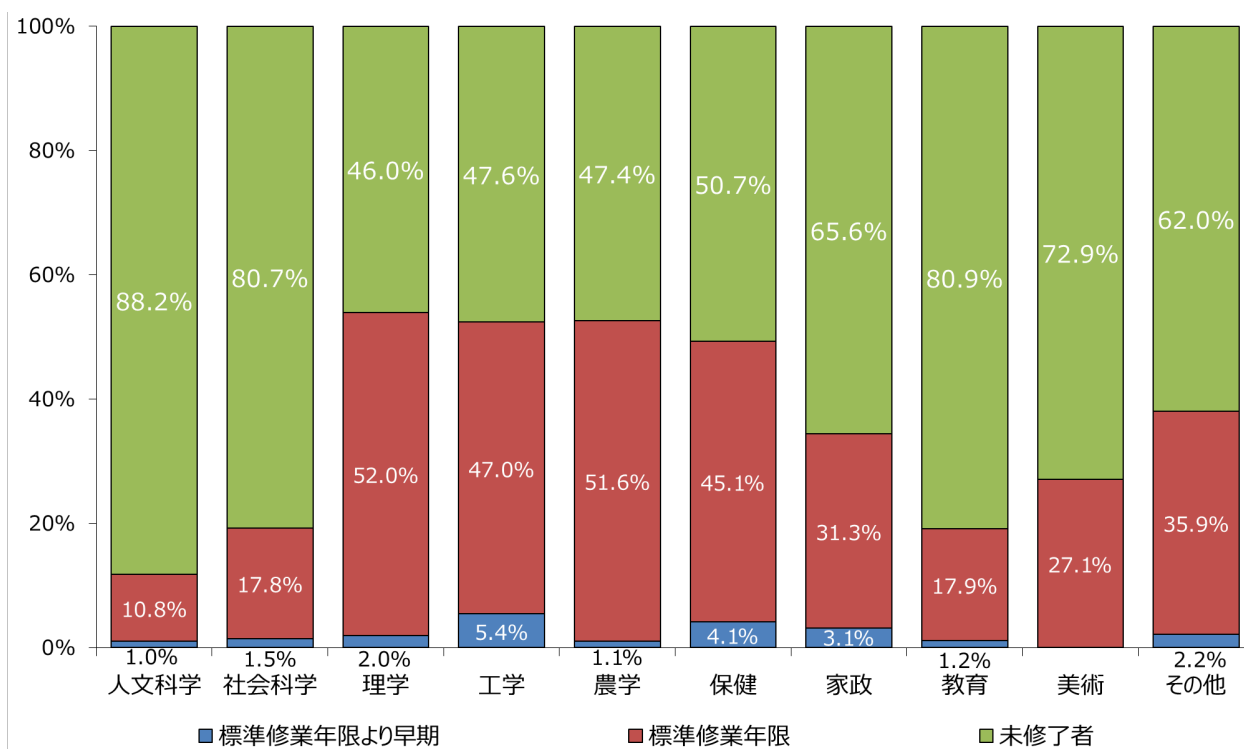
標準修業年限内で学位授与された割合		
5年一貫	博士後期	医学、歯学、薬学、獣医学の博士
21.4%	41.1%	51.5%

3-3-2 分野別

分野別に見ると、「理学」「工学」「農学」「保健」では、約5割が標準修業年限以内に学位を授与されている。

図表 3-3-2 分野別 令和4年度が標準修業年限である者のうち、

標準修業年限以内に学位を授与された者の割合

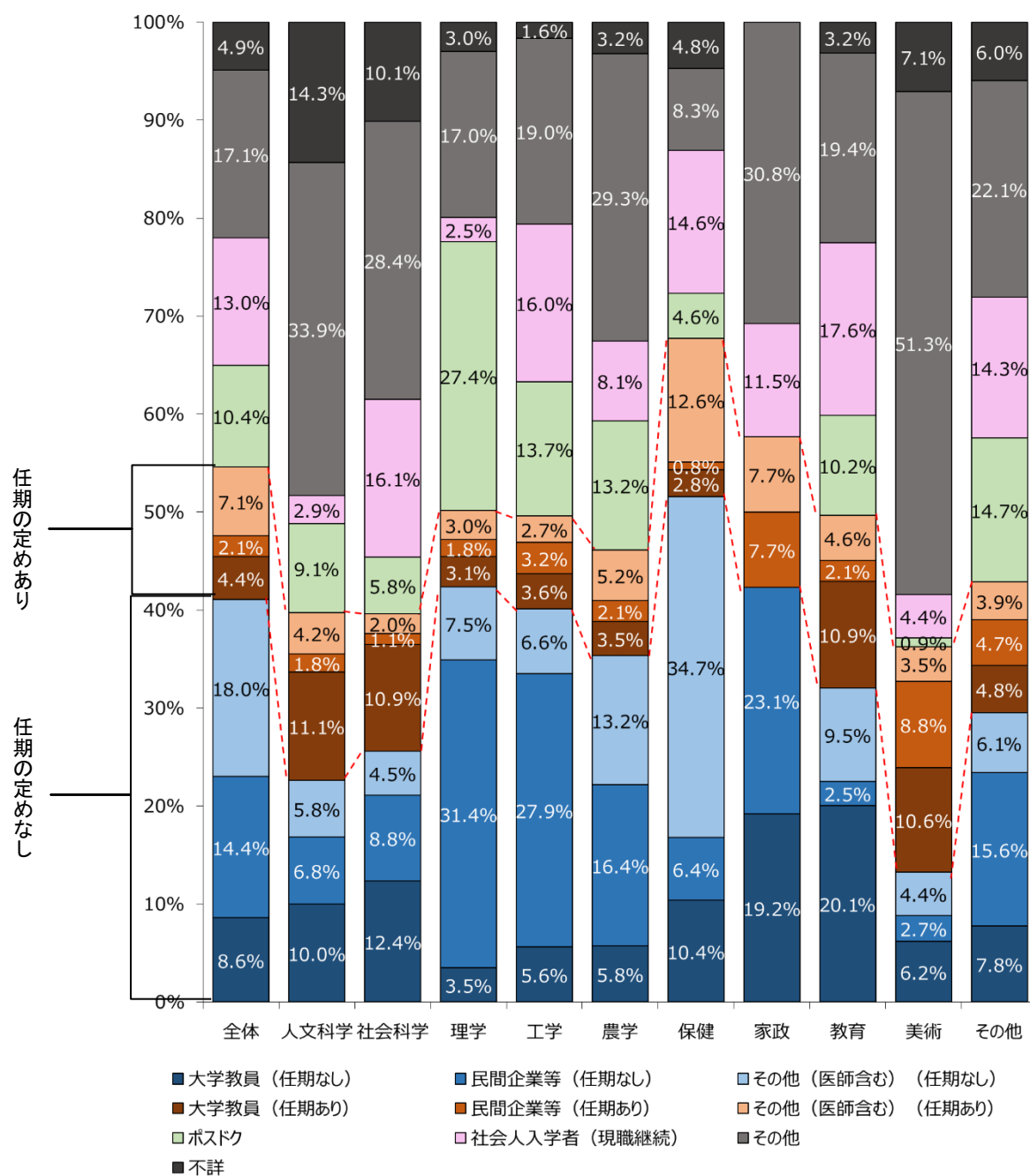


標準修業年限内で学位授与された割合									
人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	美術	その他
11.8%	19.3%	54.0%	52.4%	52.6%	49.3%	34.4%	19.1%	27.1%	38.0%

3-4 博士課程（後期）修了後の進路

令和4年度の博士課程（後期）修了者（学位授与者、満期退学者いずれも含む）の進路を以下に示す。「人文科学」「社会科学」「美術」では、任期の定めのない職に就いた者の割合が他分野と比較して低い。

図表 3-4-1 分野別 博士課程（後期）修了後の進路



※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程

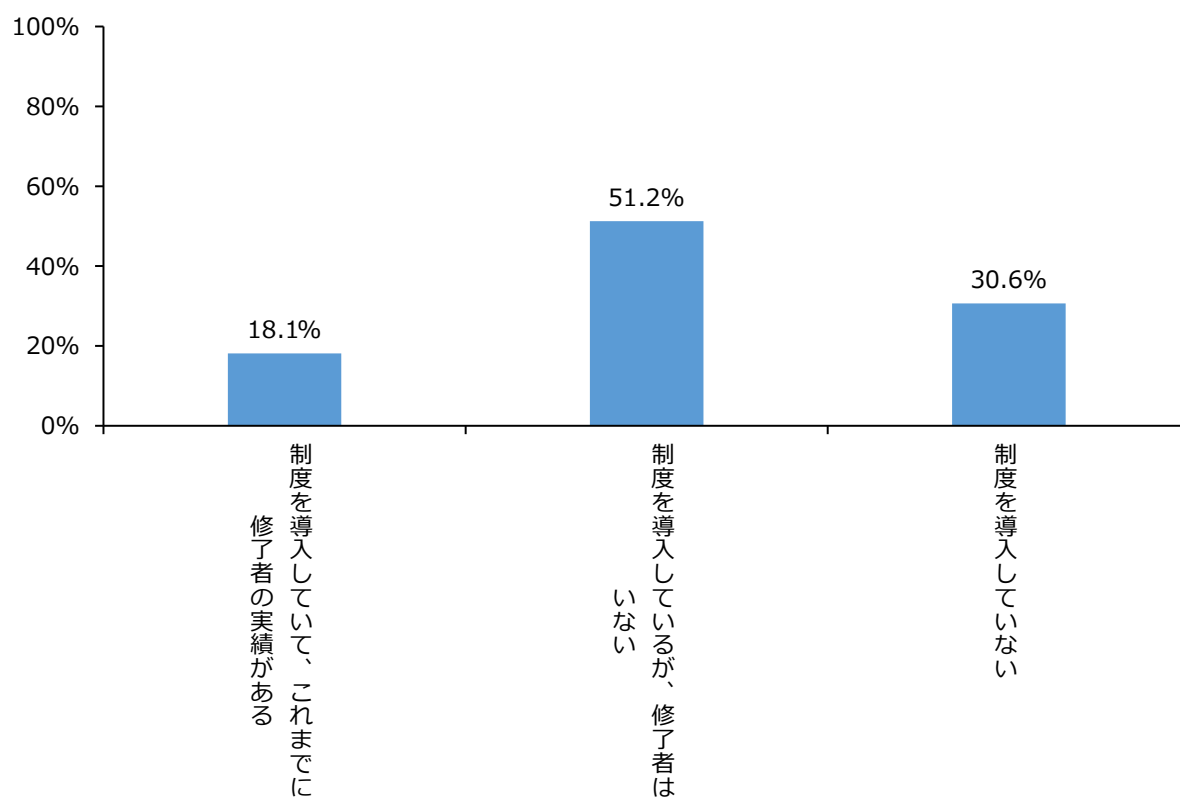
図表 3-4-2 分野別 博士課程（後期）修了後の進路

博士課程 （後期） 修了者の 進路 （令和 4年度）	就職者 任期・雇用期間の定めなし										就職者 任期・雇用期間の定めあり										起業した 者	進学者	社会人 入学者 （現職 継続）	臨床研 修医 （予定 者を含 む）	専修学 校・外国 語の学 校等入 学者	一時的 な仕事 に就いた 者	ポストク （給与 あり）	ポストク （給与 なし）	左記以 外のもの	不詳	計
	大学教 員	高等学 校教員	教員 （その 他）	民間企 業等への 就職	うち、研 究者、技 術者、そ 他専門 的な職 業従事 者	うち、左 記以外	公的研 究機関 等への就 職	官公庁 等への就 職	医師等	その他	大学教 員	高等学 校教員	教員 （その 他）	民間企 業等への 就職	うち、研 究者、技 術者、そ 他専門 的な職 業従事 者	うち、左 記以外	公的研 究機関 等への就 職	官公庁 等への就 職	医師等	その他											
全体	1,211 (8.6%)	20 (0.1%)	78 (0.6%)	2,036 (14.4%)	1,574 (11.2%)	335 (2.4%)	237 (1.7%)	135 (1.0%)	1,743 (12.4%)	332 (2.4%)	618 (4.4%)	16 (0.1%)	35 (0.2%)	298 (2.1%)	231 (1.6%)	62 (0.4%)	193 (1.4%)	24 (0.2%)	598 (4.2%)	129 (0.9%)	33 (0.2%)	81 (0.6%)	1,830 (13.0%)	19 (0.1%)	32 (0.2%)	262 (1.9%)	1,326 (9.4%)	139 (1.0%)	1,989 (14.1%)	690 (4.9%)	14,104 (100.0%)
A人文科学	76 (10.0%)	3 (0.4%)	7 (0.9%)	52 (6.8%)	18 (2.4%)	31 (4.1%)	4 (0.5%)	12 (1.6%)	1 (0.1%)	17 (2.2%)	84 (11.1%)	5 (0.7%)	5 (0.7%)	14 (1.8%)	9 (1.2%)	5 (0.7%)	5 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (2.2%)	0 (0.0%)	15 (2.0%)	22 (2.9%)	0 (0.0%)	4 (0.5%)	47 (6.2%)	41 (5.4%)	28 (3.7%)	192 (25.3%)	109 (14.3%)	760 (100.0%)
B社会科学	99 (12.4%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	70 (8.8%)	31 (3.9%)	33 (4.1%)	5 (0.6%)	12 (1.5%)	1 (0.1%)	17 (2.1%)	87 (10.9%)	0 (0.0%)	4 (0.5%)	9 (1.1%)	5 (0.6%)	2 (0.3%)	9 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	7 (0.9%)	6 (0.8%)	129 (16.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	23 (2.9%)	37 (4.6%)	9 (1.1%)	190 (23.8%)	81 (10.1%)	800 (100.0%)
C理学	40 (3.5%)	7 (0.6%)	7 (0.6%)	357 (31.4%)	281 (24.7%)	19 (1.7%)	25 (2.2%)	9 (0.8%)	1 (0.1%)	36 (3.2%)	35 (3.1%)	5 (0.4%)	2 (0.2%)	20 (1.8%)	11 (1.0%)	8 (0.7%)	9 (0.8%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	16 (1.4%)	1 (0.1%)	7 (0.6%)	28 (2.5%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	12 (1.1%)	290 (25.5%)	22 (1.9%)	172 (15.1%)	34 (3.0%)	1,138 (100.0%)
D工学	155 (5.6%)	0 (0.0%)	22 (0.8%)	766 (27.9%)	628 (22.9%)	117 (4.3%)	86 (3.1%)	26 (0.9%)	1 (0.0%)	47 (1.7%)	98 (3.6%)	1 (0.0%)	5 (0.2%)	88 (3.2%)	72 (2.6%)	14 (0.5%)	50 (1.8%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	16 (0.6%)	6 (0.2%)	5 (0.2%)	441 (16.0%)	0 (0.0%)	10 (0.4%)	26 (0.9%)	359 (13.1%)	18 (0.7%)	475 (17.3%)	45 (1.6%)	2,748 (100.0%)
E農学	41 (5.8%)	0 (0.0%)	8 (1.1%)	117 (16.4%)	93 (13.0%)	26 (3.6%)	35 (4.9%)	19 (2.7%)	18 (2.5%)	14 (2.0%)	25 (3.5%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	15 (2.1%)	12 (1.7%)	3 (0.4%)	19 (2.7%)	2 (0.3%)	4 (0.6%)	11 (1.5%)	6 (0.8%)	9 (1.3%)	58 (8.1%)	0 (0.0%)	5 (0.7%)	5 (0.7%)	85 (11.9%)	9 (1.3%)	184 (25.8%)	23 (3.2%)	713 (100.0%)
F保健	584 (10.4%)	0 (0.0%)	18 (0.3%)	363 (6.4%)	288 (5.1%)	43 (0.8%)	36 (0.6%)	28 (0.5%)	1,697 (30.1%)	177 (3.1%)	155 (2.8%)	2 (0.0%)	12 (0.2%)	46 (0.8%)	43 (0.8%)	5 (0.1%)	42 (0.7%)	16 (0.3%)	589 (10.5%)	49 (0.9%)	3 (0.1%)	26 (0.5%)	823 (14.6%)	19 (0.3%)	7 (0.1%)	87 (1.5%)	228 (4.0%)	31 (0.6%)	326 (5.8%)	268 (4.8%)	5,632 (100.0%)
H家政	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (23.1%)	5 (19.2%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (23.1%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
I教育	57 (20.1%)	5 (1.8%)	9 (3.2%)	7 (2.5%)	4 (1.4%)	2 (0.7%)	4 (1.4%)	3 (1.1%)	3 (1.1%)	3 (1.1%)	31 (10.9%)	0 (0.0%)	3 (1.1%)	6 (2.1%)	4 (1.4%)	2 (0.7%)	4 (1.4%)	1 (0.4%)	2 (0.7%)	3 (1.1%)	2 (0.7%)	4 (1.4%)	50 (17.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (2.8%)	22 (7.7%)	7 (2.5%)	41 (14.4%)	9 (3.2%)	284 (100.0%)
J美術	7 (6.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	12 (10.6%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	10 (8.8%)	3 (2.7%)	7 (6.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.5%)	5 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	52 (46.0%)	8 (7.1%)	113 (100.0%)
Kその他	147 (7.8%)	5 (0.3%)	6 (0.3%)	295 (15.6%)	224 (11.9%)	62 (3.3%)	42 (2.2%)	24 (1.3%)	21 (1.1%)	18 (1.0%)	91 (4.8%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	88 (4.7%)	71 (3.8%)	15 (0.8%)	54 (2.9%)	3 (0.2%)	1 (0.1%)	13 (0.7%)	8 (0.4%)	4 (0.2%)	271 (14.3%)	0 (0.0%)	4 (0.2%)	51 (2.7%)	264 (14.0%)	14 (0.7%)	351 (18.6%)	113 (6.0%)	1,890 (100.0%)

3-5 早期修了制度の導入状況

大学院設置基準第16条ただし書、第17条第1項ただし書、第3項ただし書に基づく優れた業績を上げた者を対象とした早期修了制度の導入状況について聞いたところ、「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」が18.1%、「制度を導入しているが、修了者はいない」が51.2%となっている。

図表 3-5-1 早期修了制度の導入状況 (n=5,762)



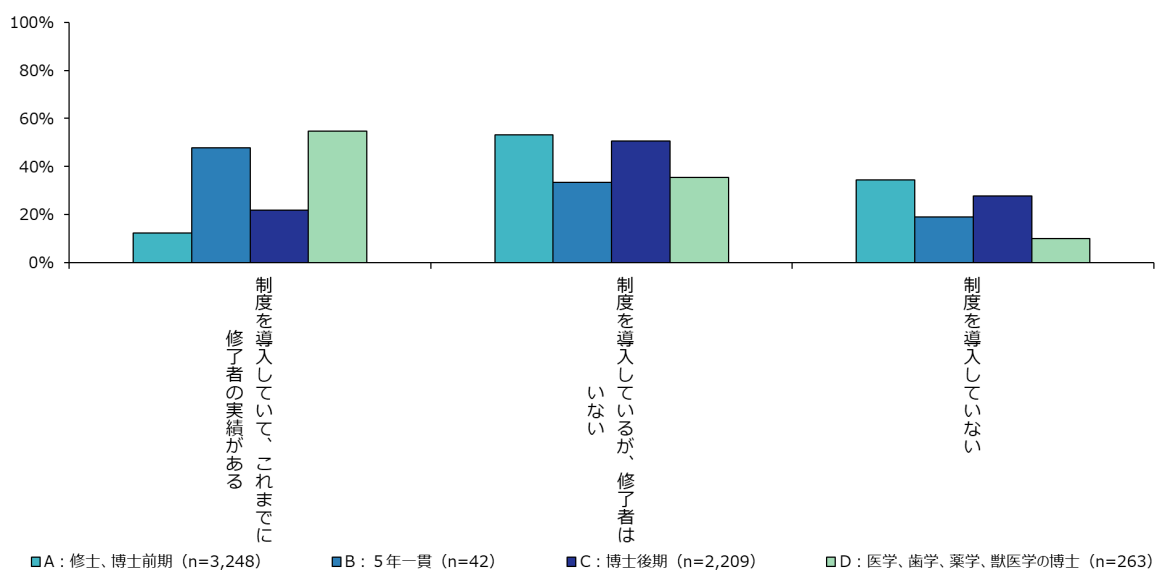
※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」のみを対象。

※専門職大学院設置基準には早期修了の規定がない。

3-5-1 課程別

早期修了制度の導入状況を課程別に見ると、「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 3-5-2 課程別 早期修了制度導入状況



	制度を導入して いて、これまでに 修了者の実績が ある	制度を導入して いるが、修了者 はいない	制度を導入して いない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	12.3%	53.3%	34.4%
B : 5年一貫 (n=42)	47.6%	33.3%	19.0%
C : 博士後期 (n=2,209)	21.7%	50.5%	27.8%
D : 医学、歯学、薬学、獣医 学の博士 (n=263)	54.8%	35.4%	9.9%

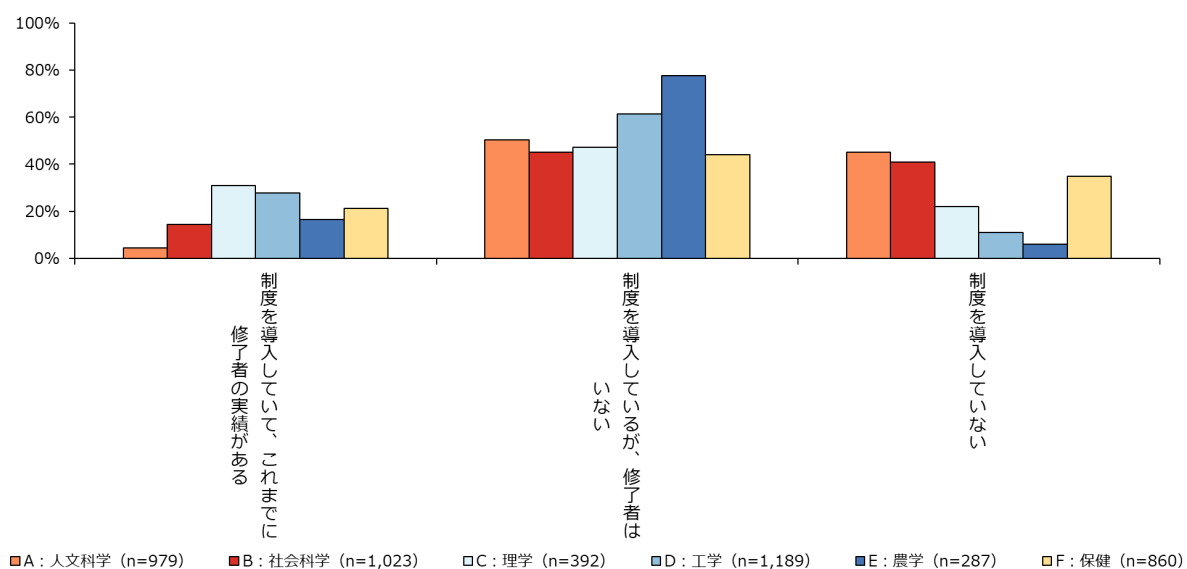
※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」のみを対象。

※専門職大学院設置基準には早期修了の規定がない。

3-5-2 分野別

早期修了制度の導入状況を分野別に示す。

図表 3-5-3 分野別 早期修了制度導入状況



	制度を導入して いて、これまでに 修了者の実績が ある	制度を導入して いるが、修了者 はいない	制度を導入して いない
A : 人文科学 (n=979)	4.5%	50.5%	45.0%
B : 社会科学 (n=1,023)	14.3%	45.0%	40.8%
C : 理学 (n=392)	30.9%	47.2%	21.9%
D : 工学 (n=1,189)	27.8%	61.3%	10.8%
E : 農学 (n=287)	16.4%	77.7%	5.9%
F : 保健 (n=860)	21.3%	44.0%	34.8%

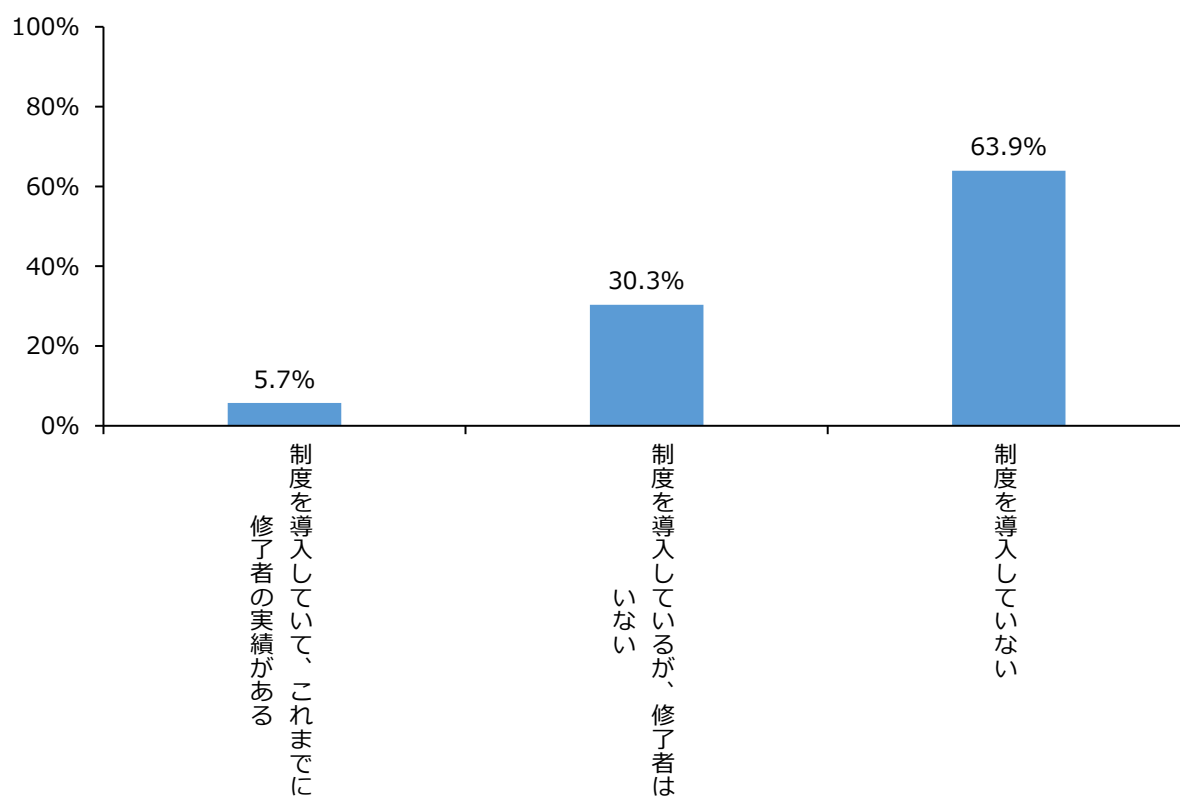
※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」のみを対象。

※専門職大学院設置基準には早期修了の規定がない。

3-6 在学期間の短縮制度の導入状況

大学院設置基準第 18 条、専門職大学院設置基準第 16 条、第 24 条、第 30 条に基づき、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮が可能となっており、制度の導入状況を聞いたところ、「制度を導入していない」の割合が 63.9%と最も高い。

図表 3-6-1 在学期間の短縮制度の導入状況 (n=3,717)



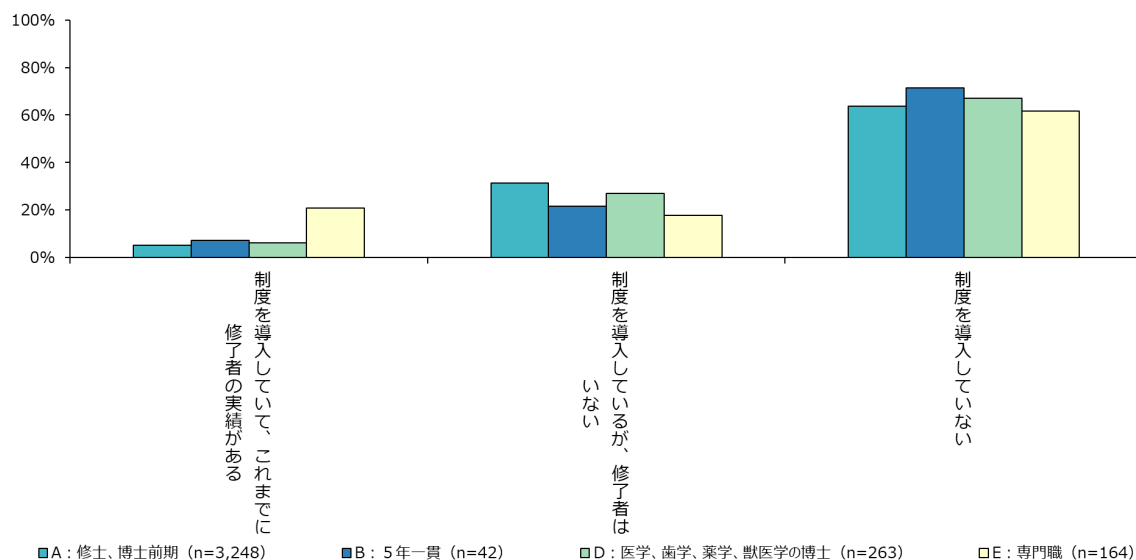
※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」のみを対象。

※博士後期課程は、大学院設置基準第 18 条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている。

3-6-1 課程別

在学期間の短縮制度の導入状況を課程別に見ると、「専門職」において「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」の割合が他の課程と比較して高い。

図表 3-6-2 課程別 在学期間の短縮制度の活用状況



	制度を導入して いて、これまでに 修了者の実績が ある	制度を導入して いるが、修了者 はいない	制度を導入して いない
A : 修士、博士前期 (n=3,248)	4.9%	31.4%	63.7%
B : 5年一貫 (n=42)	7.1%	21.4%	71.4%
D : 医学、歯学、薬学、獣医 学の博士 (n=263)	6.1%	27.0%	66.9%
E : 専門職 (n=164)	20.7%	17.7%	61.6%

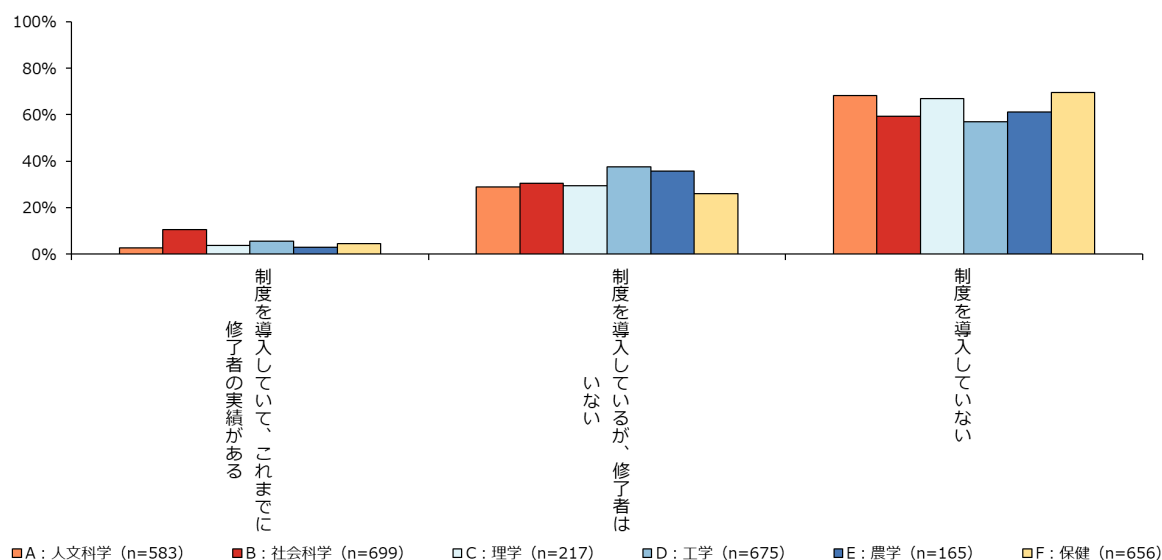
※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」のみを対象。

※博士後期課程は、大学院設置基準第 18 条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている。

3-6-2 分野別

分野別の状況を以下に示す。

図表 3-6-3 分野別 在学期間の短縮制度の活用状況



	制度を導入して、 これまで 修了者の実績が ある	制度を導入して いるが、修了者 はいない	制度を導入して いない
A : 人文科学 (n=583)	2.7%	29.0%	68.3%
B : 社会科学 (n=699)	10.4%	30.3%	59.2%
C : 理学 (n=217)	3.7%	29.5%	66.8%
D : 工学 (n=675)	5.5%	37.5%	57.0%
E : 農学 (n=165)	3.0%	35.8%	61.2%
F : 保健 (n=656)	4.4%	25.9%	69.7%

※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」のみを対象。

※博士後期課程は、大学院設置基準第18条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている。

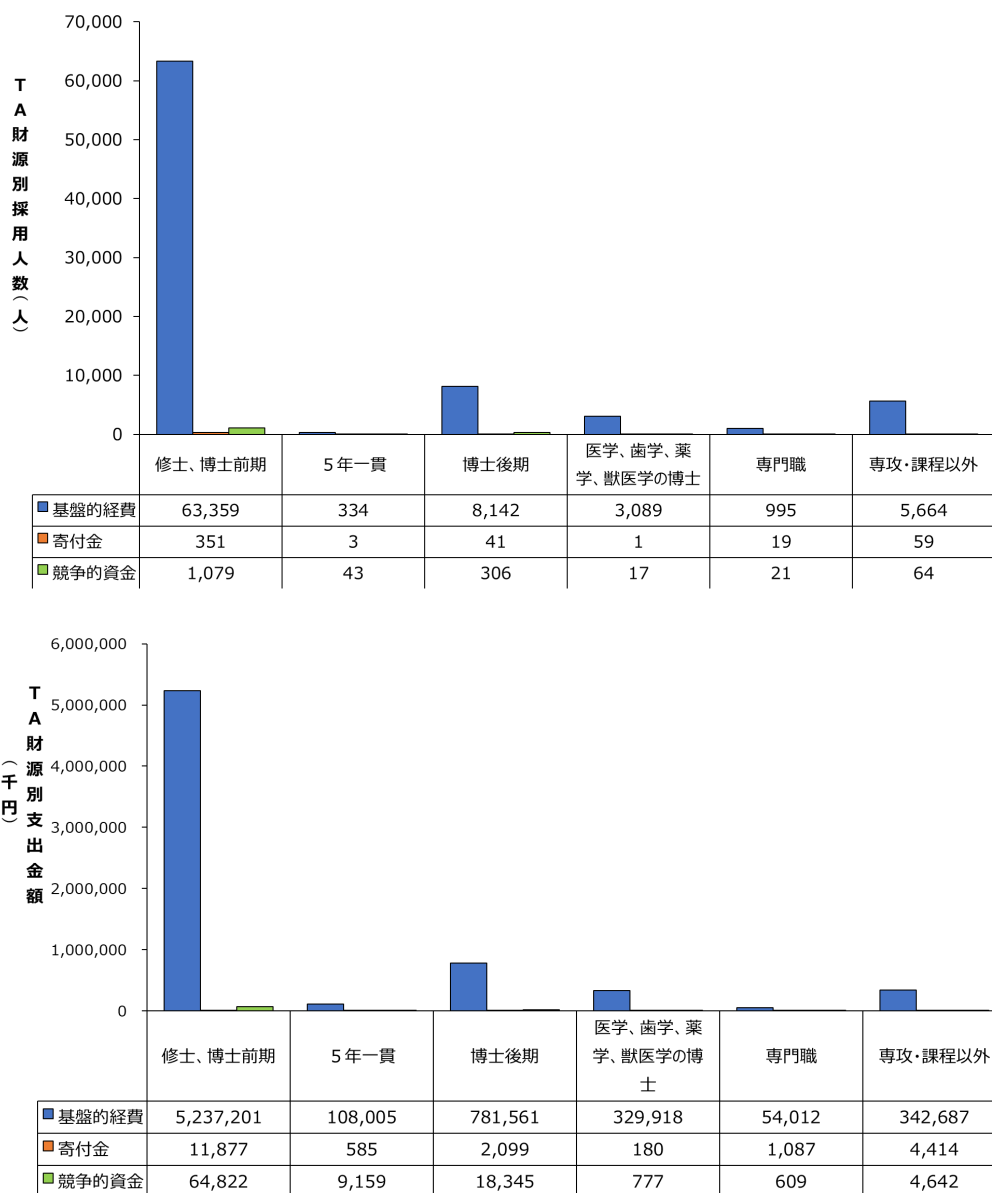
3-7 TA・RA雇用の実績

3-7-1 課程別

(1)TA

財源別のTAの雇用実績（採用人数¹・支出金額）を課程別に示す。

図表 3-7-1 課程別 TA雇用の実績



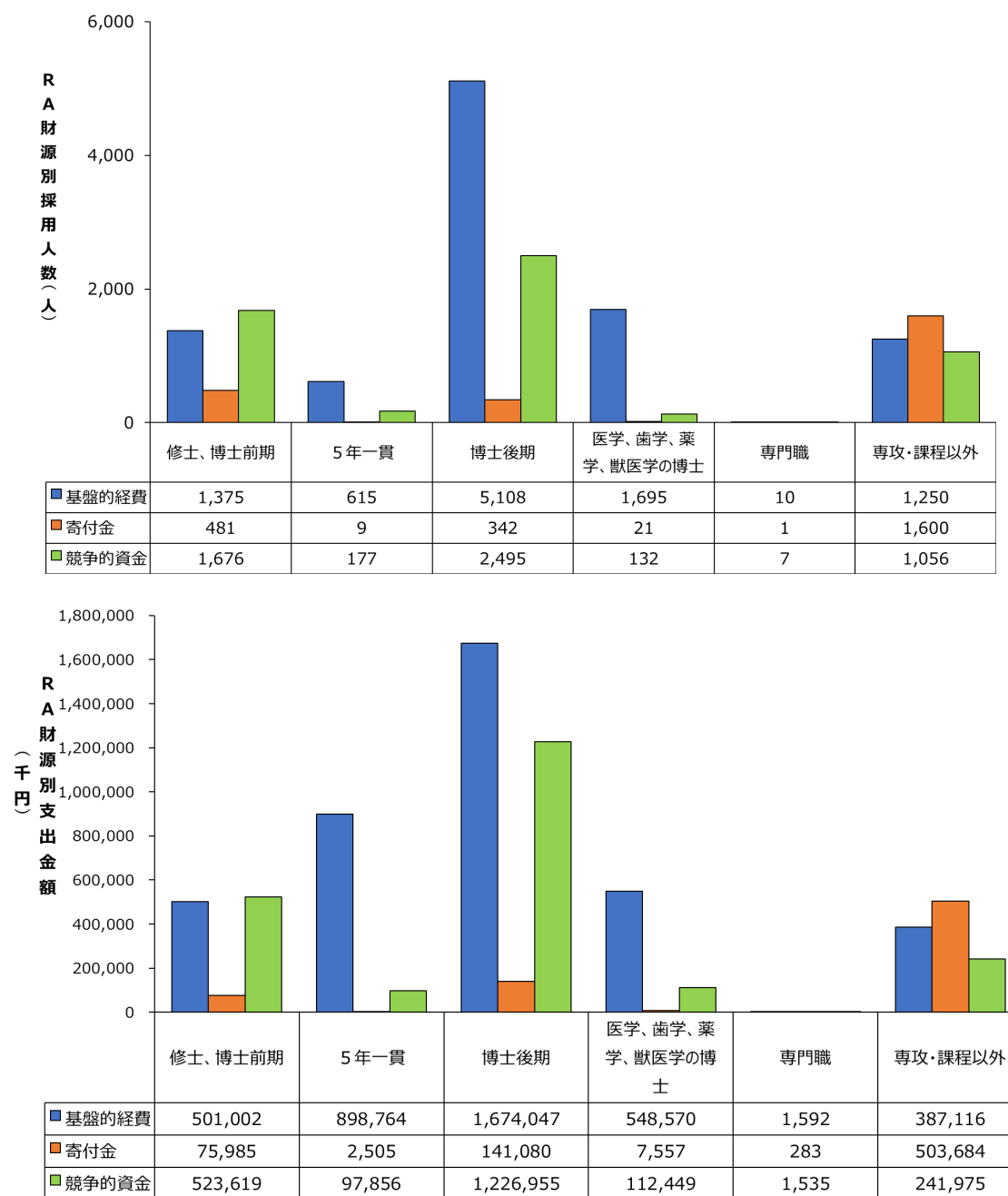
※専攻・課程以外は、特定の専攻での雇用ではなく、全学等での雇用を指す。

¹ 一人のTAが複数の財源から手当を受ける場合、複数回カウントしている。（例：1名のTAが基盤的経費、競争的資金それぞれから手当を受ける場合、それぞれに「1名」を計上）次頁のRAについても同様である。

(2)RA

財源別のRAの雇用実績（採用人数・支出金額）を課程別に示す。TAと比べて競争的資金の割合が高い。

図表 3-7-2 課程別 RA雇用の実績



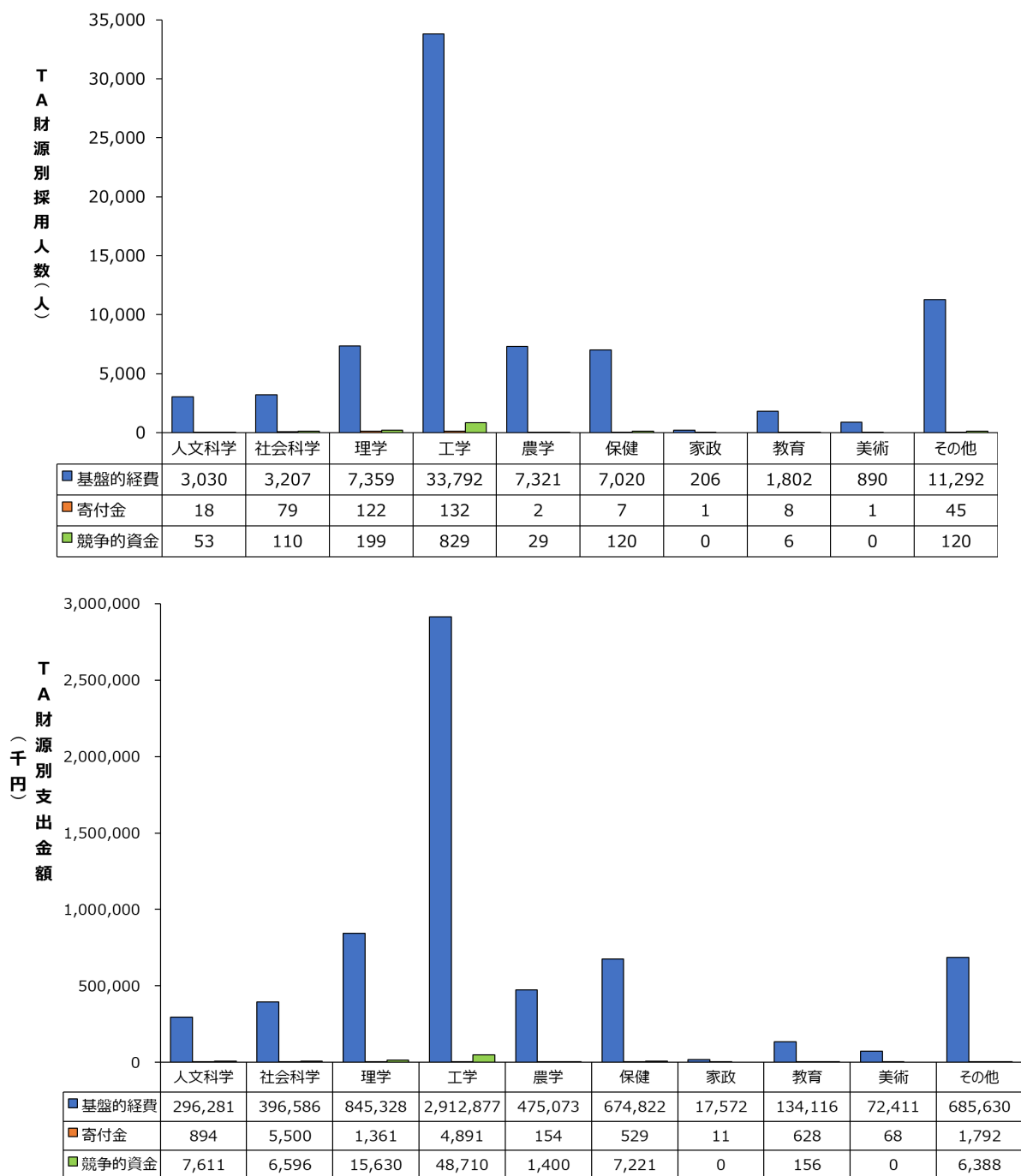
※専攻・課程以外は、特定の専攻での雇用ではなく、全学等での雇用を指す。

3-7-2 分野別

(1)TA

財源別のTAの雇用実績（採用人数・支出金額）を分野別に示す。

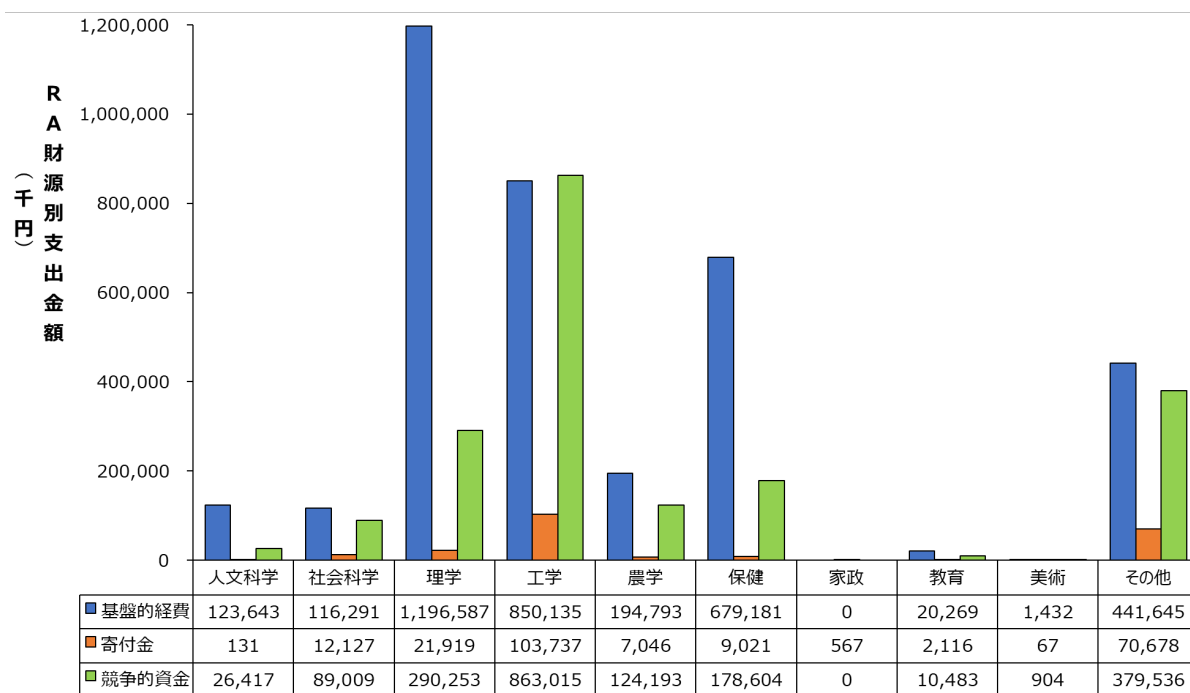
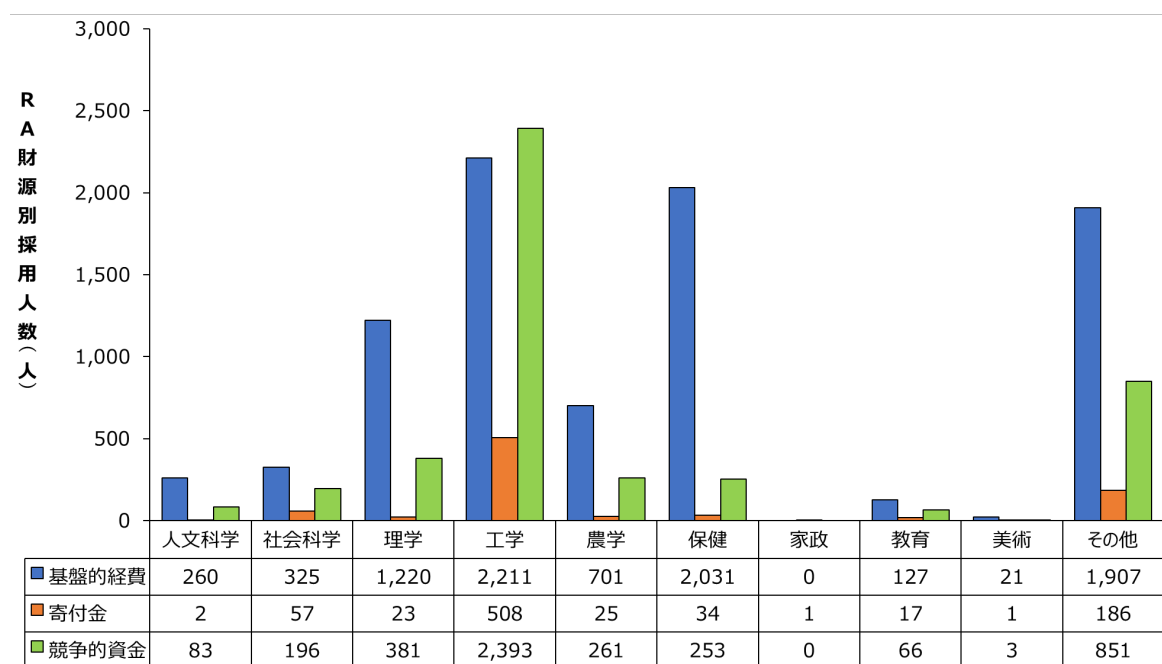
図表 3-7-3 分野別 TA雇用の実績



(2) R A

財源別の R A の雇用実績（採用人数・支出金額）を分野別に示す。

図表 3-7-4 分野別 R A 雇用の実績



参考資料

参考資料 1 : 令和 4 年度大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究
(大学院活動状況調査) 回答の手引き

参考資料 2 : 調査票

令和4年度大学院における教育改革の実態把握・分析等 に関する調査研究（大学院活動状況調査） 回答の手引き

1. 本メールから調査票等のファイルを取得されましたら、受領確認のメールをお送りください。

調査票等のファイルを取得されましたら、直ちに、受領確認の電子メールをお送りください。

送信先メールアドレス	: inchosa@libertas.co.jp
送信メールの件名	: (学校コード)【受領確認】〇〇大学 (※)
	(※)メール件名の「学校コード」は、回答票のシート「学校コード」により記載してください。
送信メールの本文	: 以下の内容を明記してください。 大学名、担当部署、担当者氏名、連絡先（電話番号、メールアドレス）
送信期限	: 令和5年11月16日（木）17時 (※)
	(※)期限までにご連絡いただけない場合は、確認のため、ご連絡させていただきます。

2. 回答票は、令和5年12月15日（金）までに、電子メールにてご提出ください。

回答は、以下の要領によりご提出ください。

提出先メールアドレス	: inchosa@libertas.co.jp
提出メールの件名	: (学校コード)【回答】〇〇大学 (※)
提出ファイル名	: (学校コード)【回答】〇〇大学 (※)
	(※)メール件名、提出ファイル名の「学校コード」は、回答票のシート「学校コード」により記載してください。
提出期限	: 令和5年12月15日（金）17時 (※)
	(※)期限までにご連絡いただけない場合は、確認のため、ご連絡させていただきます。

3. お問い合わせは電子メールでお願いします。

本調査に関するお問い合わせは、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 1週間以内
にご回答いたします。

質問用メールアドレス : inchosa@libertas.co.jp

質問メールの件名 : (学校コード)【質問】〇〇大学 (※)

(※)メール件名の「学校コード」は、回答票のシート「学校コード」により記載してください。

【ご回答の注意点】

別紙の調査回答票ご記入に際しましては、以下の点にご留意頂きたいいたします。

【様式〇～１８】共通

- ・回答にあたっては、「水色のセル」にご入力ください。
- ・個別の指示がない場合は、**令和4年4月1日から令和5年3月31日まで**の情報をご回答ください。
- ・回答用紙ファイルのセルの結合や、「〃」等の記号での記入等は、集計作業に影響が出ますので、シートを加工することなく全てのセルに文字等をご記入ください。
- ・取組等の実施有無について、「実施した」は「○」、「実施していない」は「×（または空欄）」とお答えいただく質問がありますのでご注意ください。
- ・記入行は十分な数をご用意しておりますが、万が一、不足した場合には、inchosa@libertas.co.jp、までご連絡をお願いいたします。

【様式〇】について

- ・回答される方の情報をご記入ください。
- ・学校コードは、シート『学校コード』から該当する学校コードをご記入ください。大学名は自動で表示されます。
- ・メールアドレスは、係や課のアドレスで登録をお願いします。

【様式１】について

1. 基本情報、学生情報
(〇)専攻・課程情報
 - ・D～K 列に、貴大学院の全ての研究科・専攻・課程・標準修業年限等在学期間に関する事項・大分類・修了に必要な単位数についての情報をご記入ください。
 - ※**令和4年度の段階で廃止となった専攻(学生募集停止をしていた専攻)については、本調査でお答え頂く必要はありません(学生数なども)。**
 - ※**令和4年度に新設された専攻については、様式2以降に回答できない設問がある場合、その設問については回答不要です。**
 - ・「専攻・課程情報」は、各専攻・課程ごとに、1行ずつご回答ください(修士課程と博士課程をもつ専攻や、区分制の博士課程の専攻については、修士課程／博士課程前期と、博士課程後期、それぞれにご回答ください。(計2行回答))
 - ・「課程」欄については以下(A～E)よりお選びください。なお、各様式によってお答えいただく対象となる課程が異なる場合がありますのでご注意ください。

- A: 修士 A': 博士前期
 B: 5年一貫
 C: 博士後期
 D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士
 E: 専門職

- ・「標準修業年限」欄については、該当するものを1つお選びください。
- ・「早期修了制度の活用状況」については、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条ただし書、第17条第1項ただし書、第3項ただし書に基づき、優秀な業績を上げた者を対象とした早期修了制度の導入状況、活用状況について、該当する選択肢(制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある／制度を導入しているが、修了者はいない／制度を導入していない)を1つお選びください。
- ・「在学期間の短縮制度の活用状況」については、大学院設置基準第18条1項、専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令第16号)第16条、第24条(法科大学院)、第30条(教職大学院)に基づき、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮を可能とする制度の導入状況、活用状況について、該当する選択肢(制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある／制度を導入しているが、修了者はいない／制度を導入していない)を1つお選びください。なお、本設問は、法科大学院における専門職大学院設置基準第25条第1項(法学既修者)に基づく在学期間の短縮に関するものではない点に留意してください。
- ・「大分類」欄については、シート『別紙1分野』の「専攻分野の種別」を参照して、回答票「大分類」欄から該当する以下のアルファベット(A～K)を1つお選びください。
 A 人文科学, B 社会科学, C 理学, D 工学, E 農学,
 F 保健, G 商船, H 家政, I 教育, J 美術, K その他

(1) 学生情報

- ・(O)で入力した全ての専攻・課程について、L～R列にお答えください。
- ・基本的に、学校基本調査で回答した学生数になります。秋入学は入学者数に含めません。
- ・社会人の定義: ①職に就いている者(給料, 賃金, 報酬, その他の経常的な収入を得る仕事に現に就いている者), ②給料, 賃金, 報酬, その他の経常的な収入を得る仕事から既に退職した者, ③主婦・主夫。 ※学校基本調査の定義になります。

【様式2】について

2. 研究指導委託等の実施状況

- ・【様式1】(O)で入力した全ての専攻・課程が自動表記されます。
- (2) 専攻・課程別に、令和4年度の研究指導委託の実施有無をお答えください。
- ・全ての専攻・課程について、H列「研究指導委託の実施」の有無をお答えください。
- ・「研究指導委託の実施」の実施有無を回答する場合、「実施した」は「○」、「実施していない」は「×」とお答えください。

- ・研究指導委託を実施している(○)の専攻・課程については、該当する国内・海外別に、派遣先機関に○とご回答ください。(○と回答した場合、回答欄が表示されます。)

※研究指導委託は、大学院設置基準第13条第2項に基づき、学生が他の大学院又は研究所において必要な研究指導を受けることを認める制度です。

【様式3】について

3. 卒業後の進路

- ・【様式1】(0)で入力した専攻・課程のうち、「**B:5年一貫**」「**C:博士後期**」「**D:医学、歯学、薬学、獣医学の博士**」課程のみ、回答欄が表示されます。I～AL列にお答えください。
- (3)専攻・課程別に、令和4年度の博士課程(後期)修了者(学位授与者、満期退学者いずれも含む)の進路(令和5年5月1日現在)をご記入ください。
- ・「民間企業への就職」については、「研究者、技術者、その他専門的な職業従事者」「左記以外」ごとの就職者数をご記入ください。

【様式4】について

4. 雇用について

- (4)専攻・課程別に、令和4年度のTA・RAの雇用実績についてご記入ください。
- ※1 No.0の「専攻・課程以外の雇用」については、各専攻・課程等に所属せず大学院として一括で雇用管理しているTA・RA等、No.1以降に含まれないTA・RAの人数を全てご記入ください。
- ※2 TA(ティーチング・アシスタント)とは、学部学生等に対するチュータリング(助言)や実験、実習、演習等の教育補助業務(具体的には、演習のディスカッションリーダー、レポート・試験等の採点など)を行い、これに対する手当てを支給される大学院学生を指します。
- ※3 RA(リサーチ・アシスタント)とは、大学等が行う研究プロジェクト等の研究補助業務(具体的には、データ処理業務、各種実験の実施及び補助、研究設備の運転・整備等)を行い、これに対する手当てを支給される大学院学生を指します。
- ※4 TA・RAの採用学生数については、令和4年度の実績について、『競争的資金等』の欄には競争的資金等の国からの競争的な補助金・委託費を財源としたTA・RA数を、『寄付金等』の欄には寄付金等の国からの補助金・委託費以外の外部資金を財源としたTA・RA数を、『基盤的経費等』の欄には運営費交付金、私学助成等補助金及び授業料収入等の内部資金を財源としたTA・RA数を記入願います。また、財源別にそれぞれ令和4年度のTA・RAとして支出した実績金額を千円単位(**千円未満四捨五入**)でご記入ください。なお、ここでは『採用人数』に関しては実数をご記入ください。

【様式5～11】について

6. 大学院改革に関する取組状況

中央教育審議会大学分科会等での審議等を踏まえた大学院改革に関する取組状況(体系的な大学院

教育の取組内容の推進)について、(1)から(4)までの設問について具体的な取組として行っているものをお選びください(複数選択可)。

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

・各取組については、専攻独自の取組だけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも、「実施している」として、ご回答ください。

【様式5】

(1)体系的な大学院教育の取組内容の推進

- ①学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している。
- ②主専攻分野外の分野の授業科目の体系的な履修を行っている。
- ③専攻又は研究科を横断して共通のコア科目を設置している。
- ④教養科目を設置している。
- ⑤研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している。(※)
(⑤で○の場合、具体的な取り組みをa～gでお選びください)(複数回答可)
 - a 研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している(必修)
 - b 研究手法を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している(選択)
 - c 必要に応じて、論文作成や統計解析等の必修科目を設置している
 - d 必要に応じて、論文作成や統計解析等の選択科目を設置している
 - e 研究科や専攻において身に付けるべきスキルを明示した上で、個々の教員が研究指導を実施している
 - f 個々の教員が研究指導を実施しており、具体的な指導方法は各教員に委ねられている
 - g その他
- ⑥研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している。
- ⑦複数専攻制を実施している。
- ⑧初年次等に研究室のローテーションを実施している。
- ⑨外国の大学等での教育研究の機会を提供している。
- ⑩学外との連携により教育カリキュラムの構築を行っている
(⑩で○の場合、学外の連携先をa～gでお選びください)(複数回答可)
 - a 企業等産業界
 - b 公的研究機関
 - c NPO・NGO
 - d 自治体、官公庁
 - e 国内他大学院
 - f 国外他大学院
 - g その他
- ⑪メンターによる授業外サポートを提供している
- ⑫異分野の教員や学生間で切磋琢磨できる環境を整備している
- ⑬寄付等、企業等から大学院教育に使用可能な外部資金がある
- ⑭共同研究におけるRA経費を企業が負担する環境を整備している

⑮社会で広く活用できる汎用的なスキル(トランスファラブルスキル)の教育について、身に付けさせるスキルと対応するプログラムが整理されたうえで実施されている

(⑮で○の場合、どのようなスキルかa～gでお選びください)(複数回答可)

- a 最先端の知にアクセスする能力
- b 自ら課題を発見し設定する力
- c 自ら仮説を構築し、検証する力
- d 社会的・経済的価値を判断・創出する能力
- e 高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力
- f 倫理観
- g マネジメント能力

⑯その他 Society 5.0 を先導する人材として身に付けるべき知識・技能の教育について、身に付けさせる知識等と対応するプログラムが整理されたうえで実施されている

(⑯で○の場合、どのような知識等かa～eでお選びください)(複数回答可)

- a STEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)分野の基礎的な知識
- b データサイエンスの知識
- c 知的財産に関する知識
- d ビジネスに関する知識
- e その他

⑰①～⑯の取組を行っていない

※⑤について、【研究手法を身につける科目を設置している。】とあるが、ここでは、研究手法を身につける内容に特化した科目以外に、このような内容を含む科目や研究指導を対象に含みます。

【様式6】

(2)組織的な教育・研究指導体制の確立

i. 教員の業績評価についてお答えください。

- ①研究実績の観点での教員の業績評価を実施している
- ②授業の観点での教員の業績評価を実施している
- ③研究指導の観点での教員の業績評価を実施している
- ④①～③の取組は行っていない

ii. 学生による教員の評価についてお答えください。

- ①学生による教員の授業評価を実施している
- ②学生による教員の研究指導評価を実施している
- ③①～②の取組を行っていない

【様式7】

・(3)については、『B:5年一貫制博士課程』『C:博士後期』『D:医学、歯学、薬学、獣医学の博士』課程のみ回答欄が表示されます。G～AA列にお答えください。

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

(3) 研究倫理教育の実施と博士論文の指導・審査体制の改善

i. 研究倫理教育、指導体制についてお答えください

- ①研究室以外で研究倫理教育を受ける機会を提供している
- ②責任体制を明確にした上で、複数の指導教員による論文指導体制を構築している
- ③学生の研究遂行能力を適切に把握するため、適宜研究の進捗状況発表や口頭試験を実施するなど、進捗度や理解度を確認する仕組みを整備している
- ④博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している
- ⑤確実に論文指導の時間を確保するためのオフィスアワーを設定している
- ⑥粗悪学術誌の対策を行っている
- ⑦①～⑥の取組を行っていない

ii. 博士論文の審査体制についてお答えください

- ①指導教員が学位審査に関与しないこととしている
- ②学位審査において、学外の審査委員を登用している
- ③審査委員が学位審査に当たって博士論文を精読する時間を十分に設けている
- ④学位審査に係る委員名を公表している
- ⑤論文発表会を公開で実施している
- ⑥学位申請を年間に複数回申請できる仕組みを整備している
- ⑦類似度判定等の盗用の有無等を確認するシステムを必ず利用している
- ⑧英語での論文作成や審査を認めている
- ⑨①～⑧の取組を行っていない

【様式8】

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

(4) 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築等

- ①大学院生を対象としたプレFDを実施している。
 - ②他大学等における自大学の学生が参加できるプレFDの情報提供を行っている。
 - ③①、②の取組を行っていない
- (①で○の場合、どのような取組を行っているかa～gから選択してください。○をつけた取組は「対象者(全員／希望者)」、「実施形態(単位授与／それ以外)」についてもお答えください。)(複数回答可)
- a 学生指導方法や教材作成方法等、教育能力向上を目的とした講義等の取組を実施している
 - b 外部から専門家を招いて講義等を行っている
 - c TA や RA 業務にあたって、授業設計等教育能力向上を目的とした研修を大学として組織的に行っている
 - d TA・RA 業務など対価を伴うかたちで実践的な教育経験の機会を提供している
 - e 教育関係共同利用拠点等を活用した取組を行っている
 - f 大学内外で行われる若手研究者や大学教員の養成プロセスとの有機的な接続も考慮した取組を行っている
 - g その他

【様式9】

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

(5) 大学院修了者のキャリアパスの確保と可視化の推進

i. 状況把握についてお答えください

①修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している

(①で○の場合、何年継続して把握しているかをA～Dから1つだけお選びください。)

A ～2年

B 2年超～5年

C 5年超～10年

D 10年超～

(①で○の場合、どのようにして把握しているかをa～dからお選びください。)(複数回答可)

a 大学本部で把握

b 研究科や専攻等の部局が独自に把握

c 同窓会組織等の大学組織とは別組織で把握

d その他

②修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公開している(※)

③修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる

④博士人材データベース(JGRAD)への学生の登録を推進している

⑤①～④の取組を行っていない

※②について、【インターネット等で公開】とありますが、掲載先を学部や専攻の HP に限定していません。そのため、全学の HP (パンフレット等も可) への記載を含めて回答ください。

また、就職状況の【詳細】について、最低限、就職先の情報があれば問題ありません。

【様式10】

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

(5) 大学院修了者のキャリアパスの確保と可視化の推進(続き)

ii. 大学院としての組織的な学生に対する就職支援についてお答えください

①大学院修了後の就職を企業と合意(予約採用)した状態で学生を受け入れる制度がある

②民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業人を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている

③学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている

④博士課程学生専用の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている

⑤インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している

⑥大学院修了者のキャリアパスに関する認識を高めるため、大学と産業界との間での対話の機会を設けている

⑦若手研究者を対象にポストの拡充等を行い、安定かつ自立して研究を推進できる環境を整備している

⑧アントレプレナーシップ教育の充実を図っている

⑨その他

⑩①～⑨の取組を行っていない

【様式11】

・(5)については、『A:修士』『A':博士前期』『B:5年一貫制博士課程』『C:博士後期』『D:医学、歯学、薬学、獣医学の博士』課程のみ回答欄が表示されます。H～M列にお答えください。

・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

(5)大学院修了者のキャリアパスの確保と可視化の推進(続き)

iii. 大学院としての組織的な、大学院各課程へのリクルート活動についてお答えください

①最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する

②大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す

③具体的なロールモデルを提供する

④学費や経済的支援メニュー等の情報(ファイナンシャル・プラン)を提供する

⑤その他

⑥①～⑤の取組を行っていない

【様式12】について

6. 入学試験について

・各課程への入学試験の項目をお答えください。

・各項目については、専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。(複数選択可)

・各項目については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。

・令和4年度入学生に対する(令和3年度に行われた)入試についてお答えください。

・志願者がいない等で入試を実施していない場合でも、募集をしていた場合は実施予定の試験項目をご回答ください。

(1)入試の状況

各課程の入学試験の項目をお答えください

①研究報告書

②進学後の研究計画書

③研究業績(論文数等)

④口頭試問

⑤グループ討論

⑥講義体験及びレポート等課題提出

⑦筆記試験

⑧GPAの判定

⑨独自の英語試験

⑩外部の英語資格・検定試験

⑪その他

【様式13】について

7. リカレント教育について

- ・リカレント教育について、具体的な取組として行っているものをお選びください(複数選択可)。
- ・各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とお答えください。
- ・各取組については、専攻独自の取組だけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも、「行っている」としてご回答ください。

(1)リカレント教育の推進

社会人学生受け入れのために、どのような取組を行っているかお答えください。

- ①関係機関(業界団体や教育関連企業等)との連携
- ②土日夜間授業の実施
- ③長期在学コースや長期履修制度の設置
- ④社会人入試の実施
- ⑤自大学のHP以外での広報活動、情報提供
- ⑥履修証明プログラムの開講
- (⑥で○の場合、単位授与を可能としているか(全プログラムで可/一部プログラムで可/不可))
- ⑦企業等との共同研究の一環としての学生の受入れ
- ⑧通学や事務手続等における負担軽減
- ⑨学位審査における利益相反や知財関係の整理・サポート
- ⑩その他
- ⑪①～⑩の取組を行っていない

【様式14～17】について

8. 学位について

学位について、(1)から(6)までの設問についてご回答ください。

【様式14】

- ・(1)については、『A:博士課程(前期)』『B:5年一貫制博士課程』のみ回答欄が表示されます。
- (1)博士論文研究基礎力審査の導入状況についてお答えください。
- ・平成24年3月の大学院設置基準等の改正により、博士課程の前期・後期を通じ一貫した人材養成目的を持つプログラムにおいて、前期の課程を修了し修士号を授与する条件として、大学の判断により、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代えて、「博士論文研究基礎力審査」を取り入れることができることとなりました。(大学院設置基準第16条の2)。この導入状況についてH～R列にお答えください。(「導入している」と回答した場合、回答欄が表示されます。)
- ・「審査により修士号を授与した人」のうち「博士後期課程に進学しなかった人」については「進学しなかった理由」を具体的にお答えください。

【様式15】

・(2)については、『B:5年一貫制博士課程』『C:博士後期』『D:医学、歯学、薬学、獣医学の博士』課程のみ回答欄が表示されます。H～U 列にお答えください。

(2)学校教育法第 104 条第3項に基づく博士学位(課程博士)授与にあたっての条件をお答えください。
専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。

各取組については、専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。(複数選択可)

(2)課程博士

- ①査読付き論文の本数
- ②国際学会での発表回数
- ③外国語試験の合格
- ④口頭試問
- ⑤筆記試験
- ⑥その他
- ⑦①～⑥の条件を課していない

(3)学校教育法第 104 条第4項に基づく博士学位(論文博士)授与にあたっての条件をお答えください。
専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。

各取組については、専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。(複数選択可)

(3)論文博士

- ①査読付き論文の本数
- ②国際学会での発表回数
- ③外国語試験の合格
- ④口頭試問
- ⑤筆記試験
- ⑥その他
- ⑦論文博士の授与を行っていない

【様式16】

・(4)については、『B:5年一貫』『C:博士後期』『D:医学、歯学、薬学、獣医学の博士』課程のみ(標準修業年限「その他」の場合を除く)、回答欄が表示されます。I～J、L～O列にお答えください。

(4)専攻・課程別に、「課程博士」の学位授与についてご記入ください。

(4)学位授与状況(課程博士)

・ご参考までに、H列に課程別の標準修業年限、K 列に入学時年度が表示されます。

例えば、標準修業年限が5年の課程の場合:標準修業年限の学位取得者は、平成 29 年秋または平成 30 年4月の入学者

標準修業年限が3年の課程の場合:標準修業年限の学位取得者は、令和元年秋または令和2年4月の入学者

- ・(5)については、**全ての専攻・課程**についてお答えください。
 - ・専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。(複数選択可)。
- (5)大学院設置基準第14条の2第2項において学位論文に係る評価の基準を学生に対して明示することが定められていたところ、令和元年8月30日の学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)の改正により、その情報公表が義務化されました。学校教育法施行規則第172条の2第3項の規定に基づく学位論文に係る評価に当たっての基準を公表状況についてご回答ください。
- (5)学位に関する情報公表の状況
- ①学位授与状況について公表している
 - ②学位論文に係る評価に当たっての基準を公表している
 - ③①、②に当てはまるものはない

【様式17】

- (6)貴学の大学院における学位の取消規定についてお答えください(複数選択可)。

※大学院全体の状況をお答えください。

(6)学位取消

- ①学位規程に学位の取消に関して規定している
- ②学位の取消の手続きに係る規定(または規程)がある
- ③学位の取消の公表に係る規定(または規程)がある
- ④上記規定(または規程)に基づいて、または慣例として、学位の取消を行った場合、大学として公表することとされている
- ⑤①～④に当てはまるものはない

【様式18～19】について

【様式18】

9. 経済的支援について

- (1)大学院における独自の経済的支援の取組についてご記入ください(複数の制度がある場合は、全ての制度についてご記入ください)。

※大学院全体の状況をお答えください。

※1 大学院生を対象に、大学院が独自で設けている授業料減免制度の名称、総減免額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の減免額、うち博士課程(後期)の学生の減免額、うち専門職学位課程の学生の減免額)、総減免者数(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の減免者数、うち博士課程(後期)の学生の減免者数、うち専門職学位課程の学生の減免者数)の令和4年度の実績を記入してください。

- ・授業料減免については、学部生、大学院生の区別なく対象としている場合も含めて回答してください。大学院生が受けた授業料減免について記入してください。

・入学金や諸費用などは含まず、授業料のみの減免額をお答えください。

※2 大学院生を対象に、大学院が独自で設けている奨学金制度の名称、総受給金額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給額、うち博士課程(後期)の学生の受給額、うち専門職学位課程の学生の受給額)、総受給者数(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給者数、うち博士課程(後期)の学生の受給者数、うち専門職学位課程の学生の受給者数)の令和4年度の実績を記入してください。

・奨学金制度については、学部生、大学院生の区別なく対象としている場合も含めて回答してください。大学院生が受けた奨学金制度について記入してください。大学基金や後援会、同窓会による奨学金制度も含みます。日本学生支援機構の奨学金、財団や民間企業等の外部機関による奨学金制度は含みません。

・一部の研究科のみを対象の奨学金制度についても制度名称の最後に(〇〇研究科のみ)のように記載してお答えください。

※3 大学院生(個人及びグループ)を対象に、大学院が独自で設けている研究費助成制度の名称、受給総額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給額、うち博士課程(後期)の学生の受給額、うち専門職学位課程の学生の受給額)、受給者数(グループ数)(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給者数、うち博士課程(後期)の学生の受給者数、うち専門職学位課程の学生の受給者数)の令和4年度の実績を記入してください。

・研究費助成制度とは、学生の研究費の支援や国際会議等への出席に係る費用の支援を指します。大学院生のみを対象としている制度をご記入ください。海外への留学支援は含みません。

※4 減免額、受給金額は千円単位(千円未満四捨五入)でご記入ください。

※5 「5年一貫」の場合、博士課程(前期)、博士課程(後期)に分けてご記入ください。「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」は博士課程(後期)にご記入ください。

【様式19】

(2)ファイナンシャル・プランの提供について

(2)在学生に対して、学費や経済的支援のメニュー等の情報(ファイナンシャル・プラン)を提供していますか。

※全ての専攻・課程についてお答えください。

・項目については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「×」とお答えください。

調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料 2

【様式1】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(0) 大学院の専攻・課程に関する事項（研究科・専攻名、課程、標準修業年限等在学期間に関する事項、分類、修了に必要な単位数）をお答えください。

「専攻・課程情報」は、各専攻・課程ごとに、1行ずつご回答ください（修士課程と博士課程をもつ専攻や、区分制の博士課程の専攻については、修士課程／博士課程前期と、博士課程後期、それぞれにご回答ください。（計2行回答））

令和4年度の段階で廃止となった専攻（学生募集停止をしていた専攻）については、本調査の対象外ですので、回答に含めないでください。
令和4年度に新設された専攻については、様式2以降に回答できない設問がある場合、その設問については回答不要です。

※1 『課程』欄には専攻ごとに該当するアルファベット(A～E)をプルダウンメニューから1つ選んでください。

※2 当該専攻の標準修業年限をプルダウンメニューから1つ選んでください。

※3 「早期修了制度の活用状況」「在学期間の短縮制度の活用状況」について、該当する選択肢をプルダウンメニューから**12**を選んでください。

※4 『大分類』には専攻ごとに別紙1の『専攻分野の種別』を参照して、「大分類」欄から該当するアルファベット(A～K)をプルダウンメニューから1つ選んでください。

※5 当該専攻の修了に必要な単位数を入力してください。

(1) 専攻・課程別に、令和4年度の大学院の学生に関する基本的な情報（収容定員、在学者数（留学生数、社会人数、長期履修生）、入学定員、入学者数）をお答えください。

※6 在学者数、入学定員、入学者数は令和4年度学校基本調査での回答との整合性をご確認の上、回答してください。

※7 長期履修は、大学設置基準第30条の2(大学院設置基準第15条において準用)で定める、学生の希望により標準修業年限を超えて教育課程を履修することを認めるものです。

※ 該当人数がない場合は「0」を入力してください。

(0)専攻・課程情報

(1) 学生情報

[illegible]

【様式2】

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください
※1 研究指導委託は、大学院設置基準第13条第2項に基づき、学生が他の大学院又は研究所において必要な研究指導を受けることを認める制度です。

[illegible]

【様式3】

※1 正規職員、自営業主等の任期・雇用期間の定めがない仕事に就いた者を指します。

※2 民間企業等への就職者について、「研究者、技術者、その他専門的な職業従事者」左記以外にそれぞれの就職者数を記入してください。

※3 派遣社員、契約社員等の雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の仕事に就いた者を指します。

※4 医師等とは、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、その他の医療保健従事者を指します。

※5 上記就職者以外の雇用契約期間が1か月以上で期間の定めのある者、雇用契約期間が1か月未満で期間の定めのある者を指します。

※6 ポスドク(ポストドクター)は、助教・講師等の大学教員以外の立場での研究職を指します。日本学術振興会の特別研究員(PD、SPD)はポストドク(純含)に含みます。

※ 該当人数がない場合は「0」を記入してください。

博士課程(後期)修了者の進路(令和4年度)

							博士課程(後期)修了者の進路(令和4年度)																														
学校コード	大 学 名	NO	研究科名	専攻名	課程	大分類	合計 人数 (自動)	就職者																				起 業 し た 者	進 学 者	社会人 入学者 (現職 継続)	臨床研 修医 (予定 者を含 む)	専修学 校・外 国の学 校等入 学者	臨時労 働者等 (※5)	ポスドク (※6) (給与 あり)	ポスドク (※6) (給与 なし)	左 記 以 外 の も の	不 詳 ・ 死 亡
								任期・雇用期間の定めなし(※1)										任期・雇用期間の定めあり(※3)																			
								大学 教員	高等 学校 教員	教員 (その他)	民間企 業等へ の就職	うち、研究者、 技術者、その他専門的な職 業従事者	うち、 左記以外	公的研究機関 等への就職	官公庁 等への就職	医師 等 (※4)	その他	大学 教員	高等 学校 教員	教員 (その他)	民間企 業等へ の就職	うち、研究者、 技術者、その他専門的な職 業従事者	うち、 左記以外	公的研究機関 等への就職	官公庁 等への就職	医師 等 (※4)	その他										
計(自動)							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
入力例	文科大学		経済学研究科	経済学専攻	B-5年一貫	B社会科学	23	1	2	3	2	1	1	1	0	0	1	2	3	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
		1					0																														
		2					0																														
		3					0																														
		4					0																														
		5					0																														
		6					0																														
		7					0																														
		8					0																														
		9					0																														
		10					0																														
		11					0																														
		12					0																														
		13					0																														
		14					0																														
		15					0																														
		16					0																														
		17					0																														
		18					0																														
		19					0																														
		20					0																														
		21					0																														
		22					0																														
		23					0																														
		24					0																														
		25					0																														
		26					0																														
		27					0																														
		28					0																														
		29					0																														
		30					0																														

4. 雇用について

【様式4】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

（4）大学院全体、および、専攻・課程別に、令和4年度のT A ・ R A の雇用実績についてご記入ください。

※1 No.0の「専攻・課程以外の雇用」については、各専攻・課程等に所属せず大学院として一括で雇用管理しているTA・RA等、No.1以降に含まれないTA・RAの人数をすべて記入してください。

※2 TA（ティーチング・アシスタント）とは、学部学生等に対するチュータリング（助言）や実験、実習、演習等の教育補助業務（具体的には、演習のディスカッションリーダー、レポート・試験等の採点など）を行い、これに対する手当てを支給される大学院学生を指します。

※3 RA（リサーチ・アシスタント）とは、大学等が行う研究プロジェクト等の研究補助業務（具体的には、データ処理業務、各種実験の実施及び補助、研究設備の運転・整備等）を行い、これに対する手当てを支給される大学院学生を指します。

※4 TA・RAの採用学生数については、令和4年度の実績について、『競争的資金等』の欄には競争的資金等の国からの競争的な補助金・委託費を財源としたTA・RA数を、『寄付金等』の欄には寄付金等の国からの補助金・委託費以外の外部資金を財源としたTA・RA数を、『基盤的経費等』の欄には運営費交付金、私学助成等補助金及び授業料収入等の内部資金を財源としたTA・RA数を記入願います。また、財源別にそれぞれ令和4年度のTA・RAとして支出した実績金額を千円単位（千円未満四捨五入）で記入してください。

※ お、ここでは『採用人数』に関しては実数を記入してください。

※ 該当人数・金額がない場合は「0」を入力してください。

(6)TA・RA雇用実績

学校コード	大学名	NO	研究科名	専攻名	課程	大分類	TA(※2・4)								採用人数 (実数)	RA(※3・4)								
							雇用財源別									雇用財源別								
							競争的資金等		寄付金等		基盤的経費等		計(自動)			競争的資金等		寄付金等		基盤的経費等		計(自動)		
							採用人数	支出実績 金額 (千円)	採用人数	支出実績 金額 (千円)	採用人数	支出実績 金額 (千円)	延べ人数	支出実績 金額 (千円)		採用人数	支出実績 金額 (千円)	採用人数	支出実績 金額 (千円)	採用人数	支出実績 金額 (千円)	延べ人数	支出実績 金額 (千円)	
計(自動)							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
入力例	文科大学		専攻・課程以外の雇用 ※1	—	—	—	1	0	0	0	0	1	18	1	18	5	2	13	4	150	5	225	11	388
入力例	文科大学		経済学研究科	経済学専攻	B:5年一貫	B社会科学	1	0	0	0	0	1	18	1	18	15	4	25	8	300	10	450	22	775
		0	専攻・課程以外の雇用 ※1	—	—	—							0	0								0	0	
		1											0	0								0	0	
		2											0	0								0	0	
		3											0	0								0	0	
		4											0	0								0	0	
		5											0	0								0	0	
		6											0	0								0	0	
		7											0	0								0	0	
		8											0	0								0	0	
		9											0	0								0	0	
		10											0	0								0	0	
		11											0	0								0	0	
		12											0	0								0	0	
		13											0	0								0	0	
		14											0	0								0	0	
		15											0	0								0	0	
		16											0	0								0	0	
		17											0	0								0	0	
		18											0	0								0	0	
		19											0	0								0	0	
		20											0	0								0	0	
		21											0	0								0	0	
		22											0	0								0	0	
		23											0	0								0	0	
		24											0	0								0	0	
		25											0	0								0	0	
		26											0	0								0	0	
		27											0	0								0	0	
		28											0	0								0	0	
		29											0	0								0	0	
		30											0	0								0	0	

【様式5】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(1) 中央教育審議会大学分科会等での審議等を踏まえた大学院改革に関する取組状況(体系的な大学院教育の取組内容の増進)について、具体的な取組として実施しているものをご選択ください。(複数選択可)。

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

※2 STEAM: Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

(1)体系的な大学院教育の取組内容の推進

[illegible]

【様式6】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「（空欄）」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

(2) 組織的な教育・研究指導体制の確立

[illegible]

【様式7】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(3) 中央教育審議会大学分科会等での審議等を踏まえた大学院改革に関する取組状況（体系的な大学院教育の取組内容の推進）について、具体的な取組として行っているものをご選択ください。（複数選択可）。

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

[illegible]

【様式8】

[illegible]

【様式9】

学校コード*		大学名	
--------	--	-----	--

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「（空欄）」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

(5) 大学院修了者のキャリアパスの確保と可視化の推進

i. 状況把握についてお答えください

①	①で○の場合				②				③	④	⑤	
修了生の就職状況を、修了後に降継続して把握している	何年継続して把握していますか。A～Dから <u>1つ</u> だけ選択してください				どのようにして把握していますか。a～dから選択してください(複数選択可)				修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している	修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる	博士人材データベース(JGRA D)への学生の登録を推進している	①～④の取組を行っている
	A	B	C	D	a	b	c	d				
	～2年	2年超～5年	5年超～10年	10年超～	大学本部で把握	研究科や専攻等の部局が独自に把握	同窓会組織等の大学組織とは別組織で把握	その他				

[illegible]

【様式10】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

ii. 大学院としての組織的な学生に対する就職支援についてお答えください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	その他	⑩
大学院修了後の就職企業と合入企業に採用された状態で学生を受け入れる制度がある	民間企業など、教育研究機関以外にヘルプ・アップを募集化のために企業人を招いた講義やメンタリングの場の提供等を行っている	学部生から博士課程学生へ関するヘルプ・アップに共通的な相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	博士課程学生専用ヘルプ・アップに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている	インターンシップ等の仲介や支援やインターンシップを実施している	大学院修了者のヘルプ・アップに関する認識を高めるため、大学と産業界との間で連携の機会を設けている	若手研究者を対象とした、安抵充等を行う、安抵充等自立した研究を推進できる環境を整備している	アントレプレナーシップ教育の充実を図っている		①～⑨の取組を行っている

[illegible]

【様式11】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(5) 中央教育審議会大学分科会等での審議等を踏まえた大学院改革に関する取組状況（体系的な大学院教育の取組内容の推進）について、具体的な取組として行っているものをご選択ください。（複数選択可）

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

iii. 大学院としての組織的な、大学院各課程へのリクルート活動についてお答えください

[illegible]

【様式12】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(1) 各課程への入学試験の項目をお答えください。専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。(複数選択可)

入学試験項目については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とご回答ください。

※ 令和4年度入学生に対する(令和3年度に行われた)入試についてお答えください。

※ 志願者がいない等で入試を実施していない場合でも、募集をしていた場合は実施予定の試験項目をご回答ください。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

(1) 入試の状況

[illegible]

【様式13】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「（空欄）」とご回答ください。

各取組については、専攻独自の取組みだけでなく、研究科や大学院全体で行っているものも「実施している」としてご回答ください。（複数選択可）

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

社会人学生受け入れのために、どのような取組を行っているかお答えください											
①	②	③	④	⑤	⑥	⑥で〇の場合	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
関係機関（業界団体や教育関連企業等）との連携	土日夜間授業の実施	長期在学コースや長期履修制度の設置	社会人入試の実施	自大学のHP以外での広報活動、情報提供	履修証明プログラムの開講	単位授与を可能としているか	企業等との共同研究の一環としての学生の受入れ	通学や事務手続等における負担軽減	学位審査における利益相反や知財関係の整理・サポート	その他	①～⑩の取組を行っていない

[illegible]

【様式14】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

●「A」：博士前期 「B」：5年一貫 課程のみお答えください。（回答欄が、表示されます）

(1) 博士論文研究基礎力審査の導入状況について下記の項目をお答えください。

専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。

※1 平成24年3月の大学院設置基準等の改正により、博士課程の前期・後期を通じ一貫した人材養成目的を持つプログラムにおいて、前期の課程を修了し修士号を授与する条件として、大学の判断により、修士論文又は特定課題の研究結果の審査と試験の合格に代えて、「博士論文研究基礎力審査」(QE)を取り入れることができることとなりました。(大学院設置基準第16条の2)

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

※ 該当人数がない場合は「0」を入力してください。

(1) 博士論文研究基礎力審査の導入状況

[illegible]

【様式15】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(3) 学校教育法第104条第4項に基づく博士学位(論文博士)授与にあたっての条件をお答えください。専攻独自の状況だけでなく、研究科や大学院全体で対応しているものもご回答ください。(複数選択可)

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

[illegible]

【様式16】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

●「B: 5年一貫」「C: 博士後期」「D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士」課程のみお答えください。(回答欄が、表示されます)

※ 該当人数がない場合は「0」を入力してください。

●全ての専攻・課程についてお答えください。

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「（空欄）」とご回答ください。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

								(4)学位授与状況(課程博士)							(5)学位に関する情報公表の状況		
学校コード	大 学 名	NO	研究科名	専攻名	課 程	大分類	標準 修業 年限 (※2)	令和4年度の学位授与・ 満期退学者全体		令和4年度が標準修業年限である学生の状況					①	②	③
								令和4年度 における博 士学位(課 程博士)授 与者数	令和4年度 における満 期退学者数 (※1)	令和4年度が標準修業年限である者の 入学時の人数 (※2、3、4)		うち令和4 年度におけ る学位(課 程博士)授 与者数	うち令和3 年度以前に おける(早期)学位(課 程博士)授 与者数	うち長期履 修生			
計								0	0	0		0	0	0			
入力例	文科大学		経済学研究科	経済学専攻	B:5年一貫	B社会科学	5年	25	4	H29年秋またはH30年4月入学者数: 30		20	1	1			○
		1															
		2															
		3															
		4															
		5															
		6															
		7															
		8															
		9															
		10															
		11															
		12															
		13															
		14															
		15															
		16															
		17															
		18															
		19															

8. 学位について(続き)

【様式17】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(6) 貴学の大学院における学位の取消規定について大学院全体の状況をお答えください(複数選択可)。

各取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「(空欄)」とご回答ください。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または当てはまるものを選んでください

(6)学位取消(大学院全体)

				①	②	③	④	⑤
				学位規程に学位の取消に関して規定している	学位の取消手続きに係る規定(または規程)がある	学位の取消の公表に係る規定(または規程)がある	左記①～③の規定(または規程)に基づいて、または慣例として、学位の取消を行った場合、大学として公表することとされている	①～④に当てはまるものはない
学校コード	大 学 名	NO	研 究 科 名	質問項目				
				①	②	③	④	⑤
入力例	文科大学		大学院全体	○		○		
		1	大学院全体					

9. 経済的支援について

【様式18】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(1)大学独自における独自の経済的支援の取組についてご記入ください(減免の制度がある場合は、すべての制度についてご記入ください)。 ※大学独自体の状況をお答えください。

- ※1 大学院生を対象に、大学院が独自で設けている授業料減免制度の名称、総減免額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の減免額、うち博士課程(後期)の学生の減免額、うち専門職学位課程の学生の減免額)、総減免者数(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の減免者数、うち博士課程(後期)の学生の減免者数、うち専門職学位課程の学生の減免者数)の令和4年度の実績を記入してください。
- ・授業料減免については、学部生、大学院生の区別なく対象としている場合も含めて回答してください。大学院生が受けた授業料減免について記入してください。
- ・入学金や諸費用などは含まず、授業料のみの減免をお答えください。
- ※2 大学院生を対象に、大学院が独自で設けている奨学金制度の名称、総受給金額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給額、うち博士課程(後期)の学生の受給額、うち専門職学位課程の学生の受給額)、総受給者数(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給者数、うち博士課程(後期)の学生の受給者数、うち専門職学位課程の学生の受給者数)の令和4年度の実績を記入してください。
- ・奨学金制度については、学部生、大学院生の区別なく対象としている場合も含めて回答してください。大学院生が受けた奨学金制度について記入してください。
- ・大学基金や後援会、同窓会による奨学金制度もあります。日本学生支援機構の奨学金、財団や民間企業等の外部機関による奨学金制度は含みません。
- ・一部の研究科のみを対象の奨学金制度についても制度名称の最後に(〇〇研究科のみ)のように記載してお答えください。
- ※3 大学院生(個人及びグループ)を対象に、大学院が独自で設けている研究費助成制度の名称、受給総額(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給額、うち博士課程(後期)の学生の受給額、うち専門職学位課程の学生の受給額)、受給者数(グループ数)(うち修士課程・博士課程(前期)の学生の受給者数、うち博士課程(後期)の学生の受給者数、うち専門職学位課程の学生の受給者数)の令和4年度の実績を記入してください。
- ・研究費助成制度は、学生の研究費の支援や国際会議等への出席に用いる費用に限ります。大学院生のみを対象としている制度をご記入ください。海外への留学支援は含みません。
- ※4 減免額、受給金額は千円単位(千円未満は四捨五入)で記入ください。
- ※5 「5年一貫」の場合、博士課程(前期)、博士課程(後期)に分けてご記入ください。「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」は博士課程(後期)にご記入ください。
- ※ 該当金額・人数がない場合は「0」を入力してください。

(1)大学独自の経済的支援について

学校コード	大学名	NO	研究科名	大学院生に対する授業料等減免の有無、減免総額、減免者数(※1)									大学独自の大学院生に対する奨学金の有無、受給総額、受給者数(※2)									大学独自の大学院生向けの研究費助成制度の有無、受給総額、受給者数(グループ数)(※3)											
				制度名称	総減免額 (千円) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の減 免額 (千円)※4※5	うち博士課程 (後期)の学生の 減免額 (千円)※4※5	うち専門職学位 課程の学生の 減免額 (千円)※4	総減免者数 (人) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の減 免者数 (人)※5	うち博士課程 (後期)の学生の 減免者数 (人)※5	うち専門職学位 課程の学生の 減免者数(人)	制度名称	総受給金額 (千円) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の受 給金額 (千円)※4※5	うち博士課程 (後期)の学生の 受給金額 (千円)※4※5	うち専門職学位 課程の学生の 受給金額 (千円)※4	総受給人 数 (人) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の受 給者数 (人)※5	うち博士課程 (後期)の学生の 受給者数 (人)※5	うち専門職学位 課程の学生の 受給者数(人)	制度名称 (グループを対 象とする場合は その旨明記)	総受給金額 (千円) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の受 給金額 (千円)※4※5	うち博士課程 (後期)の学生の 受給金額 (千円)※4※5	うち専門職学位 課程の学生の 受給金額 (千円)※4	総受給人 数 (人) (自動)	うち修士課程・ 博士課程(前期)の学生の受 給者数 (人)※5	うち博士課程 (後期)の学生の 受給者数 (人)※5	うち専門職学位 課程の学生の 受給者数(人)			
入力例	文科大学		大学院全体	修学支援制度	12,000	5,000	4,000	3,000		120	50	40	30	文科大学奨学金	1,000	400	400	200		5	2	2	1	文科大学研究助成金	500	100	200	200		5	1	2	2
		1	大学院全体		0					0					0					0					0								
		2	大学院全体		0					0					0					0					0								
		3	大学院全体		0					0					0					0					0								
		4	大学院全体		0					0					0					0					0								
		5	大学院全体		0					0					0					0					0								
		6	大学院全体		0					0					0					0					0								
		7	大学院全体		0					0					0					0					0								
		8	大学院全体		0					0					0					0					0								
		9	大学院全体		0					0					0					0					0								
		10	大学院全体		0					0					0					0					0								
		11	大学院全体		0					0					0					0					0								
		12	大学院全体		0					0					0					0					0								
		13	大学院全体		0					0					0					0					0								
		14	大学院全体		0					0					0					0					0								
		15	大学院全体		0					0					0					0					0								
		16	大学院全体		0					0					0					0					0								
		17	大学院全体		0					0					0					0					0								
		18	大学院全体		0					0					0					0					0								

9. 経済的支援について(続き)

【様式19】

学校コード		大学名	
-------	--	-----	--

(2) 在学生に対して、学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供していますか。

●全ての専攻・課程についてお答えください。

取組については、「実施した」は「○」、「実施していない」は「×」とご回答ください。

※ 該当する選択肢についてプルダウンメニューより「○」または「×」を選んでください

(2) ファイナンシャル・プランの提供について

学校コード	大 学 名	NO	研究科名	専攻名	課程	大分類	標準 修業 年限 (※2)	在学生に対して、学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供している
入力例	文科大学		経済学研究科	経済学専攻	B:5年一貫	B社会科学	5年	○
		1						
		2						
		3						
		4						
		5						
		6						
		7						
		8						
		9						
		10						
		11						
		12						
		13						